

Copyright © 1985-2005 Serena Software, Inc. All rights reserved.

本ドキュメント、および本ドキュメントに記載のソフトウェアは、ライセンス供与に従って供給さ れており、かかるライセンスの条件に基づいて使用および複写が許可されます。ライセンスで許可 されていない限り、本書のいかなる部分も、Serenaの文書による事前許可なく、いかなる形式また は電子的、機械的記録方法で、複写、保存システムへの保管、転送することはできません。複製さ れたドキュメントには、全部であるか一部であるかにかかわらず、この著作権の記述すべてが、変 更されることなく含まれていなければなりません。

本書の内容は、情報を提供するものであり、予告なく変更される場合があります。また、Serena に よる義務と解釈されるものではありません。Serena は、本書のエラーまたは不正確性についていか なる責任も義務も負うことはありません。

商標

Serena、ChangeMan、TeamTrack、Collage、PVCS、StarTool および Comparex は、 Serena Software, Inc. の登録商標です。Build、Builder、Dimensions、Meritage、Mover、 Professional、SAFE、RTM、Tracker および Version Manager は、Serena Software, Inc. の 商標です。

その他のすべての製品または企業名は、識別する目的でのみ使用されており、それぞれの所有者の 商標である場合があります。

米国政府の権利

米国政府や政府機関またはその代理機関の非許諾者がこの契約の下で取得したいかなるソフトウェ ア製品も、FAR では「商用ソフトウェア」と定義されています。米国政府による使用、複製、公開 は、ソフトウェアを取得したライセンスによる制限の対象となります。製造元: Serena Software, Inc., 2755 Campus Drive, San Mateo, CA 94403

部品番号:MA-VMUSER-J02

発行日: 2005 年 4 月

	Version Manager について
	表記上の規則
	技術サポートへのお問い合わせ
パート 1	Version Manager の基本操作11
第1章	Version Manager の基礎13
	Version Manager の利点14 クロスプラットフォーム開発14 プロジェクト指向バージョン管理のサポート14
	Version Manager の用語
	Version Manager の概念.16プロジェクトデータベース.16プロジェクトとサブプロジェクト.16パージョン管理ファイル.16バージョン管理ファイル.16アーカイブ.16リビジョン.16ワークスペース.17ユーザ.17管理者17ブロモーションラベル.17プロモーショングループ.17プロモーションモデル.17ブランチ.18ベースライン.18イベントトリガ.18アクセスリスト.18コンフィグレーションオプション.18コンフィグレーションファイル.19
	Version Manager タスク
	オンラインヘルプの使用方法 23 ヘルプへのアクセス 23 ヘルプのウィンドウ 23 ヘルプトピックの印刷 26
	ユーザシナリオの使用方法 26
	シナリオの背景情報 27

目次

パート 2	Version Manager デスクトップクライアントの使用	29
第2章	プロジェクトデータベース、プロジェクトおよび バージョン管理ファイルのタスク................	31
	アイテムの選択 複数のプロジェクトまたはフォルダの選択 アイテムの表示と非表示	32 32 34
	アイテム名の変更	34
	アイテムのコピー バージョン管理ファイルのコピー プロジェクトのコピー プロジェクトデータベースのコピー 5.3/6.0 フォルダのコピー 5.3/6.0 プロジェクトのコピー 5.3/6.0 プロジェクトのコピー	35 36 37 43 46 49 56
	アイテムの移動 メニューバーによるアイテムの移動 ドラッグアンドドロップによるアイテムの移動	61 61 62
	アイテムの削除	62
	バージョン管理ファイルの復元	63
	不要なアーカイブファイルの削除について	63
	表示のフィルタ ファイルの再帰的な表示 ロック設定者によるフィルタ ワイルドカードファイル名によるフィルタ バージョンラベルによるフィルタ プロモーショングループによるフィルタ 2 つのバージョンラベルを使用した相違点によるフィルタ 2 つのプロモーショングループを使用した相違点によるフィルタ	64 65 66 67 69 70 71
	バージョンラベルとプロモーショングループを使用した、 相違点によるフィルタ 全バージョン管理ファイルの表示(フィルタなし)	73 74
	プロパティの確認	74
第3章	プロジェクトデータベースの操作...........................	77
	プロジェクトデータベースについて 新規プロジェクトデータベースについて	78 78
	プロジェクトデータベースのオープン プロジェクトデータベースへのログイン	79 80
	プロジェクトデータベースのクローズ	80
	シナリオ:既存のプロジェクトデータベースを開いてログインする	81
第4章	Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの操作	83
	5.3/6.0 プロジェクトルートについて	84
	5.3/6.0 プロジェクトルートのオープン	85
	5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー	86

4

目次

	5.3/6.0 プロジェクトルートのクローズ	86
	シナリオ : Version Manager で 5.3/6.0 プロジェクトルートを開く	87
第5章	作業ファイルの追加................................	89
	作業ファイルの追加について プロジェクトデータベース / プロジェクトへの作業ファイルの追加 5.3/6.0 プロジェクトへの作業ファイルの追加	90 90 94
	アーカイブのインポート プロジェクトデータベース、プロジェクトおよびサ ブプロジェクトへのアーカイブのインポート 5.3/6.0 プロジェクトへのアーカイブのインポート	98 99 101
	シナリオ:既存の作業ファイル構造を模倣したプロジェクトを作成する	103
<i>第6章</i>	プロジェクトの操作..................................	105
	プロジェクトについて プロジェクトの作成 サブプロジェクトの作成 プロジェクト名の変更 プロジェクトの削除 シナリオ:サブプロジェクトを作成して作業ファイルを追加する	106 106 108 108 109 109
弗 / 早	ワークスペースの操作・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	112 113 114 114 115 117 120
	ワークスペースの設定 ワークスペース設定の変更 ワークスペース名の変更 ワークスペースの削除 シナリオ:デフォルトワークスペースに影響を与えずに、 カスタムワークスペースを定義する シナリオ:個人的なワークスペースを定義する	121 122 124 125 126 128
第8章	ユーザ設定	129
	作業ファイルの場所の設定	130
	アプリケーションログの使用	131
	〔Welcome to Serena ChangeMan Version Manager(Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)〕ダイアログボックスの非表示	132

	確認ダイアログボックスの非表示	134
	サブプロジェクトをプロジェクト操作に追加	135
	フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定	136
	チェックイン / チェックアウトオプションの定義	136
	ダイアログボックスの表示設定	138
	デフォルトエディタの設定	140
	シナリオ:個人用のユーザ設定を定義する	143
<i>第9章</i>	リビジョンのチェックアウト	145
	チェックアウトについて	146
	デフォルトのチェックアウトオプション	147
	リビジョンのチェックアウト デフォルトのチェックアウトオプションの変更	148 149
	シナリオ:プロジェクトファイルをチェックアウトし、編集する	152
第10章	リビジョンの取得................................	155
	取得とチェックアウト	156
	デフォルトの取得オプション	156
	リビジョンの取得 デフォルト取得オプションのオーバーライド	157 158
	シナリオ:プロジェクトファイルの読み取り専用コピーをチェックアウトする.	160
第11 章	リビジョンの操作................................	161
	リビジョンについて	162
	デフォルトバージョンの定義	162
	リビジョンの表示	164
	リビジョンの編集	165
	変更の説明の追加 / 変更	167
	リビジョンの削除	168
第12 章	作業ファイルのチェックイン............................	169
	チェックインについて	170
	デフォルトのチェックインオプション	170
	作業ファイルのチェックイン デフォルトのチェックインオプションの変更	171 172
	シナリオ : 一連のプロジェクトファイルをチェックインする	174
第13 章	ロックの使用	177
	リビジョンのロック	178
	リビジョンのロック解除	181

6

	多重ロック	183
	シナリオ:ほかのユーザによるファイルの変更を防ぐ	184
第 14 章	バージョンラベルの使用	185
	バージョンラベルについて 固定ラベルと浮動ラベル	186 186
	デフォルトオプションの適用	186
	バージョンラベルの割り当て デフォルト以外のバージョンラベルオプションの使用 作業ファイルのチェックイン時と追加時のバージョンラベルの割り当て	187 188 188
	バージョンラベル名の変更	189
	バージョンラベルの再割り当て 既存のバージョンラベルの移動 バージョンラベルプロパティの変更	190 190 191
	デフォルトバージョンの指定	192
	バージョンラベルの削除	192
	シナリオ : バージョンラベルの再割り当て、名前変更、および削除を行う	193
パート 3	Version Manager デスクトップクライア ントを使った高度なタスク..............	195
第 15 章	リビジョンのブランチ作成	197
	ブランチについて	198
	ブランチ番号	198
	ブランチの作成 ブランチが作成される場合 チップ以外のリビジョンのチェックイン ブランチの強制 多重ロックリビジョンのチェックイン 自動ブランチの設定 シナリオ・開発のメインラインを中断させずにバグを修正する	199 199 201 203 205 205
笠 16 音		205
<i>第</i> 10 <i>早</i>		
	ノアイルの比較について	208
	WINdows 版でのカラムマスクの設定	208
	相違点の衣小・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	209
	相違点の例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	212
第17章	ファイルのマージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	213
	マージについて マージの用語と定義 マージプロセス ベースファイルの選択	214 214 215 215

第18章

第19章

Windows 版でのカラムマスクの設定	216
Windows または UNIX でのファイルのマージ	216
Windows 版での相違点の解釈 プレースホルダ	220 221
競合	222
UNIX 版での相違点の解釈 プレースホルダ	223 223
Windows 版でのファイル間の競合の解決	224
UNIX 版でのファイル間の競合の解決	224
シナリオ:ブランチリビジョンを比較してトランクにマージする	225
リビジョンのプロモート	229
プロモーショングループについて プロモーショングループに割り当てられたリビジョンのチェックアウト	230 230
プロモーションのプロセス	231
リビジョンへのプロモーショングループの割り当て	233
リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート	234
プロモーショングループの変更	235
プロモーショングループの削除	236
シナリオ : 一連のファイルをプロモートする	237
シナリオ : 追加作業のため、リビジョンを Development にデモートする	238
レポートの使用....................................	239
レポートについて	240 240
レポートオプションの設定	240
HTML レポート書式のカスタマイズ	242
ジャーナルレポートについて	243
ジャーナルレポートの生成 ジャーナルレポートの読み方	243 246
履歴レポートについて	247
履歴レポートの生成 履歴レポートの読み方	248 250
索引	251

Version Manager について

Serena ChangeMan Version Manager をお買い上げいただきありがとうございます。このソフト ウェアは、ソフトウェアの開発手法に革命的な変化をもたらす、多機能で強力なバージョン管理シス テムです。Version Manager では、個々のファイルへの変更の保存や追跡から開発サイクル全体の 管理や監視に至るまで、ソフトウェア開発プロジェクトの各段階の構成管理および保守管理を行うこ とができます。

- このマニュアルの このマニュアルでは、Version Manager の基本タスクおよび高度なタスクの概念と、Version 概要 Manager デスクトップクライアントを使用してタスクを実行する方法を説明します。
 - 詳細情報 Version Manager のマニュアル類、Version Manager の操作方法の概要、およびオンラインヘ ルプの使用方法については、『Serena ChangeMan Version Manager 入門ガイド』を参照してく ださい。
 - 対応バージョン このマニュアルの内容は、Serena ChangeMan Version Manager バージョン 8.1 以降を対象とし ています。この版によって、このマニュアルの旧版は廃版となります。

表記上の規則

オンラインマニュアルおよびオンラインヘルプでは、以下の表記規則を採用しています。ドキュメントを参照する場合は、これらの表記規則を参考にしてください。ただし、各種製品コンポーネントおよびオペレーティングシステムについては、それぞれの表記規則に従ってください。

表記例	意味
等幅フォント	構文例、ユーザ指定が可能な値、システムから返される結 果値などを表します。
<i>斜体の等幅フォ</i> ント	指定する値のプレースホルダの名前を示します(例 : <i>filename</i>)。
太字の等幅フ ォント	実行したコマンドの結果を示します。
ダッシュ(一)	メニューとそれに関連付けられたコマンドを区切ります。 たとえば、[File (ファイル)] - [Copy (コピー)] は、 [File (ファイル)] メニューの [Copy (コピー)] を選択す ることを意味します。 また、縦棒 () は、コマンド構文でどちらか一方を選択す る必要のある値を示します。
角かっこ []	指定が必須ではないオプションアイテムを示します。たと えば、SELECT [DISTINCT] の DISTINCT はオプションの キーワードです。
	複数の値を指定できるコマンド引数を示します。
≧ †	クリックするショートカットアイコンを示します。ショー トカットアイコンは余白に配置されます。

技術サポートへのお問い合わせ

ユーザ登録が完了すると、http://support.serena.com/ にログインできます。



Version Manager の基本操作

Version Manager の基礎

13



Version Manager の基礎

Version Manager の利点	14
Version Manager の用語	15
Version Manager の概念	16
Version Manager タスク	19
オンラインヘルプの使用方法	23
ユーザシナリオの使用方法	26
シナリオの背景情報	27

Version Manager の利点

Serena ChangeManVersion Manager は、企業内のソフトウェア資産を体系化し、管理、保護するための業界標準ツールです。Version Manager は、セキュリティの高いアクセスと完全な追跡調査によって、規模や分散環境にかかわらず、チームによる並行開発を管理します。共通タスクの自動化やコード再使用の促進、および変更の見逃しや上書き、コンテンツエラーによる問題の排除によって、最終完成品の品質を高め、企業全体にわたるチーム開発の生産性を向上させます。

Version Manager により、以下を実現することができます。

- ソフトウェア資産の体系化。複数のリビジョン間の変更の記載や調整、コード再使用の促進、およびチーム開発に対して構造的で効率的な手段を提供することによって、エラーを排除します。
- 開発ワークフローの管理および向上。共通タスクの自動化、変更の追跡、および並行開発を実現します。プロモーショングループを使用すると、開発の次のステージのためにソフトウェアを準備する時期を調整できます。
- ソフトウェア資産の保護。ユーザアクセスの制御、および完全な追跡調査を提供しながら、プロジェクトコード、オブジェクト、およびドキュメンテーションのすべてを格納し、アーカイブに保管します。
- **あらゆる規模への対応。**1人から数千人までの人数、1部門から全世界までの範囲のチームをサポートします。

クロスプラットフォーム開発

クロスプラット Version Manager は、全プロジェクト間に連続性を与えながら、複数のオペレーティングシステム、 フォーム開発の調整 プラットフォーム、および環境で動作します。

> Version Manager では、バージョン管理を使用して、1 つのプラットフォーム上、または別のプ ラットフォーム間のプロジェクトファイルに対する変更を管理できます。たとえば、Windows 環境 で作成したリビジョンに UNIX 環境からアクセスして変更し、この新しいリビジョンを、両プラッ トフォームで使用できるよう格納できます。

プロジェクト指向バージョン管理のサポート

Version Manager は、プロジェクトおよびザブプロジェクトをサポートします。ザブプロジェクト は、ファイルやフォルダを構成しているディレクトリ構造を忠実に反映します。

Version Manager 環境は、すべてのファイルをバージョン管理下に置きながら、Windows また は UNIX のオペレーティングシステムウィンドウから直接作業しているように設定することがで きます。

Version Managerの用語

このバージョンの Version Manager を使用すると、デスクトップクライアントにいくつかの新しい 機能や概念が追加されていることに気付くはずです。新しい用語もありますが、オペレーティングシ ステムの使用方法や Version Manager 6.0 での作業方法など、すでに理解されている機能と共通す るものが数多くあります。

プロジェクト用語

Version Manager では、プロジェクトデータベース、プロジェクト、および実際の作業ディレクト リ構造を反映できるサブプロジェクトを使用して、バージョン管理ファイルを整理します。以下の表 は、Version Manager プロジェクト用語と、オペレーティングシステム、または Version Manager の旧バージョンで使用されている概念との対応を示したものです。

Version Manager 用語	対応する Version Manager 5.3/6.0 用語	対応する OS の概念
プロジェクトデータベース	プロジェクトルート	ドライブまたはボリューム
Project(プロジェクト)	Project(プロジェクト)	ディレクトリまたはフォルダ
サブプロジェクト (複数レベル)	Folder(フォルダ) (1 レベルのみ)	サブディレクトリまたはサブ フォルダ (複数レベル)
バージョン管理ファイル	バージョン管理ファイル	ファイルまたは作業ファイル

プロジェクトコンフィグレーション用語

新しいプロジェクト設定機能のいくつかは、以下の表に示すように、Version Manager の以前の バージョンで登場した概念に相当します。

Version Manager 用語	対応する Version Manager 5.3/ 6.0 の用語	説明
プロジェクトデータ ベース	マスタープロジェクト	設定は、マスタープロジェクトからで はなく、プロジェクトデータベースか ら継承されるようになりました。新 バージョンには、マスタープロジェク トは存在しません。
作業ファイルの場所	作業ファイルディレクトリ	Version Manager にチェックインま たはチェックアウトされるファイルの 場所を定義します。

Version Managerの概念

以下の概念は、Version Manager のさまざまな部分がお互いにどのように作用するかを理解するのに役立ちます。

プロジェクトデータベース

「プロジェクトデータベース」は、プロジェクト、サブプロジェクト、および、バージョン管理 ファイルの階層的な集まりです。プロジェクトデータベースは、それに含まれるプロジェクトおよ びサブプロジェクトすべてに共通の設定を定義します。ユーザは各プロジェクトデータベースに定 義されます。

プロジェクトとサブプロジェクト

「プロジェクト」は、サブプロジェクトおよびバージョン管理ファイルの論理的な集まりです。「サブ プロジェクト」は、プロジェクト内に含まれるプロジェクトです。プロジェクトデータベースは、そ れに含まれるプロジェクトおよびサブプロジェクトそれぞれに設定値を定義します。ただし、この設 定オプションは、プロジェクトおよびサブプロジェクトの各コンフィグレーションファイルを使用し て変更できます(マスターコンフィグレーションファイルでこのオプションが選択不可になっている 場合を除く)。また、プロジェクトおよびサブプロジェクト単位でユーザを定義することもできます。

作業ファイル

「作業ファイル」は、新しいリビジョンまたはアーカイブを作成するために Version Manager に チェックインするすべてのファイルを指します。リビジョンをチェックアウトすると、Version Manager はそれを作業ファイルの場所に作業ファイルとして格納します。

バージョン管理ファイル

「バージョン管理ファイル」は、バージョン管理されているファイルおよび、そのファイルに関連するリビジョンです。バージョン管理ファイルには、リビジョンが物理的に格納されているアーカイブの名前と場所に関する情報が保持されています。ですから、バージョン管理ファイルのリビジョンにアクセスするたびにそれらの情報を指定する必要はありません。バージョン管理ファイルには、作業ファイルの場所も格納されています。

アーカイブ

「アーカイブ」は、バージョン管理ファイルの変更履歴を格納した Version Manager ファイルです。 このバージョン管理ファイルの履歴には、変更についてのコメント、変更の担当者、および作成日が 含まれます。アーカイブは、バージョン管理ファイルごとに作成されます。バージョンラベルおよび プロモーショングループ情報も、ここに含まれます。

リビジョン

「リビジョン」は、バージョン管理ファイルの主要な構成要素です。リビジョンから作業ファイルを 再作成することができます。作業ファイルをチェックインすると、作業ファイルに加えられた変更 は、リビジョンとしてアーカイブに格納されます。リビジョンをチェックアウトすると、Version Manager は、指定された作業ファイルの場所に作業ファイルを作成します。

ワークスペース

「ワークスペース」は、プロジェクトデータベースに定義された作業設定の集まりです。これには、 プロジェクトデータベース内のプロジェクトおよびバージョン管理ファイルの作業設定も含まれま す。作業設定には、作業ファイルの場所、デフォルトバージョン、ベースバージョンおよびブランチ バージョンが含まれます。

ユーザ

「ユーザ」は、Version Manager の基本タスクおよび上級タスクを実行する人です。タスクには、プロジェクトの作成、作業ファイルの追加やチェックイン、リビジョンのチェックアウト、バージョンラベルの追加、リビジョンのプロモートなどがあります。

管理者

「管理者」は、Version Manager の管理タスクを実行する人です。管理タスクには、プロジェクト データベースの作成および保守、コントロールデータベースへのアクセス、イベントトリガのセット アップ、レポートの生成などがあります。

バージョンラベル

「バージョンラベル」は、バージョン管理ファイルの特定のリビジョンを識別するために使用するラベルです。アプリケーションのベータ版を作成するときに使用する全リビジョンなど、セットになっているリビジョンを、効率的にチェックアウトしたり、プロモートするために使用します。

デフォルトバージョン

「デフォルトバージョン」は通常、バージョン管理ファイルの最新のリビジョンです。ただし、プロ ジェクトのコンフィグレーションファイルまたはワークスペースで、任意のバージョンラベルをデ フォルトバージョンとして定義することができます。

プロモーショングループ

「プロモーショングループ」は、プロモーションモデルの1つのフェーズで、アプリケーション開発 サイクルの節目を示します。典型的なプロモーショングループとしては、Development(開発)、 Quality Assurance(品質検査)および Production(製造)などがあげられます。

プロモーションモデル

「プロモーションモデル」は、プロモーショングループを階層化したもので、ソフトウェアアプリ ケーションの開発プロセスのすべての節目を表します。プロモーションモデルにより、進行中の開発 作業はプロモーションモデルのもっとも低いレベル(たとえば、開発プロモーショングループ)に位 置づけられます。プロモーションモデルを作成すると、Version Manager はリビジョンをモデル内 のプロモーショングループに関連付けます。その後、チェックイン、チェックアウトなどの操作をプ ロモーショングループに基づいて実行できます。

ブランチ

「ブランチ」は、トランクのリビジョンまたは別のブランチから分岐した 1 つ以上のリビジョンから なる、開発の別のラインです。ブランチを利用すると、ブランチ元のリビジョンの開発を続行しなが ら、ファイルの別のバリエーションを開発できます。

ベースライン

「ベースライン」は、既存プロジェクトのスナップショットを、開発の特定のポイントで作成するプロセスです。ベースラインを作成するには、プロジェクト全体を、バージョンラベルまたはプロモーショングループを基にして新しい作業領域に取り出します。

バージョンラベルまたはプロモーショングループの基準と一致しないリビジョンは、ベースラインに コピーされません。ベースラインのファイル(変更されないようにしておく必要があります)は、開 発が継続される期間全体にわたって、参照ソースの役割を果たします。

イベントトリガ

「イベントトリガ」は、特定の Version Manager イベントに反応してアクションを実行するメカニ ズムです。Version Manager がイベントを検出すると、そのイベント用に設定されたイベントトリ ガが実行されます。イベントトリガはコンフィグレーションファイルで定義されます。

アクセスコントロールデータベース

「アクセスコントロールデータベース」は、プロジェクトに対してアクションを実行できる権限のあるユーザを定義します。アクセスコントロールデータベースは、プロジェクトデータベースと関連付けられています。しかし、各プロジェクトに対してさらに管理を制限するために、プロジェクトデータベース内の個々のプロジェクトと関連付けることもできます。アクセスコントロールデータベースを使用せずに、Version Manager を使用することもできます。

アクセスリスト

「アクセスリスト」は、アーカイブにアクションを実行できる権限のある個々のユーザまたはユーザ グループを定義します。各アーカイブは、関連するアクセスリストを1 つずつ持つことができます。 アーカイブにアクセスリストを定義する前に、アクセスコントロールデータベースを定義する必要が あります。アクセスリストは、アクセスコントロールデータベースで定義されたユーザ情報のサブ セットです。

コンフィグレーションオプション

「コンフィグレーションオプション」は、Version Manager の機能を管理する設定です。たとえば、 チェックインした後に作業ファイルを削除するかどうか、複数のロックを許可するかどうかなどを設 定します。コンフィグレーションオプションは、コンフィグレーションファイルで設定します。

コンフィグレーションファイル

コンフィグレーションオプションは、「コンフィグレーションファイル」に格納されます。Version Manager デスクトップクライアントでは、2 種類のコンフィグレーションファイルを使用します。

- マスターコンフィグレーションファイル:プロジェクトデータベースおよびその全プロジェクトのコンフィグレーションオプションが含まれています。マスターコンフィグレーションファイルは、プロジェクトデータベースを作成するたびに、自動的に作成されます。
- プロジェクトコンフィグレーションファイル:プロジェクトのコンフィグレーションオプション が含まれています。ここで設定されているオプションは、マスターコンフィグレーションファイ ルで使用不可に設定されていないかぎり、マスターコンフィグレーションファイルの設定より優 先されます。個々のプロジェクトには、必ずしもコンフィグレーションファイルを関連付ける必 要はありません。マスターコンフィグレーションファイルの設定を使用できます。

Version Manager タスク

Version Manager のユーザは次の 2 種類に分類できます。

- 管理者:ユーザが Version Manager を効率的に使用してソースファイルを管理できるよう、組織の中で、Version Manager をセットアップおよび設定する責任者。管理者のタスクについての詳細は、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- ユーザ:ユーザは基本的に、作業ファイルを管理するために毎日 Version Manager を使用します。ユーザは、次の2 種類に分けられます。
 - プロジェクトリーダー:プロジェクトの作成、バージョンラベルの割り当て、リビジョンの プロモート、製品のビルドなどに関する責任者。
 - プロジェクトチームメンバー:作業ファイルの編集、リビジョンの管理、製品のビルドおよびテストなどの担当者。

組織内で Version Manager を使用する方法は、組織の規模や開発プロセスによって異なります。 ユーザが管理者を兼任する場合もあります。

ユーザタスクと管理者タスク

Version Manager タスクには、ユーザタスクと管理者タスクの2種類があります。

タスク	User (ユーザ)	管理者
プロジェクトデータベースの作成		
アクセスコントロールデータベースの作成		
プロジェクトデータベース / プロジェクトの 設定		III
プロモーションモデルの作成		
プロジェクトの作成		
作業ファイルの追加		
ワークスペースの作成		
リビジョンのチェックアウト		

タスク	User (ユーザ)	管理者
リビジョンのチェックイン		
リビジョンのラベル作成		
リビジョンのロック / ロック解除		
リビジョンのブランチおよびマージ		
リビジョンのプロモート		
レポートの生成		II

基本的なワークフロー

次の図に、管理者、プロジェクトリーダーおよびプロジェクトチームメンバーが行う基本的な Version Manager タスクの一部を示します。



ワークフロータスク

プロジェクトデータベースを開く。プロジェクトを作成するには、プロジェクトデータベースを 開く必要があります。プロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルは、プ ロジェクトデータベースに含まれています。ほとんどの場合、プロジェクトデータベースのセッ トアップおよび設定は管理者が行います。プロジェクトデータベースが作成されると、プロジェ クトの作成を開始できます。

詳細については、77 ページの『プロジェクトデータベースの操作』を参照してください。

プロジェクトの作成 / 作業ファイルの追加。ディレクトリ構造に整理された作業ファイルがすでにある場合は、作業ファイル構造全体を Version Manager に追加するだけでプロジェクトを作成できます。プロジェクトはディレクトリと同じ名前で作成され、ディレクトリ内の作業ファイルはそのプロジェクトに追加されます。ディレクトリにサブディレクトリがある場合は、関連の作業ファイルを含んだサブプロジェクトも作成されます。

詳細については、89 ページの『作業ファイルの追加』を参照してください。

ワークスペースの作成 / 定義。プロジェクトリーダーは、プロジェクトのバブリックワークスペースを定義して、プロジェクトチームメンバーが必要なプロジェクトおよび作業ファイルにアクセスできるようにします。プロジェクトチームメンバーは、プライベートなワークスペースを定義して、ローカルで作業ができるようにします。

詳細については、111ページの『ワークスペースの操作』を参照してください。

リビジョンをチェックアウトして編集。Version Manager に作業ファイルが追加されると、プロジェクトチームメンバーはリビジョンをチェックアウトして編集できます。リビジョンをチェックアウトすると、そのファイルが変更作業中であることがほかのユーザにわかるよう、バージョン管理ファイルがロックされます。

詳細については、145 ページの『リビジョンのチェックアウト』を参照してください。

作業ファイルの編集。リビジョンをチェックアウトして適切なエディタで作業ファイルを開く と、作業ファイルを編集できます。〈File (ファイル)〉表示部でバージョン管理ファイルをダブ ルクリックし、[Edit (編集)]を選択する(または、バージョン管理ファイルを選択して [Edit (編集)] - [Edit File (ファイルの編集)]を選択する)と、リビジョンに関連付けられたアプ リケーションが起動し、書き込み可能な作業ファイルのコピーが表示されます。

詳細については、161ページの『リビジョンの操作』を参照してください。

作業ファイルのチェックイン。作業ファイルの状態を保存しておくには、それをチェックインします。チェックインすると、作業ファイルはアーカイブの最新リビジョンとして格納され、バージョン管理ファイルのロックは解除されます。

詳細については、169ページの『作業ファイルのチェックイン』を参照してください。

バージョンラベルの割り当て。アーカイブの特定のリビジョンを識別するために、バージョンラベルを割り当てることができます。バージョンラベルを使用すると、複数のファイルのチェックアウトを効率的に行うことができます。また、プロモーショングループを使用すると、バージョンラベルの割り当てを効率的に行うことができます。

詳細については、185ページの『バージョンラベルの使用』を参照してください。

バージョンラベルを基にリビジョンを取得する。バージョンラベルが割り当てられると、プロジェクトリーダーは、(バージョンラベルを指定することによって)最新リビジョンのコピーを取得して、製品のビルドを開始できます。プロジェクトチームメンバーは、リビジョンを取得して、テストしたり、ファイルを実際にチェックアウトしたりする前にそれが本当に必要かどうかを確認することができます。

詳細については、155ページの『リビジョンの取得』を参照してください。

- 製品のビルド / テスト。適切なリビジョンがコピーされると、プロジェクトリーダーは製品のビルドを開始できます。製品がビルドされると、プロジェクトチームメンバーはそれをテストできます。
- リビジョンのプロモート。プロジェクトリーダーは、プロジェクトにプロモーションモデルが セットアップされている場合、節目に達すると、次のプロモーショングループにリビジョンをプ ロモートして次の開発ステージを開始することができます。プロジェクトは、プロモーションモ デルの最上位レベルに達したときに終了します。

詳細については、229 ページの『リビジョンのプロモート』を参照してください。

高度なタスク

開発プロセスにおいて、Version Manager の別の機能をワークフローに組み込まなくてはいけない 場合があります。

プロモーショングループの使用。適切に定義された開発プロセスがある場合は、プロモーション グループを使用します。プロモーショングループは、ソースコードの開発を、設計の段階から最 終リリースまで管理します。

プロモーショングループを使用するには、プロジェクトがプロモーションモデルとともにセット アップされている必要があります。プロモーションモデルについての詳細は、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

詳細については、229 ページの『リビジョンのプロモート』を参照してください。

ブランチの作成。特定のリビジョンから並行開発を行うには、ブランチを作成します。これは、 バグ修正の際など、開発のメインラインに当面は反映させない変更をテストする場合に便利です。

詳細については、197ページの『リビジョンのブランチ作成』を参照してください。

 リビジョンの比較。リビジョンを比較して、ファイル間の違いを調べます。Version Manager では、デスクトップクライアントでファイルを並べて比較できます。

詳細については、207 ページの『ファイルの比較』を参照してください。

 リビジョンのマージ。(Show Merge (マージの表示)) オプションを使用すると、ファイルを出 カファイルにマージできます。このオプションは、ブランチの変更をメインラインにマージする 場合に便利です。

詳細については、213 ページの『ファイルのマージ』を参照してください。

レポートの生成。Version Manager プロジェクトを管理しやすくするために、レポートを生成できます。「ジャーナルレポート」は、アーカイブの動作についての特定の情報を提供します。たとえば、特定のアーカイブからリビジョンがチェックアウトされたときや、バージョンラベルが割り当てられたときに、それを通知します。「履歴レポート」には、アーカイブ情報が含まれており、それによって、開発プロセスの監視、アーカイブ履歴の表示およびアーカイブ属性の確認が可能です。

詳細については、239 ページの『レポートの使用』を参照してください。

オンラインヘルプの使用方法

オンラインヘルプシステムでは、Version Manager の使用手順および概念のわかりやすい情報を提供します。これは、HTML ベースのヘルプシステムで、Windows 上では、デフォルトの HTML ブラウザを使用して開かれます。

Linux および UNIX 上では、Version Manager でブラウザの場所を指定する必要があります。詳細 については、『Version Manager インストールガイド』を参照してください。

注 ヘルプの機能の一部は、古いバージョンのブラウザではサポートされません。ブラウザの条件については、『Version Manager インストールガイド』を参照してください。

ヘルプへのアクセス

オンラインヘルプには、以下の方法でアクセスします。

- メニューバーから : [Help(ヘルプ)] [Help Topics(トピックの検索)] を選択します。
- ダイアログボックスから:ダイアログボックス内の【Help(ヘルプ)】をクリックすると、その ダイアログボックスについてのヘルプ項目が表示されます。
- フィールドから: F1 キーを押すと、選択されているフィールドについてのヘルプが表示されます。
- メインウィンドウから: F1 キーを押すと、ヘルプシステムが表示されます。

ヘルプのウィンドウ

オンラインヘルプのウィンドウは以下のように表示されます。ただし、使用しているブラウザにより、一部表示が異なります。



左側はナビゲーション表示部で、3 つのタブ(目次、キーワード、検索)がついています。この表示 部で選択されたトピックが、右側のトピック表示部に表示されます。

ナビゲーション表示部の表示 / 非表示

各ダイアログボックスの【Help(ヘルプ)】をクリックしてヘルプを表示させたときは、そのダイア ログボックスに関するヘルプトピックが表示されますが、ナビゲーション表示部は表示されません。 ナビゲーション表示部を表示するには、トピックの上部にある〈Show Navigation(ナビゲーショ ンを表示)〉リンクをクリックします。ナビゲーション表示部を隠すには、〈Hide Navigation(ナビ ゲーションを非表示)〉リンクをクリックします。

目次の使用

〔目次〕タブは、HTMLブラウザの左側のフレームに表示されます。

Contents	Index [Search	1
 Introducin About \ Using I Access Using S Getting S Serena R Readme 	ng Versior /ersion Ma Help /ersion M /ersion Man tarted rsion Man toadmap	n Manager anager nline Ma anager v nager and Sup	er nuals with Previous Rel port Information

目次では、以下を実行できます。

- ヘルプトピックを選択すると、トピック表示部に表示されます。
- Windowsの標準のナビゲーションキーを使用して、見出しを展開したり、閉じることができます。たとえば、閉じられている見出しを選択し、右矢印キーを押すと展開されます。また、展開されている見出しを選択して、左矢印キーを押すと閉じられます。

キーワードの使用

[Index(キーワード)] タブは、HTML ブラウザの左側のフレームに表示されます。

Contents Index Search	
Type in the keyword to find:	
version la	
version labels	*
about	
assigning	
deleting	
filter by	
fixed vs. floating	
moving	
naming conventions	
removina	-

単語や語句を見つけるには

- (Type in the keyword to find (キーワードを入力してください)) ボックスに単語や語句を入 カします。入力するにつれ、キーワードのリストがスクロールし、もっともあてはまる項目が表 示されます。
- 2 選択したキーワードに関連付けられているトピックを表示させるには、項目をダブルクリックするか、【Display (表示)】をクリックします。
- 3 以下のいずれかの結果となります。
 - キーワードに1つのトピックのみが関連付けられている場合は、トピック表示部にそのト ピックが表示されます。
 - キーワードに複数のトピックが関連付けられている場合は、それらのトピックを表示したダ イアログボックスが現れます。トピックを1つ選択して、ダブルクリックしてください。ト ピック表示部にそのトピックが表示されます。

検索の使用

検索機能により、ヘルプシステム全体から単語を検索することができます。この機能を使用するに は、〔Search (検索)〕タブをクリックします。〔Search (検索)〕タブが HTML ブラウザの左側に 表示されます。

Contents Index Search					
Type in the word(s) to search for:	Type in the word(s) to search for:				
security					
Find					
About 5.3/6.0 Project Roots About Access Control Databases About Access List Groups About Event Triggers About Logging into Project Databases About Master Configuration Files	▲ ■ ●				
Display					

単語や語句を検索するには

- (Type in the word(s) to search for (探したい語句を入力してください))ボックスに単語を 入力し、【Find (検索開始)】をクリックします。検索機能により、全ヘルプトピックが検索され、入力した単語を含むトピックのタイトルのリストが表示されます。
- 2 トピックを表示させるには、リスト内のトピックタイトルをダブルクリックするか、選択して 【Display (表示)】をクリックします。トピック表示部にそのトピックが表示されます。

以下の表は、検索に使用できるブーリアン演算子の一覧です。演算子を使用する場合は、その前後に 半角スペースを入れる必要があります。

検索対象	入力形式	結果
複数の単語	単語1 AND 単語2	単語1と単語2の両方を含むトピック 複数の単語を、間に半角スペースを入れて入 力すると、ANDを入れた場合と同じ結果と なります。「単語1単語2」という文字列を 含むトピックが検索されるわけではありませ ん。
複数の単語のいず れか	<i>単語1</i> OR 単語2	<i>単語 l と単語 2</i> のいずれか、または両方を 含むトピック
ある単語は含むが、 別の単語は除く	<i>探す単語</i> NOT <i>除く単語</i>	<i>探す単語</i> が含まれるが、 <i>除く単語</i> は含まな いトピック

ヘルプトピックの印刷

ヘルプトピックを印刷するには、使用している HTML ブラウザの印刷機能を使用します。



注 トピックを印刷するには、[Print(印刷)]を選択する前にトピックの選択が必要な場合があり ます。選択しておらず、直前にナビゲーション表示部をクリックしている場合は、目次が印刷され る場合があります。

ユーザシナリオの使用方法

『Serena ChangeMan Version Manager ユーザガイド』には、プロジェクトチームが Version Manager を使用してどのようにソース管理を実現するかを示したユーザシナリオが含まれています。 これらのシナリオは、本ガイド全般に配置され、時間を追って構成および関連付けされています。こ のシナリオ全体で、実際の Version Manager の導入と作業のワークフローを説明します。



ユーザシナリオは、見つけやすい書式で記載されています。章の最後に置かれ、左のシナリオのマー クが付けられています。この絵を頼りにマニュアルをめくると、ユーザシナリオが簡単に見つけられ ます。

シナリオは、以下のような方法で使用します。

- Version Manager の全機能の紹介としてシナリオを使用します。まず、次のシナリオを読み、 その後、関連のある章のシナリオを順番に読みます。
- 機能を理解していることを確認するためにシナリオを使用します。そのためには、質問のある機能について記述した章を開き、その機能が記載されているシナリオを読みます。
- 特定の機能群を使用するための手段として1つ以上のシナリオを読みます。そのためには、 それらの機能について記述した各セクションを読み、その記述を参考にしてその機能を使用 します。

シナリオの背景情報



ファンシステム社は、コンピュータゲームを設計する大手のソフトウェア会社です。阿部さんは、 ファンシステム社で全ゲームの開発を監督するシニアプロジェクトリーダーです。現在、Chess お よび Bridge という 2 つのゲームの開発が終盤を迎えようとしています。両ゲームのソースコード は、Version Manager 5.3 のバージョン管理下にあります。開発者たちは、さらに、Checkers お よび Solitaire という 2 つのコンピュータゲームの開発を開始しました。ファンシステム社では、 Version Manager を最新バージョンに移行する予定であるため、Checkers と Solitaire のコード は、バージョン管理環境にはまだ置かれていません。

最新バージョンの Version Manager への移行の準備として、システム管理者の井上さんは、全ゲー ムプロジェクトを階層的に組織するプロジェクトデータベースを設定しました。そして、2 つのチー ム用に、ユーザ名、パスワード、プロジェクト権限などの適切なセキュリティを定義しました。ま た、並行開発を単純化および自動化するブランチ機能やマージ機能も設定しました。ファンシステム 社では、新しいバージョンの Version Manager でプロモーションモデルを使用して、システム開発 のライフサイクルを開発チームに導入することにしています。自動ブランチやマージの設定、およ び、システム開発のライフサイクルをサポートするプロモーションモデルの定義についての詳細は、 『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

更新に対する阿部さんの目標は、開発への影響をなるべく少なくすることです。ファイルへのアクセス、ファイルの編集および表示、バージョン管理環境への変更ファイルのチェックインなど、毎日行う基本的な作業は、わかりやすく簡単に実行できなければなりません。一方、バージョンラベルの使用、ブランチ、マージ、次のシステム開発段階へのファイルのプロモートなど、あまり使用しない高度なタスクは、習熟するまでに多少時間がかかると予測しています。しかし、上級の開発者たちがこのプロセスを理解した後は、これらのタスクが Version Manager で簡単にできるようになると見込んでいます。

パート 2

Version Manager デスクトップクライアント の使用

ブロジェクトデータベース、プロジェクトおよびバージョン管理ファイルのタスク	31
	77
	83
作業ファイルの追加	89
プロジェクトの操作	105
ワークスペースの操作	111
ユーザ設定	129
リビジョンのチェックアウト	145
リビジョンの取得	155
リビジョンの操作	161
作業ファイルのチェックイン	169
ロックの使用	177
バージョンラベルの使用	185

プロジェクトデータベース、プロジェクトおよび バージョン管理ファイルのタスク

アイテムの選択	32
アイテム名の変更	34
アイテムのコピー	35
アイテムの移動	61
アイテムの削除	62
バージョン管理ファイルの復元	63
不要なアーカイブファイルの削除について	63
表示のフィルタ	64
プロパティの確認	74

アイテムの選択

Version Manager デスクトップクライアントのアイテムはすべて選択できます。どのアイテムに対しても、チェックイン、取得、チェックアウト、ロック、ロック解除、バージョンラベルの割り当てなどのアクションを実行できます。

選択するアイテム	アクションが実行される対象
プロジェクトデータ ベース	プロジェクトデータベースに含まれるすべてのアイテム(プロジェクト およびサブプロジェクトのファイルを含む)
Project(プロジェ クト)	1 つのプロジェクトまたは選択された複数プロジェクトに含まれるすべ てのアイテム(サブプロジェクトのファイルを含む)
Folder(フォルダ)	Version Manager 5.3/6.0 のフォルダおよびそれに含まれるアイテ ム、または選択された複数のフォルダおよびそれに含まれるアイテム
バージョン管理ファ イル	選択した 1 つまたは複数のバージョン管理ファイル
リビジョン	選択した 1 つまたは複数のリビジョン
バージョンラベル	選択した 1 つまたは複数のバージョンラベル
プロモーショング ループ	選択した 1 つまたは複数のプロモーショングループ

複数のプロジェクトまたはフォルダの選択

Version Manager は、プロジェクトデータベースでの複数プロジェクトの選択、および 5.3/6.0 プ ロジェクトでの複数のフォルダの選択をサポートしています。同じプロジェクトまたはプロジェクト データベースの下にある場合は、プロジェクト表示部で複数のプロジェクトまたはフォルダを選択す ることができます。5.3/6.0 プロジェクトルートでは、複数のプロジェクトを選択することはできま せん。

複数のプロジェクトまたはフォルダを選択するには、Shift キーを押したままで、連続して表示されているプロジェクトまたはフォルダをクリックします。隣り合っていない複数のプロジェクトまたはフォルダを選択するには、Ctrl キーを押したままでクリックします。

複数のプロジェクトまたはフォルダが選択されると、各プロジェクトまたはフォルダに含まれるすべてのファイルがファイル表示部に表示されます。プロジェクトまたはフォルダ名を示すヘッダ行が、ファイルを含むプロジェクトまたはフォルダごとに表示され、その下にそこに含まれるファイルが表示されます。ファイルを再帰的に表示するフィルタが有効([View(表示)] – [Filter(フィルタ)] – [Recursive(再帰的に表示)])になっている場合は、サブプロジェクトとそこに含まれるファイルもすべて表示されます。

ファイル表示部では、作業の対象となるファイルのうち、特定のファイルのみを選択すること ができます。この場合は、選択するファイルが同じプロジェクトまたはフォルダの下にある必 要はありません。

実行可能なアクション

複数のプロジェクトまたはフォルダを選択したときは、以下のアクションを実行することがで きます。

- チェックイン
- 取得
- チェックアウト
- ロック/ロック解除
- バージョンラベルの割り当て、削除および名前の変更
- プロモーショングループのプロモート、割り当て、変更および削除
- 移動
- ∎ ⊐ピー
- 削除

E/

- アーカイブ属性
- ワークスペースの設定
- 作業ファイルの場所の設定
- 履歴レポートの表示
- ジャーナルレポートの表示

注 複数のプロジェクトまたはフォルダを選択し、ドラッグアンドドロップでアクションを実行する ことはできません。メニュー、コンテキストメニュー、ツールバーのアイコン、またはショート カットキーを使用してアクションを実行する必要があります。たとえば、複数プロジェクトからリ ビジョンをチェックインするには、メニューの [Actions (アクション)] – [Check In (チェック イン)] の選択、コンテキストメニューの [Check In (チェックイン)] の選択、ツールバーの [Check In (チェックイン)] アイコンのクリック、または Ctrl+I (ショートカットキー) のいずれ かを行わなければなりません。

アクセスコントロールデータベースの権限

複数のプロジェクトまたはフォルダを選択したときは、アクセスコントロールデータベースでの 権限にかかわらず、すべてのメニュー項目が有効となります。選択されたすべてのアイテムに対 して、選択されたアクションを実行しようとし、選択されたアイテムの中にそのアクションが許 可されていないものがあった場合は、エラーメッセージが表示され、残りのアイテムに対する処 理が続行されます。

プロモーショングループ

プロモーショングループの使用が可能なアクション(チェックアウトやチェックインなど)を実行す る場合は、選択されたプロジェクトやフォルダを含むプロジェクトデータベースまたはプロジェクト (親プロジェクトデータベースまたは親プロジェクト)で定義されているプロモーションモデルのプ ロモーショングループがダイアログボックス内に表示されます。実行しようとするアクションを定義 するときに、プロジェクトのプロモーションモデルでは使用できないプロモーショングループを選択 した場合は、エラーメッセージが表示され、残りのアイテムに対する処理が続行されます。

作業ファイルの場所

作業ファイルの場所を使用するアクション(チェックアウトやチェックインなど)を実行する場合 は、選択されたプロジェクトやフォルダを含むプロジェクトデータベースまたはプロジェクトの作業 ファイルの場所が、ダイアログボックス内に表示されます。ただし、選択されたプロジェクトまたは フォルダの作業ファイルの場所(絶対パス)が設定されている場合は、それが優先され、親プロジェ クトデータベースまたは親プロジェクトの作業ファイルの場所に置き換えられることはありません。

作業ファイルの場所が絶対パスでない場合は、親プロジェクトデータベースまたは親プロジェクトの 作業ファイルの場所に、選択された各プロジェクトまたはフォルダの相対パスを追加したものが表示 されます。選択されたプロジェクトやフォルダの名前が、親プロジェクトデータベースまたは親プロ ジェクトの作業ファイルの場所の絶対パスの後に付加され、プロジェクトまたはフォルダの作業ファ イルの場所となります。

たとえば、親プロジェクトデータベースの作業ファイルの場所が c:\producta\work で、選択され たプロジェクトの名前が proj1、proj2、および proj3 である場合は、それらのプロジェクトの作業 ファイルの場所はそれぞれ、c:\producta\work\proj1、c:\producta\work\proj2、 c:\producta\work\proj3 となります。

アイテムの表示と非表示

プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトに、ネストされたプロジェクト がある場合は、名前の前にプラス記号(⊞) が表示されます。アイテムの内容を表示するには、プ ラス記号をクリックします。

プロジェクトデータベース、プロジェクト、または、サブプロジェクトの内容を非表示にするには、 名前の前のマイナス記号(□)をクリックします。

アイテム名の変更

プロジェクト / サブ プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトは、名前を変更できます。プロ

プロジェクトの名前 ジェクトまたはサブプロジェクトの名前を変更すると、新規プロジェクト名と一致する新規作業ファ を変更する イルディレクトリが作成され、次回からはこの新しい作業ファイルの場所から、ファイルのチェック アウト、コピー、およびチェックインが行われます。この場所は、〔Rename(名前の変更)〕ダイア ログボックスの〈Workfile location(作業ファイルの場所)〉フィールドに表示されます。

> プロジェクトまたはサブプロジェクトの名前を変更中に、ほかのユーザがバージョン管理ファイルを チェックアウトした場合は、変更前の作業ファイルの場所が保持されます。ファイルがチェックイン されるときに、[Check In From (チェックインするファイル)] フィールドにファイルが変更前に チェックアウトされたパスが表示され、元の作業ファイルの場所に戻すか、新しい作業ファイルの場 所を使用するかを選択することができます。

プロジェクトデータ プロジェクトデータベースの名前を変更した場合は、名前だけが変更されます。新しいアーカイブや ベースの名前を変更 作業ファイルの場所を指定する必要はありません。 する プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトの名前を変更するには

- 1 名前を変更するアイテムを選択します。
- 2 [File (ファイル)] [Rename (ファイル名の変更)]を選択します。[Rename (名前の変更)]ダイアログボックスが表示されます。

Rename					×
Name:	DEV				
Workspa	ace Settings				
Workfile	Location:	C:\ACME\work\E)EV		
ب ا	oot Worksp pplies to AL	a ce L USERS unless (overridden by anot	her workspace.	
			ок	Cancel	Help



注 [Rename (名前の変更)] ダイアログボックスは、選択したアイテムによって内容が異なります。

3 アイテムの新しい名前を入力して、【OK】をクリックします。アイテムは該当する表示部に新しい名前で表示されます。

アイテムのコピー

バージョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/6.0 プロジェクトルート、5.3/6.0 プロジェクト フォルダ、およびプロジェクトデータベースは、コピーすることができます。プロジェクト、フォ ルダ、バージョン管理ファイルをコピーするには、メニューバーを使用するか、またはドラッグア ンドドロップします。プロジェクトデータベースをコピーするには、メニューバーを使用する必要 があります。

下の表は、コピーできるアイテムのリストです。

コピー戸	可能なアイテム	コピー先				
		5.3/6.0			新フォーマット	
		プロジェク トルート	プロジェ クト	フォルダ	プロジェク トデータ ベース	プロジェ クト
5.3/ 6.0	プロジェクトルート				新規データ ベース	
	プロジェクト				3	3
	フォルダ		3		3	3
	バージョン管理ファ イル			3	3	3

12-4	「能なアイテム	コヒー先				
		5.3/6.0			新フォーマット	
		プロジェク トルート	プロジェ クト	フォルダ	プロジェク トデータ ベース	プロジェ クト
新 フォー	プロジェクトデータ ベース				新規データ ベース	
マット	プロジェクト				3	3
	バージョン管理ファ イル				3	3

バージョン管理ファイルのコピー

同じバージョン管理ファイルを、2 つ以上のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースで必要 とする場合は、バージョン管理ファイルをコピーします。バージョン管理ファイルをコピーする と、ファイルは新しい場所にコピーされますが、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参 照します。

バージョン管理ファイルは、開いているどのプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにもコ ピーできます。また、5.3/6.0 バージョン管理ファイルは、どの 5.3/6.0 フォルダにもコピーでき ます。ただし、新フォーマットのバージョン管理ファイルを、5.3/6.0 のプロジェクトルート、プロ ジェクト、またはフォルダにコピーすることはできません。

メニューバーによるバージョン管理ファイルのコピー

メニューバーを使う メニューバーを使用してバージョン管理ファイルをコピーするには

- 1 コピーするバージョン管理ファイルを選択します。
- 2 [Edit (編集)] [Copy (コピー)]を選択します。〔Copy Files (コピーファイル)〕ダイアロ グボックスが表示されます。

Copy Files - fpugwn.pdf 🗙
Select destination project database or project:
My Project Databases ACME (C:\ACME) DEV DOC BOOKS README BOOKS QA
Rack Finish Cancel Help

3 コピー先のプロジェクト、プロジェクトデータベース、または 5.3 フォルダを選択し、【Finish (終了)】をクリックします。
ドラッグアンドドロップによるバージョン管理ファイルのコピー

ドラッグアンドド バージョン管理ファイルをファイル表示部からプロジェクト表示部にドラッグアンドドロップして、 ロップを使う コピーすることもできます。

ドラッグアンドドロップでコピーするには

バージョン管理ファイルのコピー先	手順
	J /UR

同じプロジェクトデータベースのプロ ジェクト	1	コピーするバージョン管理ファイルをファイル表 示部で選択します。
	2	CTRL キーを押しながら、バージョン管理ファイ ルを適切なプロジェクトまたはサブプロジェクト にドラッグします。
別のプロジェクトデータベースのプロ ジェクト	1	コピーするバージョン管理ファイルをファイル表 示部で選択します。
	2	バージョン管理ファイルを適切なプロジェクトま たはサブプロジェクトにドラッグします。

プロジェクトのコピー

Version Manager プロジェクトをコピーすると、そのプロジェクトは別のプロジェクトまたはプロ ジェクトデータベースにコピーされます。プロジェクトのコピーでは、以下を行うことができます。

- 全サブプロジェクトをコピーするか、またはプロジェクトのみをコピーします。
- アーカイブを新しいアーカイブの場所にコピーしたり、既存のアーカイブの場所を使用したりできます。
- 既存のコンフィグレーションファイルを新しいプロジェクトの場所にコピーするか、既存のコンフィグレーションファイルを使用するか、または新規コンフィグレーションファイルを作成します。
- 既存のアクセスコントロールデータベースを新しいプロジェクトの場所にコピーするか、既存の アクセスコントロールデータベースを使用するか、または新規アクセスコントロールデータベー スを作成します。



注 プロジェクトをコピーすると、プロジェクトのワークスペース設定は保持されません。

メニューバーによるプロジェクトのコピー

- メニューバーの使用 メニューバーを使用してプロジェクトをコピーするには
 - **1** コピーするプロジェクトを選択します。
 - 2 [Edit (編集)] [Copy (コピー)]を選択します。[Copy Project (コピープロジェクト)]
 ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project - DEV	×
Select destination project database or project:	
 My Project Databases C:\DATA\53Proj UILDS (C:\BUILDS) ACME (C:\ACME) ACME (C:\ACME) DOC QA Y:\archives\doc\Projects 	
< Back Next > Cancel	Help

3 コピー先のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択し、【Next(次へ)】をク リックします。2 番めの〔Copy Project(コピープロジェクト)〕ダイアログボックスが表示 されます。

Copy Project - DEV
You can choose to keep archives in their original location, or you can choose to copy them to the new project location. Baselining can be done by keeping only a specified revision when the archives are copied to the default project location.
Archives
Use existing archive location
Copy archives to project location
Keep specified revision and discard change history
[Default Revision]
🗖 Include subprojects
< Back Next > Cancel Help

- **4** 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用): プロジェクト を新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合 は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

- Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー): プロジェクトのアーカイブディレクトリ(およびその内容)をコピーし、ターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新しいアーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。
- Keep specified revision and discard change history (指定したリビジョンを保持 し、履歴を破棄):ベースライン用にバージョンラベル、またはプロモーショングループを選 択することによって、ベースとなるバージョンを指定します。

デフォルトリビジョン以外のリビジョンをベースバージョンとして使用するには、〈Default Revision(デフォルトリビジョン)〉フィールドにバージョンラベルまたはプロモーション グループを入力するか、または、【Browse (...)】をクリックします。ベースバージョンよ り前のリビジョンはコピーされません。

- 5 コピーしようとするプロジェクトにサブプロジェクトがあり、それらもコピーする必要がある場合は、(Include subprojects (サブプロジェクトを含む))チェックボックスを選択します。
- 6 【Next (次へ)】をクリックします。3 番めの〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアロ グボックスが表示されます。

Copy Project - DEV
You can choose to use or copy the current configuration files and access control databases. You can also choose to create a new default configuration file and access control database.
Configuration File
Our Configuration Files
C Copy existing Configuration Files
Create a new Configuration File
Access Control Database
Use existing Access Control Database
C Copy Access Control Database to new location
🔿 Create a new Access Control Database
< Back Finish Cancel Help

- 7 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファ イルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーショ ンファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
 - Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用):プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。コピーされたプロジェクトは、コピー元のプロジェクトと同じコンフィグレーションファイルを使用します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコ ピー): 既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをターゲットプロジェクト データベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成): デ フォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをターゲットプロジェクトデータ ベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。コンフィグレーション ファイルのデフォルト設定は、管理者によって管理されます。

- 8 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロール データベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロー ルデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
 - Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベース を使用): プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータ ベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが 選択されています。
 - Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい 場所にコピー): 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをターゲット プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを 作成):新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをターゲットプロジェ クトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータ ベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。
- **9** 【Finish (終了)】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによるプロジェクトのコピー

ドラッグアンドド プロジェクト表示部でプロジェクトをドラッグアンドドロップして、プロジェクトをコピーすること ロップの使用 もできます。

ドラッグアンドドロップを使用してプロジェクトをコピーするには

1 コピーするプロジェクトを選択します。

プロジェクトのコピー先	手順	
同じプロジェクトデータベー ス内のプロジェクト	а	コピーするプロジェクトをプロジェクト表示部で選択し ます。
	b	CTRL キーを押したまま、プロジェクトをコピー先プロ ジェクトにドラッグします。
別のプロジェクトデータベー ス内のプロジェクト	а	コピーするプロジェクトをプロジェクト表示部で選択し ます。
	b	プロジェクトを別のプロジェクトデータベース内のコ ピー先プロジェクトにドラッグします。

アイテムのコピーを確認するメッセージが表示されます。

2 【Yes(はい)】をクリックします。〔Copy Project(コピープロジェクト)〕ダイアログボックス が表示されます。

Copy Project - DEV
You can choose to keep archives in their original location, or you can choose to copy them to the new project location. Baselining can be done by keeping only a specified revision when the archives are copied to the default project location.
Archives
O Use existing archive location
C Copy archives to project location
Keep specified revision and discard change history
[Default Revision]
🗖 Include subprojects
< Back Next > Cancel Help

- **3** 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用): プロジェクト を新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合 は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー): プロジェクトのアーカイブディレクトリ(およびその内容)をコピーし、ターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新しいアーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。
 - Keep specified revision and discard change history(指定したリビジョンを保持し、履歴を破棄):ベースライン用にバージョンラベル、またはプロモーショングループを選択することによって、ベースとなるバージョンを指定します。

デフォルトリビジョン以外のリビジョンをベースバージョンとして使用するには、〈Default Revision (デフォルトリビジョン)〉フィールドにバージョンラベルまたはプロモーション グループを入力するか、または、【Browse (...)】をクリックします。ベースバージョンよ り前のリビジョンはコピーされません。

4 コピーしようとするプロジェクトにサブプロジェクトがあり、それらもコピーする必要がある場合は、(Include subprojects (サブプロジェクトを含む)) チェックボックスを選択します。

5 【Next (次へ)】をクリックします。3 番めの〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアロ グボックスが表示されます。

Copy Project - DEV 🗙
You can choose to use or copy the current configuration files and access control databases. You can also choose to create a new default configuration file and access control database.
Configuration File
Use existing Configuration Files
C Copy existing Configuration Files
Create a new Configuration File
Access Control Database
Use existing Access Control Database
C Copy Access Control Database to new location
Create a new Access Control Database
< Back Finish Cancel Help

- 6 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファ イルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーショ ンファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
 - Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用): プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。コピーされたプロジェクトは、コピー元のプロジェクトと同じコンフィグレーションファイルを使用します。
 - Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコ ピー): 既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをターゲットプロジェクト データベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。デフォルトでは、 このオプションが選択されています。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成): デ フォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをターゲットプロジェクトデータ ベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。コンフィグレーション ファイルのデフォルト設定は、管理者によって管理されます。
- 7 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロール データベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロー ルデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
 - Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベース を使用): プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータ ベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが 選択されています。
 - Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい 場所にコピー): 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをターゲット プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを 作成):新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをターゲットプロジェ クトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータ ベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。
- 8 【Finish (終了)】をクリックします。

プロジェクトデータベースのコピー

プロジェクトデータベース全体をコピーできます。ただし、新しいプロジェクトデータベース名を選 択する必要があります。プロジェクトデータベースをコピーするには、メニューバーを使用します。 ドラッグアンドドロップはサポートされていません。

プロジェクトデータベースのコピーでは、以下を行うことができます。

- プロジェクトデータベースに含まれるアイテム全体をコピーするか、またはプロジェクトデータ ベースレベルのバージョン管理ファイルのみをコピーします。
- アーカイブを新しい場所にコピーするか、または既存のアーカイブの場所を使用します。
- 既存のコンフィグレーションファイルを新規プロジェクトデータベースにコピーするか、既存の コンフィグレーションファイルを使用するか、または新規コンフィグレーションファイルを作成 します。
- 既存のアクセスコントロールデータベースを新規プロジェクトデータベースにコピーするか、既存のアクセスコントロールデータベースを使用するか、または、新規アクセスコントロールデータベースを作成する。

プロジェクトデータベースをコピーするには

- **1** コピーするプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [Edit (編集)] [Copy (コピー)]を選択します。[Copy Project (コピープロジェクトデー タベース)]ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project Databa	ase - BUILDS X
Name:	BUILDS
Location:	E:\BUILDS
Archive Location:	E:\BUILDS\archives
Workspace Setting Workfile Location:	gs E:\BUILDS\work
< 8a	ck Next > Cancel Help

- 3 (Name (名前))フィールドに新しいプロジェクトデータベース名を入力します。プロジェクト データベース名の最初と最後には、タブまたは空白のスペースは使用できません。プロジェクト データベース名については、これ以外に制限はありません。
- 4 〈Location(場所)〉フィールドに新規プロジェクトデータベースの場所を入力するか、または 【Browse(...)】をクリックして場所を選択します。ここで入力した場所は、〈Archive Location(アーカイブの場所)〉フィールドにも反映されます。
- 5 入力したプロジェクトデータベースの場所に関連する新規アーカイブディレクトリは、 (Archive Location (アーカイブの場所))で指定します。別のアーカイブの場所を指定する には、このフィールドに入力するか、または【Browse (...)】をクリックして場所を選択し ます。

6 (Workfile Location (作業ファイルの場所))フィールドに作業ファイルの場所を指定します。 ここには、ほとんどのユーザがアクセス可能なローカルドライブを指定するとよいでしょう。プロジェクトチームのメンバーはいつでも、別の作業ファイルの場所が指定されたプライベートワークスペースを作成して、作業ファイルの場所を変更することができます。

作業ファイルの場所には、そのパスのルートにある \$HOME を含めることができます(たとえ ば、UNIX 上では、\$HOME/work/projecta を /usrs/cherylc/work/projecta に展開することができま す)。Version Manage r により、HOME 環境変数の値が置き換えられ、作業ファイルの場所が 決定されます。\$HOME を使用すると、自分の HOME 環境変数の設定に従って、自動的に各 ユーザ固有のパスが設定され、それを作業ファイルの場所として定義することができます。ユー ザの HOME 環境変数が定義されていない場合は、作業ファイルを決定するときに 1 個のスペー スに置き換えられます。

 7 【Next (次へ)】をクリックします。2番めの〔Copy Project Database (コピープロジェクト データベース)〕ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project Database - BUILDS
You can choose to keep archives in their original location, or you can choose to copy them to the new project location. Baselining can be done by keeping only a specified revision when the archives are copied to the default project location.
Archives
○ Use existing archive location
Copy archives to project location
Keep specified revision and discard change history
[Default Revision]
Include subprojects

- **8** 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用): プロジェクト を新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合 は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー): アーカイブをコピーし、コピー先のプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに 置く場合、これを選択します。
 - Keep specified revision and discard change history(指定したリビジョンを保持し、履歴を破棄): ベースライン用にベースとなるバージョンを選択できます。

デフォルトリビジョン以外のリビジョンをベースバージョンとして使用するには、〈Default Revision (デフォルトリビジョン)〉フィールドにバージョンラベルまたはプロモーション グループを選択します。ベースバージョンより前のリビジョンはコピーされません。

9 コピーしようとするプロジェクトデータベースにプロジェクトおよびサブプロジェクトがあり、 それらもコピーする必要がある場合は、〈Include subprojects (サブプロジェクトを含む)〉 チェックボックスを選択します。デフォルトでは、プロジェクトデータベースのルートレベルの バージョン管理ファイルのみがコピーされます。 **10** 【Next (次へ)】をクリックします。3 番めの〔Copy Project Database (コピープロジェクト データベース)〕ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project Database - BUILDS
You can choose to use or copy the current configuration files and access control databases. You can also choose to create a new default configuration file and access control database.
Configuration File
O Use existing Configuration Files
Copy existing Configuration Files
○ Create a new Configuration File
Access Control Database
O Use existing Access Control Database
Copy Access Control Database to new location
C Create a new Access Control Database
< Back Finish Cancel Help

- 11 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、〈Configuration File (コ ンフィグレーションファイル〉〉グループのオプションは選択できない状態になります。プロ ジェクトがコンフィグレーションファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
 - Use existing Configuration File (既存のコンフィグレーションファイルを使用): プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコ ピー): 既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをコピー先プロジェクト データベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成):デ フォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをコピー先プロジェクトデータ ベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。コンフィグレーション ファイルのデフォルト設定は、管理者によって管理されます。
- 12 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合、アクセスコントロール データベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロー ルデータベースを使用する場合、以下のいずれかを選択します。
 - Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベース を使用): プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータ ベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが 選択されています。
 - Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい 場所にコピー): 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをコピー先プ ロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
 - Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを 作成):新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをコピー先プロジェク トデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータ ベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。
- **13** 【Finish (終了)】をクリックします。

5.3/6.0 フォルダのコピー

5.3/6.0 フォルダは、開いているどのプロジェクトまたはプロジェクトデータベース、または別の 5.3/6.0 プロジェクトにもコピーできます。ただし、5.3/6.0 フォルダを同じ 5.3/6.0 プロジェク ト内にコピーすることはできません。

5.3/6.0 フォルダをプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにコピーすると、5.3/6.0 フォル ダはプロジェクトにアップグレードされます。5.3/6.0 フォルダを更新する前に、『Serena ChangeMan Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルート の作業』をお読みください。

5.3/6.0 フォルダを別のプロジェクトにコピーする場合は、アーカイブを新しいプロジェクトの場所 にコピーすることはできません。

メニューバーによる 5.3/6.0 フォルダのコピー

メニューバーの使用 メニューバーを使用して 5.3/6.0 フォルダをコピーするには

- 1 コピーする 5.3/6.0 フォルダを選択します。
- 2 [Edit (編集)] [Copy (コピー)]を選択します。[Copy Folder (コピーフォルダ)]ダイア ログボックスが表示されます。

Copy Folder - Files	×
Select destination project database or project:	
My Project Databases My Project Databases Admin Sample ProjectDatabase (D:\Sample Project DB) The state of the state o	
	•
< Back Next > Cancel Help	

- **3** コピー先を選択します。
 - 別の 5.3/6.0 プロジェクトを選択した場合は、【Next(次へ)】をクリックすると、フォル ダがコピーされた後コピーアクションは終了します。アーカイブは現在の場所に置かれたま まで、2 つのプロジェクトは既存の同じアーカイブを使用します。

コピー先にプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、【Next(次へ)】をクリックすると、2番めの〔Copy Folder(コピーフォルダ)〕ダイアログボックスが表示されます。

Copy Folder - Files 🔀
You can choose to keep archives in their original location, or you can choose to copy them to the new project location.
Archives
• Use existing archive location
C Copy archives to project location
< Back Finish Cancel Help

- **4** 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用): フォルダを新 しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、 これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー): フォルダのアーカイブディレクトリをコピーし、それをターゲットプロジェクトデータベー スのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクト リの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を 反映します。
- 5 【Finish (終了)】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによる 5.3/6.0 フォルダのコピー

ドラッグアンドド プロジェクト表示部内でドラッグアンドドロップして、5.3/6.0 フォルダをコピーすることもでき ロップを使う ます。 ドラッグアンドドロップで 5.3/6.0 フォルダをコピーするには

1 コピーするフォルダを選択します。

5.3/6.0 フォルダのコピー先	手順
プロジェクトまたはプロジェ クトデータベース	a コピーするフォルダをプロジェクト表示部で選択 します。
	b フォルダをプロジェクトまたはプロジェクトデー タベースにドラッグします。
別の 5.3/6.0 プロジェクト	a コピーするフォルダをプロジェクト表示部で選択 します。
	b CTRL キーを押しながら、フォルダを別の 5.3/ 6.0 プロジェクトにドラッグします。

アイテムのコピーを確認するメッセージが表示されます。

- **2** 【Yes (はい)】をクリックします。
 - コピー先として別の 5.3/6.0 プロジェクトを選択した場合は、フォルダがコピーされ、コ ピーは完了します。アーカイブは現在の場所に置かれたままで、2 つのプロジェクトは、既 存の同じアーカイブを使用します。
 - コピー先としてプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択した場合は、〔Copy Folder(コピーフォルダ)〕ダイアログボックスが表示されます。

opy Folder - Files	×
You can choose to keep archives in their original location, i choose to copy them to the new project location.	or you can
Archives	
O Use existing archive location	
C Copy archives to project location	
< Back Finish Cancel	Help

- **3** 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用): フォルダを新 しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合は、 これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー): フォルダのアーカイブディレクトリをコピーし、それをターゲットプロジェクトデータベースの アーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所 は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。

4 【Finish (終了)】をクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトのコピー

5.3/6.0 プロジェクトは、新しいフォーマットの開かれているプロジェクトまたはプロジェクトデー タベースにコピーできます。5.3/6.0 プロジェクトを新しいフォーマットのプロジェクトにコピーす ると、5.3/6.0 プロジェクトは新しいフォーマットにアップグレードされます。

Version Manager 5.3/6.0 GUI またはいずれかの Version Manager Development Interface を 使用して作成されたプロジェクトルートは、コピー(アップグレード)することができます。 Version Manager Development Interface で作成された 5.3/6.0 プロジェクトをアップグレード する方法についての詳細は、ご使用の開発環境用の『Merant Version Manager Development Interface 操作ガイド』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクトをアップグレードする前に、『Serena ChangeMan Version Manager 入門 ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』をお読みください。5.3/6.0 プロジェクトで Version Manager の機能をすべて使用する場合は、新しいフォーマットの Version Manager プロジェクトとしてコピーする必要があります。

5.3/6.0 プロジェクトをプロジェクトデータベースにコピーする前に、プロジェクトのコピー先のプロジェクトデータベースが開いていることを確認します。

5.3/6.0 プロジェクトのコピーでは、以下を行うことができます。

- 新規プロジェクトを、既存 5.3/6.0 プロジェクトの構造や 5.3/6.0 作業ファイル階層を基に構成できます。
- アーカイブを新しいアーカイブの場所にコピーしたり、既存のアーカイブの場所を使用したりできます。

E

注 複数のフォルダを含むプロジェクトをコピーする場合は、サブフォルダのアーカイブの場所 が異なる場合があることに注意してください。プロジェクトをコピーして、既存のアーカイブ の場所を使用する場合、新規プロジェクトはそれぞれのアーカイブの場所すべてを参照します。

コピーされた後にプロジェクトに追加された新規アーカイブは、プロジェクトデータベースの アーカイブディレクトリに置かれます。

- 既存のコンフィグレーションファイルを新しいプロジェクトの場所にコピーするか、既存の コンフィグレーションファイルを使用するか、または新規コンフィグレーションファイルを 作成します。
- 5.3/6.0 プロジェクトの既存のアクセスコントロールデータベースを新しいプロジェクトの場所 にコピーするか、既存のアクセスコントロールデータベースを使用するか、または新規アクセス コントロールデータベースを作成します。

メニューバーによる 5.3/6.0 プロジェクトのコピー

メニューバーを使用して 5.3/6.0 プロジェクトをコピーするには

1 コピーする 5.3/6.0 プロジェクトを選択します。

 2 [Edit (編集)] - [Copy (コピー)]を選択します。[Copy Project (コピープロジェクト)] ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project - 51DLRINT	×
Select destination project database or project:	
 My Project Databases Admin Sample ProjectDatabase (D:\Sample Project DB) Y:\archives\doc\Projects S1DLRINT S1DLRTOP S1DLRTOPJ S1HLPADM S1HLPADMJ S1HLPINE S1HLPINE S1HLPINE 	4
B B	
Seck Next > Cancel Help	

3 コピー先のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択し、【Next(次へ)】をクリックします。2番めの〔Copy Project(コピープロジェクト)〕ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project - 51DLRINT
You can choose to organize the copied projects based on the existing structure of your 5.3/6.0 projects, or you can choose to base the new structure on the workfile hierarchy.
Organize New Project Structure
Based on existing 5.3/6.0 project structure
Copy all items in folders
Include archives that are not in folders
◯ Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy
Migrate SCC Project
<pre></pre>

- **4** 〈Organize New Project Structure (プロジェクト構造の新規作成)〉グループで、以下のいず れかを選択します。
 - Based on existing 5.3/6.0 Project structure (既存の 5.3/6.0 プロジェクト構造 に基づく):新規プロジェクトを既存の 5.3/6.0 プロジェクトの構造を基に構成するには、 このラジオボタンを選択します。この構造には、プロジェクトとサブプロジェクトという 2 つのレベルのみが含まれます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

フォルダ内に格納されているすべてのアーカイブをコピーするには、〈Copy all items in folders (フォルダ内のすべてのアイテムをコピー)〉チェックボックスを選択します。

フォルダ内に含まれないアーカイブ(5.3/6.0 プロジェクトのルートにあるアーカイブ)を コピーする場合は、〈Include archives that are not in folders(フォルダにないアーカイ ブも含む)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、これが選択されています。

- Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階 層構造に基づく): 作業ファイルの階層構造と同じ構造のプロジェクトを作成する場合は、このラジオボタンを選択します。この構造には、作業ファイルの場所と完全に一致する数のサ ブプロジェクトが含まれます。
- Migrate SCC project (SCC プロジェクトの移行): SCC 5.3/6.0 プロジェクトを新しい フォーマットにアップグレードする場合は、このチェックボックスを選択します。この場合 は、〈Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層 構造に基づく)〉ラジオボタンが選択されている必要があります。



注 ほかの Development Interface プロジェクトと共有されている SCC プロジェクトを 移行する場合は、アーカイブを新しいプロジェクトディレクトリに移動しないことをお勧め します。アーカイブを移動すると、ほかのプロジェクトとの関連付けは削除されます。

5 【Next (次へ)】をクリックします。3 番めの〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアロ グボックスが表示されます。

Copy Project - 51DLRINT	×
You can choose to keep archives in their original location, or you can choose to copy them to the new project location.	า
Archives	
Ose existing archive location	
Copy archives to project location	
< Back Next > Cancel Help	

- **6** 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用): プロジェクト を新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合 は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー): プロジェクトのアーカイブディレクトリ(およびその内容)をコピーし、ターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新しいアーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。

7 【Next (次へ)】をクリックします。4 番目の〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアロ グボックスが表示されます。

Copy Project - 51DLRINT	×
You can choose to use or copy the current configuration files and access control databases. You can also choose to create a new default configuration file and access control database.	
Configuration File	
O Use existing Configuration Files	
Copy existing Configuration Files	
C Create a new Configuration File	
Access Control Database	
 Use existing Access Control Database 	
Copy Access Control Database to new location	
C Create a new Access Control Database	
< Back Finish Cancel Help	

- 8 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファ イルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーショ ンファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
 - Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用):プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。コピーされたプロジェクトは、コピー元のプロジェクトと同じコンフィグレーションファイルを使用します。

0

重要! コピーする 5.3/6.0 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する 場合は、コンフィグレーションファイルを共有しないことをお勧めします。

- Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコ ピー): 既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをターゲットプロジェクト データベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。デフォルトでは、 このオプションが選択されています。
- Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成):デ フォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをターゲットプロジェクトデータ ベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。コンフィグレーション ファイルのデフォルト設定は、管理者によって管理されます。
- 9 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロール データベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロー ルデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
 - Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベース を使用): プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータ ベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが 選択されています。

- Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい 場所にコピー): 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをターゲット プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
- Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを 作成):新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをターゲットプロジェ クトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータ ベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。
- **10** 【Finish (終了)】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによる 5.3/6.0 プロジェクトのコピー

ドラッグアンドドロップで 5.3/6.0 プロジェクトをコピーするには

- **1** コピーするプロジェクトを選択します。
- 2 それをコピー先のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにドラッグします。アイテムの コピーを確認するメッセージが表示されます。
- **3** 【Yes (はい)】をクリックします。〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアログボックス が表示されます。

Copy Project - 51DLRINT	×
You can choose to organize the copied projects based on the existing structure of your 5.3/6.0 projects, or you can choose to base the new structure on the workfile hierarchy.	
Organize New Project Structure	
Based on existing 5.3/6.0 project structure	
Copy all items in folders	
Include archives that are not in folders	
○ Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy	
Migrate SCC Project	
< Back Next > Cancel Help	

- 4 (Organize New Project Structure (プロジェクト構造の新規作成)) グループで、以下のいず れかを選択します。
 - Based on existing 5.3/6.0 Project structure (既存の 5.3/6.0 プロジェクト構造 に基づく):新規プロジェクトを既存の 5.3/6.0 プロジェクトの構造を基に構成するには、 このラジオボタンを選択します。この構造には、プロジェクトとサブプロジェクトという 2 つのレベルのみが含まれます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

フォルダ内に格納されているすべてのアーカイブをコピーするには、〈Copy all items in folders (フォルダ内のすべてのアイテムをコピー)〉チェックボックスを選択します。

フォルダ内に含まれないアーカイブ(5.3/6.0 プロジェクトのルートにあるアーカイブ)を コピーする場合は、〈Include archives that are not in folders(フォルダにないアーカイ ブも含む)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、これが選択されています。

- Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層 構造に基づく):作業ファイルの階層構造と同じ構造のプロジェクトを作成する場合は、この ラジオボタンを選択します。この構造には、作業ファイルの場所と完全に一致する数のサブ プロジェクトが含まれます。
- Migrate SCC project (SCC プロジェクトの移行): SCC 5.3/6.0 プロジェクトを新しい フォーマットにアップグレードする場合は、このチェックボックスを選択します。この場合 は、(Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層 構造に基づく)) ラジオボタンが選択されている必要があります。
- 5 【Next (次へ)】をクリックします。2 番めの〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアロ グボックスが表示されます。

Copy Project - 51DLRINT Xource Copy Project - 51DLRINT Xource Copy Copy Copy Copy Copy Copy Copy Copy
Archives
 Ose existing archive location Copy archives to project location
< Back Next> Cancel Help

- **6** 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用): プロジェクト を新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照する場合 は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー): プロジェクトのアーカイブディレクトリ(およびその内容)をコピーし、ターゲットプロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新しいアーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。

7 【Next (次へ)】をクリックします。3番めの〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアロ グボックスが表示されます。

Copy Project - 51DLRINT
You can choose to use or copy the current configuration files and access control databases. You can also choose to create a new default configuration file and access control database.
Configuration File
C Use existing Configuration Files
Copy existing Configuration Files
C Create a new Configuration File
Access Control Database
 Use existing Access Control Database
Copy Access Control Database to new location
🔿 Create a new Access Control Database
< Back Finish Cancel Help

- 8 プロジェクトがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーションファ イルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがコンフィグレーショ ンファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
 - Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用): プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。コピーされたプロジェクトは、コピー元のプロジェクトと同じコンフィグレーションファイルを使用します。

0

重要! コピーする 5.3/6.0 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用する 場合は、コンフィグレーションファイルを共有しないことをお勧めします。

- Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコ ピー): 既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それをターゲットプロジェクト データベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。デフォルトでは、 このオプションが選択されています。
- Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成):デ フォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それをターゲットプロジェクトデータ ベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。コンフィグレーション ファイルのデフォルト設定は、管理者によって管理されます。
- 9 プロジェクトがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロール データベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトがアクセスコントロー ルデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
 - Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベース を使用): プロジェクトを新しい場所にコピーしても、既存のアクセスコントロールデータ ベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが 選択されています。

- Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい 場所にコピー): 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それをターゲット プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
- Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを 作成):新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それをターゲットプロジェ クトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータ ベースには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。
- **10** 【Finish (終了)】をクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー

5.3/6.0 プロジェクトルートを 新しいフォーマットのプロジェクトデータベースにコピーし、新 バージョンの機能を利用することができます。5.3/6.0 プロジェクトルートを Version Manager に コピーすると、5.3/6.0 プロジェクトルートは 6.5 プロジェクトデータベースにアップグレードさ れます。5.3/6.0 プロジェクトルートをコピーするには、メニューバーを使用する必要があります。 ドラッグアンドドロップはサポートされていません。

Version Manager 5.3/6.0 GUI またはいずれかの Version Manager Development Interface を 使用して作成されたプロジェクトルートは、コピー(アップグレード)することができます。 Version Manager Development Interface で作成された 5.3/6.0 プロジェクトをアップグレード する方法についての詳細は、ご使用の開発環境用の『Merant Version Manager Development Interface 操作ガイド』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクトルートを更新する前に、『Serena ChangeMan Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』をお読みください。

5.3/6.0 プロジェクトルートをプロジェクトデータベースにコピーする場合は、プロジェクトデータ ベースを作成しないで操作を始めてください。Version Manager により、コピー処理の一部として 新規プロジェクトデータベースが作成されます。5.3/6.0 プロジェクトルートを、既存のプロジェク トデータベースにコピーすることはできません。

5.3/6.0 プロジェクトルートのコピーでは、以下を行うことができます。

- 新規プロジェクトデータベースを既存の 5.3/6.0 プロジェクトルートや 5.3/6.0 作業ファイル 階層を基に構成できます。
 - 5.3/6.0 プロジェクトルートの構造は、5.3/6.0 デスクトップクライアント内のプロジェクトルート構造と同一のプロジェクトデータベース構造を作成します。5.3/6.0 プロジェクトルートはプロジェクトデータベースになり、5.3/6.0 プロジェクトはプロジェクトになり、フォルダはサブプロジェクトになります。
 - 5.3/6.0 作業ファイル階層は、プロジェクトデータベース構造と同じになります。作業ファイル階層がネストされた構造を持つ場合は、それに一致するネストされたプロジェクト構造が作成されます。
- アーカイブを新しいアーカイブの場所にコピーしたり、既存のアーカイブの場所を使用したりできます。



注 複数のフォルダを含むプロジェクトルートをコピーする場合は、プロジェクトのアーカイブの場所が異なる場合があることに注意してください。プロジェクトルートをコピーして、既存のアーカイブの場所を使用する場合、新規プロジェクトデータベースはそれぞれのアーカイブの場所すべてを参照します。

コピーされた後にプロジェクトルートに追加された新規アーカイブは、プロジェクトデータ ベースのアーカイブディレクトリに置かれます。

- 既存のコンフィグレーションファイルを新規プロジェクトデータベースの場所にコピーするか、
 既存のコンフィグレーションファイルを使用するか、または新規コンフィグレーションファイルを
 た成します。
- 5.3/6.0 プロジェクトルートの既存のアクセスコントロールデータベースを新規プロジェクト データベースの場所にコピーするか、既存のアクセスコントロールデータベースを使用するか、 または新規アクセスコントロールデータベースを作成します。

5.3/6.0 プロジェクトルートをコピーするには

- 1 コピーする 5.3/6.0 プロジェクトルートを選択します。
- 2 [Edit (編集)] [Copy (コピー)]を選択します。[Copy Project Database (コピープロジェクトデータベース)]ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project Databa	se - Y:\archives\doc\Projects
Name:	53Copy_Project
Location:	C:\53Copy_Project
Archive Location:	C:\53Copy_Project\archives
Workspace Setting	s
Workfile Location:	C:\53Copy_Projectwork
These sett	ings apply to all users of the root workspace.
< 8a	K Next > Cancel Help

- 3 〈Name (名前)〉フィールドに新しいプロジェクトデータベース名を入力します。プロジェクト データベース名の最初と最後には、タブまたは空白のスペースを使用できません。プロジェクト データベース名については、これ以外の制限はありません。
- 4 〈Location(場所)〉フィールドに新規プロジェクトデータベースの場所を入力するか、または 【Browse(…)】をクリックして場所を選択します。ここで入力した場所は、〈Archive(アーカ イブ)〉フィールドにも反映されます。

この場所には、このプロジェクトデータベースにアクセスするすべてのユーザがアクセス可能で ある必要があります。プロジェクトデータベースは、別のプロジェクトデータベースの下に作成 することはできないため、ドライブのルートレベル以外の場所に作成したほうがよいでしょう。 また、既存の 5.3/6.0 プロジェクトルートと同じ場所にプロジェクトデータベースを作成する ことはできません。

5 入力したプロジェクトデータベースの場所に関連する新規アーカイブディレクトリは、 〈Archive Location (アーカイブの場所)〉で指定します。別のアーカイブの場所を指定するには、このフィールドに入力するか、または【Browse (...)】をクリックして場所を選択します。 この場所には、アーカイブにアクセスするすべてのユーザがアクセス可能でなければなりません。 6 作業ファイルの場所を入力してこのフィールドに指定するか、【Browse(…)】をクリックして場所を選択します。

作業ファイルの場所にそのパスのルートとして \$HOME を含めることができます(たとえば、 UNIX では、\$HOME/work は /usrs/cherylc/work に展開できます)。Version Manager は、作業ファイルの場所を判断するときに、HOME 環境変数の値に置き換えます。\$HOME を 使用することにより、パスは自動的にユーザの HOME 環境変数の値に応じて個別に設定され ます。ユーザの HOME 環境変数の値が定義されていない場合は、作業ファイルの場所を判断 するときにスペースに置き換えられます。



注 ほとんどのユーザによるアクセスが可能な、ネットワーク上のドライブを指定することを推 奨します。ユーザは必要に応じて、作業ファイルの場所を変更するためのプライベートなワー クスペースをローカルドライブに作成することができます。

 7 【Next (次へ)】をクリックします。2 番めの〔Copy Project Database (コピープロジェクト データベース)〕ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project Database - Y:\archives\doc\Projects
You can choose to organize the copied projects based on the existing structure of your 5.3/6.0 projects, or you can choose to base the new structure on the workfile hierarchy.
Organize New Project Structure
Based on existing 5.3/6.0 project structure
Include projects and folders
Include archives that are not in folders
O Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy
Migrate SCC Project
]

- 8 〈Organize New Project Structure (プロジェクト構造の新規作成)〉グループで、以下のいず れかを選択します。
 - Based on existing 5.3/6.0 Project structure (既存の 5.3 プロジェクト構造に基づく):新規プロジェクトを既存の 5.3/6.0 プロジェクトルートの構造を基に構成するには、このラジオボタンを選択します。この構造には、プロジェクトとサブプロジェクトという 2つのレベルのみが含まれます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

フォルダ内に格納されているすべてのアーカイブをコピーするには、〈Copy all items in folders (フォルダ内のすべてのアイテムをコピー)〉チェックボックスを選択します。この オプションは、既存の 5.3/6.0 プロジェクト構造を基にしてプロジェクトを作成するように 選択した場合にのみ利用できます。

フォルダ内に含まれないアーカイブ(5.3/6.0 プロジェクトルートにあるアーカイブ)をコ ピーする場合は、〈Include archives that are not in folders(フォルダにないアーカイブ も含む)〉チェックボックスを選択します。このチェックボックスは、5.3/6.0 プロジェクト 構造に基づいてプロジェクトを作成する場合にのみ選択可能です。デフォルトでは、これが 選択されています。

- 〈Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy (既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層構造 に基づく)〉を選択すると、新しいプロジェクトは、5.3/6.0 プロジェクトの作業ファイル階 層構造に基づくものになります。このオプションの利点は、作業ファイルの整理にサブディ レクトリを使用していた場合に、ネストされたプロジェクト構造が作成されることです。
- Migrate SCC project (SCC プロジェクトの移行): SCC 5.3/6.0 プロジェクトを新しい フォーマットにアップグレードする場合は、このチェックボックスを選択します。この場合 は、〈Based on existing 5.3/6.0 workfile hierarchy(既存の 5.3/6.0 作業ファイル階層 構造に基づく)〉ラジオボタンが選択されている必要があります。
- **9** 【Next (次へ)】をクリックします。3 番めの〔Copy Project Database (コピープロジェクト データベース)〕ダイアログボックスが表示されます。

Copy Project Database - Y:\archives\doc\Projects	×
You can choose to keep archives in their original location, or you can choose to copy them to the new project location.	
rAchives	
Ose existing archive location	
Copy archives to project location	
< Back Next > Cancel Help	

- **10** 〈Archives (アーカイブ)〉グループで以下のいずれかを選択します。
 - Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用): プロジェクト ルートを新しい場所にコピーしても、現在の場所にある既存のアーカイブを引き続き参照す る場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプションが選択されています。
 - Copy archives to project location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー): プロジェクトのアーカイブをコピーし、それを新規プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。新規アーカイブディレクトリの場所は、アーカイブディレクトリ内で、ターゲットプロジェクトデータベースの階層を反映します。

11 【Next (次へ)】をクリックします。4 番目の〔Copy Project (コピープロジェクト)〕ダイアロ グボックスが表示されます。

Copy Project Database - Y:\archives\doc\Projects	×
You can choose to use or copy the current configuration files and access control databases. You can also choose to create a new default configuration file and access control database.	
Configuration File	
O Use existing Configuration Files	
Copy existing Configuration Files	
C Create a new Configuration File	
Access Control Database © Use existing Access Control Database	
Copy Access Control Database to new location	
C Create a new Access Control Database	
< Back Finish Cancel Help	

- 12 プロジェクトルートがコンフィグレーションファイルを使用しない場合は、コンフィグレーショ ンファイルグループのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトルートがコン フィグレーションファイルを使用する場合は、以下のいずれかを選択します。
 - Use existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルを使用): プロジェクトを新しい場所にコピーした後も、既存のコンフィグレーションファイルを使用する場合は、これを選択します。新規プロジェクトデータベースは、5.3/6.0 プロジェクトルートと同じコンフィグレーションファイルを使用します。

0

重要! コピーする 5.3/6.0 プロジェクトルートがアクセスコントロールデータベースを 使用する場合は、コンフィグレーションファイルを共有しないことをお勧めします。

- Copy existing Configuration Files (既存のコンフィグレーションファイルをコ ピー): 既存のコンフィグレーションファイルをコピーして、それを新規プロジェクトデータ ベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。デフォルトでは、この オプションが選択されています。
- Create a new Configuration File (新規コンフィグレーションファイルを作成):デ フォルトコンフィグレーションファイルを作成して、それを新規プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。コンフィグレーションファイルのデフォルト設定は、管理者によって管理されます。
- 13 プロジェクトルートがアクセスコントロールデータベースを使用しない場合は、アクセスコントロールデータベースのオプションは選択できない状態になります。プロジェクトルートがアクセスコントロールデータベースを使用する場合は、以下の選択ができます。
 - Use existing Access Control Database (既存のアクセスコントロールデータベース を使用): プロジェクトルートを新しい場所にコピーした後も、既存のアクセスコントロール データベースを引き続き参照する場合は、これを選択します。デフォルトでは、このオプ ションが選択されています。

- Copy Access Control Database to new location (アクセスコントロールを新しい 場所にコピー): 既存のアクセスコントロールデータベースをコピーして、それを新規プロジェクトデータベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。
- Create a new Access Control Database (新規アクセスコントロールデータベースを 作成):新規の空のアクセスコントロールデータベースを作成し、それを新規プロジェクト データベースのアーカイブディレクトリに置く場合は、これを選択します。このデータベー スには、管理者ユーザおよびデフォルトの権限が含まれます。
- 14 【Finish (終了)】をクリックします。

アイテムの移動

アイテムを移動するには、メニューバーを使用するか、またはアイテムをドラッグアンドドロップし ます。以下のアイテムを移動できます。

移動できるアイテム	移動先
5.3/6.0 フォルダ	同じ 5.3/6.0 プロジェクトルート内の別のプロジェクト
5.3/6.0 バージョン管理 ファイル	同じ 5.3/6.0 プロジェクトルート内の別のフォルダ
プロジェクト / サブプロ ジェクト	同じプロジェクトデータベース内の別のプロジェクトまたはサブ プロジェクト
バージョン管理ファイル	プロジェクトデータベースのルート、または同じプロジェクト データベース内のプロジェクトまたはサブプロジェクト

バージョン管理ファイルまたはプロジェクトを、別のプロジェクトデータベースに移動することはできません。プロジェクトデータベースは移動できません。また、5.3/6.0 プロジェクトも移動できません。

- バージョン管理ファ バージョン管理ファイルを移動しても、バージョン管理ファイルが参照するアーカイブは移動せず、 イルの移動 バージョン管理ファイルは元の場所にあるアーカイブを参照します。
- プロジェクト / フォ プロジェクトまたはフォルダを移動すると、プロジェクトまたはフォルダに含まれるアイテムのすべ ルダの移動 て (サブプロジェクトを含む)が選択した移動先に移動します。プロジェクトおよびサブプロジェク トは、元の場所にあるそれぞれのコンフィグレーションファイルを参照します。作業ファイル設定 は、そのまま保持されます。

メニューバーによるアイテムの移動

- メニューバーの使用 メニューバーを使用してアイテムを移動するには
 - 1 移動するアイテムを選択します。

 [Edit (編集)] - [Move (移動)]を選択します。[Project Browse (プロジェクトの参照)] ダイアログボックスが表示されます。

Project Browse 🗙			
Select destination project database or project:			
My Project Databases ACME (C:ACME) DEV DIALOGS REPORTS UTILITIES DOC March QA			
OK Cancel Help			

3 移動先のプロジェクトデータベース(プロジェクトをプロジェクトデータベースの直下に移動す る場合)またはプロジェクトを選択して、【OK】をクリックします。

ドラッグアンドドロップによるアイテムの移動

ドラッグアンドド バージョン管理ファイルは、ファイル表示部からプロジェクト表示部にドラッグアンドドロップして ロップを使う 移動します。プロジェクトは、プロジェクト表示部内でドラッグアンドドロップして移動します。

ドラッグアンドドロップを使用してアイテムを移動するには

- 1 移動するアイテムを選択します。
- 2 それを移動先のプロジェクトまたはプロジェクトデータベースにドラッグアンドドロップします。

アイテムの削除

管理者から必要な権限が割り当てられている場合は、バージョン管理ファイル、リビジョン、プロジェクト、およびサブプロジェクトを削除できます。バージョン管理ファイル、プロジェクト、およびサブプロジェクトを削除しても対応するアーカイブは「削除されません」。

アイテムの削除に必要な権限については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』の『セキュリティの使用』の章を参照してください。

アイテムを削除するには

- 1 削除するアイテムを選択します。
- 2 [File (ファイル)] [Delete (削除)]を選択します。アイテムの削除を確認するメッセージ が表示されます。

3 【Yes (はい)】をクリックしてアイテムを削除します。

選択するアイテム	結果
プロジェクトまたはサ ブプロジェクト	プロジェクトはプロジェクト表示部から削除されますが、アーカ イブはアーカイブディレクトリに残ります。
バージョン管理ファイル	バージョン管理ファイルはファイル表示部から削除されますが、 アーカイブはアーカイブディレクトリに残ります。
リビジョン	リビジョンはリビジョン表示部から削除されます。
	重要! リビジョンはアーカイブから永久的に削除され、復旧 「できません」。

バージョン管理ファイルの復元

誤ってバージョン管理ファイルを削除したけれども、元のソースコントロールプロジェクトへの追加が必要になった場合には、元のプロジェクトにアーカイブをインポートして戻すことによって バージョン管理ファイルを再作成できます。98 ページの『アーカイブのインポート』を参照してく ださい。

不要なアーカイブファイルの削除について

バージョン管理ファイルを削除しても、アーカイブファイルは削除されません。アーカイブファイル を削除する場合は、最初に、以下の条件がすべて満たされていることを確認します。

- 社内の処理手順でアーカイブファイルの削除が許可されている
- 該当のアーカイブファイルがほかのプロジェクトで使用中ではない(たとえば、リンクされた バージョン管理ファイルや共有アーカイブ)



ヒント Serena サポートアカウントを持っている場合は、未使用アーカイブファイルをリスト する PCLI スクリプトをダウンロードできます。support.serena.com/ で、ナレッジベースの記事 34462 を参照してください(記事内容は英語です)。

- アーカイブファイルが過去の作業の再現や維持には不要である
- アーカイブファイルのバックアップがある

これではじめて、Version Manager 管理者による不要なアーカイブの削除が可能になります。



重要! アーカイブファイルを直接処理する場合は、「必ず」、事前にアーカイブファイルのバック アップを行ってください。

表示のフィルタ

デフォルトでは、プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはフォルダを選択すると、選択したアイテムに関連する全バージョン管理ファイルがファイル表示部に表示されます。ファイルフィル タは、ファイル表示部にフィルタを実行して、フィルタ基準に見合うバージョン管理ファイルのみを 表示します。Version Manager では、最後に定義されたフィルタが4つまで保存され、再使用する ことができます。

ファイルフィルタを フィルタ可能な条件(同じバージョンラベル、類似のファイル名、同じユーザロックなど)に一致す 実行する理由 るバージョン管理ファイルのグループにアクションを実行する場合、ファイルフィルタは非常に便利 です。

> 表示をフィルタすると、現在開いているすべてのプロジェクトデータベースに影響します。フィルタ を実行するには、メニューバーから [View (表示)] – [Filters (フィルタ)]を選択するか、ツー ルバーの (File Filter (ファイルフィルタ)) リストを使用します。

> ファイルフィルタは以下のように表示されます。〈All Files(すべてのファイル)〉オプションはデ フォルトのオプションで、すべてのプロジェクトおよびフォルダ内の全バージョン管理ファイルを表 示します。

All Files 💌	「「「」(Recursive(再帰的に表示)) アイコン
All Files Locked by 'Admin'	「ユーザ名」を基にロックされたファイル
Wild Card	
LOCKED By Version Label	
Promotion Group	

フィルタの種類 以下の条件を満たすバージョン管理ファイルのみを表示するよう、表示にフィルタを実行できます。

- 特定ユーザまたは任意のユーザにロックされている
- ワイルドカードファイル名パターンに一致している
- 指定したプロモーショングループに属している
- 特定のバージョンラベルが指定されている
- リビジョン番号、修正時刻またはリビジョンの内容が次の項目間で異なるもの
 - 2 つのバージョンラベル
 - 2 つのプロモーショングループ
 - バージョンラベルとプロモーショングループ

フィルタを実行した プロジェクトにアク ションを実行する

プロジェクト表示部で選択したプロジェクトでチェックアウトなどのアクションを実行する場合、 Version Manager はそのプロジェクトの、フィルタで現在表示されていないファイルを「含めて」 プロジェクト全体についてアクションを実行します。



注 フィルタされた表示は、別のフィルタを選択するまでは有効となります。混乱を避けるには、 別の作業に移る前に〈All Files(すべてのファイル)〉表示に戻してフィルタされた表示をクリア します。

ファイルの再帰的な表示

デフォルトでは、ファイル表示部には、プロジェクト表示部で選択したアイテム(プロジェクトデー タベース、プロジェクト、またはサブプロジェクト)のルートに置かれているバージョン管理ファイ ルのみが表示されます。再帰的表示を選択した場合以外は、プロジェクト、サブプロジェクト、およ びネストされたプロジェクトおよびサブプロジェクトに含まれるファイルは表示されません。

次のようにして、再帰的と非再帰的との間で表示を切り替えます。

- 1 プロジェクト表示部で、プロジェクトデータベースまたは表示するプロジェクトを選択します。
- 【Recursive (再帰的) /Non-recursive (非再帰的)】アイコンをクリックします。ボタンの外 観が切り替わって、どちらのモードが有効かが示されます。
 - Recursive (再帰的):ファイル表示部には、プロジェクト表示部で選択したアイテム に含まれる、すべてのプロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルが 表示されます。

🌍 My Project Databases 👘	Name	٤.	Date Checked In
🖻 🤤 Sample Project Data	🛅 /bridge		
⊡ ⊡ bridge ⊡ hlp	🖹 bridge.clw		5/18/98 03:37 PM
in res	🖹 bridge.cpp		5/18/98 05:03 PM
🗄 💼 checkers	🖹 bridge.dsp		5/18/98 03:37 PM
⊞ 🛄 chess	🖹 bridge.dsw		5/18/98 03:37 PM
	📄 bridge.h		5/18/98 04:48 PM

 Non-recursive (非再帰的):ファイル表示部には、プロジェクト表示部で選択した アイテムのルートに含まれるバージョン管理ファイルのみが表示されます。

🌍 My Project Databases	Name	٤.	Date Checked In
🖻 🤤 Sample Project Data	🖹 bridge.clw		5/18/98 03:37 PM
	📄 bridge.cpp		5/18/98 05:03 PM
res	📄 bridge.dsp		5/18/98 03:37 PM
🗄 🗠 🧰 checkers	🖹 bridge.dsw		5/18/98 03:37 PM
⊞ <mark>`</mark> ⊇ chess	📄 bridge.h		5/18/98 04:48 PM
	📄 bridge.ncb		5/18/98 03:37 PM

ロック設定者によるフィルタ

このフィルタを使用して特定のユーザまたは任意のユーザがロックしたバージョン管理ファイルを検索します。

ロックフィルタを設定するには

 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Locked By (ロック)] を選択するか、ツール バーの (file filter (ファイルフィルタ)) ドロップダウンリストから (Locked By (ロック)) オプションを選択します。[Locked By Filter (ロックフィルタ)] ダイアログボックスが表示 されます。

🙀 Locked B	y Filter		×	I
Locked by CUser C Any use	er			
	OK	Cancel	Help	

- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - 特定ユーザによってロックされたバージョン管理ファイルを表示するには、〈Users (ユーザ〉〉 オプションを選択し、1つ以上のユーザ ID を入力します。複数のユーザ ID は区切り文字で区 切ります。デフォルトの区切り文字はセミコロン(;)です。区切り文字の設定については、 136ページの『フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定』を参照してください。
 - ロック設定者に関係なく、ロックされたすべてのバージョン管理ファイルを表示するには、 (Any user (すべてのユーザ))オプションを選択します。
- **3** 【OK】をクリックします。

ワイルドカードファイル名によるフィルタ

このフィルタを使用して指定したワイルドカード名パターンに一致するバージョン管理ファイルを検索します。

ワイルドカードフィルタを設定するには

 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Wild Card (ワイルドカード)]を選択するか、 ツールバーの 〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Wild Card (ワイ ルドカード)〉オプションを選択します。[Wild Card Filename Filter (ワイルドカードファイ ル名フィルタ)]ダイアログボックスが表示されます。

۷	🙀 Wild Card	Filename Filter	×
	Filename p	oattern:	
	Pattern ma	tching characters	
	*	Matches zero or more character	rs
	?	Matches one character	
	[a-z]	Matches a range of characters	
	[^a-d]	Matches inverse of pattern	
		OK Cancel I	Help

2 〈Filename pattern (ファイル名のパターン)〉フィールドにフィルタ条件を入力します。

使用するワイルドカード?	一致する文字
*	ゼロ(0)個以上の任意の文字。 たとえば、DLL という拡張子のついた全バージョン管理ファイル を検索するには、*.DLL と入力します。
?	任意の 1 文字。 たとえば、TEST01.DLL、TEST02.DLL、… TESTXX.DLL のよ うに、一定の法則を持つファイル名を持つバージョン管理ファイ ルを検索するには、TEST??.DLL と入力します。
[-]	ー定範囲の文字。 たとえば、A、B、C、D の文字で始まるファイル名のバージョン 管理ファイルすべてを検索するには、[A-D]* と入力します。
^	括弧で囲まれた以外の文字(たとえば、[^A-D]* は、A、B、C、 D「以外」で始まるすべてのファイル名)。

3 【OK】をクリックします。

バージョンラベルによるフィルタ

このフィルタを使用して指定したバージョンラベルが含まれているバージョン管理ファイルを検索します。

「バージョンラベル」フィルタを設定するには

 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択する か、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Advanced Filter (高度なフィルタ)〉を選択します。〔Advanced Filter (高度なフィルタ)〕ダイアログ ボックスが表示されます。

Madvanced F	Filter	×
Use this filter	r to view versioned files that have been assi	igned to a
specific version	ion label.	
Filter by:	Version Label	
	_	
Version labe	el(s):	
Show files the	nat contain a:	
Version lat	bel	
C Version lat	bel assigned to the tip revision	
C Version lat	bel not assigned to the tip revision	
🗖 Show files	not matched by this filter	
	OK Cancel	Help

2 フィルタするバージョンラベルの名前を〈バージョンラベル〉フィールドに入力するか、参照して選択します。複数のバージョンラベルは区切り文字で区切ります。デフォルトの区切り文字は、セミコロン(;)です。区切り文字の詳細については、136ページの『フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定』を参照してください。



注 バージョンラベルでは、大文字小文字が区別されます。大文字小文字を正確に入力してください。

- 3 次のラベルの中から指定したバージョンラベルを持っているバージョン管理ファイルを表示する ために、次のオプションの1つを選択します。
 - すべてのリビジョン : 〈Version label (バージョンラベル〉)
 - チップリビジョン: 〈Version label assigned to the tip revision (チップリビジョンに割り当てられているバージョンラベル)〉
 - チップリビジョン以外のリビジョン: 〈Version label not assigned to tip revision (チッ プリビジョンに割り当てられていないバージョンラベル)〉
- 4 フィルタの論理を反転するには、〈Show files not matched by this filter (このフィルタに合 致しないファイルを表示)〉チェックボックスを選択します。
- **5** 【OK】をクリックします。

プロモーショングループによるフィルタ

このフィルタを使用して指定したプロモーショングループを含むファイルを検索します。

「プロモーショングループ」フィルタを設定するには

 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択する か、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Advanced Filter (高度なフィルタ)〉を選択します。[Advanced Filter (高度なフィルタ)] ダイアログ ボックスが表示されます。

Kadvanced Filter
Use this filter to view versioned files that have been assigned to a
specific promotion group.
Filter by: Promotion Group
Promotion group(s):
Climb the promotion model hierarchy
Show files that contain a:
Promotion group Promotion group Promotion aroun assigned to the tip revision
C Promotion group not assigned to the tip revision
Show files not matched by this filter
OK Cancel Help

- 2 〈Filter by (フィルタ)〉リストから〈Promotion Group (プロモーショングループ)〉オプションを選択します。
- 3 フィルタするプロモーショングループの名前を〈Promotion group(s) (プロモーショングループ)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。複数のプロモーショングループは区切り文字で区切ります。デフォルトの区切り文字は、セミコロン(;)です。区切り文字の詳細については、136ページの『フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定』を参照してください。
- 4 指定したプロモーショングループが見つからなかった場合、フィルタは、次の上位のプロモーショングループを検索し、見つかるまで、または最上層レベルのプロモーションモデルに達するまで、順次プロモーションモデル階層をさかのぼります。この機能を有効にするには、〈Climb the promotion model hierarchy (プロモーションモデルの階層を上げる)〉チェックボックスを選択します。
- 5 次のオプションの1つを選択して、次のリビジョンの中から指定したプロモーショングループ が入っているバージョン管理ファイルを表示します。
 - すべてのリビジョン : 〈Promotion group (プロモーショングループ)〉

- チップリビジョン: (Promotion group assigned to the tip revision (チップリビジョン に割り当てられているプロモーショングループ))
- チップリビジョン以外のリビジョン: 〈Promotion group not assigned to tip revision (チップリビジョンに割り当てられていないプロモーショングループ)〉
- 6 フィルタの論理を反転するには、〈Show files not matched by this filter (このフィルタに合 致しないファイルを表示)〉チェックボックスを選択します。
- **7** 【OK】をクリックします。

2 つのバージョンラベルを使用した相違点によるフィルタ

このフィルタを使用して、指定した 2 つのバージョンラベル間のリビジョンが異なっているバー ジョン管理ファイルを検索します。

2 つのバージョンラベルを使用する相違点フィルタを設定するには

 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択する か、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Advanced Filter (高度なフィルタ)〉を選択します。〔Advanced Filter (高度なフィルタ)〕ダイアログ ボックスが表示されます。

Manced Filter	×
Use this filter to view versioned files containing revisions that	
differ between two version labels.	
Filter by: Two Version Labels	
First version label:	
Second version label:	
Show files if they differ by:	
Revision number (fast)	
O Modification time (fast)	
Modification time OR Revision contents (medium)	
C Revision contents (slow)	
Show files not matched by this filter	
OK Cancel Help	

2 〈Filter by (フィルタ)〉リストから〈Two Version Labels (2 つのバージョンラベル)〉オプションを選択します。

3 フィルタ処理するバージョンラベル名を〈First version label (1 番目のバージョンラベル)〉 フィールドに入力するか、参照して選択します。



注 バージョンラベルでは、大文字小文字が区別されます。大文字小文字を正確に入力してくだ さい。

- 4 フィルタするバージョンラベル名を〈Second version label (2番目のバージョンラベル)〉 フィールドに入力するか、参照して選択します。
- 5 次のいずれかのオプションを選択して、リビジョンの次の内容に相違点があるバージョン管理 ファイルを表示します。
 - 〈Revision number (リビジョン番号)〉。
 - 〈Modification time (変更時刻)〉。
 - 〈Modification time OR Revision contents (変更時刻またはリビジョン内容)〉:最初にリビジョンの変更時刻を比較します。変更時刻に相違点がない場合、リビジョン内容を比較します。同じ変更時刻を持つリビジョンが多数ある場合、このオプションは時間がかかります。
 - 〈Revision contents (リビジョン内容〉): リビジョンの内容を比較します。このオプション は、もっとも長い時間がかかります。
- 6 フィルタの論理を反転するには、〈Show files not matched by this filter (このフィルタに合 致しないファイルを表示)〉チェックボックスを選択します。
- **7** 【OK】をクリックします。

2 つのプロモーショングループを使用した相違点によるフィルタ

このフィルタを使用して、指定した 2 つのプロモーショングループ間のリビジョンが異なっている バージョン管理ファイルを検索します。

2 つのプロモーショングループを使用する、相違点フィルタを設定するには

 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択する か、ツールバーの (File Filter (ファイルフィルタ)) ドロップダウンリストから (Advanced Filter (高度なフィルタ)) を選択します。[Advanced Filter (高度なフィルタ)] ダイアロボッ クスが表示されます。

K Advanced Filter
Use this filter to view versioned files containing revisions that
differ between two promotion groups.
Filter by: Two Promotion Groups
First promotion group:
Second promotion group:
Show files if they differ by:
 Revision number (fast)
Modification time (fast)
C Modification time OR Revision contents (medium)
C Revision contents (slow)
Show files not matched by this filter
OK Cancel Help

- 2 〈Filter by (フィルタ)〉リストから〈Two Promotion Groups (2 つのプロモーショングループ)〉オプションを選択します。
- **3** フィルタ処理するプロモーショングループ名を〈First promotion group(1 番目のプロモーショングループ)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。
- 4 フィルタするプロモーショングループ名を〈Second promotion group (2 番目のプロモー ショングループ)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。
- 5 次のいずれかのオプションを選択して、リビジョンの次の内容に相違点があるバージョン管理 ファイルを表示します。
 - 〈Revision number (リビジョン番号)〉。
 - 〈Modification time (変更時刻)〉。
 - 〈Modification time OR Revision contents (変更時刻またはリビジョン内容)〉:最初にリビジョンの変更時刻を比較します。変更時刻に相違点がない場合、リビジョン内容を比較します。同じ変更時刻を持つリビジョンが多数ある場合、このオプションは時間がかかります。
 - 〈Revision contents (リビジョン内容)〉: リビジョンの内容を比較します。このオプション は、もっとも長い時間がかかります。
- 6 フィルタの論理を反転するには、(Show files not matched by this filter (このフィルタに合 致しないファイルを表示))チェックボックスを選択します。
- **7** 【OK】をクリックします。
バージョンラベルとプロモーショングループを使用した、相違点に よるフィルタ

このフィルタを使用して、指定したバージョンラベルと指定したプロモーショングループのリビジョンが異なっているバージョン管理ファイルを検索します。

バージョンラベルとプロモーショングループを使用した、相違点フィルタを設定するには

 [View (表示)] - [Filter (フィルタ)] - [Advanced Filter (高度なフィルタ)] を選択する か、ツールバーの〈File Filter (ファイルフィルタ)〉ドロップダウンリストから〈Advanced Filter (高度なフィルタ)〉を選択します。[Advanced Filter (高度なフィルタ)] ダイアログ ボックスが表示されます。

🙀 Advanced Filter 🛛 🔟
Use this filter to view versioned files containing revisions that differ
between a version label and a promotion group.
Filter by: One Label and One Promotion Group
Version label:
Promotion group:
Climb the promotion model hierarchy
Show files if they differ by:
 Revision number (fast)
C Modification time (fast)
C Modification time OR Revision contents (medium)
C Revision contents (slow)
Show files not matched by this filter
OK Cancel Help

- **2** 〈Filter by (フィルタ)〉リストから〈One Label and One Promotion Group (1 つのラベル と 1 つのプロモーショングループ)〉オプションを選択します。
- 3 フィルタ処理するバージョンラベル名を〈Version label (バージョンラベル)〉フィールドに入 力するか、参照して選択します。



注 バージョンラベルでは、大文字小文字が区別されます。大文字小文字を正確に入力してください。

- **4** フィルタ処理するプロモーショングループ名を〈Promotion group (プロモーショングループ)〉フィールドに入力するか、参照して選択します。
- 5 指定したプロモーショングループが見つからなかった場合、フィルタは、次の上位のプロモー ショングループを検索し、見つかるまで、または最上層レベルのプロモーションモデルに達する

まで、順次プロモーションモデル階層をさかのぼります。この機能を有効にするには、〈Climb the promotion model hierarchy(プロモーションモデルの階層を上げる)〉チェックボックスを選択します。

- 6 次のいずれかのオプションを選択して、リビジョンの次の内容に相違点があるバージョン管理 ファイルを表示します。
 - 〈Revision number (リビジョン番号)〉。
 - 〈Modification time (変更時刻)〉。
 - 〈Modification time OR Revision contents (変更時刻またはリビジョン内容)〉:最初にリビジョンの変更時刻を比較します。変更時刻に相違点がない場合、リビジョン内容を比較します。同じ変更時刻を持つリビジョンが多数ある場合、このオプションは時間がかかります。
 - 〈Revision contents (リビジョン内容)〉: リビジョンの内容を比較します。このオプション は、もっとも長い時間がかかります。
- 7 フィルタの論理を反転するには、〈Show files not matched by this filter (このフィルタに合 致しないファイルを表示)〉チェックボックスを選択します。
- **8** 【OK】をクリックします。

全バージョン管理ファイルの表示(フィルタなし)

フィルタ表示をクリアして、全バージョン管理ファイルを表示するには、[View (表示)] – [Filter (フィルタ)] – [All Files (すべてのファイル)] を選択するか、ツールバーの (File Filter (ファイ ルフィルタ)) ドロップダウンリストから (All Files (すべてのファイル)) を選択します。

プロパティの確認

任意のアイテムのプロパティを Version Manager デスクトップクライアントで確認できます。

アイテムのプロパティを表示するには

1 アイテムを選択します。

2 [File (ファイル)] – [Properties (プロパティ)] 選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。

Properties					×
Project	Workspace Se	ttings G	anted Privileg	es	
Contain	LOGS S:	7 Files, O	Projects		
New Arc	:hive Location:		\archives\DEV\	DIALOGS	
		,			
			ОК	Cancel	Help

[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスの形式および表示されるプロパティは、選択し たアイテムによって異なります。

選択するアイテム	実行できる操作
プロジェクトデータ ベース	含まれるアイテム、コンフィグレーションファイル、アーカイブ の場所、ツールバーコンフィグレーションファイル、ワークス ペース設定、ユーザ権限の表示および変更
プロジェクトまたはサ ブプロジェクト	含まれるアイテム、コンフィグレーションファイル、アーカイブ の場所、ワークスペース設定、ユーザ権限の表示および変更
5.3/6.0 プロジェクト ルート	含まれるアイテム、コンフィグレーションファイル、ツールバー コンフィグレーションファイル、ワークスペース設定の表示およ び変更
5.3/6.0 プロジェクト	含まれるアイテム、コンフィグレーションファイル、ワークス ペース設定の表示および変更
5.3/6.0 フォルダ	含まれるアイテム、作業ファイルの場所の表示および変更
バージョン管理ファイル	アーカイブ情報の表示、コメントまたは作業ファイルの場所の変 更。リビジョンに関連付けられたバージョンラベル、プロモー ショングループ、ブランチの表示。
リビジョン	リビジョン情報の表示、リビジョンコメントの変更。リビジョン に関連付けられたバージョンラベル、プロモーショングループ、 ブランチの表示。
バージョンラベル	リビジョン情報の表示、リビジョンコメントの変更。バージョン ラベル、プロモーショングループ、ブランチの表示。
プロモーショングループ	リビジョン情報の表示、リビジョンコメントの変更。バージョン ラベル、プロモーショングループ、ブランチの表示。



_____ プロジェクトデータベースの操作

プロジェクトデータベースについて	78
プロジェクトデータベースのオープン	79
プロジェクトデータベースのクローズ	80
シナリオ:既存のプロジェクトデータベースを開いてログインする	81

プロジェクトデータベースについて

プロジェクトデータベースはプロジェクト構造の格納場所です。デスクトップクライアントでは、プロジェクトデータベースの下にプロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン管理ファイルが表示されます。各プロジェクトデータベースには、一連のコンフィグレーションオプション、1つ以上のワークスペース、1つのツールバーコンフィグレーションファイルがあり、必要に応じてアクセスコントロールデータベースが追加されます。

デフォルトでは、オペレーティングシステム上のプロジェクトデータベースの場所には、プロジェク トデータベースコンフィグレーションファイル、ユーザデータ用のディレクトリ、作業ファイル、お よびアーカイブがあります。

通常、プロジェクトデータベースは管理者が作成します。ユーザは、プロジェクトデータベースに作業ファイルディレクトリを追加して、バージョン管理ファイルのプロジェクトを作成します。

プロジェクトデータベースの構造や作成方法の詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

新規プロジェクトデータベースについて

Version Manager を最初に起動したときに、〈Create a new project database (新規プロジェク トデータベースを作成する)〉チェックボックスを選択すると、新規プロジェクトデータベースを作 成できます。新規プロジェクトデータベースが作成できない場合は、管理者に問い合わせて、プロ ジェクトデータベース作成の権限が付与されているかを確認してください。この新規プロジェクト データベースをサンプルのプロジェクトデータベースとともに使用すると、Version Manager タス クの練習をしたり、名前を変更して実際の作業ファイルを格納したりすることができます。

デフォルトでは、プロジェクトデータベースはインストールディレクトリの下に作成されます。

- Windows の場合: Program Files¥Serena¥vm¥Newdb
- UNIX の場合:/usr/serena/vm/unix/newdb

新規プロジェクトデータベース用に作成されるディレクトリおよびファイルは、以下のとおりです。

作成されるディレクトリ	内容
アーカイブディレクトリ (¥newdb¥archives)	プロジェクトデータベースにプロジェクトを追加すると、アーカ イブはこのディレクトリに格納されます。このディレクトリに は、新規プロジェクトデータベース用のコンフィグレーション ファイル、およびデフォルトのアクセスコントロールデータベー スも含まれます。
Pvcsuser ディレクトリ (¥newdb¥pvcsuser)	プロジェクトデータベースにユーザが最後に設定したワークスペー スなど、ユーザに関する情報が含まれます。

プロジェクトデータベースの設定についての詳細は、『Serena ChangeMan Version Manager 管 理者ガイド』を参照してください。

プロジェクトデータベースのオープン

バージョン管理下のプロジェクト、サブプロジェクト、またはバージョン管理ファイルにアクセスするには、プロジェクトデータベースを開く必要があります。

プロジェクトデータベースを開くには

 [File (ファイル)] - [Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)]を選択 します。[Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)] ダイアログボックス が表示されます。

	Open Project Dat	abase				×
	Look in:	C:			-	۲
プロジェ クトデータベー スまたはプロ ジェクトルート	 S3Proj ACME Builds DATA DDEXP132 DOC FRAMES InetPub msdownld.tmp MstrPrjc.prj NOVELL plugins Program Files Folder name: 	CA	OK	Cancel	Help	

2 開くプロジェクトデータベースの場所を参照します。プロジェクトデータベースおよび 5.3/6.0 プロジェクトルートは、〔Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)〕ダイ アログボックスに Serena 地球儀のついたフォルダ () で表示されます。



注 5.3/6.0 プロジェクトルートの場合は、この場所は、Version Manager 5.3/6.0 デスク トップクライアントの [Options (オプション)] – [Data File Locations (データファイルロ ケーション)] で入力した場所です。ここには Pvcsproj.pub ファイルが含まれています。

プロジェクトデータベースディレクトリには、少なくとも、pvcsuser ディレクトリ、および Version Manager プロジェクトデータベースファイル(pvcsid.ser、pvcsroot.old および pvcsroot.ser)が含まれています。通常、デフォルトが変更されないかぎり、プロジェクトデー タベースには、アーカイブディレクトリおよび作業ディレクトリが含まれます。



注 〈Look in (検索先)〉リストボックスで〈File Servers (ファイルサーバ)〉を選択して、 Version Manager のファイルサーバ上で使用できるプロジェクトデータベースの一覧を表示し ます。

3 【OK】をクリックします。選択したプロジェクトデータベースがプロジェクト表示部に表示され ます。

プロジェクトデータベースへのログイン

管理者がユーザ名とパスワードを入力するように設定した場合は、〔Project Database Login(プロ ジェクトデータベースログイン)〕ダイアログボックスが表示されます。通常、ユーザ名とパスワー ドは、管理者によって割り当てられます。

Project Datab	oase Login			2	×
User Name:					1
Password:					
Project Data	ibase Inform	ation-			
Location:	C:VACME				
	OK		Cancel	Help	

プロジェクトデータベースにログインするには

- **1** 〈User Name (ユーザ名)〉フィールドにユーザ ID を入力します。
- **2** 〈Password (パスワード)〉フィールドにパスワードを入力します。
- **3** 【OK】をクリックします。プロジェクトデータベースがプロジェクト表示部に表示されます。



注 プロジェクトデータベースにログインできない場合は、管理者に問い合わせて、ユーザ ID およびパスワードを確認してください。

プロジェクトデータベースのクローズ

プロジェクトデータベースは、ユーザが閉じるまでは、プロジェクト表示部に表示されます。

プロジェクトデータベースを閉じるには

- **1** 閉じるプロジェクトデータベースを選択します。
- [File (ファイル)] [Close Project Database (プロジェクトデータベースを閉じる)] を選択します。

シナリオ:既存のプロジェクトデータベースを開いてログインする



Version Manager を使用する準備として、システム管理者の井上さんは、Version Manager をインストールするネットワークロケーションおよび Games プロジェクトデータベースのネットワークロケーションを阿部さんに伝えました。Version Manager は h:¥vm に、プロジェクトデータベースは h:¥vm¥games に格納されています。阿部さんは Version Manager を自分のワークステーションにインストールし、[スタート] メニューから [Serena] – [ChangeMan Version Manager] – [Version Manager] を選択します。

阿部さんは Games プロジェクトデータベースの場所を参照し、それを開こうとしています。管理者 がプロジェクトデータベースへアクセスするときにパスワードを入力するよう設定しているため、阿 部さんは井上さんから教えられたユーザ名、SAbe とパスワード、PrjLead を入力する必要がありま す(ユーザ識別プロセスの詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイ ド』の『ログインソース』のセクションを参照してください)。ユーザ名とパスワードを入力すると、 Games プロジェクトデータベースが開かれ、プロジェクト表示部に表示されます。

Games プロジェクトデータベースには、プロジェクトもバージョン管理ファイルもまだ存在してい ません。次のシナリオで、阿部さんは 4 つのプロジェクトをデータベースに配置します。ただし、 すでに定義されているプロジェクトデータベースには、以下の特性があります。

- コンフィグレーション設定: Version Manager 機能のデフォルト設定が指定されています。 Version Manager が全ユーザに対して同様に機能するよう、また、不注意でデータを壊してし まうことがないよう、井上さんは、Games プロジェクトデータベースとそのプロジェクトだけ でなく、全プロジェクトデータベースを管理するマスターコンフィグレーションファイルを埋め 込んでいます。マスターコンフィグレーションファイルで、井上さんはグローバルオプションを 定義して、どのプロジェクトデータベースまたはプロジェクトに対してもほかの人がオプション をリセットできないように設定しました。たとえば、井上さんのマスターコンフィグレーション ファイルは、全プロジェクトデータベースが以下のタスクを首尾一貫して実行するよう設定され ています。
 - ファイルをチェックインしたときにアーカイブを作成する
 - ユーザを Netware ID、Host ID、および〔Login(ログイン)〕ダイアログボックスで識別 する
 - アクセスコントロールデータベースを、h:\vm に格納する
 - 多重ロックを許可する
 - 共通のネットワークディレクトリにセマフォファイルを格納する
 - 同一のプロモーションモデルを使用する
 - 全アーカイブファイルに -arc という拡張子を使用する

ユーザは、これらの特性に関する設定は変更できませんが、適切な権限を持っている場合は、そのほかのコンフィグレーションオプションを変更することができます。詳細については、 『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

- ワークスペースの特性:プロジェクトデータベースの作業設定が指定されています。ワークスペースには以下の設定が格納されています。
 - デフォルトの作業ファイルの場所:プロジェクトデータベースに含まれるプロジェクト、サ ブプロジェクトおよびバージョン管理ファイルのデフォルトの作業ファイルの場所。デフォ ルトの作業ファイルの場所は、リビジョンのチェックアウト先および作業ファイルのチェッ クイン元であるディレクトリです。阿部さんがプロジェクトを追加すると、作業ファイルの 場所は、自分で変更しないかぎり、井上さんによってデータベースに指定された作業ファイ ルの場所に関連付けられます。たとえば、Games プロジェクトデータベースのデフォルト 作業ファイルの場所は h:\vm\games\work です。阿部さんが最初のプロジェクトである Chess を追加すると、作業ファイルの場所は h:\vm\games\work\chess となります。次の シナリオでは、阿部さんとチームが、もっと開発を効率的に行うために、作業ファイルの場 所を変更する方法を説明します。

- デフォルトリビジョン:ユーザが明示的に特定のリビジョンを選択せずにアクションを実行したときに、アクションの対象となるリビジョン。たとえば、管理者は、アクションの対象として特定のバージョンラベルを指定できます。井上さんは最新のリビジョン(チップリビジョン)をデフォルトリビジョンとして定義しました。Games 開発者が特定のリビジョンを指定しないでファイルをチェックアウトした場合は、自動的にファイルの最新バージョンがチェックアウトされます。
- 自動ブランチおよびマージのオプション設定:ブランチおよびマージについては、この後の シナリオで説明しています。ブランチを自動化する方法およびマージタスクの詳細について は、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。
- セキュリティ定義:アクセスコントロールデータベースに格納されるセキュリティ定義は、 Games プロジェクトデータベースで認証されているユーザ、およびそれらのユーザが実行でき るアクションを識別します。すでに阿部さんは、全開発者、それぞれの役割、割り当てられたプ ロジェクトについての詳細なリストを井上さんに渡してあります。井上さんは、その情報を使っ てユーザを追加し、各ユーザに応じた権限を与えます。アクセスコントロールデータベースの設 定の詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してく ださい。
- カスタムツールバー:頻繁に使用するアプリケーションやタスクへのショートカットを提供する オプションです。管理者は、別々にカスタマイズしたツールバーを各プロジェクトデータベース に関連付けることができます。井上さんは、Games プロジェクトデータベースには、まだどの カスタム設定も定義していません。詳細については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。



Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルー トの操作

5.3/6.0 プロジェクトルートについて	84
- 5.3/6.0 プロジェクトルートのオープン	85
- 5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー	86
	86
シナリオ: Version Manager で 5.3/6.0 プロジェクトルートを開く	87

5.3/6.0 プロジェクトルートについて

5.3/6.0 フォーマッ 5.3/6.0 Version Manager プロジェクトで作業する場合は、それを Version Manager プロジェクトと新しいフォー トの新しいフォーマットにアップグレードするか、既存の 5.3/6.0 フォーマットのままにしておく マット かを決める必要があります。

5.3/6.0 プロジェクトルートをアップグレードする前に、『Serena ChangeMan Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』をお読みください。

外観の違い 5.3/6.0 プロジェクトルートは、新しいプロジェクトフォーマットにアップグレードすることなく、 Version Manager デスクトップクライアントで開いて、そのプロジェクトおよびバージョン管理 ファイルを操作できます。5.3/6.0 プロジェクトルートを開くと、以下に示すように、新しいプロ ジェクトデータベースとは少し異なって表示されます。



表示の違いには以下のものがあります。

- 5.3/6.0 プロジェクトルートは、名前ではなく、プロジェクトパスによって表示されます。
- 5.3/6.0 プロジェクトルートには、プロジェクトデータベースでは使用されないマスタープロジェクトが含まれています。
- デスクトップクライアントで簡単に区別できるように、5.3/6.0 プロジェクトルート内のプロジェクトおよびフォルダは、青色で表示されます。プロジェクトデータベース内のプロジェクトおよびサブプロジェクトは、黄色で表示されます。

5.3/6.0 プロジェクトルートのオープン

5.3/6.0 プロジェクトを新しいデスクトップクライアントで開くと、5.3/6.0 プロジェクトルートで 作業をするときに使用できる機能のサブセットのみを使用できます。これらの機能制限は、5.3/6.0 プロジェクトルートとの互換性を保つためのものです。

Version Manager の新機能をすべて使用するには、5.3/6.0 プロジェクトルートを新しいプロジェ クトデータベースにコピーする必要があります。詳細は、『Serena ChangeMan Version Manager 入門ガイド』の『Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートの作業』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクトルートを開くには

 [File (ファイル)] - [Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)]を選択 します。[Open Project Database (プロジェクトデータベースを開く)] ダイアログボックス が表示されます。

	Open Project Dat	tabase				×
	Look in:	C:			•	۲
プロジェクト データベースま たはプロジェク トルート	 53Proj ACME Builds DATA DDEXP132 DOC FRAMES InetPub msdownld.tmp MstrPric.prj NOVELL plugins Program Files Folder name:) CA	04	Cancel	Hein	
				Jancer	Therp	

- 2 ダイアログボックスで、開くプロジェクトルートの場所を探します。プロジェクトルートおよび プロジェクトデータベースは、〔Open Project Database(プロジェクトデータベースを開く)〕 ダイアログボックスに Serena 地球儀のついたフォルダ() で表示されます。
- 注 プロジェクトルートの場所は、5.3/6.0 プロジェクトのデータファイルの場所と同じです。

3 開く 5.3/6.0 プロジェクトルートを選択し、【OK】をクリックします。選択した 5.3/6.0 プロ ジェクトルートがプロジェクト表示部に表示されます。



4 5.3/6.0 プロジェクトルートに関連するプロジェクトおよびフォルダを表示するには、5.3/6.0 プロジェクトルートをダブルクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー

5.3/6.0 プロジェクトルートは、Version Manager データベースにコピーできます。5.3/6.0 プロ ジェクトルートのコピーの詳細は、56 ページの『5.3/6.0 プロジェクトルートのコピー』を参照し てください。

5.3/6.0 プロジェクトルートのクローズ

Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトルートは、ユーザが閉じるまでは、プロジェクト表示部に 表示されています。

5.3/6.0 プロジェクトルートを閉じるには

- **1** 閉じる 5.3/6.0 プロジェクトルートを選択します。
- [File (ファイル)] [Close Project Database (プロジェクトデータベースを閉じる)] を選択します。

シナリオ: Version Manager で 5.3/6.0 プロジェクトルートを 開く



阿部さんは Games プロジェクトデータベースに 4 つのプロジェクトを追加する準備を整えました。 Version Manager へのスムーズな移行を促進するために阿部さんが望んでいることは、Version Manager プロジェクトデータベースの構造を、現在まで開発者たちが作業をしてきた階層と同一に することです。既存のファイルは、4 つの主なネットワークディレクトリの下にグループ化されてい ます。

Chess	Bridge	Checkers	Solitaire
K:¥chess ¥client ¥board ¥images ¥server ¥library	K:¥bridge ¥hlp ¥res	K:¥checkers ¥client ¥board ¥images ¥server ¥library	K:¥solitaire ¥lib ¥source ¥¥include ¥resource

Chess および Bridge の両プロジェクトは、現在、Version Manager 5.3/6.0 のバージョン管理下 にあります。阿部さんは Bridge プロジェクトを、Version Manager の新機能を使用できるように アップグレードしたいと考えています。しかし、管理者は、Bridge ゲームの前リリースを反映でき るように、元の 5.3/6.0 プロジェクトを保存しておきたいと思っています。阿部さんは、井上さん に、Bridge プロジェクトを新規プロジェクトとして新バージョンの環境に移動することを告げまし た。阿部さんがアップグレードを行う前に、元のプロジェクトをベースラインとして保存しておくた めに、井上さんは Bridge プロジェクトを 5.3 Version Manager 環境でロックしました。その後、 阿部さんは、Bridge プロジェクトを Version Manager で開きました。そして Bridge プロジェク トを選択し、〈Copy Project(プロジェクトのコピー〉〉オプションを選択した後、以下のオプショ ンを選択しました。

- プロジェクトのコピー先として Games プロジェクトデータベースを選択しました。
- アーカイブのコピーを、メインの Game ディレクトリ下の新規ディレクトリに配置するため、
 〈Copy Archives to Project Location (プロジェクトの場所にアーカイブをコピー)〉オプションを選択しました。
- Bridge プロジェクトの新規バージョンの起点を入力するために、〈Keep Specified Revision and Discard Change History(指定したリビジョンを保持し、履歴を破棄)〉オプションを選 択しました。そして、Bridge アプリケーションの新規バージョンの起点を定義するバージョン ラベルとして、Bridge-1.0 と入力しました。Version Manager は、このバージョンラベルに 関連するリビジョンより前のリビジョンはどれもコピーしません。
- Bridge プロジェクトで Game プロジェクトデータベースで定義されたコンフィグレーションオ プションが継承されるように、〈Use an Existing Configuration File (既存のコンフィグレー ションファイルを使用)〉オプションを選択しました。
- Bridge プロジェクトで Game プロジェクトデータベースで定義されたセキュリティオプション が継承されるように、(Use an Existing Access Control Database (既存のアクセスコント ロールデータベースを使用))オプションを選択しました。

阿部さんは【Finish (終了)】をクリックしました。これで、プロジェクトは新しいプロジェクトとして表示されます。

阿部さんは、開発者が新しい Version Manager インターフェイス経由で Chess プロジェクトにア クセスできることを期待していましたが、このプロジェクトを新しい Games プロジェクトデータ ベースにアップグレードするつもりはありませんでした。Chess チームの中にはほかのメンバーと は離れて作業をしているメンバーもいます。これらの開発者は、Version Manager へのインター フェイスであるブラウザベースの Version Manager Web クライアントを使用してバージョン管理 ファイルにアクセスします。この場合、Web クライアント経由ではプロジェクトルートにはアクセ スできません。阿部さんは、Version Manager について 5.3 と新バージョンの 2 つのバージョン をサポートする考えはなく、また、開発者が 1 つの製品について 2 つのバージョンにアクセスを余 儀なくされることも望んでいません。したがって、阿部さんは Chess 開発者に対して、新しいプロ ジェクトフォーマットにアップグレードせずに、新しいインターフェイスを使用してファイルにアク セスするよう要請しました。この結果、リモートの開発者は引き続き Version Manager Web クラ イアントを使用してファイルにアクセスすることになります。

これで阿部さんは新しい Version Manager プロジェクトを作成する準備が整いました。



作業ファイルの追加

作業ファイルの追加について	90
アーカイブのインポート	98
シナリオ:既存の作業ファイル構造を模倣したプロジェクトを作成する	103

作業ファイルの追加について

作業ファイルを追加 プロジェクトデータベース、プロジェクト、サブプロジェクト、およびバージョン 5.3/6.0 のプロ するタイミング ジェクトまたはフォルダを作成する必要があるときは、いつでも作業ファイルを追加できます。

プロジェクトデータベース / プロジェクトへの作業ファイルの 追加

作業ファイルの追加では、個々のファイル、1 つのディレクトリ、またはディレクトリツリー全体 を、プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトに追加することができま す。作業ファイルを追加すると、Version manager により、以下が自動的に実行されます。

- ディレクトリ(ディレクトリを追加した場合)と同名のプロジェクトの作成、およびそのディレクトリ内のファイルのそのプロジェクトへの追加
- ディレクトリ内の追加された各作業ファイルのアーカイブの作成、およびその最初のリビジョンのチェックイン
- 新規作成されたアーカイブを参照するバージョン管理ファイルの作成
- サブディレクトリ(サブディレクトリのあるディレクトリを追加した場合)と同名のサブプロジェクトの作成、およびそのサブディレクトリ内のファイルのそのサブプロジェクトの追加(設定により、さらに下位のサブディレクトリについて、同様の動作を実行させることができます)
- Issue の関連付け TrackerLink または SourceBridge をインストールしている場合は、〔Add Workfiles (作業ファイ ルの追加)〕ダイアログボックスで【Associate Issues (Issue の関連付け)】ボタンをクリックして、Issue をバージョン管理ファイルに関連付けることができます。



注 Version Manager で、作業ファイルを追加するときに Issue との関連付けを要求するよう設定 した場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。



注 Version Manager デスクトップクライアントが次に起動されたときに使用される、Issue 管理の統合を設定できます。現在開いているクライアントセッションには影響しません。

- Serena Issue 管理の統合ユーティリティを起動します(Windows [スタート] メニューの Serena フォルダから、[ChangeMan Version Manager] - [Issue Management Integration (Issue 管理の統合)]を選択します)。
- **2** 〈TeamTrack SourceBridge〉または〈Tracker TrackerLink〉を選択します。
- **3** 【OK】または【Launch Version Manager (Version Manager の起動)】ボタンをクリックします。

プロジェクトデータベース / プロジェクトに作業ファイルを追加するには

- 作業ファイルを追加するプロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトを 選択します。
- [File (ファイル)] [Add Workfiles (作業ファイルの追加)]を選択します。[Add Workfiles (作業ファイルの追加)]ダイアログボックスが表示されます。

Add Workfiles to hlp	×
General Advanced	
Add Workfiles From:	D:\Program Files\PVCS\VM\SampleDb\work\bridge\hlp*.*
Description:	A
	Use description for all
If Versioned File Exists:	Skip and Show Warning 💌
After Check In:	Keep read-only workfile
Lowest-level promotion group:	[Default Promotion Group]
	Don't check in workfile
	OK Cancel Help

- **3** 〔General (全般)〕タブで、以下の操作を行います。
 - a 〈Add Workfiles From (追加される作業ファイルの場所)〉フィールドに追加する作業ファ イルのある場所を入力するか、【Browse (...)】をクリックしてその場所を選択します。

E)

注 ワイルドカードを含むパス(例:c:¥files¥*.cpp など。ただし、*および *.*を除く)を 指定すると、このワイルドカードに該当するファイルが、それらが含まれているディレクト リに該当するプロジェクトが作成されずに追加されます。ただし、サブディレクトリも追加 される場合、対応するサブプロジェクトが作成され、ワイルドカードに一致するファイルの みが追加されます。

- b 手順 a でディレクトリが選択されており、選択したディレクトリのサブディレクトリに含まれるファイルもすべて追加する場合は、〈Include workfiles in subdirectories(サブディレクトリの作業ファイルも含む〉〉チェックボックスを選択します。
- c 〈Description (説明)〉フィールドに、追加する作業ファイルの説明を入力します。この フィールドには必ず入力しなければなりません。ここに説明を入力するまでは、【OK】ボタ ンは無効です。

初めてファイルを追加している場合は、入力したテキストがアーカイブの説明となり、「最初のリビジョン」というテキストが、リビジョンの説明として自動的にリビジョン表示部に入力されます。アーカイブの説明は、バージョン管理ファイルを選択して、[File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)]を選択すると、画面に表示されます。

これは、ファイルをチェックインするときと異なります。ファイルをチェックインするとき は、〈Description(説明)〉フィールドに入力されたテキストがリビジョンの説明としてリ ビジョン表示部に表示されます。

d (複数作業ファイルの追加の場合のみ)追加する作業ファイルごとに Version Manager から 固有の説明をプロンプトさせる場合は、(Use change description for all (このコメントを すべてのファイルに適用)) チェックボックスの選択を解除します。解除しないと、同じ説明 がすべてのファイル使用されます。

- e 〈If Versioned File Exists (バージョン管理ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、プロジェクト内に同じ名前のバージョン管理ファイルが存在している場合の動作を選択します。
 - 〈Skip (上書きしない)〉を選択すると、プロジェクト内に存在する同名のバージョン管 理ファイルが上書きされず、警告も表示されません。
 - 〈Skip and Show Warning (上書きせずに警告を表示)〉を選択すると、プロジェクト内 に存在する同名のバージョン管理ファイルが上書きされず、プロジェクト内に同名のファ イルが存在していることを告げる警告が表示されます。これがデフォルトの設定です。
- f 〈After Check In (チェックイン後の作業ファイル)〉ドロップダウンリストで、変更後の作 業ファイルがチェックインされた後の動作を選択します。
 - 〈Keep read-only workfile (読み取り専用で残す)〉を選択すると、作業ファイルの場所 に読み取り専用の作業ファイルが保持されます。これがデフォルトの設定です。
 - 〈Keep revision locked (チェックアウト状態を保持)〉を選択すると、チェックイン後の新しいリビジョンがロックされます。
 - 〈Delete workfile (削除する)〉を選択すると、チェックイン後に、作業ファイルの場所 から作業ファイルが削除されます。
- **g** (プロモーションモデルが有効な場合のみ)〈Lowest-level promotion group(プロモー ショングループ)〉ドロップダウンリストで、以下のいずれかを選択します。
 - 追加する作業ファイルと関連付ける最下位のプロモーショングループを選択します。
 - リビジョンとプロモーショングループを関連付けない場合は、(None (なし))を選択します。

デフォルトは〈Default Promotion Group(デフォルトプロモーショングループ)〉で、これは、この動作に使用される最下位のプロモーショングループを定義するワークスペースの設定です。このワークスペースの設定が定義されておらず、ここで設定しなかった場合は、 リビジョンにはプロモーショングループが関連付けられません。

- h (Superuser または Unlimited の権限を持っているユーザのみ)作業ファイルを追加する が、バージョン管理の最初のリビジョンはチェックインしない場合は、(Don't check in workfile (チェックインしない))チェックボックスを選択します。
- i (Serena TrackerLink または SourceBridge ユーザのみ) 追加する作業ファイルを Issue と関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】ボタンをクリックします。 [Association (関連付け)] ダイアログボックスが開きます。



注 作業ファイルの追加時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、 TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。 **4** 作業ファイルをチェックインする場合は、必要に応じて、〔Advanced (詳細)〕タブで以下の操作を行うことができます。

Add Workfiles to hlp				×
General Advanced				
Version Label:				
	Float label with tip			
Set Workfile Location:	Use project's workfile location			
	O Use workfile's current location			
		0K	Cancel	Help

- 〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドに、チェックインするリビジョンのバージョ ンラベルを入力します。または、【Browse(…)】ボタンをクリックして、バージョン管理ファイ ルに割り当てられている既存のバージョンラベルを選択します。バージョンラベルでは、大文字 と小文字が区別されます。
- バージョンラベルをつねに最新のリビジョンに割り当てておくには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
- 追加する作業ファイルの場所を設定するには、以下のオプションを設定します(これらのオプションは、[General(全般)]タブで〈Don't check in workfile(チェックインしない)〉 チェックボックスが選択されている場合は無効です)。
 - ファイルを現在の場所からプロジェクトの作業ファイルの場所にコピーするには、〈Use projects workfile location and copy workfile(s) into it (プロジェクトの作業ファイルの場所にコピー)〉オプションを選択します。プロジェクトの作業ファイルの場所が、作業ファイルの場所として使用されます。

このオプションを選択すると、作業ファイルの場所に同名の作業ファイルがあった場合の 動作(〈Skip(上書きしない)〉または〈Overwrite(上書きする)〉)を選択することがで きます。



注 このオプションは、作業ファイルの場所以外から作業ファイルを追加している場合にの み設定可能です。作業ファイルの場所にある作業ファイルを追加している場合は、ラジオボ タンの設定を変更することはできず、このラジオボタン名が〈Use project's workfile location(プロジェクトの作業ファイルの場所を使用)〉となります。

- 作業ファイルの現在の場所を、作業ファイルの場所として使用するには、〈Use workfile's current location (既存の作業ファイルの場所を使用)〉オプションを選択します。
- **5** 【OK】をクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトへの作業ファイルの追加

作業ファイルをバージョン 5.3/6.0 のプロジェクトまたはフォルダに追加することができます。ただし、5.3/6.0 プロジェクトルートに追加することはできません。個々の作業ファイルを追加することもできますし、ディレクトリごと追加することもできます。ディレクトリごと追加する場合は、そのディレクトリの直下にある作業ファイルのみが追加され、サブディレクトリにある作業ファイルは追加されません。また、プロジェクトやフォルダも自動的には作成されません。

5.3/6.0 プロジェクトには、同じ名前のファイルを複数追加することはできません。ただし、 Version Manager 5.3/6.0 デスクトップクライアントを使用して、別のアーカイブと作業ファイル の場所を定義して複数の同名のファイルを追加した場合は、新しい Version Manager デスクトップ クライアントでもそのまま使用することができます。

作業ファイルを追加すると、以下のものが自動的に作成されます。

- 指定されたアーカイブディレクトリ内に、追加した作業ファイルごとのアーカイブ(最初のリビジョンがチェックインされます)
- 新規アーカイブを参照するバージョン管理ファイル

作業ファイルの格納先の選択

5.3/6.0 デスクトップクライアントで作業ファイルをフォルダの中に表示するには、それらを手動で プロジェクトフォルダにコピーする必要があります。それには、作業ファイルをプロジェクトに追加 した後、[Folder (フォルダ)] - [Change Folder Member (メンバの変更)]を選択します。

この後は、作業ファイルを 5.3/6.0 プロジェクトに直接追加したり、バージョン管理ファイルを 5.3/6.0 フォルダにコピーすることができますし、さらに、作業ファイルを 5.3/6.0 フォルダに直 接追加することができます。作業ファイルを 5.3/6.0 フォルダに追加した場合は、Version Manager はフォルダ内にバージョン管理ファイルを作成し、それを自動的に 5.3/6.0 プロジェクト にコピーします。ですから、プロジェクトおよびフォルダレベルの両方からアーカイブにアクセスで きます。

5.3/6.0 プロジェク トルート	🌍 My Project Databases	
		5.3/6.0 プロジェクト(青)
	BUILDS	―― 5.3/6.0 プロジェクト(青)
	DIALOGS	
	GRAPHICS	
	SCREENS	
	🗄 🛅 Master Project	

5.3/6.0 フォルダに作業ファイルを追加すると、自動的に 5.3/6.0 プロジェクトに追加されます。

5.3/6.0 プロジェ Version Manager 5.3/6.0 プロジェクトは、1 つの作業ファイルの場所のみをサポートします。既 クト作業ファイル 存の作業ファイルを、現在のワークスペースに設定した作業ファイルの場所にコピーするのではな の場所 く、5.3/6.0 プロジェクトの作業ファイルの場所に格納する場合は、以下の点に注意してください。

> 追加する作業ファイルが、5.3/6.0 デスクトップクライアントで指定されている 5.3/6.0 プロジェクトの作業ディレクトリにあることを確認します([Project (プロジェクト)] – [Configure Project (詳細設定)] – [Project Options (プロジェクトオプション)])。

現在のワークスペースの作業ファイルの場所が、5.3/6.0 プロジェクトの作業ディレクトリに設定されていることを確認します。現在のワークスペースの作業ファイルの場所の設定についての詳細は、111 ページの『ワークスペースの操作』を参照してください。

5.3/6.0 プロジェクト作業ディレクトリと現在のワークスペースの作業ファイルの場所が同期しない 場合は、作業ファイルを、現在のワークスペースに設定されている作業ファイルの場所にコピーしな ければなりません。

5.3/6.0 フォルダ作 5.3/6.0 フォルダは複数の作業ファイルの場所を持つことができるため、作業ファイルを追加すると 業ファイルの場所 きに、既存の作業ファイルの場所を使用するか、または現在のワークスペースに設定した作業ファイ ルの場所を使用するかを選択します。

アーカイブディレクトリの選択

5.3/6.0 プロジェクトに作業ファイルを追加するときには、アーカイブディレクトリを選択するよう 求められます。5.3/6.0 プロジェクトでは、アーカイブディレクトリは、作業ファイルの階層に基づ いて自動的に作成されるわけではありません。アーカイブディレクトリがない場合は、5.3/6.0 デス クトップクライアントを使って追加する必要があります。

5.3/6.0 プロジェクトに作業ファイルを追加するには

- 1 作業ファイルを追加する 5.3/6.0 プロジェクトまたはフォルダを選択します。
- [File (ファイル)] [Add Workfiles (作業ファイルの追加)]を選択します。[Add Workfiles (作業ファイルの追加)]ダイアログボックスが表示されます。

Add Workfiles to 51DLRINT		X
General Advanced		
Add Workfiles From:	Z\doc\Tr\5.1\ENGLISH\Delivery\Intrface*.*	
Archive Location:	YtarchivestdoctTr/5.11EnglishDelivery YtarchivestdoctTr/5.11EnglishDeliveryIntrface YtarchivestdoctTr/5.11EnglishDeliveryIntrfacetFiles YtarchivestdoctTr/5.11EnglishDeliveryIntrfacetGraphics	
Description:	Use description for all	
If Versioned File Exists: After Check In:	Skip and Show Warning 💌 Keep read-only workfile 💌	
	Don't check in workfile Associate SCRs.	.
	OK Cancel Help	



注 このプロジェクトには、プロモーションモデルが定義されていないため、この図には 〈Lowest-level promotion group (プロモーショングループ)〉フィールドが表示されていま せん。このフィールドについては、手順3のgを参照してください。

- 3 〔General (全般)〕タブで、以下の操作を行います。
 - a 〈Add Workfiles From (追加される作業ファイルの場所)〉フィールドに追加する作業ファ イルの場所を入力するか、【...】をクリックしてその場所を選択します。
 - **b** 〈Archive Location (アーカイブの場所)〉フィールドに、コンフィグレーションファイルで 指定されたアーカイブディレクトリ内のアーカイブを作成する場所を選択します。
 - c 〈Description (コメント)〉フィールドに、追加する作業ファイルの説明を入力します。このフィールドは必ず入力しなければなりません。ここに説明を入力するまでは、【OK】ボタンは無効です。
 - d (複数作業ファイルの追加の場合のみ)追加する作業ファイルごとに Version Manager から 固有のコメントをプロンプトさせる場合は、〈Use change description for all (このコメン トをすべてのファイルに適用)〉チェックボックスの選択を解除します。解除しないと、同じ コメントがすべてのファイル使用されます。
 - e 〈If Versioned File Exists (バージョン管理ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、プロジェクト内に同じ名前のバージョン管理ファイルが存在している場合の動作を選択します。
 - 〈Skip(上書きしない)〉を選択すると、プロジェクト内に存在する同名のバージョン管理ファイルが上書きされず、警告も表示されません。
 - 〈Skip and Show Warning (上書きせずに警告を表示)〉を選択すると、プロジェクト内に存在する同名のバージョン管理ファイルが上書きされず、プロジェクト内に同名のファイルが存在していることを告げる警告が表示されます。これがデフォルトの設定です。
 - f 〈After Check In (チェックイン後の作業ファイル)〉ドロップダウンリストで、変更後の作 業ファイルがチェックインされた後の動作を選択します。
 - 〈Keep read-only workfile (書き込み禁止で残す)〉を選択すると、作業ファイルの場所 に読み取り専用の作業ファイルが保持されます。これがデフォルトの設定です。
 - 〈Keep revision locked (チェックアウト状態を保持)〉を選択すると、チェックイン後の新しいリビジョンがロックされます。
 - 〈Delete workfile (削除する)〉を選択すると、チェックイン後に、作業ファイルが作業 ファイルの場所から削除されます。
 - **g** (プロモーションモデルが有効な場合のみ)〈Lowest-level promotion group(プロモー ショングループ)〉ドロップダウンリストで、以下のいずれかを選択します。
 - 追加する作業ファイルと関連付ける最下位のプロモーショングループを選択します。
 - リビジョンとプロモーショングループを関連付けない場合は、〈[None]([なし])〉を選択します。

デフォルトでは、〈[Default Promotion Group] ([デフォルトプロモーショングループ])〉 が選択されており、これは、ワークスペースの設定により定義された、この動作に使用され る最下位のプロモーショングループを表します。このワークスペースの設定が定義されてお らず、ここでプロモーショングループを選択しなかった場合は、リビジョンにはプロモー ショングループが関連付けられません。

h (Superuser または Unlimited の権限を持っているユーザのみ)作業ファイルを追加する が、バージョン管理の最初のリビジョンはチェックインしない場合は、〈Don't check in workfile (チェックインしない〉〉チェックボックスを選択します。 i (Serena TrackerLink および SourceBridge を使用する場合のみ) 追加する作業ファイル を Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】をクリックしま す。〔Association (関連付け)〕ダイアログボックスが開きます。



注 作業ファイルの追加時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、 TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。

4 作業ファイルをチェックインする場合は、〔Advanced (詳細)〕タブで、さらに以下の設定を行うことができます。

Add Workfiles to 51DLRIN	IT			×
General Advanced				
Version Label:				
	Float label with tip			
Set Workfile Location:	Ose project's workfile location			
	O Use workfile's current location			
		0K	Cancel	Help

- a 〈Version Label (バージョンラベル)〉フィールドに、チェックインするリビジョンのバー ジョンラベルを入力します。または、【…】をクリックして、バージョン管理ファイルに割り 当てられている既存のバージョンラベルを選択します。バージョンラベルでは、大文字と小 文字が区別されます。
- **b** バージョンラベルをつねに最新のリビジョンに割り当てておくには、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスを選択します。
- c 追加する作業ファイルの場所を設定するには、以下のオプションを設定します。
 - 5.3/6.0 プロジェクトの場合: (Use project's workfile location and copy workfiles into it (プロジェクトの作業ファイルの場所にコピー)) ラジオボタンのみが選択可能な場合は、ファイルのアーカイブが、選択したアーカイブディレクトリにコピーされます。さらに、作業ファイルが、現在のワークスペース用に設定された作業ファイルの場所にコピーされます。

このオプションを選択した場合は、作業ファイルの場所に同名の作業ファイルがすでに存 在する場合の動作(〈Skip(上書きする)〉または〈Overwrite(上書きしない)〉)を選 択する必要があります。デフォルトの設定は〈Overwrite(上書きしない)〉です。



注 このオプションは、作業ファイルの場所以外から作業ファイルを追加している場合にの み設定可能です。作業ファイルの場所にある作業ファイルを追加している場合は、ラジオボ タンの設定を変更することはできず、このラジオボタン名が〈Use project's workfile location(プロジェクトの作業ファイルの場所を使用)〉となります。 〈Use workfile's current location (既存の作業ファイルの場所を使用)〉ラジオボタン のみが選択可能な場合は、ファイルのアーカイブはプロジェクトに追加されますが、作業 ファイルは現在の場所に置かれたままです。

設定可能なオプションの制御については、94 ページの『5.3/6.0 プロジェ クト作業ファ イルの場所』を参照してください。

 フォルダの場合: (Use project's workfile location and copy workfiles into it (プロ ジェクトの作業ファイルの場所にコピー)) ラジオボタンがデフォルトで選択されます。 このラジオボタンが選択できない場合は、選択した作業ファイルがすでに、現在のワーク スペース用に設定された作業ファイルの場所に存在します。

または、〈Use workfile's current location(既存の作業ファイルの場所を使用)〉を選 択することができます。この場合は、ファイルのアーカイブはプロジェクトに追加されま すが、作業ファイルは現在の場所に置かれたままです。

5 【OK】をクリックします。

アーカイブのインポート

アーカイブをインポートすると、既存のアーカイブにアクセスでき、それらをプロジェクトに使用で きます。アーカイブのインポートは、バージョン管理ファイルやプロジェクトのコピーに似ています が、コピーにはない機能を含んでいます。

アーカイブをインポートすると、以下を行うことができます。

- コマンドラインインターフェイスのみの環境で作成されたアーカイブにアクセスできます。デス クトップクライアントおよび Web クライアントでは、アーカイブはプロジェクトおよびバー ジョン管理ファイルに関連付けられている必要があります。コマンドラインでは、プロジェクト もバージョン管理ファイルも作成されず、アーカイブと直接連携して動作します。コマンドライ ンで作成されたアーカイブをデスクトップクライアントにインポートすると、アーカイブがプロ ジェクト(またはプロジェクトデータベース)に関連付けられ、バージョン管理ファイルが作成 されます。このバージョン管理ファイルによって、引き続きコマンドラインインターフェイスは もとより、プロジェクト経由によるデスクトップクライアントおよび Web クライアントから アーカイブにアクセスできるようになります。
- 削除したバージョン管理ファイルを再作成します。誤ってバージョン管理ファイルを削除してしまうと、デスクトップクライアントでは、そのバージョン管理ファイルのアーカイブにはアクセスできません。しかし、バージョン管理ファイルを削除したプロジェクトにアーカイブをインポートして戻すと、バージョン管理ファイルを再作成できます。また、バージョン管理ファイルとアーカイブとのリンクも復旧されます。
- アーカイブディレクトリ内の全アーカイブにアクセスできます。デスクトップクライアントプロジェクトは、必ずしも選択したアーカイブディレクトリ内の全アーカイブを表示しません(ディレクトリに全作業ファイルが追加されるか、またはアーカイブの場所内の全アーカイブがインポートされたものでない場合を除く)。デスクトップクライアントプロジェクトをコピーしたり移動したりすると、デスクトップクライアントウィンドウに表示されないアーカイブは見落とされてしまう可能性があります。アーカイブディレクトリをインポートするよう選択すると、すべてのアーカイブがインポートされます。
- アーカイブが移動したときに、バージョン管理ファイルとそのアーカイブの参照を復旧できます。アーカイブの場所が変更された場合は、アーカイブをインポートして、バージョン管理ファイルとアーカイブのリンクを復旧する必要があります。方法については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクトデータベース、プロジェクトおよびサブプロジェクト へのアーカイブのインポート

プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはサブプロジェクトにアーカイブをインポートする 場合は、個々のファイル、1 つのディレクトリ、またはディレクトリツリー全体をインポートできま す。アーカイブをインポートすると、Version Manager は新規アーカイブを参照するバージョン管 理ファイルを作成します。

プロジェクトデータベース / プロジェクトにアーカイブをインポートするには

- **1** アーカイブをインポートするプロジェクトデータベースまたはプロジェクトを選択します。
- 2 [Admin (管理)] [Import Archives (アーカイブのインポート)]を選択します。[Select Archives (アーカイブの選択)]ダイアログボックスが表示されます。

Select Archive	\$			×
Look in:	DEV			- 🖻 📸
DIALOGS QA REPORTS UTILITIES 10-30.DOC	-arc -arc			
File name:	C:\ACME\archiv	/es\DEV*.*		
		ОК	Cancel	Help

選択表示部に表示されている場所は、選択したプロジェクトまたはプロジェクトデータベースの 現在の作業ファイルの場所です。 3 インポートするアーカイブを選択して、【OK】をクリックします。〔Import Archives(アーカイブのインポート)〕ダイアログボックスが表示されます。

Import Arch	nives into DEV	×
General	Selected Archives	
Sho	ow warning if versioned file already exists	
O Cr	a Docation	
	Show warning if archive already exists	
€ Us	se existing archive location	
🗹 Inclu	ude archives in subdirectories	
	OK Cancel Help	

- 4 次の手順に従います。
 - a デフォルトでは、追加する作業ファイルが指定のプロジェクトの場所にすでに存在する場合 に警告が表示されます。この警告メッセージを表示しないよう設定するには、〈Show warning if versioned file already exists (バージョン管理ファイルがすでに存在する場 合、警告を表示)〉チェックボックスの選択を解除します。
 - b 〈Archive Location (アーカイブの場所)〉グループボックスで、インポートするアーカイブの場所を選択します。デフォルトでは〈Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用)〉が選択されています。この場合は、アーカイブは参照されますが、現在の場所に置かれたままです。

または、〈Copy to project archive location (プロジェクトのアーカイブディレクトリにコ ピー)〉を選択することもできます。これにより、プロジェクトのアーカイブの場所にアーカ イブがコピーされ、この場所が新規アーカイブの場所として使用されます。

デフォルトでは、インポートするアーカイブが指定のアーカイブの場所にすでに存在する場合は、警告が表示されます。この警告メッセージを表示しないよう設定するには、〈Show warning if archive already exists (アーカイブがすでに存在する場合は、警告を表示)〉 チェックボックスの選択を解除します。

- アーカイブのディレクトリを追加する場合は、〈Include archives in subdirectories (サブ プロジェクトのアーカイブも含む)〉チェックボックスを選択します。サブディレクトリにあ るアーカイブも追加する場合にこれを選択します。
- **5** 【OK】をクリックします。

5.3/6.0 プロジェクトへのアーカイブのインポート

5.3/6.0 プロジェクトまたはフォルダにアーカイブをインポートできます。ただし、5.3/6.0 プロ ジェクトルートにインポートすることはできません。個別のアーカイブまたはアーカイブディレクト リを追加できます。アーカイブディレクトリをインポートすると、ディレクトリのルートレベルにあ るアーカイブのみがインポートされ、サブディレクトリにあるアーカイブはインポートされません。 アーカイブをインポートすると、Version Manager は自動的に新規アーカイブを参照するバージョ ン管理ファイルを作成します。

5.3/6.0 プロジェクトにアーカイブをインポートするには

- 1 アーカイブをインポートする 5.3/6.0 プロジェクトまたはフォルダを選択します。
- **2** [Admin (管理)] [Import Archives (アーカイブのインポート)]を選択します。[Select Archives (アーカイブの選択)] ダイアログボックスが表示されます。

Select Archive	s			×
Look in:	DEV			- 🗈 💣
DIALOGS QA REPORTS UTILITIES 10-30.DOC-	arc arc			
File name:	C:\ACME\archiv	es\DEV*.*		
		ОК	Cancel	Help

選択表示部に表示されている場所は、選択したプロジェクトまたはプロジェクトデータベースの 現在の作業ファイルの場所です。 3 インポートするアーカイブを選択して、【OK】をクリックします。[Import Archives (アーカ イブのインポート)] ダイアログボックスが表示されます。

Import Arch	ives into BUILDS		х
General	Selected Archive	s	
🔽 Sho	w warning if versio	ned file already exists	
Archive	Location		
00	opy to project archi	ve location	
A	rchive Location:	C:\DATA\53Proj\Archives C:\DATA\53Proj\Archives\Builds C:\DATA\53Proj\Archives\Dialogs C:\DATA\53Proj\Archives\Graphics	
	🗹 Show warnin	g if archive already exists	
ΟU	se existing archive	location	
		OK Cancel Help	

- 4 次の手順に従います。
 - a デフォルトでは、追加する作業ファイルが指定のプロジェクトの場所にすでに存在する場合 に警告が表示されます。この警告メッセージを表示しないよう設定するには、〈Show warning if versioned file already exists (バージョン管理ファイルがすでに存在する場合 は、警告を表示)〉チェックボックスの選択を解除します。
 - **b** 〈Archive Location (アーカイブの場所)〉グループボックスで、追加するアーカイブの場所 を選択します。
 - 5.3/6.0 プロジェクトの場合: 〈Copy to project archive location (プロジェクトの アーカイブディレクトリにコピー)〉のみが選択可能です。この場合は、アーカイブがプロジェクトのアーカイブの場所にコピーされます。アーカイブの場所を指定するには、 〈Archive Location (アーカイブの場所)〉リストボックスで場所を選択します。

デフォルトでは、インポートするアーカイブが指定のアーカイブの場所にすでに存在する 場合は、警告が表示されます。この警告メッセージを表示しないよう設定するには、 〈Show warning if archive already exists(アーカイブがすでに存在する場合は、警告 を表示)〉チェックボックスの選択を解除します。

- フォルダの場合: (Use existing archive location (既存のアーカイブディレクトリを使用)) がデフォルトで選択されています。この場合、アーカイブは参照されますが、現在の場所に置かれたままです。(Copy to project archive location (プロジェクトのアーカイブディレクトリにコピー)) ラジオボタンを選択することもできます。
- **5** 【OK】をクリックします。

シナリオ:既存の作業ファイル構造を模倣したプロジェクトを作成 する



阿部さんは Checkers と Solitaire という 2 つの新規プロジェクトを作成しなければなりません。こ れらのプロジェクトには作業ファイル構造があり、阿部さんはこの作業ファイル構造にならってプロ ジェクトを構成したいと考えています。

阿部さんは、まず、Games プロジェクトデータベースを選択し、〈Add Workfiles(作業ファイルの 追加)〉オプションを選択します。そして、クライアントおよびサーバのサブディレクトリが含まれ ているプロジェクトディレクトリの最上層である k:¥checkers を参照し、【OK】をクリックしま す。さらに、以下のオプションを設定します。

- 一連の関連ファイルのコメントとして「CheckersMaster 2.0 のオリジナルソースファイル」 と入力しました。この情報は、各ファイルに関連するアーカイブに格納されます。情報を表示す るには、バージョン管理ファイルを選択してプロパティを表示します。
- 作業ファイルを元のプロジェクトファイルと同じディレクトリに格納するために、デフォルトの 〈Use existing workfile location (既存の作業ファイルディレクトリを使用)〉を選択したまま にします。たとえば、メインプロジェクトファイルの作業ファイルの場所は k:\checkers に、 クライアントサブプロジェクトファイルの作業ファイルの場所は k:\checkers\client になり ます。Version Manager は、Games プロジェクトデータベースに設定されたワークスペース 設定の作業ファイルの場所を格納します(後のシナリオでは、阿部さんとプロジェクトチームの メンバーは、個々のプロジェクトおよびユーザのニーズに合った作業ファイルの場所を定義し直 します)。この作業を終えると、Checkers プロジェクトを選択し、〈Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)〉オプションを選択すると、作業ファイルの場所を確認できます。 各サブディレクトリも、同様の手順で確認することができます。
- チェックインのオプションは、デフォルトのままにします。つまり、チェックイン後、作業ファイルはロックされません。
- 〈Include workfiles in subdirectories (サブディレクトリの作業ファイルも含む)〉チェック ボックスが選択されていることを確認します。このオプションが選択されていると、各サブディ レクトリおよびそれらの内容が、Checkers プロジェクトの下に追加されます。Version Manager では、これらのサブディレクトリが、Checkers プロジェクトのサブプロジェクトに 変換されます。

阿部さんは【OK】をクリックして設定を確定します。Version Manager は、以下のタスクを実行します。

- Checkers プロジェクトを Games プロジェクトデータベースに追加します。
- Client サブプロジェクトおよびそのサブプロジェクト(Board と Images)を作成します。
- Server サブプロジェクトおよびその Library サブプロジェクトを作成します。
- checkers ディレクトリおよびそのサブディレクトリの各ソースファイルに対して、バージョン 管理ファイルをプロジェクト構造に追加します。これで、各バージョン管理ファイルは1つの リビジョンを持ちます。
- 各バージョン管理ファイルの最初のリビジョンに、「最初のリビジョン」というデフォルトの最初のコメントを割り当てます。
- 各バージョン管理ファイルにアーカイブを作成します。
- 既存の場所を、Checkers プロジェクトおよびそのサブプロジェクト用の作業ファイルの場所として割り当てます。
- 各アーカイブに「CheckersMaster 2.0 のオリジナルソースファイル」というコメントを割り 当てます。

阿部さんは、上記の手順を Solitaire プロジェクトに対しても行いました。Solitaire プロジェクトを 追加した後、阿部さんはリビジョン表示部を表示して、新規アーカイブファイルの初期リビジョンに ついての基本情報を確認しました。

これで、阿部さんは 4 つのプロジェクトすべてを追加し終わりました。あとは、Images サブプロ ジェクトを Chess プロジェクトと Checkers プロジェクトで共有できるように設定するだけです。 そのためには、Chess から Images サブプロジェクトを選択し、〈Copy Project(プロジェクトの コピー)〉オプションを選択します。Checkers をコピー先プロジェクトとして選択し、デフォルト 設定のままコピーします。これで、Chess プロジェクトと Checkers プロジェクトは、1 つの Images プロジェクトを共有します。Version Manager は、プロジェクトの各ファイルごとに 1 つ のアーカイブおよびバージョン管理ファイルを保持します。プロジェクトのセットアップタスクはこ れで完了です。



プロジェクトの操作

プロジェクトについて	106
	106
	108
プロジェクト名の変更	108
プロジェクトの削除	109
シナリオ:サブプロジェクトを作成して作業ファイルを追加する	109

プロジェクトについて

プロジェクトとは Version Manager プロジェクトは、システムのディレクトリやサブディレクトリに似ています。 Version Manager では、関連するファイルを保管するためにプロジェクトを作成し、システムディ レクトリやサブディレクトリと同様に、階層構造を持たせることができます。つまり、プロジェクト およびサブプロジェクトの下に、サブプロジェクトを作成することができます。

> ディレクトリがシステムドライブ内に置かれるように、すべての Version Manager プロジェクト は、Version Manager プロジェクトデータベース内に置かれます。

	ノロンェクト表示部	ノアイ。	ル表示部
プロジェクト データベース プロジェクト ――― サブプロジェ―― クト	ノロシェクト表示部 My Project Databases B Sample Project Database C Database D Database D Database D Database D D Database D D D D D D D D D	Name ■ bridge.clw ■ bridge.cpp ■ bridge.dsp ■ bridge.dsw	ル表示部 ■ Date Checked In 5/18/98 03:37 PM 5/18/98 05:03 PM 5/18/98 03:37 PM 5/18/98 03:37 PM
	⊞ <mark>`</mark> ⊒ chess	📄 bridge.h	5/18/98 04:48 PM
	tiless	bridge.h	5/18/98 04:48 PM
		📄 bridge.ncb	5/18/98 03:37 PM

プロジェクトを作成 プロジェクトを作成して、ファイルを整理します。すでに作業ファイルが論理的に整理されている場する理由 合は、その構造を反映した Version Manager プロジェクトを作成するとよいでしょう。

また、既存のファイル構造と異なる Version Manager プロジェクトを作成し、プロジェクト環境により適合させることもできます。

プロジェクトの作成

- 始める前に プロジェクトを作成するには、プロジェクトデータベースを開く必要があります。プロジェクトデー タベースへアクセスできない場合は、管理者に連絡してください。
- 既存のファイル 構成されたディレクトリ構造に既存ファイルがある場合は、プロジェクトを作成する必要はありません。ディレクトリおよびファイルをプロジェクトデータベースに追加するだけです。Version Manager は、自動的にプロジェクトを作成します。ディレクトリおよびファイルを、Version Manager に直接追加する方法については、89 ページの『作業ファイルの追加』を参照してください。

プロジェクトを作成するには

1 プロジェクトの格納に使用するプロジェクトデータベースを選択します。

[File (ファイル)] - [Create Project (プロジェクトの作成)]を選択します。[Create Project (プロジェクトの作成)]ダイアログボックスが表示されます。

Create Pro	ect in DEV				×
Name:	Project1				
Workspa	ce Settings -				
Workfile	Location:	C:\ACME\work\DB	EV\Project1		
R	oot Workspa	ace			
AI	oplies to ALL	. USERS unless ov	erridden by anot	her workspace	
			OK	Cancel	Help

- 3 〈Name (名前)〉フィールドで、このプロジェクト固有の名前を指定します。プロジェクトデー タベース内の同じレベルには、同じ名前の複数のプロジェクトを作成することはできません。また、プロジェクト名の先頭または末尾にタブやスペースを使用することはできません。
 - アスタリスク(*)
 - コロン(:)
 - 縦線(|)
 - スラッシュ (/)
 - 疑問符(?)
 - 角かっこ(< >)
 - 波形符号(~)
 - パーセント記号(%)
 - アンパサンド(&)
 - 二重引用符(")
 - 引用符(')
 - コンマ (,)

また、ピリオド 1 個(.) または 2 個(..) のみや、アットマーク 1 字(@) のみのプロジェク ト名は使用できません。

ここで入力するプロジェクト名は、〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉のパスにも反映されます。

4 入力したプロジェクト名が反映された新規作業ファイルの場所が〈Workfile Location(作業 ファイルの場所)〉フィールドに表示されます。別の作業ファイルの場所を指定する場合は、新 しい場所をこのフィールドに入力するか、【Browse(...)】をクリックして選択します。

Ð

注 作業ファイルの場所を選択する場合は、このプロジェクトに対する権限を持ったすべての ユーザがアクセスできるローカルドライブを指定することをお勧めします。こうすると、デ フォルトの作業ファイルの場所に、プロジェクトチームの全メンバーが確実にアクセスするこ とができます。プロジェクトチームのメンバーは、別の作業ファイルの場所を指定したプライ ベートワークスペースを作成して、いつでも作業ファイルの場所を変更することができます。 5 【OK】をクリックします。指定した作業ファイルの場所が存在しない場合は、ディレクトリの作成を確認するメッセージが表示されます。【OK】をクリックすると、新しい作業ファイルの場所が作成されます。

サブプロジェクトの作成

サブプロジェクト(ネストプロジェクトともいいます)は、実質的にはプロジェクトと同じです。ただ、サブプロジェクトは、プロジェクトデータベース内のプロジェクトの下に格納されます。サブプロジェクトを作成する手順は、106ページの『プロジェクトの作成』の手順と同じです。ただし、手順1でプロジェクトデータベースの代わりに、プロジェクトを選択します。

プロジェクト名の変更

プロジェクト名が適切でなくなった場合は、いつでも名前を変更できます。プロジェクト名は、デス クトップクライアント上のみで変更され、オペレーティングシステム上のプロジェクトディレクトリ の名前は変更されません。

プロジェクト名を変更して、プロジェクトの元の作業ファイルの場所が変更されていない場合は、新 規プロジェクト名に一致する新規作業ファイルディレクトリが作成されます。すべてのファイルが、 この新規作業ファイルの場所からチェックインされ、ここにチェックアウトされます。ただし、プロ ジェクトの元の作業ファイルの場所が変更されている場合は、プロジェクト名を変更しても、同じ作 業ファイルの場所が使用されます。

プロジェクトの名前の変更中に、ほかのユーザがバージョン管理ファイルをチェックアウトした場合 は、Version Manager は変更前の作業ファイルの場所を保持します。ファイルがチェックインされ ると、ユーザは変更前の作業ファイルの場所を使用するか、新しい作業ファイルの場所を使用するか を選択するよう求められます。

プロジェクトの名前を変更するには

- 1 名前を変更するプロジェクト(またはサブプロジェクト)を選択します。
- [File (ファイル)] [Rename (ファイル名の変更)]を選択します。[Rename (ファイル名の変更)]ダイアログボックスが表示されます。

Rename			×
Name:	DIALOGS		
Workspa	ice Settings		
Workfile	Location:		
i) R	oot Worksp	ace	
A	pplies to ALL	. USERS unless overridden by another workspace.	
		OK Cancel	Help
- 3 〈Name (名前)〉フィールドに、新しいプロジェクトの名前を入力します。ここで入力する新し いプロジェクト名は、編集不可の〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉パスにも反映さ れます。
- 4 【OK】をクリックします。作業ファイルの場所が存在しない場合は、ディレクトリの作成を確認 するメッセージが表示されます。【OK】をクリックすると、新規作業ファイルの場所が作成され ます。

プロジェクトの削除

プロジェクトが必要でなくなった場合は、いつでも削除できます。プロジェクトを削除すると、プロ ジェクトとそのサブプロジェクトがプロジェクト表示部から削除されます。また、バージョン管理 ファイルがファイル表示部から削除されます。ただし、アーカイブは、アーカイブを削除する権限を 持つユーザが削除するまでは、アーカイブディレクトリに残っています。

プロジェクトを削除するには

- 1 削除するプロジェクト(または、サブプロジェクト)を選択します。
- [File (ファイル)] [Delete (削除)]を選択します。アイテムの削除を確認するメッセージ が表示されます。
- **3** 【Yes (はい)】をクリックすると、プロジェクトは削除されます。



注 削除したプロジェクトは復元できませんが、削除したプロジェクトは再作成できます。再作成するには、新規プロジェクトを作成し、削除したプロジェクトのアーカイブをインポートします。

シナリオ:サブプロジェクトを作成して作業ファイルを追加する



プロジェクトデータベースのセットアップを確認しているときに、阿部さんは、Solitaire プロジェ クトに新しい委託業者によって書かれたコードが足りないことに気付きました。この委託業者による game_rules コードを Solitaire プロジェクトに組み込まなければなりません。

阿部さんは、委託業者の作業を、Rules という別のサブプロジェクトに格納しようと考えました。そ こで阿部さんは、Solitaire プロジェクトを選択し、〈Create Project(プロジェクトの作成)〉オプ ションを選択して、プロジェクトを Rules と名付け、作業ファイルの場所を c:¥work に設定しまし た。また、作業ファイルの場所を変更して、委託業者がファイルをネットワークから自分のローカル ドライブに簡単に移動できるようにしました。現在、委託業者が作業ディレクトリを持っていない場 合は、Version Manager により、最初に委託業者がファイルをチェックアウトしたときに、作業 ディレクトリが作成されます。阿部さんが【OK】を選択すると、新規サブプロジェクトが Solitaire プロジェクトの下に表示されます。阿部さんは〈Add Workfiles(作業ファイルの追加)〉オプショ ンを選択し、game_rules ファイルのあるネットワーク上の場所を探しました。各ファイルを選択し て、【OK】を選択します。これで、ファイルは Solitaire プロジェクトに組み込まれました。



ワークスペースの操作

ワークスペースについて	112
パブリックワークスペースとプライベートワークスペース	113
ルートワークスペースについて	114
ワークスペースの階層	114
ワークスペースの作成	120
	121
ワークスペース設定の変更	122
	124
ワークスペースの削除	125
シナリオ:デフォルトワークスペースに影響を与えずに、カスタムワークスペースを定義する	126
	128

ワークスペースについて

ワークスペースとは ワークスペースは、プロジェクトデータベースと、そこに含まれるすべてのプロジェクトおよびバー ジョン管理ファイルについて定義された作業設定の集合です。複数のワークスペースを作成したり、 複数のワークスペースからアイテムを選択することができますが、プロジェクトデータベースに設定 可能なワークスペースはつねに1つのみです。

ワークスペースには、以下の作業設定が保管されます。

- 作業ファイルの場所:ファイルのチェックイン元およびチェックアウト先となるディレクトリです。作業ファイルの場所は必ず設定しなければならず、プロジェクトデータベースまたはプロジェクトの作成、または作業ファイルの追加を行うときに定義されます。
- デフォルトバージョン:アクションが実行されるリビジョンを定義するバージョンラベルです (ほかのバージョンラベルまたはリビジョン番号が定義されていない場合)。空白の場合は、最新 のリビジョンがデフォルトバージョンになります。
- ベースバージョン:ブランチを開始するリビジョンを示すために割り当てるバージョンラベルです。空白の場合は、自動ブランチは利用できません。
- ブランチバージョン:チップブランチに割り当てるバージョンラベルです。空白の場合は、自動 ブランチは利用できません。
- デフォルトプロモーショングループ:プロモーションモデルが設定されている場合に限ります。
 デフォルトプロモーショングループは、プロモーションモデルの最下位のプロモーショングループです。

デフォルトでは、指定したデフォルトプロモーショングループは、リビジョンのチェックアウト、リビジョンのロックおよび作業ファイルの追加を行うときにリビジョンに割り当てられます。デフォルトプロモーショングループが定義されていると、ユーザは、これらのアクションの際に割り当てるべきプロモーショングループを指定する必要がなくなります。

これらの作業設定にアクセスするには、プロジェクトデータベース、プロジェクトまたはバージョン 管理ファイルを選択し、[File (ファイル)] – [Properties (プロパティ)] – [Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブを選択します。

Properties				×
Project Database	Workspace Settings	Granted P	rivileges	
Workfile Location: Default Version: Branch Version: Base Version:	rogram Files	IPVCSIVMIS	3ampleDb\w	ork
Workspace Inform	nation kspace tings apply to all users c	f the root w	orkspace. Cancel	Help

ワークスペースを使用すると、プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはバージョン管理
 用する理由
 ファイルレベルでの作業設定の設定および変更が簡単にできます。また、プロジェクトの作業設定を
 個別の作業スタイルに合わせて細かく調整することもできます。たとえば、複数のプロジェクトチームのメンバーが、ローカルでプロジェクトファイルを操作する必要がある場合は、各メンバーが、自分のワークステーション用に設定した作業ファイルの場所を持つプライベートワークスペースをセットアップすることができます。また、各プロジェクトに別々のデフォルトバージョン、ベースバージョン、およびブランチバージョンを設定して、別々のブランチ設定をすることもできます。

複数のワークスペースを作成し、選択することはできますが、プロジェクトデータベースで一度に使用できるワークスペースは1つだけです。

作業ファイルの場所 ワークスペースに格納される最も一般的な作業設定は、「作業ファイルの場所」です。作業ファイル の場所は、ファイルのチェックイン元およびチェックアウト先となるディレクトリです。作業ファイ ルの場所は、プロジェクトデータベースを作成したり、プロジェクトを作成したり、ファイルを追加 したときに定義されます。作業ファイルの場所を変更すると、変更は「現在の」ワークスペースに保 存されます。現在のワークスペースは、Version Manager デスクトップクライアントウィンドウの 一番下にあるステータスバーに表示されます。

🐯 Ready 🗹 clyded	F Root Workspace	13 files
	現在のワー	-クスペース

作業ファイルの場所の設定にすばやくアクセスするには、プロジェクトデータベース、プロジェクト またはバージョン管理ファイルを選択し、[File (ファイル)] – [Set Workfile Location (作業 ファイルの場所の設定)]を選択します。

パブリックワークスペースとプライベートワークスペース

ワークスペースには、パブリックワークスペースとプライベートワークスペースの 2 種類があり ます。

パブリックワークスペース:パブリックワークスペースは通常、プロジェクトデータベースが作成されたときに、管理者によって作成されます。プロジェクトリーダーは、プロジェクトのニーズに合わせて、パブリックワークスペースを変更したり、新規のパブリックワークスペースを作成しなくてはならない場合があります。パブリックワークスペースの作業ファイルの場所は通常、プロジェクトチームの全メンバーがアクセスできるネットワークサーバに設定されます。

パブリックワークスペースの設定をどのように変更できるかは、管理者により割り当てられた権限によって異なります。ただし、パブリックワークスペースへの変更は、そのワークスペースを使用してプロジェクトデータベースにアクセスする全ユーザに影響を与えるので、複数のユーザが同じプロジェクトデータベースにアクセスする場合は、パブリックワークスペースとプライベートワークスペースを組み合わせて使用することを強くお奨めします。

プライベートワークスペース:プライベートワークスペースは通常、プロジェクトチームのほかのメンバーに影響を与えることなく、プロジェクト作業設定をカスタマイズすることができるよう、プロジェクトチームの個々のメンバーによって作成されます。プライベートワークスペースは、作成したユーザのみがアクセスすることができます。プライベートワークスペースの作業ファイルの場所は通常、個人のローカルドライブに設定されます。

ルートワークスペースについて

デフォルトのパブ ルートワークスペースは、デフォルトのパブリックワークスペースです。ルートワークスペースは、

リックワークスペ 管理者がプロジェクトデータベースを作成するたびに自動的に作成されます。ルートワークスペース ース を削除したり、ルートワークスペース名を変更することはできません。ルートワークスペースの設定 をどのように変更できるかは、管理者により割り当てられた権限によって異なります。

> ほかのワークスペースを作成または設定していない場合は、ルートワークスペースがアクティブな ワークスペースとなります。

初期状態のルートワークスペースで定義されている設定は、以下の通りです。

- システム管理者によりプロジェクトデータベースに対して設定されている、その作成時の作業 ファイルの場所。
- プロジェクトデータベースに関連付けられているマスターコンフィグレーションファイルにデフォルトリビジョンが定義されている場合は、アクションの対象となるデフォルトリビジョン。
 初期設定は、マスターコンフィグレーションファイルから読み込まれ、デフォルトリビジョンがチップリビジョンとなっています。
- プロジェクトデータベースに関連付けられたマスターコンフィグレーションファイルに、自動ブランチが設定されている場合の自動ブランチ。初期設定は、マスターコンフィグレーションファイルから取得されます。

初期設定で定義されていないのは、デフォルトプロモーショングループです。これは、プロモーショ ングループは、プロモーションモデルが作成されている場合にのみ有効であるためです。デフォルト プロモーショングループは、システム管理者が複数の最下位プロモーショングループを定義している 場合に使用されます。

ワークスペースの階層

ルートワークスペー パブリックかプライベートかにかかわらず、すべてのワークスペースは、ルートワークスペースから スからの枝分かれ 派生します。作成するすべてのワークスペースは、それらの派生元のワークスペースの作業設定を継 承します。ただし、ユーザによる作業設定の変更は、継承した作業設定に優先して使用されます。



たとえば、上に示す階層では、管理者が、DEV、DOC、および QA という異なるパブリックワーク スペースを作成しています。製品のビルド用に、開発チームが別の領域を必要とするため、プロジェ クトリーダーは、Build Area という新規パブリックワークスペースを作成しました。プロジェクト チームのあるメンバーは、ファイルは新しい Build Area からチェックアウトしますが、作業はロー カルで行うため、My DEV Area というプライベートワークスペースを作成しました。

パブリックワークスペースは、ほかのパブリックワークスペースから作成できます。プライベートワークスペースは、パブリックワークスペースからもプライベートワークスペースからも作成できます。だたし、プライベートワークスペースからパブリックワークスペースを作成することはできません。

ワークスペース設定の継承

ワークスペースは継 親のワークスペースと継承したワークスペースは、4 つの設定を共有します。作業ファイルの場所、 承される デフォルトバージョン、ブランチバージョン、およびベースバージョンです。

> 親のワークスペースで、あるワークスペース設定を変更すると、継承したワークスペースでその作業 設定がすでに変更されている場合を除き、継承したワークスペースにも変更が反映されます。継承し たワークスペースの設定を親のワークスペースの設定に戻すには、変更した設定フィールドの値を削 除します。

例1 管理者は、ルートワークスペースに値を割り当てます。プロジェクトリーダーは、ルートワークスペースから DEV TEAM というワークスペースを作成します。プロジェクトチームのメンバーは、 DEV ワークスペースから PERSONAL というワークスペースを作成します。これら3つのワークスペースは、同一の作業設定を持っています。



例2 プロジェクトリーダーは、DEV TEAM ワークスペースの2つのワークスペース設定を変更します。
 PERSONAL ワークスペースは、DEV TEAM ワークスペースから設定を継承しているので、
 PERSONAL ワークスペースの同じ2つの設定も変更されます。





例4 管理者は、ルートワークスペースのデフォルトバージョンとブランチバージョンの作業設定を変更しました。ブランチバージョンは DEV TEAM ワークスペースと PERSONAL ワークスペースの両方でも変更されますが、デフォルトバージョンは DEV TEAM ワークスペースですでに変更されているので、ルートワークスペースでの変更は DEV TEAM ワークスペースの設定にも、PERSONAL ワークスペースに継承された設定にも反映されません。



例5 プロジェクトリーダーは、DEV TEAM ワークスペースのデフォルトバージョンを ルートワークス ペースの設定を継承する設定に戻そうと考えました。そのために、プロジェクトリーダーは、DEV TEAM ワークスペースのデフォルトバージョンの値を削除しました。PERSONAL ワークスペースの デフォルトバージョンの値は変更されていなかったため、ルートワークスペースのデフォルトバー ジョンの値は、DEV TEAM ワークスペースのデフォルトバージョンの値だけでなく、PERSONAL ワークスペースのデフォルトバージョンの値にも継承されました。さらに、プロジェクトリーダー は、ルートワークスペースのワークスペース設定を、デフォルトプロモーショングループが定義され るよう変更しました。



作業ファイルの場所の決定

Version Manager でプロジェクトデータベースを作成するときは、作業ファイルの場所に絶対パス (ドライブ名も含める)を使用する必要があります。

プロジェクト階層	作業ファイルの格納場所
ACME (Z:VACME)	Z:¥ACME¥WORK

デフォルトでは、プロジェクトを作成すると、新規プロジェクト名が親の作業ファイルの場所の最後に追加されて、プロジェクトの作業ファイルの場所が作成されます。

プロジェクト階層	作業ファイルの格納場所
💷 ACME (Z:VACME)	Z:¥ACME¥WORK
DEV	Z:¥ACME¥WORK¥DEV
DIALOGS	Z:¥ACME¥WORK¥DEV¥DIALOGS

Version Manager が作業ファイルの場所を保存する方法

Version Manager では、作業ファイルの場所の親と異なる部分のみが格納されます。ただし、プロ ジェクト / プロジェクトデータベースのプロパティを表示すると、完全な作業ファイルの場所が検索 されるため、作業ファイルの場所はつねに絶対パスで表示されます。Version Manager は、各ワー クスペースに、プロジェクトおよびプロジェクトデータベースごとに1つの作業ファイルの場所を 格納します。

E

注 ルートワークスペースで作業中に、プロジェクトの作業ファイルの場所を削除すると、そのプロ ジェクト用の作業ファイルの場所はプロジェクトデータベースディレクトリの直下に設定されます。

	作業ファイルの格納場所		
プロジェクト階層	表示されるもの	格納されるもの	
ACME (ZNACME)	Z:\ACME\WORK	Z:\ACME\WORK	
	Z:\ACME\WORK\DEV	DEV	
DIALOGS	Z:\ACME\WORK\DEV\DIALOGS	DIALOGS	

例 1

次の例では、管理者により、ACME プロジェクトデータベース、DEV プロジェクト、および DIALOGS サブプロジェクトが作成され、作業ファイルの場所はデフォルトの場所です。ルート ワークスペースには、3 つの作業ファイルの場所が含まれます。1 つの作業ファイルの場所は絶 対パス(Z:\ACME\WORK)で、残りの2つの作業ファイルの場所は相対パス(DEV および DIALOGS)です。

	作業ファイルの場所		
	プロジェクトデータベース	プロジェクト	サブプロジェクト
ワークスペース	ACME (Z:VACME)	🚞 DEV	🚞 DIALOGS
🌍 Root Workspace	Z:\ACME\WORK	DEV	DIALOGS

例2

この例では、前述のプロジェクト階層を使って、Version Manager が 2 つのワークスペースの作業 ファイルの場所を決定する方法を説明します。

DEV TEAM ワークスペースは、開発者たちが別の作業ファイルの場所で作業ファイルをテスト できるように、プロジェクトリーダーによって作成されました。Version Manager は、指定さ れた DEV プロジェクトの作業ファイルの場所のみから、DEV TEAM ワークスペースの ACME プロジェクトデータベースおよび DIALOGS サブプロジェクトの作業ファイルの場所を決定し なければなりません。



DIALOGS サブプロジェクト用 DEV TEAM作業ファイルの場所は、Z:¥ACME¥WORK です。

DEV TEAM ワークスペースには、ACME プロジェクトデータベース用作業ファイルの場所が指定されていないため、Version Manager は親のワークスペース(ルートワークスペース)にある作業 ファイルの場所の値を参照します(Z:\ACME\WORK)。これは絶対パスであるため、Version Manager は作業ファイルの場所の決定を終了します。

2 DIALOGS サブプロジェクト用 DEV TEAM 作業ファイルの場所は、Y:\TEST\DIALOGS です。

DEV TEAM ワークスペースには、DIALOGS サブプロジェクトの作業ファイルの場所が指定されて いないため、Version Manager は親のワークスペース(ルートワークスペース)の作業ファイルの 場所の値を参照します(DIALOGS)。これは相対パスであるため、Version Manager は、DIALOG の親プロジェクトである DEV の DEV TEAM ワークスペースの作業ファイルの場所(Y:\TEST)に DIALOGS という値を付加します。その結果、作業ファイルの場所は、Y:\TEST\DIALOGS になりま す。これは絶対パスであるため、Version Manager は作業ファイルの場所の決定を終了します。

例3

この例では、前述のプロジェクト階層を使って、Version Manager が 3 つのワークスペースの作業 ファイルの場所を決定する方法を説明します。

PERSONAL (プライベート) ワークスペースは、あるプロジェクトチームメンバーによって ACME プロジェクト階層に準じてローカルで作成されました。Version Manager は、指定された ACME プ ロジェクトデータベースの作業ファイルの場所のみから、PERSONAL ワークスペースの DEV プロ ジェクトおよび DIALOGS サブプロジェクトの作業ファイルの場所を決定しなければなりません。

		作業ファイルの場所	
	プロジェクトデータベース	プロジェクト	サブプロジェクト
ワークスペース	ACME (Z:VACME)	🚞 DEV	🚞 DIALOGS
🏐 Root Workspace	Z:¥ACME¥WORK	DEV	DIALOGS
- 🚽 DEV TEAM	-	Y:\TEST	_
	C:\ACME\WORK	3	4

3 PERSONAL ワークスペースの DEV プロジェクト用作業ファイルの場所は Y: ¥TEST です。

PERSONAL ワークスペースには、DEV プロジェクトの作業ファイルの場所が指定されていないため、Version Manager は親のワークスペース(DEV TEAM)の作業ファイルの場所の値を参照します(Y:\TEST)。これは絶対パスであるため、Version Manager は作業ファイルの場所の決定を終了します。

4 DIALOGS サブプロジェクト用 PERSONAL 作業ファイルの場所は、Y:¥TEST¥DIALOGS です。

PERSONAL ワークスペースには、DIALOGS サブプロジェクトの作業ファイルの場所が指定されて いないため、Version Manager は親のワークスペース(DEV TEAM)の作業ファイルの場所値を参 照します。ここには値がないため、Version Manager は、DEV TEAM の親ワークスペース(ルート ワークスペース)を参照して値を見つけます(DIALOGS)。

これは相対パスであるため、Version Manager は、PERSONAL ワークスペースにある DIALOG の 親プロジェクトの DEV 用作業ファイルの場所に DIALOGS の値を付加しようとします。しかし、値 がないため、Version Manager は、PERSONAL の親のワークスペース(DEV TEAM)を参照して 値を見つけます(Y:\TEST)。その結果、作業ファイルの場所はY:\TEST\DIALOGS となります。こ れは絶対パスであるため、Version Manager は作業ファイルの場所の決定を終了します。 PERSONAL ワークスペースが、ローカルで作業をするというプロジェクトチームメンバーの目的を 達成するのは、バージョン管理ファイルがプロジェクトデータベースレベルにある場合のみです。 ローカルのワークスペースが ACME プロジェクト階層を踏襲しなかったのは、PERSONAL ワークス ペースが、プロジェクト階層の中間で絶対パスでカスタマイズされた DEV TEAM ワークスペース (Y:¥TEST) から派生したものであるためです。

ACME プロジェクト階層全体をローカルで踏襲するには、プロジェクトチームメンバーが、以下のどちらかを行う必要があります。

- PERSONAL ワークスペースの DEV プロジェクト用作業ファイルの場所に、絶対パスを入力し ます(C:\ACME\WORK¥DEV)。
- ACME プロジェクトデータベースの作業ファイルの場所の絶対パスを持ったルートワークスペースから、直接派生した新規プライベートワークスペースを作成します。

ワークスペースの作成

プロジェクトデータベースでアクティブにしておけるワークスペースは、一度に1つだけですが、 プロジェクトデータベースの各プロジェクトは、それぞれの作業設定(作業ファイルの場所、デフォ ルトバージョン、ベースバージョン、ブランチバージョン、およびデフォルトプロモーショングルー プ)を持つことができます。

ワークスペースを作成するには

- 1 ワークスペースを作成するプロジェクトデータベースを選択します。
- [File (ファイル)] [Set Workspace (ワークスペースの設定)]を選択します。
 [Set Workspace (ワークスペースの設定)]ダイアログボックスが表示されます。

Set Workspace on ACME	×
vvorkspaces:	
Coot Workspace	New
	Delete
	Rename
Owner: ACME	
Make this your default workspace	
Set Workspace Information	
These settings affect the entire project d	atabase.
OK Cance	I Help

3 新規ワークスペースが初期設定を継承する元のワークスペースを選択します。これが、最初に作成するワークスペースの場合は、ルートワークスペースを選択する必要があります。



注 パブリックワークスペースはプライベートワークスペースからは継承できません。プライ ベートワークスペースはパブリックワークスペースから継承できます。 **4** 【New (新規作成)】をクリックします。〔New Workspace (新規ワークスペースを作成)〕ダイ アログボックスが表示されます。

New Wo	rkspace in Ro	ot Workspace		×
Name:	DEV			
	Private			
		OK	Cancel	Help

- 5 〈Name (名前)〉フィールドに新規ワークスペースの名前を入力します。
- 6 ワークスペースをプライベートワークスペースにする場合は、〈Private (プライベート)〉 チェックボックスを選択します。選択しない場合は、ワークスペースはパブリックワークスペー スになります。
- 7 【OK】をクリックします。Version Manager はワークスペースを作成し、それに派生元から継承した作業設定を割り当てます。これらの設定を変更する方法については、122ページの『ワークスペース設定の変更』を参照してください。また、新規ワークスペースは現在のワークスペースとして設定されます。

ワークスペースの設定

アクティブなワークスペースは常に、ステータスバーのワークスペース表示部に表示されます。ワー クスペースを設定すると、以下を行うことができます。

- 1 つのワークスペースから別のワークスペースへの変更
- デフォルトワークスペースの設定
- デフォルトワークス デフォルトワークスペースは、プロジェクトデータベースを開いたり、Version Manager を再起動 ペースとは したときに、アクティブなワークスペースとして選択されるワークスペースです。

ワークスペースを設定するには

- 1 別のワークスペースを設定するプロジェクトデータベースを選択します。
- [File (ファイル)] [Set Workspace (ワークスペースの設定)]を選択します。
 [Set Workspace (ワークスペースの設定)]ダイアログボックスが表示されます。



ヒント ステータスバーのワークスペース表示部をクリックしても、〔Set Workspace (ワーク スペースの設定)〕ダイアログボックスを開くことができます。

Set Workspace on ProjectDatabase_CAD	×
Workspaces:	
Root Workspace	New Delete Rename
Owner: Public	
Make this your default workspace	
Set Workspace Information These settings affect the entire project d	latabase.
OK Cance	I Help

- **3** このプロジェクトデータベースに対してアクティブにするワークスペースを選択します。
- **4** このワークスペースをデフォルトワークスペースにするには、〈Make this your default workspace (デフォルトワークスペースの作成)〉チェックボックスを選択します。
- **5** 【OK】をクリックします。プロジェクトデータベースの作業設定が、選択したワークスペースで 定義されている設定に変わります。

ワークスペース設定の変更

最初にワークスペースを作成すると、ワークスペースは派生元の作業設定を継承します。ワークスペースの設定を変更すると、変更した値が継承したワークスペースの設定に優先して使用されます。

- ワークスペース設定を変更するには
- 編集するワークスペースを設定します。詳細は 121 ページの『ワークスペースの設定』を参照 してください。
- 2 プロジェクトデータベース、プロジェクト、またはバージョン管理ファイルを選択します。

3 [File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)]を選択し、[Workspace Settings (ワーク スペースの設定)] タブを選択します。

Properties	×
Project Database Workspace Settin	gs Granted Privileges
Workfile Location: rogram	Files\PVCS\VM\SampleDb\work
Default Version:	
Branch Version:	
Base Version:	
Default Promotion Group: <a> <a> <b< td=""><td></td></b<>	
Workspace Information Root Workspace These settings apply to all us	ers of the root workspace.
	OK Cancel Help

これらのフィールドには、親ワークスペースから継承した値が含まれています(自分またはほかのユーザによって変更された場合を除く)。

4 以下のフィールドに適切な情報を入力または選択します。

フィールド	入力または選択する値
作業ファイルの場所	作業ファイルディレクトリの場所。ここからファイルをチェックインし たり、ここへファイルをチェックアウトします。このフィールドの設定 を削除すると、親ワークスペースの設定が継承されます。 ルートワークスペースで作業中に、プロジェクトの作業ファイルの場所 を削除すると、そのプロジェクト用の作業ファイルの場所はプロジェク トデータベースディレクトリの直下に設定されます。 作業ファイルの場所にそのパスのルートとして \$HOME を含めることが できます(たとえば、UNIX では、\$HOME/work は/usrs/cherylc/work に展開できます)。Version Manager は、作業ファイルの場所を決定す るときに、HOME 環境変数の値に置き換えます。\$HOME を使用する
	ことにより、バスは目動的にユーザの HOME 変数の値に応じて個別に 設定されます。
デフォルトバージョン	デフォルトバージョンとして使用するバージョンラベル。チェックアウト、取得、チェックイン、ロック、ロック解除、バージョンラベルおよびプロモーショングループの割り当てなどのアクションは、デフォルトバージョンに対して実行されます。このフィールドの設定を削除すると、親ワークスペースの設定が継承されます。
ベースバージョン	ブランチを開始するリビジョンに割り当てるバージョンラベル。この フィールドは、自動ブランチを利用可能にするために使用します。この フィールドの設定を削除すると、親ワークスペースの設定が継承されま す。フィールドが空白の場合、自動ブランチは利用できません。
ブランチバージョン	ブランチのチップに割り当てるバージョンラベル。このフィールドは、 自動ブランチを利用可能にするために使用します。このフィールドの設 定を削除すると、親ワークスペースの設定が継承されます。フィールド が空白の場合は、自動ブランチは利用できません。

フィールド入力または選択する値デフォルトプロモー
ショングループデフォルトプロモーショングループは、プロモーショングループは、
プロモーショングループは、
プロモーションモデルの最下位のプロモーショングループです。
デフォルトでは、指定したデフォルトプロモーショングループは、
リビジョンのロックおよび作業ファイルの追加を行うときにリビジョンに割り当てられます。
デフォルトプロモー
ショングループが定義されていると、ユーザは、
これらのアクションの
際に割り当てるべきプロモーショングループを指定する必要がなくなります。

5 【OK】をクリックします。

ワークスペース名の変更

SuperUser または Unlimited 権限があれば、パブリックワークスペースの名前を変更できます。 ただし、パブリックワークスペースを変更すると、そのワークスペースにアクセスするユーザすべ てに影響を及ぼします。自分が作成したプライベートワークスペースの名前は、変更することがで きます。



注 デフォルトワークスペースに設定されているワークスペースの名前を変更すると、デフォルト ワークスペースがルートワークスペースに設定されます。これは、名前を変更されたワークスペー スがデフォルトワークスペースとなっている全ユーザに影響を及ぼします。

ワークスペース名を変更するには

- 1 ワークスペースの名前を変更するプロジェクトデータベースを選択します。
- [File (ファイル)] [Set Workspace (ワークスペースの設定)]を選択します。[Set Workspace (ワークスペースの設定)]ダイアログボックスが表示されます。

Set Workspace on ProjectDatabase_CAD Workspaces:	×
Root Workspace DEV DEV DEV	New Delete
	Rename
Owner: Public	
Make this your default workspace	
Set Workspace Information These settings affect the entire project of	database.
OK Cance	el Help

3 名前を変更するワークスペースを選択し、【Rename (名前の変更)】をクリックします。〔Rename (名前の変更)〕ダイアログボックスが表示されます。

Rename				×
Name:	Build Area			
	·			
		OK	Cancel	Help

- **4** ワークスペースの名前を変更し、【OK】をクリックします。新しい名前が〔Set Workspace (ワークスペースの設定)〕ダイアログボックスに表示されます。
- **5**【OK】をクリックして Version Manager のメインウィンドウに戻ります。

ワークスペースの削除

作成したプライベートワークスペースは、現在のワークスペースでないかぎり、削除することがで きます。SuperUser または Unlimited 権限があれば、パブリックワークスペースも削除すること ができます。ワークスペースを削除すると、そこから派生するすべてのワークスペースも削除され ます。ルートワークスペース、現在のワークスペースおよびその親であるワークスペースは削除で きません。

たとえば、以下の階層で、DEV パブリックワークスペースを削除すると、Build Area パブリック ワークスペースと My DEV Area プライベートワークスペースも削除されます。



デフォルトワークスペースに設定されているパブリックワークスペースがほかのユーザにより削除された場合は、ルートワークスペースが、デフォルトワークスペースになります。



重要! パブリックワークスペースを削除すると、そのワークスペースを使用するユーザすべてに影響を与えます。

ワークスペースを削除するには

- 1 ワークスペースを削除するプロジェクトデータベースを選択します。
- **2** [File (ファイル)] [Set Workspace (ワークスペースの設定)]を選択します。[Set Workspace (ワークスペースの設定)]ダイアログボックスが表示されます。

Set Workspace on ProjectDatabase_CAD	×
Workspaces:	
Root Workspace	New
	Delete
	Rename
Owner: Public	
Make this your default workspace	
Set Workspace Information	database.
OK Cance	el Help

- 3 削除するワークスペースを選択し、【Delete(削除)】をクリックします。ワークスペースの削除を確認するメッセージが表示されます。
- **4** 【Yes (はい)】をクリックしてワークスペースを削除します。ワークスペースは、ワークスペー ス階層から削除されます。
- 5 【OK】をクリックして Version Manager のメインウィンドウに戻ります。

シナリオ:デフォルトワークスペースに影響を与えずに、カスタム ワークスペースを定義する



Bridge プロジェクトは完成に近づいてきました。現在、品質管理技術者はコードをテストしていま す。テクニカルライターは、マニュアルを執筆し始め、開発者はプログラミングタスクの最終段階を 行っています。全チームメンバーは、同じネットワークドライブ上の一連のアーカイブで作業をして いますが、各グループはぞれぞれの場所を使用しています。ビルドチームは、まったく別のネット ワークドライブ上でコードをコンパイルします。阿部さんは、グループごとに異なるワークスペース をセットアップし、ファイルを使用するたびに作業ファイルの場所を定義し直す必要がないようにし ようと考えました。

阿部さんはまず、管理者によって定義されたワークスペース設定を確認します。そのためには、 Games プロジェクトデータベースを右クリックして、〈Properties(プロパティ)〉オプションを選 択します。そして、〔Workspace Settings(ワークスペースの設定)〕タブを選択します。管理者 は、以下のデフォルト設定でルートワークスペースを設定しています。これを削除したり、名前を変 更したりすることはできません。

- デフォルトの作業ファイルの場所は h:\vm\games\work です。ルートワークスペースで作業を する場合は、バージョン管理ファイルはプロジェクトデータベースの場所に関連するディレクト リにチェックアウトされます。たとえば、ルートワークスペースで作業をしている場合は、 Checkers バージョン管理ファイルは、h:\vm\games\work\checkers にチェックアウトされ ます。
- デフォルトのデフォルトバージョンは空白です。デフォルトバージョンが指定されていない場合は、自動的に最新バージョンに対して動作します。井上さんは、このフィールドを空白のままにしています。後で、阿部さんが自動ブランチやマージを設定する際に、ブランチバージョンと一致するデフォルトバージョンを指定できます。
- デフォルトのブランチバージョンは空白です。このバージョンラベルは、開発ブランチの最新リビジョン(チップリビジョン)を示します。このデータベースにはブランチがまだ作成されていないため、井上さんはこのフィールドを空白のままにしています。
- デフォルトのベースバージョンは空白です。このバージョンラベルは、このリビジョンからファイルの別のバージョン(ブランチ)が開始されることを示します。このデータベースにはブランチがまだ作成されていないので、井上さんはこのフィールドを空白のままにしています。

全開発グループは、プロジェクトデータベースに定義された作業ファイルの場所のサブディレクトリ に作業ファイルを格納しているため、阿部さんは、プロジェクトデータベースの作業ファイルの場所 に関連した、各開発グループ固有の作業ファイルの場所を指定しようと考えています。そのためには まず、井上さんによって設定されたルートワークスペースの設定を継承する 4 つの新しいワークス ペースを作成しなければなりません。阿部さんは Games プロジェクトを選択し、〈Set Workspace (ワークスペースの設定)〉オプションを選択しました。次に、ルートワークスペースを選択し【New (新規作成)】をクリックしました。そして、新規ワークスペースを「Quality Assurance」と名付け ました。そのワークスペースは「パブリック」ワークスペースにして、全ユーザがアクセスできるよ うにする必要があるため、〈Private (プライベート)〉チェックボックスが選択されていないことを 確認してから【OK】をクリックしました。

毎回ルートワークスペースを選択し直しながら、この手順を3回繰り返して、阿部さんは、 Writers、Developer、およびBuild の3つの新規ワークスペースも作成し終えました。そして、 ワークスペース階層を表示し、今作成したワークスペースがすべて親のルートワークスペースの子と して表示されることを確認しました。この階層構造は、4つの新規ワークスペースがルートワークス ペースの設定を直接継承していることを示します。次に、阿部さんは、新規パブリックワークスペー スにそれぞれの作業ファイルの場所を指定する必要があります。

Quality Assurance ワークスペースの作業ファイルの場所をカスタマイズするために、阿部さんは ステータスバーの現在のワークスペースをクリックし、Quality Assurance ワークスペースを現在 のワークスペースに設定しました。そして、Games プロジェクトデータベースを選択し、[File (ファイル)] – [Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)]を選択しました。Quality Assurance の作業ファイルの場所は、現在、h:\vm\games\work に設定されています。このワーク スペースは、ルートワークスペースの設定を継承しています。阿部さんは、パスの最後に ¥QA を付 けて、部門固有の作業ファイルの場所を定義しました。これで、新規作業ファイルの場所がファイル 表示部のヘッダに表示されます。阿部さんは、Writers および Developer のワークスペースにも同 じ手順を繰り返しました。Build ワークスペースでは、チームメンバーは h:drive にコードをビルド しないため、阿部さんは、作業ファイルの場所を完全に変更しなければなりません。そのため、作業 ファイルの場所に z:¥build と入力して、Build ワークスペースをカスタマイズしました。

阿部さんは、これで、Version Manager を開発チームに配布する準備ができました。

シナリオ:個人的なワークスペースを定義する



内田さんは、Chess および Checkers プロジェクトを担当するソフトウェア開発者です。彼女は、 阿部さんから提供された情報を使ってプロダクトを彼女自身のマシンにインストールし、Games プ ロジェクトデータベースにログインしました。プロダクトを使用する前に、彼女は、作業環境をカス タマイズするつもりです。阿部さんからは、カスタマイズできるように、ユーザオプションのチェッ クリストをもらっています。

まず、Chess および Checkers プロジェクトの作業ファイルの場所を確認しました。予想していた とおり、どちらもネットワークドライブ上にありました。内田さんは週に 3 日自宅で作業をするた め、自分のラップトップにファイルをチェックアウトしたいと考えています。阿部さんのチェックリ ストを確認しながら、これらの設定を変更するには、プライベート作業ファイル設定を格納しておけ る独自のワークスペースを定義することがもっともよい方法であると気付きました。プライベート ワークスペースを作成すれば、ほかのユーザの設定に影響を与えることなく、彼女は自分の作業ファ イルの場所を設定できます。

プライベートワークスペースを作成するために、内田さんは Games プロジェクトデータベースを選 択し、〈Set Workspace (ワークスペースの設定)〉オプションを選びました。次に、ルートワーク スペースを選択し、【New (新規作成)】をクリックしました。そして、ワークスペースを彼女の名前 にちなんで Uchida と名付けました。そして、〈Private (プライベート)〉チェックボックスを選択 しました。このオプションを選択すると、彼女の作業ファイルの場所のみに変更が影響します。内田 さんは〈Make this your default workspace (デフォルトワークスペースの作成)〉チェックボッ クスを選択しました。Version Manager は、この設定を内田さんのユーザ情報とともに保存しまし た。これ以降、内田さんが Games プロジェクトデータベースを開くと、Version Manager は自動 的に Uchida を現在のワークスペースとしてセットします。

現在のワークスペースの Uchida で、彼女は Chess プロジェクトを選択し、〈Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)〉オプションを選択しました。そして、作業ファイルの場所 を c:¥work に変更しました。彼女は、この手順を Checkers プロジェクトにも繰り返しました。

第8章

ユーザ設定

作業ファイルの場所の設定	130
	131
〔Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version へようこそ)〕ダイアログボックスの非表示	Manager 132
確認ダイアログボックスの非表示	134
サブプロジェクトをプロジェクト操作に追加	135
フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定	136
 チェックイン / チェックアウトオプションの定義	136
ダイアログボックスの表示設定	138
デフォルトエディタの設定	140
シナリオ:個人用のユーザ設定を定義する	143

作業ファイルの場所の設定

作業ファイルの場所は、作業ファイルのチェックアウト先およびチェックイン元となる場所です。プロジェクトを作成するユーザ(通常はプロジェクトリーダー)が、プロジェクトを作成するときに作業ファイルの場所を決定します。作業ファイルの場所は、プロジェクトデータベースに割り当てられたワークスペースに格納されます。そのワークスペースは通常、パブリックワークスペースです。

パブリックワークス パブリックワークスペースにある作業ファイルの場所を変更すると、そのパブリックワークスペース ペースとプライベー を使ってアクセスするすべてのユーザの作業ファイルの場所に影響します。プライベートワークス トワークスペース ペースにある作業ファイルの場所を変更した場合は、ほかのユーザの作業ファイルの場所にはまった く影響しません。

> ルートワークスペースで作業中に、プロジェクトの作業ファイルの場所を削除すると、そのプロジェ クト用の作業ファイルの場所はプロジェクトデータベースディレクトリの直下に設定されます。

ワークスペースの詳細は、第7章,111ページの『ワークスペースの操作』を参照してください。

プロジェクトデータベース、プロジェクト、サブプロジェクト、またはパージョン管理ファイルの作 業ファイルの場所を設定するには

- プロジェクトデータベース、プロジェクト、サブプロジェクト、またはバージョン管理ファイル を選択します。
- [File (ファイル)] [Set Workfile Location (作業ファイルの場所の設定)]を選択するか、 または、[File (ファイル)] - [Properties (プロパティ)] - [Workspace Settings (ワーク スペースの設定)] タブを選択します。

Set Workfile Locati	on - DEV 🛛 🗙
Workfile Location:	C:\ACME\work\DEV
Workspace Informa	ation
Root Works	space
These setti	ngs apply to all users of the root workspace.
	OK Cancel Help

- 3 〈Workfile Location (作業ファイルの場所)〉テキストボックスに新規作業ファイルの場所を入 カします。または、【Browse (…)】をクリックして新規の場所を選択します。
- **4** 【OK】をクリックします。

アプリケーションログの使用

pvsapp.log ファイルが生成されるようにして、Version Manager からの警告やエラーメッセージを 記録するよう設定できます。このファイルに記録されるのは、結果としてコマンドが実行されないよ うなエラーのみです。また、メモリ不足のような、予期されない状況もこのファイルに記録されま す。コマンドの実行結果のログに記録されるエラーは、コマンドの実行を妨げることはなく、そのた め、pvcsapp.log には記録されません。

このアプリケーションログオプションは、Version Manager が起動するワークステーションに固有 で、各ユーザごとに使用可能にするかどうかを指定できます。アプリケーションログを使用可能にす ると、「ホーム」ディレクトリに pvcsapp.log という名前のファイルが作成されます。ログを表示する には、このファイルをデフォルトのエディタで開きます。

Windows ユーザ:「ホーム」ディレクトリは、システムプロパティで設定する home 環境変数に よって決まります。home 環境変数が設定されていない場合、ログファイルは *drive*:¥users¥default に作成されます。ここで *drive* は、Windows システムファイルの場 所です。

アプリケーションログを作成するには

1 [View (表示)] – [Options (オプション)] を選択します。[Options (オプション)] ダイア ログが開き、[General (全般)] タブが表示されます。

🙀 Options	×
General Dialog Behavior Appli	cations
Show Welcome Dialog	🔲 Get only if revision newer than workfile
Show Revision Pane	
Enable Application Log	
🗖 Include subproject in project op	perations
Separate Labels by Comma	✓ on Filter Dialog.
Confirm On Check In/Out Options	
Copy via mouse action	Delete workfile after check in
Move via mouse action	Get read-only revision
Delete File or Project If Workfile Exists: Prompt	
File Cache	
Minimum #: 50	Maximum % (0 - 100): 25
	OK Cancel Help

2 〈Enable Application Log (アプリケーションログを作成)〉チェックボックスを選択します。【OK】をクリックします。

〔Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)〕ダイア ログボックスの非表示

[Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)] ダイアログボックスは、初心者のユーザが、簡単に、新規プロジェクトを作成したり、サンプルプロジェクトデータベースを開いたり、既存のプロジェクトデータベースを開いたりできるようデザインされています。

🐖 Welcome to Serena ChangeMan Version Manager 🛛 🔀
serena
ChangeMan® Version Manager™
Create a new project database
Open the sample project database
🗖 Don't show this dialog again
OK Help

[Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)] ダイアログボックスは、〈Don't show this dialog again (次回からこのダイアログを 表示しない)〉チェックボックスを選択するか、ユーザ設定の起動メッセージオプションを無効にし ないかぎり、Version Manager を起動するたびに表示されます。 〔Welcome to Serena ChangeMan Version Manager (Serena ChangeMan Version Manager へようこそ)〕ダイアログボックスが表示されないようにするには

1 [View (表示)] – [Options (オプション)]を選択します。[Options (オプション)] ダイア ログボックスが開き、[General (全般)] タブがアクティブになっています。

Vin Options	×
General Dialog Behavior Application	ons
Show Welcome Dialog	🗖 Get only if revision newer than workfile
🔲 Show Revision Pane	
Enable Application Log	
🔲 Include subproject in project opera	tions
Separate Labels by Comma 💌	on Filter Dialog.
Confirm On	Check In/Out Options
Copy via mouse action	E Delete workfile after check in
🔽 Move via mouse action	Get read-only revision
Delete File or Project	If Workfile Exists: Prompt
-File Cache	
Minimum #: 50	Maximum % (0 - 100): 25
	OK Cancel Help

- 2 〈Show Welcome Dialog ([Serena ChangeMan Version Manager へようこそ] ダイアログボックスを表示)〉チェックボックスの選択を解除します。
- **3** 【OK】をクリックします。

確認ダイアログボックスの非表示

デフォルトでは、Version Manager 内からアイテムのコピー、移動、または削除を行うと、そのたびに確認ダイアログボックスが表示されます。確認ダイアログボックスは、これらのタスクの種類ごとに表示されるかどうかを指定することができます。

確認ダイアログボックスを表示 / 非表示を指定するには

 [View (表示)] - [Options (オプション)]を選択します。[Options (オプション)]ダイア ログボックスが開き、[General (全般)]タブがアクティブになっています。

Min Options	×
General Dialog Behavior A	pplications
🔽 (Show Welcome Dialog)	Get only if revision newer than workfile
🔲 Show Revision Pane	
Enable Application Log	
🗖 Include subproject in proje	ct operations
Separate Labels by Comm	a 💌 on Filter Dialog.
Confirm On	Check In/Out Options
Copy via mouse action	Delete workfile after check in
Move via mouse action	Get read-only revision
Delete File or Project	If Workfile Exists: Prompt
-File Cache	
Minimum #: 50	Maximum % (0 - 100): 25
	OK Cancel Help

- **2** 〈Confirm On (確認メッセージの表示)〉グループボックスのいずれかのオプションを選択します。
 - ドラッグアンドドロップを使ってアイテムをコピーする際に確認ダイアログボックスを表示しない場合は、(Copy via mouse action (ドラッグアンドドロップによるコピー)) チェックボックスの選択を解除します。
 - ドラッグアンドドロップを使ってアイテムを移動する際に確認ダイアログボックスを表示しない場合は、(Move via mouse action (ドラッグアンドドロップによる移動)) チェックボックスの選択を解除します。
 - バージョン管理ファイルまたはプロジェクトを削除する際に確認ダイアログボックスを表示 しない場合は、〈Delete File or Project (ファイルまたはプロジェクトの削除)〉チェック ボックスの選択を解除します。
- **3** 【OK】をクリックします。

サブプロジェクトをプロジェクト操作に追加

プロジェクトデータベースまたはプロジェクトにアクションを実行すると、デフォルトでは、 Version Manager は、そのプロジェクトデータベースまたはプロジェクトレベルに含まれるバー ジョン管理アイテムにのみアクションを実行し、サブプロジェクトに含まれるバージョン管理ファイ ルにはアクションを実行しません。

通常はサブプロジェクトに対してもプロジェクトデータベースまたはプロジェクトに対するアクションを実行する場合は、デフォルトの設定を変更して、プロジェクト操作につねにサブプロジェクトを 含めることができます。

プロジェクト操作の対象にサブプロジェクトを含めるには

1 [View (表示)] – [Options (オプション)]を選択します。[Options (オプション)] ダイア ログボックスが開き、[General (全般)] タブがアクティブになっています。

🙀 Options		×	
General	Dialog Behavior Applications		
⊠ Shov	Show Welcome Dialog		
🗖 Shov	w Revision Pane		
🗖 Enat	ble Application Log		
🗖 Inclu	Ide subproject in project operations		
Separat	te Labels by Comma 💌 on Filter Dialog.		
Confirm	n OnCheck In/Out Options		
🔽 Cop	y via mouse action 🗖 Delete workfile after check in		
Mov	e via mouse action 🔽 Get read-only revision		
🔽 Dele	ete File or Project If Workfile Exists: Prompt 💌		
File Ca	che		
Minim	num #: 50 Maximum % (0 - 100): 25		
	OK Cancel H	lelp	

- 2 (Include subproject in project operations (処理対象にサブプロジェクトも含める)) チェッ クボックスを選択します。
- **3** 【OK】をクリックします。



注 〈Include subproject in project operations (処理対象にサブプロジェクトも含める)〉オプ ションを選択するということはプロジェクト操作中に、サブプロジェクトを操作の対象に含めなけ ればならないという意味ではありません。プロジェクトレベルの操作を行うダイアログボックスで、 あらかじめこのオプションが選択されるということです。

フィールドに入力するアイテムの区切り文字の指定

デフォルトでは、セミコロン(;)を使用してダイアログボックスのフィールド内の複数エントリを 区切ります。区切り文字は複数エントリを受け入れるすべてのフィールドで使用します。

名前に区切り文字を使用しているアイテムを処理する場合は、区切り文字を変更する必要がありま す。区切り文字には、コンマ(,)、コロン(:)、またはセミコロン(;)を設定できます。

区切り文字を指定するには

- [View (表示)] [Options (オプション)]を選択します。[Options (オプション)]ダイア ログボックスが開き、[General (全般)]タブが表示されます。
- **2** 〈Separate dialog items by (文字区切り)〉リストボックスで、次のいずれかを選択します。
 - コンマ (,)
 - コロン (:)
 - **セミコロン (;)** (デフォルト)



重要! ダイアログボックスのフィールドに入力するアイテムに含まれて「いない」区切り文字 を選択してください。

3 【OK】をクリックします。

チェックイン / チェックアウトオプションの定義

チェックイン / チェックアウト / 取得アクションを実行すると、Version Manager は、デフォルト で以下の操作を行います。

- チェックアウト時に、作業ファイルがすでに存在する場合は、確認のダイアログボックスを表示します。
- チェックイン後、作業ファイルの場所に作業ファイルの読み取り専用のコピーを残します。
- 取得を実行したときに、読み取り専用の作業ファイルをコピーします。

チェックイン / チェックアウト / 取得の各アクションを実行する際に、これらのデフォルト設定を たいてい変更する必要がある場合は、作業スタイルに合わせてデフォルトを変更しておくことがで きます。

チェックイン / チェックアウト / 取得のオプションを変更するには

 [View (表示)] - [Options (オプション)]を選択します。[Options (オプション)]ダイア ログボックスが開き、[General (全般)]タブがアクティブになっています。

Vi Options	×
General Dialog Behavior Appli	cations
🔽 (Show Welcome Dialog)	🗖 Get only if revision newer than workfile
🗖 Show Revision Pane	
Enable Application Log	
🔲 Include subproject in project op	perations
Separate Labels by Comma	✓ on Filter Dialog.
Confirm On	Check In/Out Options
🔽 Copy via mouse action	Delete workfile after check in
Move via mouse action	Get read-only revision
Delete File or Project	If Workfile Exists: Prompt
File Cache	
Minimum #: 50	Maximum % (0 - 100): 25
	OK Cancel Help

- 2 〈Check In/Out Options (チェックイン / チェックアウトオプション)〉グループボックスで以下のオプションを選択します。
 - 適切にチェックインした後、作業ファイルの場所から作業ファイルを削除するには、
 〈Delete workfile after check in (チェックイン後に作業ファイルを削除)〉チェックボックスを選択します。
 - 取得の実行時に作業ファイルを書き込み可能にするには、〈Get read-only revision (リビジョンを書き込み禁止で取得〉) チェックボックスの選択を解除します。
 - 作業ファイルがすでに存在している場合のオプションとして〈Prompt(確認する)〉以外を 選択するには、〈If Workfile Exists(作業ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリスト から任意のオプションを選択します。

そのほかのオプションには、複製の作業ファイルが存在していても作業ファイルを追加する 〈Overwrite (上書きする)〉と、作業ファイルの場所に作業ファイルを追加しない〈Don't Overwrite (上書きしない)〉があります。

 リビジョンが作業ファイルよりも新しい場合にのみ取得またはチェックアウトするには、 〈Get only if revision is newer than workfile (作業ファイルより新しいリビジョンの場合 のみ実行)〉チェックボックスを選択します。これによって、変更されなかったリビジョンを 取得しないので時間の節約になります。

- **3** 〈File Cache (ファイルキャッシュ)〉グループボックスで、以下のオプションを設定します。
 - 《Minimum # (最小値 #)》フィールドに、ファイル表示部に一度にロードされるファイルの数の最小値を入力します。これは、〈Maximum % (最大値 %)〉の設定に関係なく、一度にロードされるファイルの数です。ファイル数がこの値を超えると、必要に応じて、最小値の数だけ次のファイルがロードされます。
 - 一度にロードするファイル数の最大数を、総ファイル数に対する割合で〈Maximum %(最 大値 %)〉フィールドに入力します。

Version Manager は、2 つのフィールドの値を比較し、より多くのファイルが表示される 方を使用します。たとえば、プロジェクトに 2000 個のファイルが含まれており、 〈Minimum # (最小値 #)〉フィールドに 100、〈Maximum % (最大値 %)〉フィールド に 25% が入力されている場合は、500 個 (2000 ファイルの 25%)のファイルがロード されます。最小値を小さくすると、最初に表示されるときにより速くロードされます。また、 割合の最大値を大きくすると、ファイル表示部のスクロールが速くなります。

最小値には通常、各プロジェクトに含まれるファイル数の平均値を設定します。割合の最大 値は、プロジェクトのファイル数が平均値より多い場合に備えて設定します。

4 【OK】をクリックします。

ダイアログボックスの表示設定

Version Manager では、ダイアログボックスの表示を柔軟に調整できます。デフォルトでは、 Version Manager は、以下のプロジェクトアクションおよびバージョン管理ファイルアクションす べてに関してダイアログボックスを表示します。

- Get/View(取得/表示)
- Check Out/Edit(チェックアウト / 編集)
- Unlock(ロック解除)
- Lock (ロック)
- Show History (履歴の表示)
- Show Difference (相違点の表示) (バージョン管理ファイルのみ)



注 プロジェクトおよびバージョン管理ファイルの両方に対するチェックインアクションに対して は、つねに、ダイアログボックスが表示されます。

各ダイアログボックスの表示 / 非表示を指定するには

 [View (表示)] - [Options (オプション)] - [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タ ブを選択します。

Options					×	
General	Dialog Behavior	Applications]			
Display	dialogs when actio	ns are used on	projects or version	ed files		
Project.	Actions	Versioned File Ac	tions			
Get		Get/View				
🔽 Che	ck Out	Check Out/Edit				
🔽 Unic	ock	Unlock				
🔽 Lock	(₩ Lock				
🔽 Sho	🔽 Show History		Show History			
			🔽 Show Differen	ce		
Automatically dismiss result dialogs when action is successful Show Copy Options Dialog						
			ОК	Cancel	Help	

- 2 〈Project Actions (プロジェクトへのアクション)〉グループボックスおよび〈Versioned File Actions (バージョン管理ファイルへのアクション)〉グループボックスで、表示されないようにするダイアログボックスを選択します。
- 3 アクションが正常に完了した場合に、結果を知らせるダイアログボックスが自動的に閉じられる よう設定するには、〈Automatically dismiss result dialogs when action is successful (正常 終了の場合は、結果を自動的に画面から消去)〉チェックボックスを選択します。
- 4 アイテムをコピーする際に、コピーオプションを表示するダイアログボックスを非表示にする には、〈Show Copy Options Dialog(コピーオプションを表示)〉チェックボックスの選択を 解除します。
- **5** 【OK】をクリックします。

デフォルトエディタの設定

デフォルトエディタを設定して、Version Manager でバージョン管理ファイルをダブルクリックしたときに起動するエディタを指定します。

Windows Windows 版の場合、Version Manager は、Windows ファイルタイプで関連付けが定義されてい るエディタまたは選択した特定のエディタのいずれかでファイルを開きます。デフォルトでは、 Version Manager は Windows のファイルタイプの関連付けを使用します。Windows のファイル タイプを使用することをお奨めします。



注 ファイルをダブルクリックすると正しくないアプリケーションが起動する場合、Windows エク スプローラを使用して Windows ファイルタイプを修正します。

UNIX UNIX 版の場合、次を定義する必要があります。

- Version Manager 内で編集または表示するファイル用に起動するエディタの場所
- [Help (ヘルプ)] [Online Manuals (オンラインマニュアル)]を選択して、オンラインマニュアル用に起動する Adobe Acrobat Reader の場所
- オンラインヘルプを表示する HTML ブラウザの場所



注 UNIX 版には、〈Use Default Windows Associations (Windows のデフォルトの関連付けを 使用)〉チェックボックスはありません。

デフォルトエディタを設定するには

 [View (表示)] - [Options (オプション)] - [Applications (アプリケーション)] タブを 選択します。

	Options X
	General Dialog Behavior Applications
Windows 版のみ	Image: Second stress second
	- Options
	General Dialog Behavior Applications
	Editor Location:
	Default Double-Click Action: Ask =
UNIX 版のみ	Adobe® Acrobat® Reader Location:
	Browser Location:
	Report Viewer
	Use text editor
	Ouse default HTML browser
	OK Cancel Help

- 2 (Windows 版の場合のみ)エディタの起動に Windows のファイルタイプ関連付けを使用する 場合は、(Use default Windows associations (Windows のデフォルトの関連付けを使用)) チェックボックスを選択します。
- 3 〈Editor Location (テキストエディタの場所)〉テキストボックスにエディタプログラムの実行 ファイルのある場所を入力するか、または、【Browse (...)】をクリックして実行ファイルを選 択します。
 - (UNIX 版のみ)独自のウィンドウを起動する非 GUI エディタ(vi など)を指定した場合、 そのエディタは、xterm またはそのほかのウィンドウタイプで起動する必要があります。た とえば、(Editor Location (テキストエディタの場所))テキストボックスに次のように入力 します。 xterm editor path

ここで editor path には、エディタの場所を入力します。

- (Windows 版のみ) エディタを指定して、さらに、(Use default Windows associations (Windows のデフォルトの関連付けを使用)) チェックボックスを選択した場合は、指定し たエディタは、Windows で関連付けられたアプリケーションを見つけることができない場 合にのみ使用されます。
- 4 ファイルをダブルクリックしたときに Version Manager に実行させるアクションを選択するには、〈Default Double-Click Action (ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉ドロップダウンリストから任意のオプションを選択します。オプションは、次のとおりです。
 - Ask (表示 / 編集の選択)
 - View file (ファイルの表示)
 - Edit file (ファイルの編集)

デフォルトは〈Ask (表示 / 編集の選択)〉です。これは、ファイルの表示または編集のどちらのアクションを行うかを指定するダイアログボックスを表示します。〈View file (ファイルの表示)〉を選択すると、Version Manager は表示専用としてファイルを取得します。〈Edit file (ファイルの編集)〉を選択すると、Version Manager は編集するためにファイルをチェックアウトします。

- 5 (UNIX 版のみ)〈Adobe® Acrobat ® Reader Location (Adobe Acrobat Reader の場所)〉 テキストボックスに、Version Manager オンラインマニュアルの表示に使用する Adobe Acrobat の実行ファイルのある場所を入力するか、または、【Browse (...)】をクリックして実 行ファイルを選択します。
- 6 (UNIX 版のみ) 〈Browser Location (ブラウザの場所)〉テキストボックスに HTML ブラウザ 実行ファイルのある場所を入力するか、または、【Browse (…)】をクリックして実行ファイル を選択します。指定したブラウザが、オンラインヘルプの表示に使用されます。また、場合に よっては、Version Manager レポートの表示にも使用されます。
- 7 〈Report Viewer (レポート表示ツール)〉グループボックスで、レポートの表示に使用するブラ ウザを選択します。
 - レポートをテキストエディタで表示するには、(Use text editor (テキストエディタを使用))を選択します。
 - レポートを HTML 形式で表示するには、〈Use default HTML browser(デフォルトの HTML ブラウザを使用)〉を選択します。



注 大きいレポート (500 ファイル以上)を生成する場合は、テキストエディタでのレポート の表示を推奨します。サイズの大きいレポートを HTML エディタで表示すると、表示に数分か かる場合があります。レポートについての詳細は、第 19 章, 239 ページの『レポートの使用』 を参照してください。

8 【OK】をクリックします。

シナリオ:個人用のユーザ設定を定義する



個人用のユーザ設定を定義するため、内田さんは、[View(表示)] – [Options(オプション)] を 選択しました。Version Manager では、これらのオプションを各ユーザに対して別々に保存できま す。内田さんは、以下のように設定しました。

- 〔General (全般)〕タブ
 - 〈Show Welcome Dialog ([Serena ChangeMan Version Manager へようこそ] ダイア ログボックスを表示)〉の選択を解除して、Version Manager の起動時にこのダイアログ ボックスが表示されないようにしました。
 - 通常はファイルの最新バージョンを使って作業をするので、リビジョン表示部は表示しない デフォルト設定のままにしました。特定のバージョン管理ファイルの履歴を見る必要が生じ たときは、いつでもリビジョン表示部を表示できます。
 - アプリケーションログを使用可能にするオプションを選択しました。アプリケーションログには、警告とエラーメッセージが記録されます。pvcsapp.logファイルに保存され、どのテキストエディタでも表示できます。内田さんは、ログを見る必要がないことを願っていますが、必要になった場合に備えておきます。
 - 〈Include subproject in project operations (処理対象にサブプロジェクトも含める)〉オ プションを選択しました。Chess プロジェクトと Checkers プロジェクトには、両方ともサ ブプロジェクトがあります。このオプションを選択することによって、これらのプロジェク トに対して実行するアクションが、サブプロジェクトのバージョン管理ファイルにも実行さ れます。
 - 移動と削除の際には確認のダイアログボックスを表示しますが、コピーの際には表示しないようオプションを選択しました。チェックイン / チェックアウトオプションは、現時点では、デフォルトのままにしました。作業を進めていくうちに、これらの設定を変更することがあるかもしれません。
- Version Manager 環境に慣れる必要があるので、〔On the Dialog Behavior(ダイアログボックス)〕タブでは、プロジェクトとバージョン管理ファイルに対する全アクションのダイアログボックスを表示するデフォルト設定をそのままにしました。結果のダイアログボックスの表示も、デフォルト設定をそのままにしました。取得、チェックアウト、チェックインのオプションは、Version Manager に慣れてから、適切に設定する予定です。それらの設定を行った後は、設定用のダイアログボックスが表示されずに、選択したデフォルトの設定でアクションが実行されます。その時点では、アクションが正常に完了したときに、結果を報告するダイアログボックスを自動的に閉じるオプションも選択するかもしれません。
- 〔Applications (アプリケーション)〕タブで、作業ファイルを表示および編集するためのデフォルトエディタを設定しました。〈テキストエディタの場所〉テキストボックスにエディタの実行ファイルのパス名を入力しました。これで、バージョン管理ファイルをダブルクリックしたときに、指定したエディタでファイルが開かれます。

最後に、内田さんはこの個人用の設定を保存しました。これで、バージョン管理タスクを実行する準備ができました。


リビジョンのチェックアウト

チェックアウトについて	146
デフォルトのチェックアウトオプション	147
リビジョンのチェックアウト	148
シナリオ:プロジェクトファイルをチェックアウトし、編集する	152

チェックアウトについて

リビジョンをチェッ リビジョンを変更する必要がある場合は、それらをチェックアウトします。1 つのバージョン管理 クアウトする理由 ファイル、複数のバージョン管理ファイル、1 つのプロジェクトまたはプロジェクトデータベース全 体を選択して、リビジョンをチェックアウトできます。プロジェクトまたはプロジェクトデータベー スをチェックアウトした場合は、Serena ChangeMan Version Manager はそれらに含まれている 全バージョン管理ファイルをチェックアウトします。

リビジョンを変更する必要がない場合は、取得オプションを使用します(157 ページの『リビジョンの取得』を参照してください)。

- チェックアウトの際 リビジョンをチェックアウトすると、Version Manager はそのリビジョンをロックし、指定の作業 に何が起こるか ファイルの場所に書き込み可能な作業ファイルを作成します。
 - リビジョンの指定 リビジョンをチェックアウトする際は、リビジョン番号、バージョンラベル、または、プロモーショ ングループによってリビジョンを選択することができます。
 - Issue の関連付け TrackerLink または SourceBridge をインストールしている場合は、〔Check Out (チェックアウト)〕ダイアログボックスで【Associate Issues (Issue の関連付け)】ボタンをクリックして、 Issue をリビジョンに関連付けることができます。



注 リビジョンのチェックアウト時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、 TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。



注 Version Manager デスクトップクライアントが次に起動された時に使用される、Issue 管理の 統合を設定できます。現在開いているクライアントセッションには影響しません。

- Serena Issue 管理の統合ユーティリティを起動します(Windows [スタート] メニューの Serena フォルダから、[ChangeMan Version Manager] - [Issue Management Integration (Issue 管理の統合)]を選択します)。
- 2 [TeamTrack SourceBridge] または [Tracker TrackerLink] を選択します。
- **3** 【OK】または【Launch Version Manager (Version Manager の起動)】ボタンをクリックします。

デフォルトのチェックアウトオプション

リビジョンのチェックアウト時には、以下の初期デフォルト設定が使用されます。これらのデフォルト値は、リビジョンのチェックアウト時に変更できます。また、オプションによっては、[Options (オプション)] ダイアログボックス ([View (表示)] – [Options (オプション)] – [General (全般)] タブ) でデフォルト値を再定義することができます。Version Manager のデフォルトの動作は次のとおりです。

デフォルトリビジョンを、現在作業ファイルの場所として設定されている場所にチェックアウトします。



注 プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、 162 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。

- 選択したプロジェクトのリビジョンのみをチェックアウトし、サブプロジェクトのリビジョンは チェックアウトしません。
- 現在の作業ファイルの場所にすでに書き込み可能な作業ファイルがある場合は、作業ファイルを 上書きする前に確認用ダイアログボックスを表示します。



注 現在の作業ファイルの場所にある作業ファイルが読み取り専用の場合は、確認用ダイアログ ボックスは表示されません。

- 作業ファイルより新しいかどうかにかかわりなく、リビジョンをチェックアウトします。
- プロモーションモデルが有効の場合は、現在リビジョンに割り当てられているプロモーショング ループを保持します。
- ファイルのチェックアウト時に、TrackerLink または SourceBridge の自動起動は行いません。

リビジョンのチェックアウト

リビジョンをチェックアウトするには

- チェックアウトするリビジョンを含むバージョン管理ファイル、プロジェクト、またはプロジェ クトデータベースを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] [Check Out (チェックアウト)]を選択します。[Check Out (チェックアウト)]ダイアログボックスが表示されます。

🚮 Cheo	ck Ou	t Project -	Version Manager Plus	×
Gene	eral 🛛	Advanced	Selected Files	
Che	eck O	ut To:	V:\docWersion Manager Plus]
Rev	ision/	:	[Default Revision]	
lf W	If Workfile Exists: Prompt			
– 6	∋et or	ly if revisio	n newer than workfile	
□ Ir	nclud	e files in su	bprojects	
			Associate Issues]
			OK Cancel Help	



ヒント チェックアウトするのが通常はデフォルトリビジョンである場合は、[View (表示)] – [Options (オプション)] – [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで〈Check Out/ Edit (チェックアウト / 編集)〉チェックボックスの選択を解除することによって、[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスの表示を省略できます。チェックアウトされるリビジョ ンと Issue との関連付けが必要な場合は、[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックス が表示されなくても、[TrackerLink or SourceBridge association (TrackerLink または SourceBridge の関連付け)] ダイアログボックスが自動的に表示されます。

- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - デフォルトのチェックアウトオプションを変更する場合は、次のセクションに進みます。
 - デフォルトのチェックアウトオプションを採用する場合は、【OK】をクリックします。
 Version Manager は、デフォルトリビジョンを指定の作業ファイルの場所にチェックアウトし、バージョン管理ファイルにロックアイコンを付加します。

デフォルトのチェックアウトオプションの変更

- [Check Out (チェックアウト)]ダイアログボックスの [General (全般)] タブで、以下の設定を行います。
 - チェックアウトされるリビジョンの作業ファイルの場所を変更するには、〈Check Out To (チェックアウト先)〉フィールドの場所を編集するか、【Browse (…)】ボタンをクリック して場所を選択します。

パスの変更は今回のチェックアウトに限って有効です。作業ファイルの場所の設定が変更されるわけではありません。



注 1 つのファイルをチェックアウトする場合は、〈Check Out To (チェックアウト先)〉 フィールドにファイルの場所と名前が表示されます。このファイル名は変更でき(新規作業 ファイルが作成される)、それをチェックインすると新規アーカイブが作成されます。

 (複数のバージョン管理ファイル、プロジェクトデータベース、またはプロジェクトをチェッ クアウトする場合のみ)〈Check out using project hierarchy instead of workfile location(s)(プロジェクトの階層構造を使用)〉を選択すると、デフォルトの作業ファイル の場所でなく、〈Check Out To(チェックアウト先)〉フィールドで指定された作業ファイ ルの場所に対応するプロジェクト構造を反映したディレクトリ(場所)にファイルがチェッ クアウトされます。ディレクトリが存在しない場合は、新たに作成されます。このチェック ボックスが選択されない場合は、各プロジェクト/サブプロジェクトに定義されたデフォル トの作業ファイルの場所にファイルがチェックアウトされます。

たとえば、〈Check Out To (チェックアウト先)〉フィールドの値が c:¥projdb¥work で、 このオプションが選択されている場合は、次の表に示されている場所にファイルがチェック アウトされます。

プロジェクトの構造	ファイルのチェックアウト先
/proj1/subproj1	c:\projdb\work\proj1\subproj1
/proj1/subproj2	c:\projdb\work\proj1\subproj2
/proj2/subproj1	c:\projdb\work\proj2\subproj1

 デフォルトリビジョン以外のリビジョンをチェックアウトする場合は、チェックアウトする リビジョンに割り当てられたリビジョン番号、バージョンラベル、またはプロモーショング ループを、(Revision(リビジョン))フィールドに入力するか、【Browse(...)】ボタンを クリックして選択します。

指定したプロモーショングループに関連付けられたリビジョンが見つからない場合は、プロ モーションモデル中で次のレベルのプロモーショングループに関連付けられたリビジョンが チェックアウトされます。

数字で始まる値を指定するには、円記号())を前に付ける必要があります。たとえば、1.2 や 1abc という値の場合は、¥1.2 や ¥1abc のように入力します。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、 162 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。

 〈If Workfile Exists(作業ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストでは、選択した 作業ファイルの場所にチェックアウトしようとした作業ファイルがすでに存在している場合 に、Version Manager にどのように処理させるかを選択します。〈Prompt(確認する)〉が デフォルトの設定で、作業ファイルがすでに同じ場所にあった場合に、どのように処理する かを尋ねるダイアログボックスを表示します。

そのほかのオプションには、複製の作業ファイルが存在していても作業ファイルを追加する 〈Overwrite (上書きする)〉と、作業ファイルの場所に作業ファイルを追加しない〈Don't Overwrite (上書きしない)〉があります。

- リビジョンが作業ファイルよりも新しい場合にのみチェックアウトするには、〈Get only if revision is newer than workfile (作業ファイルより新しいリビジョンの場合のみ実行)〉 チェックボックスを選択します。これによって、変更されなかったリビジョンをチェックア ウトしないので時間の節約が可能です。
- 現在選択しているファイルが、プロモーションモデルが割り当てられたプロジェクトデー タベースに関連付けられている場合は、チェックアウトするリビジョンにプロモーション グループを割り当てることができます。プロモーショングループを割り当てるには、 〈Lowest-level promotion group (プロモーショングループ)〉ドロップダウンリストか ら選択します。

ワークスペース設定により、デフォルトプロモーショングループが定義されている場合もあ ります。現在のワークスペースにデフォルトプロモーショングループが定義されていない場 合は、次のいずれかが行われます。

- プロモーションモデルに複数のプロモーショングループが定義されている場合は、最下位のプロモーショングループを選択するよう求められます。
- プロモーションモデルに定義されているプロモーショングループが1つの場合は、その 最下位のプロモーショングループが使用されます。

〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスが 選択されている場合は、各サブプロジェクトのプロモーションモデルについても同様の動作 が行われます。



注 このフィールドを使用して、チェックアウトするリビジョンを選択することは**できません**。プロモーショングループに基づいてリビジョンをチェックアウトするには、〈Revision (リビジョン)〉フィールドにプロモーショングループを入力します。

- (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクト内のバージョン管理ファイルのリビジョンもチェックアウトする場合、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- (Serena TrackerLink および SourceBridge を使用する場合のみ)チェックアウトする作業ファイルを Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】ボタンをクリックします。〔Association(関連付け)〕ダイアログボックスが開きます。

リビジョンのチェックアウト時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、 TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動されることに注意してください。



注 チェックアウトの操作を行うときに、〔Check Out (チェックアウト)〕ダイアログ ボックスが表示されないように設定され、かつ、関連付けのダイアログボックスが有効で Issue との関連付けが要求されるよう設定されている場合は、リビジョンのチェックアウ ト時に Version Manager によって〔Association (関連付け)〕ダイアログボックスが表 示されます。 **2** 〔Advanced (詳細)〕タブで、以下の設定を行います。

Yiii Check Out Project - Project1		×
General Advanced Selected File	les	
Check out by date		
C Revision newer than:		
C Revision checked in before:		
🗖 Set workfile time to current time		
	OK Cancel Help	

特定の日時のリビジョンをチェックアウトするには、(Check out by date (日付指定))
 チェックボックスを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

また、〈Revision newer than(指定日より新しいリビジョン)〉オプションを選択すると、 特定の日付より後に保存されたリビジョンがチェックアウトされます。〈Revision checked in before(指定日より古いリビジョン)〉を選択すると、特定の日付の前にチェックインさ れたリビジョンがチェックアウトされます。

- 作業ファイルのタイムスタンプを現在の日付と時間に更新するには、〈Set workfile time to current time (作業ファイルのタイムスタンプを現在の時間に設定)〉チェックボックスを 選択します。
- **3** 〔Selected Files (選択されたファイル)〕タブで、以下を行います。

Check Out Project - DIALOGS			×
General Advanced Selected	Files		
Properties			
	ок	Cancel	Help

- チェックアウトしようとしているファイルが適切かどうかを、リスト表示で確認します。
- 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の情報を表示するには、 【Properties (プロパティ)】ボタンをクリックします。〔Selected Files (選択されたファイ ル)〕タブに戻るには、【OK】をクリックします。
- **4** 【OK】をクリックします。選択したリビジョンの書き込み可能なコピーが指定の作業ファイルの 場所にチェックアウトされ、リビジョンはロックされます。

シナリオ:プロジェクトファイルをチェックアウトし、編集する



内田さんは、Server サブプロジェクトに格納されている一連の Checkers ファイルを使って作業を 開始する準備を整えました。彼女は、Server サブプロジェクトを選択し、ステータスバーの一番右 に表示されたこのサブプロジェクトに含まれているファイル総数を確認しました。そして、[Check Out(チェックアウト)] コマンドを選択し、デフォルトのチェックアウト設定を確認しました。

Server サブプロジェクト内のサブプロジェクトに含まれるファイルもすべてチェックアウトする必要があるため、〈Include files in subproject(サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択しました。〈Check Out To(チェックアウト先)〉テキストボックスに表示されている個人用の作業ファイルの場所が c: ¥work であることも確認しました(この場所は、以前のシナリオで内田さんがプライベートワークスペースに指定した作業ファイルの場所です)。内田さんは、ほかの3人の開発者とともに、数ヶ月間このプロジェクトに携わってきました。作業ディレクトリに既存の作業ファイルが存在するかどうかわからないので、〈If Workfile Exists(作業ファイルが存在する場合)〉オプションを〈Prompt(確認する)〉に設定しました。これで、作業ディレクトリにある書き込み可能な作業ファイルに対応するファイルがチェックアウトされたときに、確認のダイアログボックスが表示されます。

内田さんは、次に、〔Advanced (詳細)〕タブのオプションを確認しました。彼女は、作業ディレク トリにある既存の作業ファイルよりも古いファイルをチェックアウトする必要はないので、〈Check out by date (日付指定)〉オプションを選択しました。これで、既存の作業ファイルより新しいファ イルだけがチェックアウトされます。【OK】をクリックしました。Version Manager は、Server プロジェクトおよびそのサブプロジェクトである Library に含まれる全ファイルの書き込み可能なコ ピーを取得し、それらを c:\work にコピーします。バージョン管理ファイルおよび選択したリビ ジョンには、ロックアイコンが付けられます。

内田さんは、[View (表示)] - [Options (オプション)] - [Dialog Behavior (ダイアログボッ クス)] タブを選択し、プロジェクトおよびバージョン管理ファイル両方の〈Check Out (チェック アウト)〉オプションの選択を解除しました。次にファイルをチェックアウトしたときにダイアログ ボックスが表示されないようにするためです。彼女はまた、[Applications (アプリケーション)] タ ブの〈Default Double-Click Action (ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉を〈Edit (編 集)〉に変更しました。以降、内田さんが [Check Out (チェックアウト)] を選択すると、Version Manager は、[Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスで現在指定されているパラメー タを使って、自動的にファイルをチェックアウトします。また、バージョン管理ファイルをダブルク リックすると、Version Manager は、適切なエディタでファイルを開きます。ファイルの読み取り 専用バージョンを表示するには、ファイルを選択して [Edit (編集)] - [View File (ファイルの表 示)] を選択します。

内田さんは、最初のファイルをダブルクリックしました。〈Use default Windows associations (Windows のデフォルトの関連付けを使用)〉チェックボックスを選択していたので、ファイルは適 切なエディタで開かれました。内田さんは、ファイルを変更し、保存した後で、閉じました。そのと き、内田さんは、自分が行った変更が Chess プロジェクトのほかの作業に影響を与えることに気が つきました。そこで、readme ファイルにコメントを追加して、Chess 開発者に彼女の変更を確認 してもらうことにしました。Chess プロジェクトの readme ファイルをダブルクリックしました。 ファイルはチェックアウトされ、自動的にメモ帳で開かれました。内田さんは、readme ファイルに コメントを追加し、保存した後で、ファイルを閉じました。

このとき、別の開発者である江藤さんが Checkers サブプロジェクトの Library を選択し、 [Actions (アクション)] - [Check Out (チェックアウト)] を選びました。データベースは、す でに井上さんによってリビジョンに多重ロックを使用できるように設定されていました。また、プロ モーションモデルが定義されて使用できる状態です。多重ロックが使用できるように、最下位レベル のプロモーショングループが 3 つ (Development、Bug_Fix、および Temp) あるモデルが定義さ れています。ライブラリファイルのプライマリロックは内田さんが持っています。そのため、ライブ ラリファイルが内田さんによってロックされていることを示すメッセージが江藤さんに表示され、こ れらのファイルのブランチを作成するかどうか尋ねられます。ブランチを作成すると、彼はこれらの ファイルのセカンダリロックを所有することになります。彼は【Yes (はい)】をクリックしました。 プロジェクトデータベースに対しプロモーションモデルが有効な場合、チェックアウトした各リビ ジョンは、最下位レベルのプロモーショングループに関連付けられている必要があります。そのた め、Version Manager は、最下位レベルの別のプロモーショングループを選択するよう江藤さんに 求めました(各最下位レベルのプロモーショングループは、アーカイブ内の1つのリビジョンだけ を割り当てることができます)。内田さんは、Development プロモーショングループをトランクリ ビジョンと関連付けています。江藤さんは、バグを修正していないので、Library ブランチに Temp を割り当てて、【OK】をクリックしました。後で、江藤さんは変更をメインの development トラン クとマージする必要があります。



リビジョンの取得

取得とチェックアウト	156
デフォルトの取得オプション	156
リビジョンの取得	157
シナリオ:プロジェクトファイルの読み取り専用コピーをチェックアウトする	160

取得とチェックアウト

- リビジョンを取得す 作業ファイルが必要であるが更新の必要がない場合、リビジョンを取得します。リビジョンを取得す る理由 る際は、1 つのバージョン管理ファイル、複数のバージョン管理ファイル、1 つのプロジェクトまた はプロジェクトデータベース全体を選択します。リビジョンを変更する必要がある場合は、〈Check Out(チェックアウト)〉オプションを使用します(148 ページの『リビジョンのチェックアウト』 を参照してください)。
- 取得の際に何が起こ リビジョンを取得すると、Serena ChangeMan Version Manager はリビジョンの状態を保持しるか (ロックまたはロック解除)、指定の作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルを作成します。
 - リビジョンの指定 リビジョンを取得する際、リビジョン番号、バージョンラベルまたはプロモーショングループによっ てリビジョンを指定できます。

プロジェクトおよび プロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択してリビジョンを取得する場合は、選択された プロジェクトデータ プロジェクトまたはプロジェクトデータベース内のすべてのバージョン管理ファイルに関連するリビ ベースの取得 ジョンが取得されます。

デフォルトの取得オプション

管理者がプロジェクトコンフィグレーションのデフォルトを変更していない限り、リビジョンを取得 すると、Version Manager は以下を実行します。

- システムで指定されているテンポラリディレクトリにデフォルトリビジョンの読み取り専用コ ピーを作成します。Windows では、テンポラリディレクトリが TEMP 環境変数で定義されてい ます。Version Manager は、このディレクトリに ¥pvcs というサブディレクトリを作成しま す(例:\temp\pvcs)。UNIX では、pvcsvmux スクリプトにより、テンポラリディレクトリが /tmp/pvcs に設定されています。
- 選択したプロジェクトのリビジョンのみを取得し、プロジェクトのサブプロジェクトにあるリビジョンは取得しません。
- 現在の作業ファイルの場所に書き込み可能な作業ファイルがすでにある場合は、作業ファイルを 上書きする前に確認用ダイアログボックスを表示します。



注 現在の作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルがある場合は、確認用ダイアログ ボックスは表示されません。

- 作業ファイルよりも新しいかどうかに関係なく、リビジョンを取得します。
- プロモーションモデルが有効な場合は、現在割り当てられているプロモーショングループを保持します。

リビジョンの取得

リビジョンを取得するには

1 取得するリビジョンに関連付けられたバージョン管理ファイル、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。



注 複数のプロジェクトまたはフォルダに対して、取得を実行している場合に、ダイアログボックスに表示される作業ファイルの場所は、共通の親プロジェクトの作業ファイルの場所となります。詳しくは 34 ページの『作業ファイルの場所』を参照してください。

2 [Actions (アクション)] - [Get (取得)]を選択します。〔Get (取得)〕ダイアログボックス が表示されます。

🚮 Get Project - Versio	on Manager Plus		
General Advanced	3 Selected Files		
Сору То:	V:\docWersion Manager Plus		
	Copy out using project hierarchy instead of workfile location(s)		
Revision:	[Default Revision]		
If Workfile Exists:	Prompt		
🗖 Make workfile wr	itable		
Get only if revision newer than workfile			
lnclude files in s	ubprojects		
	OK Cancel Help		



注 通常、デフォルトリビジョンを取得するのであれば、[View (表示)] – [Options (オプ ション)] – [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで〈Get/View (取得 / 表示)〉 チェックボックスの選択を解除し、[Get (取得)] ダイアログボックスの表示を省略することが できます。

- 3 次のいずれかの操作を行います。
 - デフォルトの取得オプションを変更する場合は、次のセクションに進みます。
 - デフォルトの取得オプションを使用する場合は、【OK】をクリックします。選択したリビジョンがコピーされ、読み取り専用作業ファイルが指定の作業ファイルの場所に置かれます。

デフォルト取得オプションのオーバーライド

- 1 〔Get(取得)〕ダイアログボックスの〔General(全般)〕タブで、以下の設定を行います。
 - 作業ファイルの場所を変更するには、〈Copy To (コピー先)〉テキストボックスで場所を変 更するか、【Browse (…)】ボタンをクリックして場所を選択します。

パスの変更は今回の取得に限って有効です。作業ファイルの場所の設定が変更されるわけで はありません。



注 1 つのファイルを取得する場合は、〈Copy To (コピー先〉〉テキストボックスにはファ イルの場所と名前が表示されます。このファイル名は変更でき(新規ファイルが作成され る)、それをチェックインすると新規アーカイブが作成されます。

- (複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、およびプロジェクトデータベースの場合のみ)絶対パスのバージョン管理ファイルまたはサブディレクトリ内のバージョン管理ファイルの作業ファイルの場所を変更する場合は、〈Copy out using project hierarchy instead of workfile location(s)(プロジェクトの階層構造を使用)〉チェックボックスを選択します。このオプションを選択すると、〈Copy To(コピー先〉〉テキストボックスのパスに対応するプロジェクト構造に準じたパスまたはサブディレクトリが作成されます。
- デフォルトリビジョン以外のリビジョンを取得する場合は、取得するリビジョンに割り当てられたリビジョン番号、バージョンラベルまたはプロモーショングループを、〈Revision (リビジョン)〉テキストボックスに入力するか、【Browse (...)】ボタンをクリックして選択します。

数字で始まるバージョンラベルを指定する場合は、¥1.2 や ¥1abc のように、先頭に円記号())を付けて入力する必要があります。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、 162 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。

 〈If Workfile Exists(作業ファイルが存在する場合)〉ドロップダウンリストでは、選択した 作業ファイルの場所に取得しようとした作業ファイルがすでに存在している場合の処理を選 択します。「Prompt(確認する)」がデフォルトの設定で、これは、複製の作業ファイルが あった場合、どのように処理するかを尋ねるダイアログボックスを表示します。

そのほかのオプションには、複製の作業ファイルが存在していても作業ファイルを追加する「Overwrite(上書きする)」と、作業ファイルの場所に作業ファイルを追加しない「Don't Overwrite(上書きしない)」があります。

- 選択しているファイルが、プロモーションモデルが作成されているプロジェクトデータベースに関連付けられている場合は、プロモーショングループを選択してリビジョンを取得することができます。プロモーショングループが割り当てられたリビジョンを取得するには、 〈Promotion Group (プロモーショングループ)〉ドロップダウンリストからそのプロモーショングループを選択します。指定したプロモーショングループが割り当てられたリビジョンが見つからない場合は、そのプロモーションモデルで次のレベルのプロモーショングループが割り当てられたリビジョンが取得されます。
- リビジョンを書き込み可能にするには、〈Make workfile writable (書き込み可能な作業 ファイル〉〉チェックボックスを選択します。これは、テストが目的でリビジョンのコピーを 作成する場合に便利です。リビジョンはロックされず、ほかのユーザがアクセスすることが できます。
- リビジョンが作業ファイルよりも新しい場合にのみ取得するには、(Get only if revision is newer than workfile(作業ファイルより新しいリビジョンの場合のみ実行)) チェックボッ クスを選択します。このチェックボックスを選択すると、変更されなかったリビジョンを取 得しないので時間の節約になります。

- (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクト内のバージョン管理ファイルのリビジョンも取得する場合は、(Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む))チェックボックスを選択します。
- **2** 〔Advanced (詳細)〕タブで、以下の設定を行います。

🙀 Get Project - Project1			×
General Advanced Selected Files			
Check out by date			
C Revision newer than:			
C Revision checked in before:			
🔲 Set workfile time to current time			
	ок	Cancel	Help

特定の日時のリビジョンを取得するには、〈Check out by date (日付指定)〉チェックボックスを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。

〈Revision newer than (指定日より新しいリビジョン)〉ラジオボタンを選択すると、特定の日付の後に保存されたリビジョンが取得されます。また、〈Revision checked in before (指定日より古いリビジョン)〉を選択すると特定の日付の前にチェックインされたリビジョンが取得されます。

- 作業ファイルのタイムスタンプを現在の日付と時間に更新するには、〈Set workfile time to current time (作業ファイルのタイムスタンプを現在の時間に設定)〉チェックボックスを 選択します。
- **3** 〔Selected Files (選択されたファイル)〕タブで以下を行います。

Get Project - DIALOGS	×
General Advanced Selected Files	
DIALOGS 4TEST.HLP branch.bd CanvasTree.bd Element.class ElementList.class Outline.class sample.class Temp TreeCanvas.class TreeView.class	
Properties	
OK Cancel	Help

- 取得しようとしているファイルが適切かどうかを確認するには、リスト表示を見ます。
- 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の内容を表示するには、 【Properties (プロパティ)】ボタンをクリックします。〔Selected Files (選択されたファイ ル)〕タブに戻るには、【OK】をクリックします。
- **4** 【OK】をクリックします。選択したリビジョンのコピーがそれぞれの作業ファイルの場所にコ ピーされます。

シナリオ:プロジェクトファイルの読み取り専用コピーをチェックア ウトする



小川さんは Chess プロジェクトの新しいメンバーです。彼女の最初の仕事は、11 月 10 日にビルド されたアプリケーションのチェスボードレイアウトにあるいくつかのバグを修正することです。作業 にとりかかる前に、このゲームの全コードを確認して各コンポーネントを把握し、問題のあるモ ジュールを確認しておくことにしました。これらのファイルは編集しないので、ほかのユーザが使用 しないようにロックする必要はありません。

小川さんは Chess プロジェクトを選択し、[Get (取得)] コマンドを選択しました。ファイルのコ ピーは 1 つのローカルディレクトリに格納したいので、〈Copy To (コピー先)〉テキストボックス で、デフォルトの作業ファイルの場所を c:¥review という新規の場所に変更しました。 〈Revisions (リビジョン)〉テキストボックスの横の【Browse (...)】をクリックして「Version 4.3 Chess Nov_11」というバージョンラベルを選択しました。このラベルは、11 月 10 日にビル ドされた Chess アプリケーションと関連する全リビジョンに付けられたものです。また、書き込み 可能な作業ファイルは選択せず、デフォルトの設定、ファイルの読み取り専用バージョンにアクセス するようにしました。サブプロジェクトにあるファイルも含めるオプションを選択して【OK】をク リックしました。Version Manager は、Version 4.3 Chess Nov_11 バージョンラベルに関連する プロジェクトファイルをすべてコピーしました。これで、既存の作業を確認できます。



リビジョンの操作

リビジョンについて	162
	162
リビジョンの表示	164
リビジョンの編集	165
変更の説明の追加 / 変更	167
リビジョンの削除	168

リビジョンについて

リビジョンは、バージョン管理ファイルの一形式です。Serena ChangeMan Version Manager か らリビジョンをチェックアウトすることによって、作業ファイルを何度でも作成することができま す。リビジョンをチェックアウトすると、作業ファイルとなり、バージョン管理ファイルによって指 定された作業ファイルの場所に格納されます。作業ファイルをチェックインして戻すと、バージョン 管理ファイルの新規リビジョンとなり、バージョン管理ファイルに関連付けられたアーカイブに格納 されます。

初めて作業ファイルを追加した場合は、バージョン管理ファイルの最初のリビジョン(1.0)として アーカイブに格納されます。たとえば、以下のバージョン管理ファイル、「bridge.cpp」には 1.0、 1.1、1.2 および 1.3 という 4 つのバージョンがあります。1.0 が最初のバージョンです。



デフォルトバージョンの定義

リビジョンをチェックアウトしたり、取得したりすると、ほかのリビジョンを指定しないかぎり、デフォルトバージョンがチェックアウトされます。デフォルトでは、デフォルトバージョンは、バージョン管理ファイルの最新のリビジョン(チップリビジョン)です。また、いずれかのバージョンラベルをデフォルトバージョンとして定義することもできます。

 プロジェクトワーク デフォルトバージョンは、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースのワークスペース設定
 スペース設定 〈Default Version (デフォルトバージョン)〉フィールドに表示されます([File (ファイル)] ー [Properties (プロパティ)] ー [Workspace Settings (ワークスペースの設定)] タブ)。管理者ま たはプロジェクトリーダーは、デフォルトバージョンを、プロジェクトコンフィグレーションオプ ションで指定できます。プロジェクトデータベースにデフォルトバージョンが指定されている場合 は、そのプロジェクトデータベース内の全プロジェクトがデフォルトバージョンの設定を継承しま す。詳細は、114 ページの『ワークスペースの階層』を参照してください。

> プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトバージョンを定義できます。デフォルト バージョンを定義すると、Version Manager は、指定したデフォルトバージョンに関連するリビ ジョンを自動的にチェックアウトしたり、取得したりします。

注 プロジェクトデータベースに自動ブランチやマージが設定されている場合は、必ずデフォルト バージョンを定義する必要があります。ブランチおよびマージの詳細は、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』の『ファイルのブランチとマージ』を参照してください。 デフォルトリビジョンを定義するには

- 1 デフォルトバージョンを定義するプロジェクトデータベースまたはプロジェクトを選択します。
- [File (ファイル)] [Properties (プロパティ)]を選択し、〔Workspace Settings (ワーク スペースの設定)〕タブを選択します。

Properties	:				×
Project	Workspace	e Settings	Granted Privileg	es	
Workfi Defaul	le Location: t Version:		orKlarchives	•	
Branch	n Version:				
Base	/ersion:				
Workspace Information Root Workspace These settings apply to all users of the root workspace.					
			OK	Cancel	Help

3 〈Default Version (デフォルトバージョン)〉フィールドに任意のバージョンラベルを入力するか、【Browse (…)】ボタンをクリックしてデフォルトバージョンを選択します。〔Select a version label (バージョンラベルの選択)〕ダイアログボックスが表示されます。

🎇 Select a version label		×
archives	Version Label 📃 💺	Revision
access.db basecfg.cfg ⊕bridge ⊕c checkers ⊕c chess	TEST	1.0
<u>↓</u>	<u> </u>	
	OK	Cancel Help

バージョンラベルを入力する際は、大文字と小文字を正確に入力してください。〈Default Version(デフォルトバージョン〉〉フィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

4 【OK】をクリックします。

リビジョンの表示

リビジョンの表示は、基本的にはリビジョンの取得と同じ機能です。Version Manager により、デフォルトリビジョンの読み取り専用のコピーが作成されます。ただし、リビジョンを表示した場合は、以下の動作も実行されます。

- 作業ファイルをテンポラリディレクトリ (Windows では ¥temp¥pvcs、UNIX では /tmp/ pvcs) にコピーします。Windows では、テンポラリディレクトリが TEMP 環境変数により定 義されています。UNIX では、pvcsvmux スクリプトで定義されています。
- 作業ファイルに関連付けられたアプリケーションを起動し、ファイルを開きます。ファイルの表示に使用されるエディタは、Windows によりデフォルトで関連付けられているか、[View(表示)] [Options(オプション)]で指定したエディタです。



注 リビジョンを特定のアプリケーションと関連付ける方法については、140 ページの『デフォルトエディタの設定』を参照してください。

リビジョンを表示するには

1 ファイル表示部で、表示するバージョン管理ファイルを選択し、[Edit (編集)] - [View File (ファイルの表示)]を選択します。[Get (取得)]ダイアログボックスが表示されます。

Get File - Element.class	s X
General Advanced	Selected Files
Сору То:	F:\TEMP\Element.class
Revision:	[Default Revision]
If Workfile Exists:	Overwrite
🔲 Writable workfile	
	OK Cancel Help



注 通常はデフォルトリビジョンを表示するのであれば、[View (表示)] – [Options (オプ ション)] – [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで、〈Get/View (取得 / 表 示)〉チェックボックスの選択を解除しておくと、[Get (取得)] ダイアログボックスの表示 を省略できます。 2 【OK】をクリックします。関連付けられたアプリケーションによって作業ファイルの読み取り専 用コピーが開かれます。



注 〈Default Double-Click Action(ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉の設定 ([View (表示)] - [Options (オプション)] - [Applications (アプリケーション)] タブ) で〈Ask (表示 / 編集の選択)〉または〈View (表示)〉が選択されている場合は、ファイル表 示部でバージョン管理ファイルをダブルクリックすると、[Select View/Edit (表示 / 編集の選 択)] ダイアログボックスが表示されます。〈View (表示)〉を選択して【OK】をクリックしま す。[Get (取得)] ダイアログボックスに選択したファイルが表示されます。【OK】をクリック します。

Select View or Edit	×
Select	
View	
C Edit	
OK Can	cel Help

リビジョンの編集

リビジョンの編集は、チェックアウト機能と同様の機能を提供します。つまり、デフォルトリビジョ ンを、現在作業ファイルの場所に設定されている場所からチェックアウトします。ただし、リビジョ ンを編集する際は、作業ファイルに関連付けられたアプリケーションが起動し、リビジョンの書き込 み可能なコピーが開きます。

このリビジョンは、現在作業ファイルの場所として設定されている場所ではなく、システムで定義されているテンポラリディレクトリにコピーされます。Windows では、テンポラリディレクトリが TEMP 環境変数で定義されています。Version Manager は、/pvcs ディレクトリをテンポラリディ レクトリ(たとえば、\temp\pvcs)に作成します。UNIX では、pvcsvmux スクリプトにより、テ ンポラリディレクトリが /tmp/pvcs に設定されています。

リビジョンを編集するには

 ファイル表示部で、編集するバージョン管理ファイルを選択し、[Edit (編集)] - [Edit File (ファイルの編集)]を選択します。〔Check Out (チェックアウト)〕ダイアログボックスが表示 されます。

Check Out File - FileNew	.bmp 🗙
General Advanced	Selected Files
Check Out To:	Files\PVCS66\VM\SampleDb\work\bridge\hlp\FileNew.bmp
Revision:	[Default Revision]
If Workfile Exists:	Prompt
Lowest-level promotion group:	[Default Promotion Group]
	Associate SCRs
	OK Cancel Help



注 通常はデフォルトリビジョンを編集するのであれば、[View (表示)] – [Options (オプ ション)] – [Dialog Behavior (ダイアログボックス)] タブで、〈Check Out/Edit (チェッ クアウト / 編集)〉チェックボックスの選択を解除しておくと、[Check Out (チェックアウ ト)] ダイアログボックスの表示を省略できます。

2 【OK】をクリックします。リビジョンがロックされ、関連付けられたアプリケーションで作業 ファイルが開かれます。



注 〈Default Double-Click Action(ダブルクリック時のデフォルトアクション)〉の設定 ([View (表示)] - [Options (オプション)] - [Applications (アプリケーション)] タブ) で〈Ask (表示 / 編集の選択)〉または〈View (表示)〉が選択されている場合は、ファイル表 示部でバージョン管理ファイルをダブルクリックすると、[Select View/Edit (表示 / 編集の選 択)] ダイアログボックスが表示されます。〈View (表示)〉を選択すると、選択したファイル が表示された [Check Out (チェックアウト)] ダイアログボックスが表示されるので、【OK】 をクリックします。[Select View/Edit (表示 / 編集の選択)] ダイアログボックスが表示され ないようにするには、〈Default Double-Click Action(ダブルクリック時のデフォルトアク ション)〉で〈Edit (編集)〉を選択します。

Select View or Ec	lit	×
Select		
C View		
• Edit		
ОК	Cancel	Help

変更の説明の追加 / 変更

バージョン管理ファイルやリビジョンの説明は、いつでも追加したり、変更したりできます。変更の 説明は、特定のリビジョンに加えた変更を識別するのに重要な役割を果たします。

リビジョンまたはバージョン管理ファイルの変更の説明を追加または変更するには

- **1** 変更の説明を追加または変更するバージョン管理ファイルまたはリビジョン(リビジョン表示部 が表示されている場合)を選択します。
- 2 [File (ファイル)] [Properties (プロパティ)]を選択します。[Properties (プロパティ)] ダイアログボックスが表示されます。バージョン管理ファイルを選択した場合は、[Versioned File (バージョン管理ファイル)]タブが表示されています。リビジョンを選択した場合は [Revision (リビジョン)]タブが表示されています。

Y Properties	×
Element.class	Revision Version Labels Promotion Groups Image: 1.1 1.1 Checked In: 1/12/99 11:42 AM Modified: 1/12/99 11:41 AM Author: patrick Locked By: Description: Added java strings. Incorporated changes from other Developers. Image:
	OK Cancel Help

- 3 バージョン管理ファイルかリビジョンのどちらかを変更する場合は、左側の表示部でアイテムを 選択します。タブは選択したアイテムによって切り替わります。
- **4** 〈Description (説明)〉フィールドで説明を変更します。
- **5** 手順1で複数のバージョン管理ファイルまたはリビジョンを選択した場合は、ファイルまたは リビジョンごとに手順3 ~ 4を繰り返します。
- **6** 【OK】をクリックします。

リビジョンの削除

特定のリビジョンをアーカイブから削除できます。

警告! リビジョンの削除は取り消すことができません。また、削除したリビジョンは復元できません。

リビジョンを削除するには

- 削除するリビジョンに関連するバージョン管理ファイルを選択します。リビジョン表示部が表示 されている場合は、削除するリビジョンを選択します。
- [File (ファイル)] [Delete (削除)]を選択するか、【Delete (削除)】をクリックします。 アイテムの削除を確認するメッセージが表示されます。
- **3** 【Yes (はい)】をクリックします。リビジョンはアーカイブから完全に削除され、このアクションを取り消すことはできません。



作業ファイルのチェックイン

チェックインについて	170
デフォルトのチェックインオプション	170
作業ファイルのチェックイン	171
シナリオ:一連のプロジェクトファイルをチェックインする	174

チェックインについて

作業ファイルはいつ 作業ファイルは、変更した後、以下のような場合にチェックインします。 チェックインするか パッパー イン・ターマー レス・アント・スロック

- 作業ファイルの変更を保存する必要がある場合
- 変更の結果を、プロジェクトチームのほかのメンバーにも入手可能にする必要がある場合

作業ファイルをチェックインすると、そのたびに、バージョン管理ファイルの新しいリビジョンが作 成されます。

チェックインの間に デフォルトでは、作業ファイルをチェックインすると、新しいリビジョンが作成され、それに次の番 何が起こるか 号が割り当てられ、作業ファイルの場所に読み取り専用の作業ファイルが残されます。

プロジェクトおよ プロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択して作業ファイルをチェックインすると、

びプロジェクトデ Version Manager は、選択したプロジェクトまたはプロジェクトデータベースに含まれるすべての ータベースのチェ バージョン管理ファイルに関連する作業ファイルをチェックインします。

Issue の関連付け TrackerLink または SourceBridge をインストールしている場合は、〔Check In (チェックイン)〕 ダイアログボックスで【Associate Issues (Issue の関連付け)】ボタンをクリックして、Issue を 作業ファイルに関連付けることができます。



ックイン

注 作業ファイルのチェックイン時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、 TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。



注 Version Manager デスクトップクライアントが次に起動されたときに使用される、Issue 管理の統合を設定できます。現在開いているクライアントセッションには影響しません。

- Serena Issue 管理の統合ユーティリティを起動します(Windows [スタート] メニューの Serena フォルダから、[ChangeMan Version Manager] - [Issue Management Integration (Issue 管理の統合)]を選択します)。
- 2 [TeamTrack SourceBridge] または [Tracker TrackerLink] を選択します。
- **3** 【OK】または【Launch Version Manager (Version Manager の起動)】をクリックします。

デフォルトのチェックインオプション

作業ファイルのチェックイン時には、以下の初期デフォルト設定が使用されます。これらのデフォルト値は、作業ファイルのチェックイン時に変更できます。また、オプションによっては、〔Options (オプション)〕ダイアログボックス([View (表示)] – [Options (オプション)] – [General (全般)〕タブ)でデフォルト値を再定義することができます。Version Manager のデフォルトの動作は次のとおりです。

- チェックアウト先の場所でファイルをチェックインします。ファイルにチェックアウト先の場所 がない場合(ファイルがロックされているけれども、チェックアウトされていない場合)、別の 場所を指定しないかぎり、現在のワークスペースに定義されているデフォルトの作業ファイルの 場所にチェックインされます。
- 作業ファイルに次の番号を割り当てて、次のリビジョンとしてアーカイブに格納し、リビジョンのロックを解除します。

- 現在作業ファイルの場所に設定されている場所に、作業ファイルの読み取り専用コピーを残します。
- 選択したプロジェクトの作業ファイルのみをチェックインし、プロジェクトのサブプロジェクト に含まれる作業ファイルはチェックインしません。
- 作業ファイルがまったく変更されていない場合、または直前のリビジョンよりも古い場合は、作業ファイルをチェックインする前に確認のダイアログボックスを表示します。
- プロモーションモデルが有効な場合は、現在リビジョンに割り当てられているプロモーショング ループを保持します。
- バージョンラベルは割り当てません。
- ファイルのチェックイン時は、Issue の関連付けのための TrackerLink または SourceBridge の自動起動は行いません。
- ブランチは作成しません(チェックアウトされた作業ファイルが最新のリビジョンでない場合を 除く)。

作業ファイルのチェックイン

作業ファイルをチェックインするには

- 作業ファイルまたはチェックインする作業ファイルを含むプロジェクトまたはプロジェクトデー タベースを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] [Check In (チェックイン)]を選択します。[Check In (チェックイン)]ダイアログボックスが表示されます。

Check In Project Database - Sample	Project Database 🗙
General Advanced Selected F	iles
Check In From:	D\Program Files\PVCS\VM\SampleDb\work
	Check in using project hierarchy instead of workfile location(s)
Description:	
	Use change description for all
If Workfile Unchanged or Older:	Prompt 💌
After Check In:	Keep read-only workfile 💌
Include files in subprojects	Associate Issues
	OK Cancel Help

3 〈Description (説明)〉フィールドに、作業ファイルに加えた変更についての説明を入力します。 プロジェクトチームのほかのメンバーがほかのリビジョンと区別できるように記述します。

- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - デフォルトのチェックインオプションを変更する場合は、次のセクションに進みます。
 - デフォルトのチェックインオプションを変更しない場合は、【OK】をクリックします。選択した作業ファイルはチェックインされ、読み取り専用の作業ファイルが、指定の作業ファイルの場所に置かれます。

デフォルトのチェックインオプションの変更

- **1** 〔Check In (チェックイン)〕ダイアログボックスの〔General (全般)〕タブで、以下の設定を 行います。
 - チェックインされる作業ファイルのあるチェックイン元の場所を変更するには、〈Check In From (チェックインするファイル〉〉フィールドの場所を編集するか、【Browse (…)】ボ タンをクリックして場所を選択します。

デフォルトでは、〈Check In From (チェックインするファイル)〉の場所は、ファイルが チェックアウトされた場所です。このパスを変更すると、このチェックインについてのみ チェックインの場所が変更されます。



注 作業ファイルのチェックアウト先の場所がチェックイン元の場所と一致しない場合は、 警告が表示されます。

- (複数のバージョン管理ファイル、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースをチェック インする場合のみ)絶対パスを持つ作業ファイルおよびサブディレクトリの作業ファイルの チェックイン元の場所を変更するには、〈Check in using project hierarchy instead of workfile location(s)(プロジェクトの階層構造を使用)〉チェックボックスを選択します。 これにより、〈Check In From (チェックインするファイル)〉フィールドのパスに対応する プロジェクト構造に準じたパスおよびサブディレクトリが作成されます。
- (複数作業ファイルの追加の場合のみ)追加する作業ファイルごとに個別の説明を Version Manager からプロンプトさせる場合は、(Use change description for all (この説明をす べてのファイルに適用))チェックボックスを選択解除します。解除しないと、同じ説明がす べてのファイルに使用されます。
- 〈If Workfile Unchanged or Older (変更がないか、リビジョンより古い場合)〉では、 チェックインしようとした作業ファイルが変更されていないか前のリビジョンよりも古い場 合の Version Manager による処理を選択します。デフォルトオプションは〈Prompt(確 認する)〉で、作業ファイルが変更されていない場合の動作を確認するダイアログボックスが 表示されます。

また、〈Check In(チェックインする〉〉を選択すると、作業ファイルがまったく変更されて いない場合でもチェックインが行われます。〈Don't Check In(チェックインしない〉〉を選 択すると、このような場合に作業ファイルはチェックインされません。

- 〈After Check In (チェックイン後の作業ファイル)〉ドロップダウンリストで、作業ファイ ルをチェックインした後の Version Manager による作業ファイルの処理を選択します。 〈Check In From (チェックインするファイル)〉の場所から作業ファイルを削除するには、 〈Delete workfile (削除する)〉を選択します。作業ファイルの場所に、読み取り専用の作業 ファイルのコピーを残しておく場合は、〈Keep read-only workfile (読み取り専用で残す)〉 を選択します。作業ファイルがチェックインされると作成されるリビジョンをロックするに は、〈Keep revision locked (チェックアウト状態を保持)〉を選択します。
- (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクトにある作業 ファイルをチェックインするには、(Include files in subprojects (サブプロジェクトの ファイルも含む))チェックボックスを選択します。

 (Serena Tracker または SourceBridge を使用する場合のみ)チェックインする作業ファイ ルを Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】ボタンをクリッ クします。〔Association (関連付け)〕ダイアログボックスが開きます。



注 作業ファイルのチェックイン時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合 は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。

2 〔Advanced (詳細)〕タブで、以下の設定を行います。

Check In File - AfxCore	ə.rtf	×
General Advanced	Selected Files	
Revision:	[Default Revision]	
	Force branch	
Version Label:		
Γ	Float label with tip	
lf	Version Label Exists: Prompt 🔹	
	·	
	OK Car	ncel Help

 チェックインする作業ファイルのリビジョン番号として、新しいリビジョン番号として次の 番号以外を付ける場合は、新しいリビジョン番号を〈Revisions(リビジョン)〉フィールド に入力します。

このフィールドには 2 つの目的があります。主な目的は、チェックインする作業ファイルに 新しいリビジョン番号を指定することです。新しいリビジョン番号をこのフィールドに入力 する必要があります。この番号は選択できません。

このフィールドの2つ目の目的は、ロックされてチェックアウトされたバージョン管理ファ イルに複数のリビジョンがある場合に、ロックされたどのリビジョンをチェックインするか を指定することです。

ロックされているリビジョンのいずれかのリビジョン番号を選択するか、関連付けられているバージョンラベルまたはプロモーショングループを選択します。リビジョン番号が選択されていない場合は、選択するよう求められます。

リビジョンを指定するには、〈Revision(リビジョン〉〉フィールドにリビジョン番号を入力 します。

- このリビジョンで強制的にブランチを作成するには、〈Force Branch (強制的にブランチさせる)〉チェックボックスを選択します。
- バージョンラベルを割り当てるには、〈Version Label (バージョンラベル〉〉フィールドに バージョンラベルを入力するか、【Browse (…)】ボタンをクリックしてバージョンラベル を選択します。バージョンラベルを入力する場合は、大文字と小文字が区別されることに注 意してください。
- バージョンラベルを現在のトランクまたはブランチの最新(チップ)リビジョンに割り当て ておくには、(Float label with tip (浮動ラベル))チェックボックスを選択します。

 〈If Version Label Exists (バージョンラベルが存在する場合)〉ドロップダウンリストでは、 選択したアーカイブ内のリビジョンにすでに同じバージョンラベルが割り当てられていた場 合の Version Manager の処理を選択します。デフォルトオプションは〈Prompt(確認す る)〉で、同一のバージョンラベルが存在していた場合の動作を尋ねるダイアログボックスが 表示されます。

また、〈Reassign (再度割り当てる)〉を選択すると、チェックインするリビジョンに、バー ジョンラベルが再度割り当てられます。〈Don't Reassign (再度割り当てない)〉を選択する と、すでにそのバージョンラベルが存在する場合は、リビジョンがチェックインされません。

3 〔Selected Files (選択されたファイル)〕タブで以下を行います。

Check In Proje	ct - DIALOG	S			×
General Ac	ivanced S	elected Files			
	DGS TEST.HLP ranch.bt 2anvasTree.b 3lement.class 3utline.class ample.class 7eeCanvas.c reeView.clas	kt S lass lass S			
Properties	;				
<u></u>			ОK	Cancel	Help

- チェックインしようとしているファイルが適切かどうかを確認するには、このタブに表示されたファイルのリストを見ます。
- 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の情報を表示するには、 【Properties (プロパティ)】ボタンをクリックします。〔Selected Files (選択されたファイ ル)〕タブに戻るには、【OK】をクリックします。
- **4** 【OK】をクリックします。選択した作業ファイルは、それぞれに指定されたアーカイブの場所に チェックインされます。

シナリオ:一連のプロジェクトファイルをチェックインする



内田さんは Checkers ファイルへの一連の変更を完了し、Version Manager に変更を保存しようと しています。全ファイルに対して変更を行ったわけではないのですが、時間を節約するため、プロ ジェクト全体をチェックインすることにしました。彼女はプロジェクトを選択し、〈Check In (チェックイン)〉オプションを選択しました。

まず、〈Check In From (チェックインするファイル)〉フィールドに自分の作業ディレクトリである c:\work が表示されていることを確認します。次に、変更に関する説明として「ドラッグアンド ドロップ機能の定義を完了」と入力します。この説明は各リビジョンの説明文として格納されます。 チェックインするファイルの中には変更していないファイルもあります。そこで、それらのファイル をチェックインするたびに確認ダイアログボックスを表示させたくはないので、〈If Workfile Unchanged or Older (変更がないか、リビジョンより古い場合)〉ドロップダウンリストで〈Don't Check In (チェックインしない)〉を選択しました。これで、変更したファイルのみがチェックイン されます。

内田さんは Checkers ファイルにさらに編集を加える必要があるので、ほかの人がこれらのファイ ルを変更できないようにする必要がありました。そこで、〈After Check In (チェックイン後の作業 ファイル)〉グループボックスで〈Keep revision locked (チェックアウト状態を保持)〉チェック ボックスを選択しました。これで、ほかのユーザは新しい開発ブランチを作成しないかぎり、ファイ ルを変更できず、内田さんが変更したファイルのロックが保持されます。さらに、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉オプションを選択して、Checkers プロジェク トのサブプロジェクトの変更ファイルもすべてチェックインされるよう設定しました。

[Advanced (詳細)] タブでは、〈Revision (リビジョン)〉のデフォルトはそのままにしました。し かし、〈Version Label (バージョンラベル〉〉テキストボックスには、ドラッグアンドドロップ機能 を定義した一連のファイルを簡単に識別できるようにするため、Drag_Drop_November という バージョンラベルを設定しました。〈Float label with tip (浮動ラベル〉〉オプションは選択しません でした。なぜなら、ラベルとファイルの最新バージョンとを自動的に関連付けるのではなく、これら のバージョンとの関連を保持させたいからです。彼女の作業は、Checkers プロジェクトのトランク 開発の一部であるため、ブランチを強制しないようにしました。最後に、彼女は【OK】をクリック してファイルをチェックインしました。Version Manager は、以下のアクションを実行します。

- 変更したファイルを c:¥work ディレクトリにチェックインします。
- 変更していないファイルはチェックインしません。
- 全 Checkers ファイルの書き込み可能なコピーを c:¥work ディレクトリに保持します。
- 変更したすべてのリビジョンに「ドラッグアンドドロップ機能の定義を完了」という説明を関連 付けます。
- 変更したすべてのリビジョンに Drag_Drop_November というバージョンラベルを関連付けます。

<mark>第 13 章</mark> ロックの使用

リビジョンのロック	178
リビジョンのロック解除	181
多重ロック	183
シナリオ:ほかのユーザによるファイルの変更を防ぐ	184

リビジョンのロック

ロックが使用される あるユーザが使用中のリビジョンを、プロジェクトチームのほかのメンバーが編集しないようにする 場合 には、リビジョンにロックを使用します。ロックを使用すると、ファイルが現在使用中であることを 知らせる警告がほかのユーザに表示され、リビジョンへのアクセスが制限されます。プロジェクト チームのほかのメンバーは、ロックされたリビジョンをいつでも表示したり、取得したりできます が、それらをチェックインして上書きすることはできません。

リビジョンをチェックアウトすると、リビジョンは自動的にロックされます。作業ファイルをチェックインするか、ロックを解除するまで、リビジョンはロックされたままです。

ロックのしくみ バージョン管理ファイルをロックすると、厳密には、バージョン管理ファイルの特定のリビジョンが ロックされます。ロックされた特定のリビジョンには、プロジェクトチームのほかのメンバーはアク セスできません。

> プロジェクトチームのほかのメンバーがロックリビジョンを編集できるのは、プロジェクトに多重 ロックを使用できる場合だけです。多重ロックについての詳細は、次を参照してください。 183 ページ。

- ロックの指定 リビジョンのロックは、リビジョン番号、バージョンラベルまたはプロモーショングループを指定す ることによってできます。1つのリビジョン、1つのバージョン管理ファイル、複数のバージョン管 理ファイル、1つのプロジェクトまたはプロジェクトデータベース全体をロックできます。
- Issue の関連付け TrackerLink または SourceBridge をインストールしている場合は、〔Lock File (ロックファイル)〕ダイアログボックスで【Associate Issues (Issue の関連付け)】をクリックして、システム変更要求 (Issue) をロックしたファイルに関連付けることができます。



注 リビジョンのロック時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動します。



注 Version Manager デスクトップクライアントが次に起動された時に使用される、Issue 管理の 統合を設定できます。現在開いているクライアントセッションには影響しません。

- Serena Issue 管理の統合ユーティリティを起動します(Windows [スタート] メニューの Serena フォルダから、[ChangeMan Version Manager] - [Issue Management Integration (Issue 管理の統合)]を選択します)。
- **2** 〈TeamTrack SourceBridge〉または〈Tracker TrackerLink〉を選択します。
- **3** 【OK】または【Launch Version Manager (Version Manager の起動)】をクリックします。

リビジョンをロックするには

1 ロックするリビジョン(リビジョン表示部が表示されている場合)、またはバージョン管理ファ イルを選択します。一連のリビジョンをロックする必要がある場合は、それらのリビジョンを含 んだプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。 2 [Actions (アクション)] - [Lock (リビジョンのロック)]を選択します。[Lock (ロック)] ダイアログボックスが表示されます。

Lock Project - hlp		х
General Selected File	s	
Revision:	[Default Revision]	
Lowest-level promotion group:	[Default Promotion Group]	
🔲 Include files in sub;	projects	
	Associate SCRs	
	OK Cancel Help	



ヒント 通常はデフォルトリビジョンをロックするのであれば、〔Options (オプション)〕ダ イアログボックス([View (表示)] – [Options (オプション)〕を選択)の〔Dialog Behavior (ダイアログボックス)〕タブで〈Lock (ロック)〉チェックボックスの選択を解除 し、[Lock (ロック)〕ダイアログボックスの表示を省略することができます。ただし、ロッ クされたリビジョンに必ず Issue を関連付けるよう設定されている場合は、〔Lock (ロッ ク)〕ダイアログボックスの表示を省略しても、〔Association (関連付け)〕ダイアログボッ クスは自動的に表示されます。

- 3 〔General (全般)〕タブで、以下の操作を行います。
 - 〈Revision(リビジョン)〉テキストボックスで、ロックするリビジョンに関連付けられたリビジョン番号またはバージョンラベルを指定します。選択したリビジョンが、プロモーションモデルが定義されたプロジェクトデータベースに関連付けられている場合は、プロモーショングループを指定することもできます。



注 数字で始まるバージョンラベルを指定する場合は、¥1.2 や ¥1abc のように、先頭に円記 号(¥)を付けて入力する必要があります。

リビジョンを指定しなければ、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースのデフォルト リビジョンがロックされます。デフォルトリビジョンは、とくに指定しなければ、最新のリ ビジョンです。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、 162 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。

 〈Lowest-level promotion group (プロモーショングループ)〉ドロップダウンリストで、 プロモーショングループを選択します。このフィールドは、現在のプロジェクトデータベー スにプロモーションモデルが定義されている場合にのみ有効になります。選択したプロモー ショングループが、ロックされたリビジョンに関連付けられます。

デフォルト値は「Default Promotion Group (デフォルトプロモーショングループ)」です。 これは、ワークスペースの設定によりこのアクションで使用されるよう定義された最下位の プロモーショングループです。このワークスペース設定の値が定義されておらず、ほかの値 がこのドロップダウンリストで選択されない場合は、デフォルトの動作は以下のようになり ます。

- プロモーションモデルに最下位のプロモーショングループが複数含まれる場合は、プロ モーショングループを選択するかどうかを尋ねられます。
- プロモーションモデルに含まれる最下位のプロモーショングループが1つの場合は、そのプロモーショングループが選択されます。
- 〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスが 選択されている場合は、プロジェクトにプロモーションモデルが定義されていなくても、プ ロモーションモデルが定義されたサブプロジェクトに以上の設定が適用されます。



注 このフィールドを使用して、ロックされるリビジョンを選択することはできません。プ ロモーショングループに基づいてリビジョンをロックするには、〈Revision(リビジョン〉〉 フィールドにプロモーショングループを入力します。

 (Serena Tracker および SourceBridge を使用する場合) ロックする作業ファイルを Issue に関連付ける場合は、【Associate Issues (Issue の関連付け)】をクリックします。
 [Association (関連付け)] ダイアログボックスが開きます。

リビジョンのロック時に Issue の関連付けを要求するよう設定されている場合は、 TrackerLink または SourceBridge が自動的に起動することに注意してください。



注 ロックの操作を行うときに、[Lock (ロック)] ダイアログボックスが表示されないよう に設定され、かつ Issue との関連付けが要求されるよう設定されている場合は、リビジョ ンのロック時に〔Version Manager displays the association (Version Manager で関連 付けを表示)〕ダイアログボックスが表示されます。

4 〔Selected Files (選択されたファイル)〕タブで以下を行います。

Lock Project - DIALOGS			×
General Selected Files			
DIALOGS 4TEST.HLP branch.bt CanvasTree.bt Element.class Element.class Outline.class sample.class Temp TreeCanvas.class TreeView.class			
Properties			
	ок	Cancel	Help

- ロックしようとしているファイルが適切なファイルかどうかを確認するには、このタブに表示されるファイルリストを見ます。
- 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の内容を表示するには、 【Properties (プロパティ)】をクリックします。[Selected Files (選択されたファイル)] タブに戻るには、【OK】をクリックします。
- **5** 【OK】をクリックします。選択したリビジョンがロックされます。
リビジョンのロック解除

ロックが解除される 作業ファイルをチェックインすると、Version Manager は自動的にデフォルトリビジョンのロック 場合 を解除します。しかし、リビジョンをチェックインせずに、ロックを解除する必要がある場合もあり ます。

> たとえば、プロジェクト全体をチェックアウトして、変更したファイルのみをチェックインした場合 は、変更していないファイルはロックされたままです。この場合は、リビジョンをロックするためだ けに、変更していないファイルをチェックインする代わりに、ロック解除オプションを使用してロッ クを解除できます。

ロック解除のしくみ バージョン管理ファイルをロック解除すると、バージョン管理ファイルの特定のリビジョンがロック 解除されます。ロック解除されたリビジョンには、プロジェクトチームのほかのメンバーがアクセス できるようになります。

> Issue と関連付けられており、ロックされているが変更されていないファイルをロック解除すると、 関連付けも解除され、Issue 内に、関連付けが削除されたことが記述されます。

- ロック解除の権限 ロック解除の権限は、管理者によって設定されたユーザ ID およびアクセスリストグループ権限に基 づきます。デフォルトでは、自分が設定したロックのみを解除することができます(SuperUser ま たは Unlimited 権限を持っている場合を除く)。
- 特定のリビジョンの リビジョンをロック解除するには、リビジョン番号、バージョンラベルまたはプロモーショングルー ロック解除 プを指定します。1 つのリビジョン、1 つのバージョン管理ファイル、複数のバージョン管理ファイ ル、1 つのプロジェクトまたはプロジェクトデータベース全体をロック解除できます。

リビジョンのロックを解除するには

- 1 ロック解除するリビジョン(リビジョン表示部が表示されている場合)、またはバージョン管理 ファイルを選択します。一連のリビジョンをロック解除する必要がある場合は、それらのリビ ジョンを含んだプロジェクトまたはプロジェクトデータベースを選択します。
- 2 [(Actions) アクション] [Unlock (リビジョンのロック解除)]を選択します。[Unlock (ロック解除)]ダイアログボックスが表示されます。

Unlock Project - DEV 🛛 🗙
General Selected Files
Unlock Locks by User: Admin
Revisions Revision: [Default Revision] All revisions by selected user(s)
Include files in subprojects
OK Cancel Help

〔General(全般)〕タブで、以下の操作を行います。

〈Unlock Locks (ロック解除)〉グループボックスの〈User (ユーザ)〉フィールドには、選択したプロジェクトデータベースにログインする際に使用されるユーザ ID が表示されます。

「ほかのユーザがかけたロックのロック解除」権限を持っている場合は、ほかのユーザ ID に より設定されたロックを解除することができます。ほかのユーザ ID を選択するには、 【Browse (...)】をクリックします。

SuperUser 権限を持っている場合は、〈All Users(すべてのユーザ)〉オプションを選択すると、どのユーザによって作成されたロックでも解除できます。

 〈Revision (リビジョン)〉グループボックスの〈Revision (リビジョン)〉テキストボック スに、ロック解除するリビジョンに関連付けられたリビジョン番号またはバージョンラベル を指定します。選択したプロジェクトデータベースにプロモーションモデルが定義されてい る場合は、プロモーショングループを指定することもできます。



注 数字で始まるバージョンラベルを指定する場合は、¥1.2 や ¥1abc のように、先頭に円記 号(¥)を付けて入力する必要があります。

リビジョンを指定しなければ、プロジェクトまたはプロジェクトデータベースのデフォルト リビジョンがロック解除されます。デフォルトリビジョンは、とくに指定しないかぎり、最 新のリビジョンです。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、 162 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。

〈User (ユーザ)〉フィールドで指定されたユーザ ID に関連付けられたリビジョンをすべて ロック解除するには、〈All revisions by selected user(s) (選択されたユーザのすべてのリ ビジョン)〉オプションを選択します。

- (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)デフォルトでは、サブプロジェ クト内のファイルはロック解除されません。サブプロジェクト内のファイルもロック解除す る必要がある場合は、〈Include files in subprojects(サブプロジェクトのファイルも含 む)〉チェックボックスを選択します。
- 3 ロック解除する前に、選択したファイルまたはプロジェクトを確認するには、〔Selected Files (選択されたファイル)〕タブを選択します。

Unlock Project - DEV	×
General Selected Files	
 IO-30.DOC I1-13.DOC DIALOGS Element.class ElementList.class Outline.class EFPORTS UTILITIES 	
Properties	
OK Cancel Help	

- **4** 〔Selected Files (選択されたファイル)〕タブで以下を行います。
 - ロックを解除しようとしているファイルが適切かどうかを確認するには、このタブに表示されるファイルリストを見ます。
 - 選択したアイテムのプロジェクト設定およびワークスペース設定の内容を表示するには、 【Properties (プロパティ)】をクリックします。〔Selected Files (選択されたファイル)〕 タブに戻るには、【OK】をクリックします。
- **5** 【OK】をクリックします。選択したリビジョンがロック解除されます。

多重ロック

デフォルトでは、1 つのリビジョンに作成できるロックは 1 つだけです。ただし、管理者は、1 つの リビジョンに複数のロックを設定したり、同じユーザがアーカイブ内に複数のロックを設定したり、 同じユーザが 1 つのリビジョンに複数のロックを設定できるよう、以下のようにプロジェクトを セットアップできます。

単ーリビジョンに対して多重ロックを設定(リビジョンごとに多重ロック)



 アーカイブ内で1人のユーザによって設定された複数のリビジョン(1人のユーザによる多重 ロック)



1人のユーザによって1つのリビジョンに設定された複数のロック(ユーザとリビジョンの多重ロック)

各ユーザは、同じアーカイブ 内のリビジョンに多重ロック をかけることができます。 多重ロックは、並行開発しているパス(ブランチ)があるプロジェクトチームのメンバー用に設計されています。多重ロックについての詳細は、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイ ド』の『ファイルのブランチとマージ』の章を参照してください。

シナリオ:ほかのユーザによるファイルの変更を防ぐ



チームリーダーの川井さんとほかの 6 人のライターは、Bridge プロジェクトのドキュメントを作成 しています。彼らはまだ、製品のベータ版を持っていません。代わりに、製品の仕様書を使って、機 能についてのマニュアルを作成していました。8 月に完成した仕様書を使用して、全ダイアログボッ クスのヘルプ項目を完成しました。しかし、川井さんは、最近になって、ダイアログボックスの多く が、最近の有用性テストの結果を反映するために変更されていることに気付きました。これらの変更 は、仕様書の 8 月のバージョンにはありませんでした。川井さんは、ライターが不正確な情報でド キュメントを作成し、時間を無駄にすることがないよう、仕様書が更新されるまで、ファイルの変更 を禁じることにしました。

川井さんはまず、変更されたダイアログボックスすべてに Usability_Chgs というバージョンラベル を割り当てました。そして、Bridge プロジェクトを選択し、Usability_Chgs バージョンラベルを 使って表示のフィルタを実行しました。また、【Recursive View (再帰的に表示)】をクリックして、 Usability_Chgs バージョンラベルと一致する Bridge プロジェクト内の全ファイルを表示しました。 ファイル表示部には、このバージョンラベルが割り当てられているバージョン管理ファイルのみが表 示されています。川井さんはこのファイルリストを見て、関連のあるドキュメントトピックを特定し ました。

次に、川井さんは、CTRL キーを押しながらファイル表示部の各バージョン管理ファイルを選択し、 [Lock (ロック)] コマンドを選択しました。これで、ファイルへのアクセスは禁じられます。川井 さんはロックのデフォルト設定をそのままにして、【OK】をクリックしました。バージョン管理ファ イルは、ファイル表示部にロックアイコンとともに表示されました。

ファイルがロックされている理由をライターに知らせる必要があります。そのために、ファイル表示 部でバージョン管理ファイルを反転表示させたまま、ロックしたリビジョンにバージョンラベルを割 り当てました。浮動でない、つまり、*固定*のバージョンラベルとして、名前を「On Hold」と入力 し、【OK】をクリックしました。

最後に、川井さんは、フィルタを「すべてのファイル」にリセットし、リビジョン表示部を表示して、適切なリビジョンがロックされて、On Hold バージョンラベルが割り当てられていることを確認しました。仕様書が更新されたら、ファイルのロックを解除して、バージョンラベルを削除するつもりです。それらのタスクについては、次のシナリオで説明します。



バージョンラベルの使用

バージョンラベルについて	186
	186
バージョンラベルの割り当て	187
	189
	190
	192
	192
シナリオ:バージョンラベルの再割り当て、名前変更、および削除を行う	193

バージョンラベルについて

バージョンラベル バージョンラベルは、リビジョンを識別するために使用されるタグ(札)です。通常、「Beta Test とは 1」など、特定の製品リリースの各コンポーネントの特定のリビジョンを識別するのに使用されます。



同一のバージョン管理ファイルまたは一連のバージョン管理ファイルから、あるリビジョンだけを区 別する必要がある場合は、バージョンラベルを割り当てます。

バージョンラベルは、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/ 6.0 フォルダ、プロジェクトデータベース全体、既存のバージョンラベルまたはプロモーショング ループを選択して割り当てます。

- 複数のバージョンラ リビジョンには、複数のバージョンラベルを割り当てることができます。しかし、バージョンラベル ベル は、各バージョン管理ファイル内で固有のものでなければなりません。
 - 大文字 / 小文字の バージョンラベルでは大文字と小文字は区別されます。このため、バージョンラベルを使用する場合 区別 は、大文字と小文字を正確に区別して指定する必要があります。
 - 文字の制限 バージョンラベルは、半角の場合は 254 字以内、全角の場合は 127 字以内で入力します。ただし、 半角のコロン(:)、アスタリスク(*)、プラス記号(+)、マイナス記号(-)、二重引用符(")は使 用できません。

D

注 バージョンラベルは、リビジョン番号とまぎらわしくない値にしてください。

固定ラベルと浮動ラベル

バージョンラベルは、1 つのリビジョンに直接割り当てる(固定する)ことも、つねに選択したバージョン管理ファイルの最新のリビジョンに自動的に割り当てる(浮動にする)こともできます。

通常、浮動バージョンラベルは、並行開発(ブランチ)が行われている場合に使用されます。ブラン チで作業をしている開発者は、浮動バージョンラベルを、トランクのチップではなく、ブランチの チップのチェックアウトリビジョンに割り当てることができます。

リビジョンにラベルが割り当てられると、リビジョンではなく、バージョンラベルを指定してアクションを実行できます。アクションには、作業ファイルのチェックイン、リビジョンのチェックアウト、ファイルグループのプロモート、レポートの生成などがあります。

デフォルトオプションの適用

バージョンラベルを割り当てる際に、リビジョンを指定しなかったり、[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスのどの値も変更しなかった場合は、Version Manager は以下を実行します。

- デフォルトリビジョンにバージョンラベルを割り当てます。デフォルトリビジョンが指定されていない場合は、最新の(チップ)リビジョンが使用されます。
- デフォルトリビジョンに固定バージョンラベルを割り当てます。
- 既存のバージョンラベルを変更する前に、確認のダイアログボックスを表示します。

バージョンラベルの割り当て

バージョンラベルは、1 つまたは複数のリビジョン、バージョン管理ファイル、プロジェクト、フォ ルダ、プロジェクトデータベース全体、既存のバージョンラベルまたはプロモーショングループを選 択して割り当てます。

バージョンラベルを割り当てるには

- 1 バージョンラベルを割り当てるアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] [Version Label (バージョンラベル)] [Assign (割り当て)]
 を選択します。[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。

Assign Version Label to Pro	ject - DIALOGS		
General Selected Files	1		
Assign version label: To revision: If version label exists:	FT [Default Revision] Float label with tip Prompt		
Include files in subprojects			
	OK Cancel Help		

 3 〈Assign version label (バージョンラベル)〉フィールドに、バージョンラベルを 254 字以内 で入力します。バージョンラベルには、半角のコロン(:)、アスタリスク(*)、プラス記号 (+)、マイナス記号(-)、二重引用符(")を使用することはできません。



注 バージョンラベルは、リビジョン番号とまぎらわしくない値にしてください。

- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - デフォルトのバージョンラベルオプションを変更する場合は、次のセクションに進みます。
 - デフォルトのバージョンラベルオプションを変更しない場合は、【OK】をクリックします。
 選択したアイテムのデフォルトリビジョンに、固定リビジョンラベルが割り当てられます。

デフォルト以外のバージョンラベルオプションの使用

- [Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)]ダイアログボックスで、次のいずれ かを行います。
 - デフォルトリビジョン以外のリビジョンにバージョンラベルを割り当てるには、〈To revision (割り当てるリビジョン)〉テキストボックスにリビジョン番号、バージョンラベル、プロモーショングループのいずれかを入力するか、【Browse (...)】をクリックしてリビジョンを選択します。

ワークスペースのデフォルトリビジョンを定義する方法については、162 ページの『デフォ ルトバージョンの定義』を参照してください。

- バージョンラベルがつねに最新のリビジョン(チップリビジョン)に割り当てられるように するには、(Float label with tip (浮動ラベル))チェックボックスを選択します。
- 〈If version label exists (バージョンラベルが存在する場合)〉ドロップダウンリストでは、 割り当てようとしているバージョンラベルがすでにバージョン管理ファイルに存在している 場合の Version Manager の処理を選択します。デフォルトは〈Prompt(確認する)〉で、 同一のバージョンラベルがすでにある場合の動作を選択するダイアログボックスが表示され ます。

また、〈Reassign (再度割り当てる)〉を選択すると、既存のバージョンラベルが指定したリ ビジョンに移動します。〈Don't Reassign (再度割り当てない)〉を選択すると、バージョン ラベルは割り当てられません。

- (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクトにあるバージョン管理ファイルにもバージョンラベルを割り当てるには、(Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む))チェックボックスを選択します。
- 【OK】をクリックします。指定したバージョンラベルが選択したリビジョンに割り当てられます。

作業ファイルのチェックイン時と追加時のバージョンラベルの割り 当て

作業ファイルのチェックインや追加の際にも、リビジョンにバージョンラベルを割り当てることがで きます。バージョンラベルオプションは、[Check In (チェックイン)]ダイアログボックス、およ び [Add Workfiles (作業ファイルの追加)]ダイアログボックスの [Advanced (詳細)]タブで設 定できます。チェックインの際にバージョンラベルを割り当てる方法については、172 ページの 『デフォルトのチェックインオプションの変更』を参照してください。作業ファイルを追加する際に バージョンラベルを割り当てる方法については、90 ページの『プロジェクトデータベース / プロ ジェクトへの作業ファイルの追加』を参照してください。

バージョンラベル名の変更

既存のバージョンラベルを変更するには、バージョンラベル名を変更します。バージョンラベルは、 既存のバージョンラベル、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、 5.3/6.0 フォルダまたはプロジェクトデータベース全体を選択して変更します。

プロジェクト、フォルダまたはプロジェクトデータベースレベルにバージョンラベルを再割り当てすると、再割り当てするバージョンラベルと一致するバージョンラベルはすべて変更されます。

バージョンラベル名を変更するには

- 名前を変更するバージョンラベルまたは名前を変更するバージョンラベルを含んだアイテムを選択します。
- [Actions (アクション)] [Version Label (バージョンラベル)] [Rename (ファイル名の変更)]を選択します。[Rename Version Label (バージョンラベル名の変更)] ダイアログボックスが表示されます。

Rename Version Lab	el on Project - DIALOGS	×
General Selected	d Files	
Rename From:	FT	
To:	FIELD TEST	
🔲 Include files in) subprojects	
	OK Cancel	Help

- **3** 〈Rename From (現在の名前)〉テキストボックスに、名前を変更するバージョンラベルを入力 するか、【Browse (...)】をクリックしてバージョンラベルを選択します。
- 4 (To (新しい名前))テキストボックスに新しいバージョンラベル名を入力するか、【Browse (…)】をクリックしてバージョンラベルを選択します。バージョンラベルは、254 字以内で入 力します。バージョンラベルには、半角のコロン(:)、アスタリスク(*)、プラス記号(+)、 マイナス記号(-)、二重引用符(")を使用することはできません。



注 バージョンラベルは、リビジョン番号とまぎらわしくない値にしてください。

- 5 (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクトにあるバージョンラベル名も変更するには、〈Include files in subprojects(サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- **6** 【OK】をクリックします。

バージョンラベルの再割り当て

以下のような場合、バージョンラベルを割り当て直すことができます。

- 既存のラベルを、同一バージョン管理ファイル内のあるリビジョンから別のリビジョンに移動する場合
- バージョンラベルの属性を変更する場合(浮動バージョンラベルを固定バージョンラベルに変更 する場合やその逆の場合)

バージョンラベルの再割り当ては、既存のバージョンラベル、リビジョン、1 つまたは複数のバー ジョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/6.0 フォルダまたはプロジェクトデータベース全体を選択 して行います。

プロジェクト、フォルダまたはプロジェクトデータベースレベルのバージョンラベル名を変更する と、そのバージョンラベルと一致するすべてのバージョンラベル名が変更されます。

既存のバージョンラベルの移動

既存のバージョンラベルを同一のバージョン管理ファイル内で移動するには

- 1 移動するバージョンラベルまたは移動するバージョンラベルを含んだアイテムを選択します。
- [Actions (アクション)] [Version Label (バージョンラベル)] [Assign (割り当て)]
 を選択します。[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックス が表示されます。

Assign Vers	sion Label to Pro	oject - DIALOGS	×
General	Selected Files		
Assign To revis If versio	version label: sion: n label exists:	FT [Default Revision] Float label with tip Prompt]
Incl	ude files in subp	rojects OK Cancel	Help

3 〈Assign version label(バージョンラベル)〉テキストボックスに、移動するバージョンラベル を入力します。

0

重要! バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。バージョンラベルを入力する際 は、再割り当てする既存のバージョンラベルと、大文字 / 小文字の使用が一致している必要が あります。 4 バージョンラベルをデフォルトリビジョン以外のリビジョンに移動するには、〈To revision (割り当てるリビジョン)〉テキストボックスに、リビジョン番号、バージョンラベル、プロモーショングループのいずれかを入力するか、【Browse (...)】をクリックしてリビジョンを選択します。

ワークスペースのデフォルトリビジョンを定義する方法については、162 ページの『デフォル トバージョンの定義』を参照してください。

- 5 (To revision (割り当てるリビジョン))テキストボックスで選択したリビジョンが最新の (チップ)リビジョンの場合に、以降のファイルがチェックインされるたびに、バージョンラベ ルがつねに最新のリビジョンに割り当てられるようにするには、(Float label with tip (浮動ラ ベル))チェックボックスを選択します。
- **6** 〈If version label exist (バージョンラベルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、 [Reassign (再度割り当てる)] を選択します。
- 7 (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクトにあるバージョンラベル名も移動するには、〈Include files in subprojects(サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- **8** 【OK】をクリックします。

バージョンラベルプロパティの変更

バージョンラベルのプロパティを変更すると、固定バージョンラベルを浮動バージョンラベルに変更 したり、その逆に変更することができます。

バージョンラベルのプロパティを変更するには

- プロパティを変更するバージョンラベルまたはプロパティを変更するバージョンラベルを含んだ アイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] [Version Label (バージョンラベル)] [Assign (割り当て)]
 を選択します。[Assign Version Label (バージョンラベルの割り当て)] ダイアログボックスが表示されます。

Assign Version Label to Pro	ject - DIALOGS	×	
General Selected Files	1		
Assign version label:	FT		
To revision:	[Default Revision]	1	
	Float label with tip	_	
If version label exists:	Prompt 🔹		
Include files in subprojects			
	OK Cancel Help		

- **3** 〈Assign version label (バージョンラベル)〉テキストボックスに変更するバージョンラベルを 入力します。
- - 重要! バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。バージョンラベルを入力する 際は、変更する既存のバージョンラベルと、大文字 / 小文字の使用が一致している必要があ ります。
 - **4** 〈Assign version label (バージョンラベル)〉テキストボックスに入力したものと「同じ」バー ジョンラベルを、〈To revision (割り当てるリビジョン)〉テキストボックスに入力します。
 - 5 ラベルを「浮動」ラベルに変更する場合は、(Float label with tip (浮動ラベル)) チェックボッ クスを選択します。「固定」ラベルに変更する場合は、選択を解除します。
 - **6** 〈If version label exist (バージョンラベルが存在する場合)〉ドロップダウンリストで、 〈Reassign (再度割り当てる)〉を選択します。
 - 7 (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクトにあるバージョ ン管理ファイルのバージョンラベル属性も変更するには、〈Include files in subprojects(サブ プロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
 - **8** 【OK】をクリックします。

デフォルトバージョンの指定

リビジョンをチェックアウトしたり、取得したり、プロモートすると、とくに別のリビジョンを指定 しないかぎり、現在のワークスペースに指定されているデフォルトリビジョンが使用されます。デ フォルトでは、デフォルトリビジョンはバージョン管理ファイルの最新の(チップ)リビジョンで す。しかし、任意のバージョンラベルをデフォルトリビジョンに指定できます。

任意のバージョンラベルをデフォルトバージョンに指定すると、Version Manager は、チェック アウト、取得およびプロモート時のデフォルトリビジョンとして、そのバージョンラベルを使用し ます。

任意のバージョンラベルをワークスペースのデフォルトリビジョンとして定義する方法については、 162 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。

バージョンラベルの削除

必要でなくなったバージョンラベルは削除できます。バージョンラベルの削除は、バージョンラベ ル、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン管理ファイル、プロジェクト、5.3/6.0 フォルダまた はプロジェクトデータベース全体を選択して行います。

プロジェクト、フォルダまたはプロジェクトデータベースレベルのバージョンラベルを削除すると、 削除するバージョンラベルと一致するすべてのバージョンラベルが削除されます。

バージョンラベルを削除するには

- 1 削除するバージョンラベルまたは削除するバージョンラベルを含むアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] [Version Label (バージョンラベル)] [Delete (削除)] を選択します。 (Delete Version Label (バージョンラベルの削除)) ダイアログボックスが表示されます。

Delete Version Label from Project - DIALOGS	×
General Selected Files	
Version Label: FIELD TEST	
Include files in subprojects	
OK Cancel	Help

3 〈Version Label(バージョンラベル)〉テキストボックスに、削除するバージョンラベルを入力 するか、【Browse (...)】をクリックしてバージョンラベルを選択します。



重要! バージョンラベルでは大文字と小文字が区別されます。バージョンラベルを入力する際は、削除する既存のバージョンラベルと、大文字 / 小文字が一致している必要があります。

- 4 (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクトにあるバージョンラベルも削除するには、(Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む))チェックボックスを選択します。
- **5** 【OK】をクリックします。

シナリオ:バージョンラベルの再割り当て、名前変更、および削除を 行う



Bridge プロジェクトは、いよいよテストができる段階に入りました。この開発チームのリーダーは 木村さんです。木村さんは、ファイルを QA_Testing プロモーショングループにプロモートする準 備として、「FT」(Field Test の略)というラベルをファイルに割り当てることにしました。このラ ベルは、開発者たちが作業を完了するまで、最新のリビジョンに移動し続けるようにするつもりで す。 木村さんは、まず、Bridge プロジェクトをクリックし、[Assign (割り当て)] - [Version Label (バージョンラベル)] - [Rename (ファイル名の変更)]を選択しました。ラベル名として「FT」 と入力し、(Float label with tip (浮動ラベル))チェックボックスを選択しました。これで、バー ジョンラベルは、つねに最新のリビジョンまたは「チップ」リビジョンに移動します。最後に、 【OK】をクリックしました。

開発者たちは、Bridge プロジェクトの作業を続けます。フィールドテストでの変更を完了したら、 木村さんに報告します。木村さんはリビジョン表示部を表示し、〔Version Labels(バージョンラベ ル)〕タブを選択します。彼女は、FT バージョンラベルがチップリビジョンに関連付けられているこ とを確認します。

開発者の1人である桑田さんは、自分の現在のワークスペースを Build に設定しています。この ワークスペースでビル用作業ファイルの場所を指定しています。桑田さんは、FT バージョンラベル に関連した Bridge ファイルを Build のディレクトリ、Z:¥build にチェックアウトします。そのた めに、〈Check Out (チェックアウト)〉オプションを選択し、〈Revision (リビジョン)〉テキスト ボックスに「FT」と入力しました。〈Check Out To (チェックアウト先)〉の場所には、ビルド用作 業ファイルの場所である z:¥build が反映されます。【OK】をクリックすると、Version Manager は、ビルドディレクトリにバージョン管理ファイルの書き込み可能なコピーを作成します。

木村さんはコードをコンパイルして、機能チェックを完了しました。ファイルに多少の変更を施し て、現在、コードを QA(品質管理)に送る準備ができています。バージョンラベルを Field Test に 変更したかったので、Bridge プロジェクトをクリックして、[Actions(アクション)] – [Version Label(バージョンラベル)] – [Rename(ファイル名の変更)]を選択しました。〈Rename From(現在の名前)〉テキストボックスに「FT」と入力し、〈To(新しい名前)〉テキストボックス に「Field Test」と入力しました。〈Include files in subprojects(サブプロジェクトのファイルも 含む)〉オプションを選択して【OK】をクリックしました。

ファイルをチェックインする際に、Field Test バージョンラベルを浮動から固定に変更します。木村 さんは、Bridge プロジェクトを選択して、〈Check In(チェックイン〉〉オプションを選択しまし た。〔General (全般)〕タブで、コメントのテキストボックスに「フィールドテスト QA 可能」と入 力しました。〔Advanced (詳細)〕タブで、〈Version Label (バージョンラベル〉〉テキストボック スに「Field Test」と入力し、〈Float label with tip (浮動ラベル)〉チェックボックスが選択されて いないことを確認しました。

Version Manager は、Bridge ファイルの新しいリビジョンを作成します。リビジョンは、Field Test という固定ラベルに関連付けられています。品質管理チーム(QA)は、Field Test ラベルを基 にして Bridge ファイルをチェックアウトできます。そして、Bridge 開発者たちが製品の最終リ リースに向けて作業を続けている間にも、コードをテストできます。開発者がファイルの新規リビ ジョンを作成しても、Field Test ラベルは同じリビジョンに関連付けられたままです。

その間に、ドキュメントチームのリーダーである川井さんは、Chess プロジェクトの製品仕様書が 更新されたことを知りました。そこで、ダイアログボックスのヘルプファイルのロックを解除して、 On Hold というバージョンラベルを削除することにしました。そのために、まず、川井さんは 〈Unlock (ロック解除)〉オプションを選択し、〈Unlock (ロック解除)〉グループの〈User (ユー ザ)〉テキストボックスに「Kawai」と入力しました。〈Include files in subprojects (サブプロ ジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択して【OK】をクリックしました。これで、 ファイル表示部に表示されたこれらのファイルにはロックアイコンが付かなくなりました。次に、川 井さんは、Chess プロジェクトを選択して、[Actions (アクション)] – [Version Label (バー ジョンラベル)] – [Delete (削除)]を選択しました。〈バージョンラベル〉テキストボックスに 「On Hold」と入力し、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉 チェックボックスを選択しました。そして【OK】をクリックしました。これで、ダイアログボック スのヘルプファイルからバージョンラベルが削除されました。ライターたちは、トピックをチェック アウトして更新された仕様書に従って作業を続けることができます。

パート 3

Version Manager デスクトップクライアント を使った高度なタスク

リビジョンのブランチ作成	197
ファイルの比較	207
ファイルのマージ	213
リビジョンのプロモート	229
レポートの使用	239



リビジョンのブランチ作成

ブランチについて	198
ブランチ番号	198
 ブランチの作成	199
シナリオ:開発のメインラインを中断させずにバグを修正する	205

ブランチについて

- ブランチとは ブランチは、トランク(メインライン)のリビジョンまたは別の開発ブランチから分岐した 1 つ以 上のリビジョンからなる、別の開発ラインです。
 - 並行開発 ブランチを使用すると、トランクまたは別のブランチで作業をしているプロジェクトチームのほかの メンバーと「並行」して、ファイルの別のバージョンを開発できます。ブランチは一般的に、次のよ うな理由で使用します。
 - 別のプラットフォーム用にバージョンを開発する場合。たとえば、Windows アプリケーション 用ソースコードファイルを格納しているアーカイブがある場合は、それらのアーカイブのブラン チを開始して、UNIX 用アプリケーションのバージョンを開発できます。
 - トランクの開発を中断することなく不具合を修正する場合。不具合が見つかったけれど、ソース コードファイルのほかのエリアの開発は中断させたくない場合は、欠陥を含んだリビジョンのブ ランチを作成すると、トランク開発の進捗を妨害することなく、修正およびテストできます。修 正したファイルは、後でトランクの最新バージョンとマージします。
 - 基本となる製品を作成し、それを主要な顧客用の製品にカスタマイズする場合。

ブランチを利用すると、多くの開発者が同じファイルの別のリビジョンで並行開発を続けることが できます。また、1人の開発者がトランク開発とさまざまなブランチの両方で作業することもでき ます。

ブランチ番号

ブランチは、トランクまたは別のブランチから分岐します。ブランチが始まるリビジョンをブランチ ポイント(またはベースバージョン)といいます。ブランチポイントの最初のブランチリビジョンに は、1.0 がついたブランチポイントリビジョン番号が付きます。後続のブランチリビジョンの番号は 0.1 ずつ増えます。

	トランク		
	⊡¶ 1.*		
	_ 1 1.3	ブランチ 1	
	i 1.2	⊟ Þ 1.2.1.*	
	1.1	1.2.1.3	ブランチ 2
最初のリビジョン	🛅 1.0	🗊 1.2.1.2	⊡ Þ 1.2.1.2.1.*
	_	1.2.1.1	1.2.1.2.1.2
		🗊 1.2.1.0	🗊 1.2.1.2.1.1
	ブラン	チポイント	1.2.1.2.1.0

たとえば、上の図では、リビジョン 1.2 がブランチポイントです。ですから、最初のブランチリビ ジョンには 1.2.1.0 という番号が付けられています。トランクリビジョンと同様に、新規ブランチ リビジョンの番号は 0.1 ずつ増えていきます。つまり、このブランチの後続のリビジョンは 1.2.1.1、1.2.1.2...のようになります。さらに、リビジョン 1.2.1.2 は、別のブランチポイントに もなっており、最初のブランチリビジョンには 1.2.1.2.1.0 という番号が付けられています。この ブランチの後続のリビジョンは、1.2.1.2.1.1、1.2.1.2.1.2...のようになります。このように、 Version Manager は、ブランチを 1.* の付いたブランチポイントリビジョン番号で識別します。 同じリビジョンから複数のブランチを作成した場合は、新規リビジョンブランチの番号が 1.0 ずつ 増えていきます。たとえば、以下の図では、リビジョン 1.2 を使って複数のブランチを作成してい ます。この場合、最初のブランチは 1.2.1.* で、2 番目のブランチは 1.2.2.*、3 番目のブランチは 1.2.3.* となります。



ブランチの作成

ブランチが作成される場合

ブランチは以下の場合に作成されます。

- チップ以外のリビジョンをチェックインした場合
- チップリビジョンをチェックインしたときにブランチを強制した場合
- 多重ロックされたリビジョンをチェックインした場合
- Version Manager に自動ブランチを設定した場合

チップ以外のリビジョンのチェックイン

チップ以外のリビジョンをチェックインすると、ブランチが作成されます。

チップ以外のリビジョンのチェックインによってブランチを作成するには

- 1 リビジョン表示部で、ブランチの開始ポイントに使用するチップ以外のリビジョンを選択します。
 - 💼 1.3 ――― チップリビジョン
 - 💼 1.2 ――― チップ以外のリビジョン
 - 🗊 1.1
 - 💼 1.0 ――― 最初のリビジョン

始める前に ブランチを作成する前に、リビジョン表示部を表示しておくことをお薦めします([View (表示)]
 – [Show Revisions (リビジョンを表示)])。リビジョン表示部は、メインウィンドウからブランチ情報を表示できる唯一の表示部です。

2 [Actions (アクション)] - [Check Out (チェックアウト)]を選択します。[Check Out (チェックアウト)]ダイアログボックスが表示されます。

Check Out File - bridge.cpp		×	
General	Advanced	Selected Files	
Check C	out To:	:\Program Files\PVCS\VM\SampleDb\work\bridge\bridge.cpp]
Revision	1:	1.2	
lf Workfil	e Exists:	Prompt	
Lowest-level promotion group:		[Default Promotion Group]	-
		Associate Issues]
		OK Cancel Help	

3 【OK】をクリックします。ブランチの作成を確認するメッセージが表示されます。

Confirm Create Branch		
	Locking "C:\ACME\work\DE\\DIALOGS\Outline.class" rev 1.2 will create a branch when checked in, check out anyway?	
Yes	Yes to All No No to All Cancel	

4 【Yes (はい)】をクリックします。Version Manager は、現在作業ファイルの場所に設定されている場所にリビジョンをチェックアウトし、リビジョンをロックします。

5 作業ファイルの変更を終えたら、[Actions (アクション)] - [Check In (チェックイン)] を 選択して作業ファイルをアーカイブにチェックインして戻します。[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスが表示されます。

Check In Project Database - Sample	e Project Database	×
General Advanced Selected F	iles	
Check In From:	D:\Program Files\PVCS\VM\SampleDb\work	
Description:	Check in using project hierarchy instead of workfile location(» •
	Use change description for all	
If Workfile Unchanged or Older:	Prompt	
After Check In:	Keep read-only workfile 💌	
Include files in subprojects	Associate Issue	s
	OK Cancel He	p

6 〈Description (説明)〉フィールドに変更に関する説明を入力し、【OK】をクリックします。ブランチアイコン (1)) で示されるブランチが作成され、それに 1.* のついたブランチポイントリビジョン番号が割り当てられます。最初のブランチリビジョンには、1.0 のついたブランチポイントリビジョン番号が割り当てられます。



ブランチの強制

ブランチを強制することによって、最新の(チップ)リビジョンでブランチを作成できます。チップ リビジョンからブランチを作成するには、作業ファイルをチェックインする際に、(Force branch (強制的にブランチさせる))オプションを選択する必要があります。

チップリビジョンで強制的にブランチさせるには

- 1 リビジョン表示部で、ブランチの開始ポイントにするチップリビジョンを選択します。
 - 1.3 チップリビジョン
 - 1.2
 - 🗊 1.1
 - _____ 💼 1.0 _____ 最初のリビジョン

2 [Actions (アクション)] - [Check Out (チェックアウト)]を選択します。[Check Out (チェックアウト)]ダイアログボックスが表示されます。

Check Out File - bridge.cpp	
General Advanced	Selected Files
Check Out To:	\Program Files\PVCS\VM\SampleDb\work\bridge\bridge.cpp
Revision:	[Default Revision]
If Workfile Exists:	Prompt
Lowest-level promotion group:	[Default Promotion Group]
	Associate Issues
	OK Cancel Help

- **3** 【OK】をクリックします。チップリビジョンがチェックアウトされ、リビジョンがロックされます。
- 4 作業ファイルの変更を終えたら、[Actions (アクション)] [Check In (チェックイン)] を 選択して作業ファイルをチェックインします。[Check In (チェックイン)] ダイアログボック スが表示されます。

Check In Project Database - Sampl	e Project Database
General Advanced Selected	Files
Check In From:	D:\Program Files\PVCS\VM\SampleDb\work
	Check in using project hierarchy instead of workfile location(s)
Description:	
	Use change description for all
If Workfile Unchanged or Older:	Prompt
After Check In:	Keep read-only workfile 💌
Include files in subprojects	Associate Issues
	OK Cancel Help

5 〈Description (説明)〉フィールドに、変更に関する説明を入力します。

6 〔Advanced (詳細)〕タブで、〈Force branch (強制的にブランチさせる)〉チェックボックス を選択します。

Check In Project Da	atabase - Sample Project Database 🛛 🔀
General Advance	ced Selected Files
Revision:	1.3
Version Label:	
	Float label with tip
	If Version Label Exists: Prompt
	OK Cancel Help

- 7 【OK】をクリックします。ブランチアイコン(1) つで示されるブランチが作成され、それに
 1.* のついたブランチポイントリビジョン番号が割り当てられます。最初のブランチリビジョン
 には、1.0 のついたブランチポイントリビジョン番号が割り当てられます。
 - □1.* トランク
 ①1.3 ブランチポイント (チップ)
 ①1.2
 ①1.1
 ①1.0
 □1.3.1.* 新しいブランチ
 ①1.3.1.0 最初のブランチリビジョン

多重ロックリビジョンのチェックイン

始める前に 多重ロックされたリビジョンをチェックインするには、プロジェクトまたはプロジェクトデータベー スが多重ロックを使用できる設定になっている必要があります。詳細は、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』の『ブランチのための多重ロックの使用』を参照してください。

多重ロックが使用できる場合にブランチを作成するには

- 1 リビジョン表示部から、ロックされたリビジョンを選択します。
 - 1.2
 - 1.1 ロックされたリビジョン
 - 🛅 1.0
- 2 つめのロックを適用するには、[Actions (アクション)] [Check Out (チェックアウト)] を選択するか、[Actions (アクション)] - [Lock (ロック)]を選択します。[Check Out File (チェックアウト:ファイル)]ダイアログボックスまたは[Lock File (ロック:ファイル)]ダ イアログボックスが表示されます。

3 【OK】をクリックします。リビジョンがすでにロックされていることを警告する多重ロックを確認するダイアログボックスが表示され、追加のロックを適用するかどうかが尋ねられます。

Confirm N	onfirm Multiple Lock		
⚠	Rev 1.1 in archive "C:\locks\archives\Temp\idx.html-arc" already locked. Apply additional lock?		
Yes	Yes to All No No to All Cancel		

4 【Yes (はい)】をクリックします。選択したリビジョンをロックするとリビジョンをチェックインするときにブランチが強制されることを警告してブランチの作成を確認するダイアログボックスが表示され、ブランチを作成してチェックアウトまたはロックするかどうかが尋ねられます。

Confirm Create Branch		
	Locking "idx.html" rev 1.1 will force a branch when checked in, lock anyway?	
Yes	3 Yes to All No No to All Cancel]

- **5** 【Yes (はい)】をクリックします。Version Manager はリビジョンをチェックアウトまたは ロックします。
- 6 必要に応じて作業ファイルを編集し、変更を保存します。
- 7 [Actions (アクション)] [Check In (チェックイン)] を選択します。[Check In File (チェックイン:ファイル)] ダイアログボックスが表示されます。
- 8 〈Description (説明)〉テキストボックスに変更に関する説明を入力し、【OK】をクリックします。多重ロックされた作業ファイルをチェックインしようとしているため、〔Select Revision (リビジョンの選択)〕ダイアログボックスが表示されます。

Select Revision	×
Multiple locks exist. Select	he new revision.
New Revision: 1.1.1.0	•
ОК	Cancel Help

- **9** 〈New Revision (新規リビジョン)〉ドロップダウンリストから、作業ファイルをチェックイン したときに新規ブランチを作成するリビジョン番号を選択します。
- **10** 【OK】をクリックします。選択したリビジョンからブランチが作成されます。ブランチは、リビジョン表示部にブランチアイコン (**1**))で表示されます。

自動ブランチの設定

Version Manager では、自動ブランチを設定できます。自動ブランチは、トランクリビジョンから 自動的にブランチを作成します。デフォルトでは、アクションを実行するときはいつでも、そのブラ ンチのチップリビジョンで作業をすることになります。

自動ブランチを設定していなければ、ブランチは手動で作成する必要があります。そのためには、 チップ以外のリビジョンをチェックインするか、チップリビジョンをチェックインした際にブランチ を強制するか、または多重ロックされたリビジョンをチェックインします。

Version Manager に自動ブランチを設定する方法については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』の『自動ブランチ』を参照してください。

シナリオ:開発のメインラインを中断させずにバグを修正する



小川さんは Chess プロジェクトファイルを確認して、チェスボードのバグを修正するために変更す る必要のあるファイルを特定しました。それらのファイルは、すべて Board サブプロジェクトの チップリビジョンに対応していました。彼女は Board サブプロジェクトを選択し、[Check Out (チェックアウト)] コマンドを選択しました。そして、システムデフォルトを維持したまま、【OK】 をクリックしました。毎日作業を終えた後、彼女は、ファイルをバージョン管理システムにチェック インしなければなりません。しかし、Chess 開発のメインラインに彼女が行った変更を組み入れる 準備がまだできていません。

そのため、小川さんは、これらのファイルをあと数日間編集して完璧に修正してから、Chess 開発のメインラインに組み込みたいと考えています。彼女は、開発の別のブランチを作成しようと思いますが、彼女がチェックアウトしたリビジョンはチップリビジョンであるため、しばらくの間、別に作業をするには、メインの開発トランクからブランチを強制する必要があります。

[Check In (チェックイン)] ダイアログボックスで、小川さんは変更に関する説明を入力しました。 [Advanced (詳細)] タブを選択し、〈Force branch (強制的にブランチさせる〉〉チェックボック スを選択したので、作業ファイルをチェックインすると、新しい開発ブランチが作成されます。ま た、浮動ラベルの「Chessboard Bug Fix」をプロジェクトファイルに割り当てました。このラベル を利用すると、リビジョンの識別が簡単になります。小川さんが【OK】をクリックすると、 Version Manager は作業ファイルをメインの開発トランクのブランチリビジョンとしてチェックイ ンし、これらのファイルに新しいバージョンラベルを適用します。

チェスボードブランチで作業を続けるために、小川さんは〈Default Revision(デフォルトリビジョ ン)〉フィールドで「Chessboard Bug Fix」バージョンラベルを指定して Board ファイルをチェッ クアウトします。小川さんがファイルをチェックインするたびに、このバージョンラベルは各ファイ ルの最新のブランチリビジョンに移動します。

第16章

ファイルの比較

ファイルの比較について	208
	208
相違点の表示	209
相違点の解釈	211

ファイルの比較について

並べて比較する Serena ChangeMan Version Manager では、2 つのテキストファイルを横に並べて、ファイルに 行われた追加、削除および変更を比較できます。バイナリファイルは比較できません。

リビジョンや作業 [Actions (アクション)] - [Show Differences (相違点の表示)]を選択すると、以下のアイテム ファイルを比較する を比較できます。

- リビジョンと作業ファイル
- 同じバージョン管理ファイルのリビジョン
- 2 つのバージョン管理ファイルの 2 つのリビジョン
- 2つの作業ファイル
- 表示のみ 〈Show Differences (相違点の表示)〉オプションを使用すると、2 つのファイルを簡単に比較でき ます。ただし、比較ファイルの印刷や保存を行うことはできません。

Windows 版でのカラムマスクの設定

カラムマスクを有効にするには

1 〔Advanced (詳細)〕タブを選択します。

ow Differences		
General Advance	d]	
Column Masking		
Cobol Maski	ng	
Mask Ranges:	1-6(numeric), 73-80	_
Record Length:	·	
	,	
		1 Linin



- 注 [Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスの [Advanced (詳細)] タブ で設定された値は、現在のセッションにのみ適用されます。この値は、プロジェクトコンフィ グレーションファイルにも、アーカイブファイルにも保管されません。
- COBOL ファイル用のデフォルト COBOL マスク定義を使用する場合は、(Cobol Masking (Cobol マスク)) チェックボックスを選択します。

- 3 〈Mask Ranges (マスク範囲)〉フィールドに、デフォルト値が自動的に表示されます。デフォルト値は、カラム 73 ~ 80、および 1 ~ 6 (数値列である場合のみ)です。デフォルト値を使用しない場合は、ここに別の値を入力することができます。
- 4 Version Manager が論理行に基づいてデルタを生成できるよう、固定長ファイルでのレコード 長を入力します。このフィールドには、可変長ファイル用の値を入力しないでください。無効または不正な結果が出力されます。

相違点の表示

ファイル間の相違点を表示するには

1 比較するバージョン管理ファイルまたはリビジョンを選択します。任意のテキストファイルを選択できます

D

注 別々のプロジェクト(ただし、同じプロジェクトデータベース内)にあるリビジョンを比較 するには、プロジェクトデータベースを選択します。異なるプロジェクトデータベースにある リビジョンは比較できません。

[Actions (アクション)] - [Show Differences (相違点の表示)]を選択します。[Show Differences (相違点の表示)] ダイアログボックスが表示されます。

Show Differences
General Advanced
Compare: Revisions in a single versioned file
First File
diff_test_1.bd
Revision: 1.0
Second File Revision: 1.2
Ignore white space
OK Cancel Help



注 〔Show Differences (相違点の表示)〕ダイアログボックスの内容は、選択した比較の種類 によって異なります。

3 〈Compare (比較)〉ドロップダウンリストで、実行する比較の種類を選択します。

比較対象	選択するアイテム
リビジョンと作業ファイル	バージョン管理ファイルとリビジョン番号、作業ファイル
同じバージョン管理ファイル のリビジョン	バージョン管理ファイルとリビジョン番号、2 つ目のリビ ジョン番号
2 つのバージョン管理ファイ ルのリビジョン	2 つのバージョン管理ファイルとそれぞれのリビジョン番号
作業ファイル	2 つの作業ファイル

4 〈First File (ファイル 1)〉グループのファイルまたはリビジョンを変更する場合は、【Browse (…)】をクリックして別のファイルまたはリビジョンを選択します。



注 バージョンラベル、リビジョン番号、またはプロモーショングループを指定してリビジョン を選択できます。

- 5 〈Second File (ファイル 2)〉グループのファイルまたはリビジョンを変更する場合は、 【Browse (…)】をクリックして別のファイルまたはリビジョンを選択します。
- 6 空白やタブ、改ページを無視する場合は、〈Ignore white space (空白を無視する)〉チェック ボックスを選択します。
- 7 【OK】をクリックします。Merant Merge Tool が起動して、2 つのファイルが横に並んで別々の表示部に表示されます。

👷 Frame1	
File 1: diff_test_1.txt 1.0	File 2: diff_test_1.txt 1.2 🖉 🖓 📤
This is line 1.	This is line 1. —
This is line 2.	This is line 2.
This is line 3.	This is line 3.
This is line 4.	This is line 4. This is line 4.
This is line 5.	This is line 5. This is line 5.
This is line 6.	This is line 6. This is line 6.
	This is line 6.5.
This is line 7.	This is line 7.
This is line 8.	This is line 8.
This is line 9.	This is line 9.
This is line 10.	This is line 10.
	<u>▼</u>
•	▶ <i> </i>

8 相違点を見るには、ファイルをスクロールして色のついたテキストブロックを比較します。

Windows 版ユーザは、〈Next Difference (次の相違行)〉アイコン (*土*))をクリックする ことによって、異なる箇所を直接表示することができます。

相違点の解釈

- 相違点の種類 ファイル 1 はベースファイルとして使用されます。ファイル 2 をファイル 1 と比較します。ファイ ル間の相違点は、追加行、削除行および変更行に分類されます。
 - 追加行はファイル 2 で追加されたテキスト行です。このテキスト行はファイル 1 にはありません。
 - **削除行**はファイル 2 で削除されたテキスト行です。このテキスト行はファイル 1 にはあります。
 - **変更行**はどちらかのファイルで編集されているテキスト行です。
- プレースホルダ ファイル間の相違点の種類を区別するのに使用される色の帯です。相違点の種類(追加行、削除行または変更行)ごとに2つのプレースホルダ(色)が割り当てられています。1つは採用を表し、もう1つは不採用を表します。

Kana Frame1	
File 1: diff_test_1.txt 1.0	File 2: diff_test_1.txt 1.2 🖉 🎑 📥
This is line 1.	This is line 1.
This is line 2.	This is line 2.
This is line 3.	This is line 3.
This is line 4.	This is line 4. This is line 4.
This is line 5.	This is line 5. This is line 5.
This is line 6.	This is line 6. This is line 6.
	This is line 6.5.
This is line 7.	This is line 7.
This is line 8.	This is line 8.
This is line 9.	This is line 9.
This is line 10.	This is line 10.
•	

Windows 版ユーザ Windows 版ユーザは、プレースホルダの色を変更できます。色を変更するには、Merant Merge Tool の [Configuration (詳細設定)] アイコン (🗐) をクリックして、表示されるダイアログ ボックスの [Colors (表示色)] タブをクリックします。

Windows 版ユーザは、色の説明を表示させて、それぞれの色が何を表しているのかを見ることができます。色の説明を表示するには、Merant Merge Toolの[Color Tips (色の確認)] アイコン

(🔳)を選択します。〔	Color Tips	(色の確認)〕	ダイアログボッ	クスが表示されます。
-----	-----------	------------	---------	---------	------------

Colour Tips	×
Addition	
Deletion	
Unselected Selected	
Change	Padded
Unselected Selected	
No Change Highlighted	Ancestor —
Unselected	Conflict
Conflicting lines	
Unselected Selected F	Resolved

相違点の例

以下の例は、ファイル1(ベースファイル)として選択したファイルによって、ファイルの相違点が どのように変わるかを示しています。

 例 1 この例は、同じバージョン管理ファイルからの 2 つのリビジョンを比較しています。バージョン
 1.0 がファイル 1 (ベースファイル)として選択されており、バージョン 1.2 がファイル 2 として 選択されています。

ファイル 1(バージョン 1.0) ファイル 2(バージョン 1.2)

	Frame1	
	File 1: diff_test_1.txt 1.0	File 2: diff_test_1.txt 1.2 🛎 🏔 📥
	This is line 1.	This is line 1. —
	This is line 2.	This is line 2.
_	This is line 3.	This is line 3.
変更	This is line 4.	This is line 4. This is line 4.
	This is line 5.	This is line 5. This is line 5.
	This is line 6.	This is line 6. This is line 6.
追加 ———	+	This is line 6.5.
	This is line 7.	This is line 7.
	This is line 8.	This is line 8.
	This is line 9.	This is line 9.
	This is line 10.	This is line 10.
	<u></u>	

番号 4、5、6 の行は変更されており、相違点として強調表示されています。これらの相違点は変更 プレースホルダで区別されています。番号 6.5 の行は、ファイル 2 で追加されたもので、これも相 違点として表示されています。この相違点は追加プレースホルダで区別されています。

例 2 同じ例を使用し、ファイルの順番を入れ替えると、以下の結果になります。

	ファイル1(バージョン1.2)	ファイル 2(バージョン 1.0)
	🚒 Frame1	
	File 1: diff_test_1.txt 1.2	File 2: diff_test_1.txt 1.0 🗐 🍽 📥
	This is line 1.	This is line 1. —
	This is line 2.	This is line 2.
	This is line 3.	This is line 3.
**	This is line 4. This is line 4.	This is line 4.
変史 ————	This is line 5. This is line 5.	This is line 5.
	This is line 6. This is line 6.	This is line 6.
削除 ———	This is line 6.5.	
	This is line 7.	This is line 7.
	This is line 8.	This is line 8.
	This is line 9.	This is line 9.
	This is line 10.	This is line 10.
		· •

番号 4、5、6 の行は、列 1 と同様に、変更プレースホルダによって相違点として強調表示されています。しかし、追加行である番号 6.5 の行は、ファイル 1 (ベースファイル)にはありますが、ファイル 2 にはありません。この相違点は削除プレースホルダで区別されています。



ファイルのマージ

マージについて	214
Windows 版でのカラムマスクの設定	216
Windows または UNIX でのファイルのマージ	216
	220
	223
	224
	224
	225

マージについて

マージとは マージとは、共通のベースファイルを持つ2つ(または、それ以上)のテキストファイル、または テキストファイルのリビジョン間の相違点を比較し、それらを受け入れたり、取り除いたりしなが ら、変更を新規のテキストファイルに統合していくプロセスです。

バイナリファイルは比較したり、マージしたりはできません。

ファイルをマージす マージは並行開発の際に便利です。マージを利用すると、開発のブランチで実行された作業を統合しる理由 て、開発のメインラインに組み込むことができます。

マージの種類 Version Manager では、以下の組み合わせをマージできます。

- リビジョンと作業ファイル
- 同じバージョン管理ファイルのリビジョン
- 2 つのバージョン管理ファイルのリビジョン
- 作業ファイル
- Windows 版ユーザ Windows 版の Version Manager は、N 通り(無制限)のマージを実行できます。Version Manager から選択できるファイルは 3 つ(1 つのベースファイルと 2 つのブランチファイル)のみ ですが、Merant Merge Tool を起動すると、N 通りのマージを実行できます。N 通りのマージを実 行する方法については、Merant Merge Tool オンラインヘルプを参照してください。
 - UNIX ユーザ UNIX 版 Version Manager では、2 通り(ベースファイルとブランチファイル)のマージを実行できます。3 通り以上のマージはサポートされていません。

マージの用語と定義

次のリストは、マージに関する用語とその定義です。

用語	定義
ベースまたは元ファイル	ほかのファイルが派生したベースファイル
ブランチまたは比較ファ イル	ベースファイルを変更して得られた結果
出力またはターゲット	最終マージファイル
追加	ブランチファイルに追加されたテキスト行。このテキスト行は ベースファイルにはありません。
削除	ブランチファイルから削除されたテキスト行。このテキスト行は ベースファイルにはあります。
変更	ブランチファイルの 1 つで修正されたテキスト行。このテキスト 行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとでは異なりま す。
競合 (Windows 版のみ)	複数のブランチファイルで修正されたテキスト行。このテキス ト行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとでは異な ります。



注 UNIX 版では、変更行は競合とみなされるので、ユーザが解決する必要があります。

マージプロセス

マージは、以下のプロセスからなります。

- 出力(ターゲット)ファイルをチェックインする先のブランチまたはトランクのチップをロック する
- 参照ポイントとしてベースファイル(元ファイル)を選択する
- リビジョンブランチファイル(比較ファイル)を選択する
- 出力(ターゲット)ファイル名を入力する
- 変更を採用または不採用にして、ベースファイルとブランチファイルの競合を解決する
- 出力(ターゲット)ファイルに変更を保存する
- 出力ファイルをチェックインする

ベースファイルの選択

ベースファイルは、基準点として使用するファイルです。これは通常、ブランチが開始されるリビジョン、つまり、ブランチポイントです(通常は、開発のメイントランクから分岐)。

別々のブランチまたはバージョン管理ファイルにあるリビジョンをマージする場合は、選択するベー スファイルが、マージするすべてのリビジョンに共通の元ファイルの中で最新のリビジョンまたは ファイルである必要があります。

重要! UNIX 版のみ

UNIX 上にて、ブランチのリビジョンとトランクのリビジョンをマージ、もしくは比較する際には、 ベースファイルを最新のトランクのリビジョンに設定し、その後に最新のブランチのリビジョンを ブランチファイルとして選択する必要があります。

以下の例では、リビジョン 1.2.1.2 とリビジョン 1.4.1.1 とをマージする場合に、リビジョン 1.2 をベースファイルとして使用します。リビジョン 1.1 または 1.0 をベースファイルとして使用する こともできますが、マージを行うファイルにもっとも近いリビジョンを選択することをお勧めしま す。ベースファイルの内容がマージするファイルの内容に近いほど、解決しなければならない競合も 減るためです。

Windows 版でのカラムマスクの設定

カラムマスクを有効にするには

1 〔Advanced (詳細)〕タブを選択します。

Show Merge		×
General Advanced]	
Column Masking -		
Cobol Masking		
Mask Ranges:	1-6(numeric), 73-80	
Record Length:		
	OK Cancel	Help



注 〔Show Merge (マージの表示)〕ダイアログボックスの〔Advanced (詳細)〕タブで設定 された値は、現在のマージセッションにのみ適用されます。この値は、プロジェクトコンフィ グレーションファイルにも、アーカイブファイルにも保管されません。

- COBOL ファイル用のデフォルト COBOL マスク定義を使用する場合は、〈Cobol Masking (Cobol マスク)〉チェックボックスを選択します。
- 3 〈Mask Ranges (マスク範囲)〉テキストボックスに、デフォルト値が自動的に表示されます。 デフォルト値は、カラム 73 ~ 80、および 1 ~ 6 (数値列である場合のみ)です。デフォルト 値を使用しない場合は、ここに別の値を入力することができます。
- 4 Version Manager が論理行に基づいてデルタを生成できるよう、固定長ファイルでのレコード 長を入力します。ここには、可変長ファイル用の値を入力しないでください。無効または不正な 結果が出力されます。

Windows または UNIX でのファイルのマージ

ファイルをマージするには

- 1 マージの結果を追加するブランチまたはトランクのチップをロックします。
- 2 マージするバージョン管理ファイルまたはリビジョンを選択します。

マージするファイルを選択する場合は、以下を考慮に入れてください。

 ファイルがベースファイルになるか、ブランチファイルになるかは、ファイルを選択する順 序によって決まります。最初に選択したファイルがベースファイルになり、2番目および3 番目(Windows 版のみ)に選択したファイルがブランチファイルになります。
選択したアイテム(プロジェクト、バージョン管理ファイルまたはリビジョン)によって、
 表示される初期オプションが異なります。

注 〔Show Merge (マージを表示)〕ダイアログボックスが表示されている場合、このオプ ションを変更できます。

- (UNIX 版のみ)トランクとブランチのリビジョンをマージするには、ベースファイルをトランクのチップリビジョンに、ブランチファイルをブランチのチップリビジョンに設定する必要があります。
- 別々のプロジェクト(ただし、同じプロジェクトデータベース内)にあるリビジョンをマージするには、プロジェクトデータベースを選択します。別々のプロジェクトデータベースにあるリビジョンをマージすることはできません。
- (Windows 版のみ) 2 つのファイルのみをマージする場合は、(Base (ベース)) フィール ドと (Branch 1 (ブランチ 1)) フィールドにそれぞれ同じファイルを入力します。また、 (Branch 2 (ブランチ 2)) フィールドに 2 番目のファイルを入力します。
- **3** [Actions (アクション)] [Show Merge (マージの表示)]を選択します。[Show Merge (マージの表示)] ダイアログボックスが表示されます。

how Merge		
General Advanced		
	Merge: Revisions in a single versioned fire Base sample.class.bt Revision: 1.5	
Branch 1 Revision: 1.2.	.0 Branch 2 Revision: 1.4.1.1	
	Output File	
	OK Cancel	Heln

Windows ダイアロ グボックス

UNIX	ダイア	ログ
	ボッ	クス

Base CheckingIn.html Revision: 1.0 Branch Revision: 1.2	Merge:	Revisions in a single versioned file 😑
CheckingIn.html Revision: 1.0 Branch Revision: 1.2	Base —	
Revision: 1.0 Branch Revision: 1.2	Check	ingIn.html
Branch Revision: 1.2	Revisio	n: 1.0
Revision: 1.2	Branch	
	Revisio	n: 1.2
Output File	Output	File
mergefile.html	merge	file.html



注 〔Show Merge (マージの表示)〕ダイアログボックスの内容は、選択したファイルおよび マージの種類によって異なります。

4 〈Merge (マージ)〉ドロップダウンリストで、実行するマージの種類を選択します。

W	indows の場合に指定する項目	UNIX の場合に指定する項目
ベージ	ースファイルとリビジョン番号、ブランチリビ ョン番号、ブランチ作業ファイル	ベースファイルとリビジョン番号、ブランチ 作業ファイル
ベ- チ	ースファイルとリビジョン番号、2 つのブラン リビジョン番号	ベースファイルとリビジョン番号、ブランチ リビジョン番号
べ- チ	ースファイルとリビジョン番号、2 つのブラン ファイルとリビジョン番号	ベースファイルとリビジョン番号、ブランチ ファイルとリビジョン番号
べー	ース作業ファイルと 2 つの作業ファイル	ベース作業ファイルとブランチ作業ファイル
5	〈Base(ベース)〉グループのファイルまたはリ タンをクリックして別のファイルまたはリビジョ	ビジョンを変更する場合は、【Browse(…)】ボ ョンを選択します。
	W ベジ ベチ ベチ ズ チ ズ チ	 Windows の場合に指定する項目 ベースファイルとリビジョン番号、ブランチリビジョン番号、ブランチ作業ファイル ベースファイルとリビジョン番号、2 つのブランチリビジョン番号 ベースクァイルとリビジョン番号、2 つのブランチファイルとリビジョン番号 ベース作業ファイルと 2 つの作業ファイル 5 〈Base (ベース)〉グループのファイルまたはリビジョンをクリックして別のファイルまたはリビジョン



注 UNIX 版のみ

UNIX 版でトランクとブランチリビジョンをマージするには、ベースファイルをトランクの チップリビジョンに設定する必要があります。 6 〈Branch 1 (ブランチ 1)〉(Windows 版) または〈Branch (ブランチ)〉(UNIX 版) グループ ボックスのファイルまたはリビジョンを変更する場合は、【Browse (…)】ボタンをクリックし て別のファイルまたはリビジョンを選択します。



注 UNIX 版のみ

UNIX 版でトランクとブランチリビジョンをマージするには、ベースファイルをトランクの チップリビジョンに設定する必要があります。

- 7 (Windows 版のみ) 〈Branch 2 (ブランチ 2)〉 グループのリビジョンまたはファイルを変更 する場合は、【Browse (…)】ボタンをクリックして別のファイルまたはリビジョンを選択し ます。
- 8 〈Output File (出力ファイル)〉テキストボックスに、出力(ターゲット)ファイルの名前を入 力するか、【Browse (…)】をクリックして既存の作業ファイルを選択します。

注 出力ファイル名をパスなしで入力した場合は、出力ファイルは Version Manager インストールディレクトリの BIN ディレクトリに作成されます。選択した場所にすでに同じファイル 名が存在する場合は、古いファイルは上書きされます。

 9 【OK】をクリックします。Windows 版では、ベースファイルとブランチファイルが〔Frames (フレーム)〕ウィンドウに表示され、マージ結果が〔Output File(出力ファイル)〕ウィンドウ に表示されます。

- Merge Tool 2.1.3
File Edit View Windows Help
🖬 📧 🔁 The system fixed font 🔹 📈 🔊 🥮 📦 🖬 🖬 🎞 🕍 🖉 🖷 🖓 🗮 🕲 😨 🗮
riame1
Base: sample.class 1.1 Branch 1: sample.class 1.2.1.2 🗐 🎥 Branch 2: sample.class 1.4.1.🖉 🎥 📥
This is an example of the base revi 🕨 This is an example of the base revi 🛛 This is an example of the base re-
This is an example of the base revi This is an example of the base revi This is an example of the base re
This/is/an/example/of/the/base/revi This/is/an/example/of/the/base/re
This is an example of the base revi This is an example of the base revi This is an example of the base re
This/is/an/example/of/the/base/revi
This is an example of the base revi This is an example of the base revi
This is an august of the base your This////////////////////////////////////
T 1 Base: sample.class 1.1 This is an example of the base revision.
2 Inis is an example of the base revision being modified.
A Base: Sample.class 1.1 Inits is an example of the base revision.
Reach 2. cample class 1 / 1 1
Branch 2: sample.class 1.4.1.1
4 Base: sample.class 1.1 This is an example of the base revision being modified.
5 Branch 2: sample.class 1.4.1.1 This is an example of the base revision being modifed again.
6 Branch 1: sample.class 1.2.1.2 This is an example of the base revision being modifed again.
Branch 2: sample.class 1.4.1.1
7 Base: sample.class 1.1 This is an example of the base revision being modified.
8 Branch 1: sample.class 1.2.1.2 This is an example of the base revision being modifed again.
9 Branch 2: sample.class 1.4.1.1 This is an example of the base revision being modified again.
Rearch 1. cample class 1 2 1 2
Ready Uutput File: sample_merge.class Line 1 Conflicts 4 Resolved 0 //

1	Merge ⁻	Tool				
<u>F</u> ile <u>V</u> iew <u>S</u> elect <u>O</u> ptions		<u>H</u> elp				
Total Conflicts: 4, Resolved Conflicts: 2						
/tmp/_inuk695.tmp	31 🖊	/tmp/_dm72yz6.tmp 30				
<p> You can override any of these defaults whe </p>	n ch	<p> You can override any of these defaults when ch </p>				
<h2>To check in a file, project, or projec</h2>	t da	<h2>To check in a file, project, or project da</h2>				
<pre><u><l></l></u></pre> <u>Select the file, project, or project d </u>	latab	<pre>Select the file, project, or project datab </pre>				
<pre>Select Actions Check In. The Check In di </pre>		Select Actions Check In. The files will				
<pre><bk><bk></bk></bk></pre> <pre></pre> <pre><td>lick</td><td><pre><bk><bk> On the General tab, accept the defaults li <</bk></bk></pre></td></pre>	lick	<pre><bk><bk> On the General tab, accept the defaults li <</bk></bk></pre>				
<pre><ol type="a"> type="a"> To override the defaults on the Genera </pre>	ıl ta					
<table border="1" cellspacing<br="" width="87%"><tr> <td>To</td> <td>To</td> </tr></table>	To	To	i="2"	<table <br="" border="1" cellspacing="2" width="87%"><tr> <td>to</td> <td>to</td> </tr></table>	to	to
To	To					
to	to					
<tr> <td>Modify the location from which the wor</td><td>kfil</td><td><tr> <td>Modify the location from which the workfil</td></tr></td></tr>	Modify the location from which the wor	kfil	<tr> <td>Modify the location from which the workfil</td></tr>	Modify the location from which the workfil		
Modify the location from which the wor	kfil	<tr> <td>Modify the location from which the workfil</td></tr>	Modify the location from which the workfil			
Modify the location from which the workfil						

UNIX では、ベースファイルとブランチファイルが〔Merge Tool〕ウィンドウに表示されます。

- **10** ベースファイルとブランチファイルとの間の競合を解決します。競合の解決方法については、次のいずれかを参照してください。
 - 224 ページの『Windows 版でのファイル間の競合の解決』
 - 224 ページの『UNIX 版でのファイル間の競合の解決』
- 11 マージの結果を出力ファイルに保存するには、次のいずれかを実行します。
 - Windows 版では、[File (ファイル)] [Save Target (ターゲットの保存)]を選択します。
 - UNIX 版では、[File (ファイル)] [Save As (別名保存)]を選択して【OK】をクリック します。



注 出力パスまたはファイル名を入力し直す必要はありません。

12 出力ファイルを開いて確認します。マージの結果が満足できるものであれば、手順1で選択したブランチまたはトランクのチップに出力ファイルをチェックインします。

Windows 版での相違点の解釈

相違点の種類 ベースファイルとして選択したファイルは、出力ファイルの基本として使用されます。ブランチ1 とブランチ2はベースファイルと照らし合わせて比較されます。ベースファイルとブランチファイ ルとの間の相違点は、追加行、削除行、変更行のいずれかで分類されます。

- 追加行はブランチファイルに追加されたテキスト行です。このテキスト行はベースファイルには ありません。
- 削除行はブランチファイルから削除されたテキスト行です。このテキスト行はベースファイルにあります。

- **変更行**はブランチファイルの1つで修正されたテキスト行です。このテキスト行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとでは異なります。
- 競合行は複数のブランチファイルで修正されたテキスト行です。このテキスト行の内容は、ブランチファイルとベースファイルとでは異なります。

プレースホルダ

プレースホルダは、ファイル間の相違点の種類を区別するのに使用される色の帯です。相違点の種類 (追加行、削除行または変更行)ごとに2つのプレースホルダ(色)が割り当てられています。1つ は採用を表し、もう1つは不採用を表します。



色の説明を表示 色の説明を表示して、それぞれのプレースホルダの意味を確認することもできます。色の説明を表示 するには、Merant Merge Tool から【Color Tips(色の確認)】(<u></u>) をクリックします。 [Color Tips(色の確認)]ダイアログボックスが表示されます。

Colour Tip s	×
Addition	Close
Deletion Unselected Selected	
Change Unselected Selected	Padded
No Change Highlighted Unselected Selected	Ancestor Conflict
Conflicting lines	
Unselected Selected F	Resolved

プレースホルダの色の変更

プレースホルダの色を変更するには

- 1 【Configuration (詳細設定)】 🖺 をクリックします。
- **2** 〔Colors (表示色)〕タブを選択します。





4 色のパレットから新しい色を選択して【OK】をクリックします。

競合

複数のブランチファイルの行の内容がベースファイルの行の内容と異なる場合に競合が起こります。

デフォルトでは、競合が起こったテキスト行には右斜線(///)でシェードが付けられます。競合を 解決すると、採用されたテキスト行にはこれらのシェードは残りますが、採用されなかったブロック のシェードは、右斜線から網目(XXX)に変わります。



競合のシェードの変更

競合のシェードを変更するには

- 1 【Configuration (詳細設定)】 🛅 をクリックします。
- **2** 〔Colors (表示色)〕タブを選択します。
- **3** 〈Conflicting lines (競合行)〉ドロップダウンリストから、シェードパターンを選択します。

Conflicting lines - Uns	elected, Select	ed and Resolve	d		
	/ 💽 📶	////	•	××××	×
採用され	ていない	採用さ	れた	解決	済み

UNIX 版での相違点の解釈

- 相違点の種類 ベースファイルとして選択したファイルは、出力ファイルの土台として使用されます。ブランチファ イルはベースファイルと照らし合わせて比較されます。ベースファイルとブランチファイルとの間の 相違点は、追加行、削除行、変更行のいずれかに分類されます。
 - 追加行はブランチファイルに追加されたテキスト行です。このテキスト行はベースファイルには ありません。
 - 削除行はブランチファイルから削除されたテキスト行です。このテキスト行はベースファイルにあります。
 - 変更行はブランチファイルで修正されたテキスト行です。このテキスト行の内容は、ブランチ ファイルとベースファイルとでは異なります。



注 UNIX 版では、変更行は競合とみなされるので、ユーザが解決する必要があります。

プレースホルダ

プレースホルダは、ファイル間の相違点の種類を区別するのに使用される色の帯です。相違点の種類 (追加行、削除行または変更行)ごとに2つのプレースホルダ(色)が割り当てられています。1つ は採用を表し、もう1つは不採用を表します。



色の説明を表示 色の説明を表示して、それぞれの色が何を表しているのかを示すこともできます。色の説明を表示 するには、Merant Merge Tool から [Help (ヘルプ)] – [Color Legend (色の説明)]を選択 します。

-			N	∕lgdiff	Legend			
<mark>this</mark>	color	indicates	blocks	which	differ	<mark>between fil</mark>	es	
this	color	indicates	blocks	which	are ide	ntical betw	een file	es
<mark>this</mark>	color	indicates	blocks	which	have bee	en inserted	in one	file
this	color	indicates	blocks	which	are for	display pu	rposes	
this	color	indicates	blocks	which	have bee	en selected	by the	user
ОК								

プレースホルダの色の変更

プレースホルダの色を変更するには、テキストエディタで Mgdiff Legend ファイルを編集します。このファイルは、Version Manager のインストール時に、/bin/app-defaults ディレクトリに置かれます。

Windows 版でのファイル間の競合の解決

デフォルトでは、Serena ChangeMan Merge Tool はすべての追加行、削除行、および変更行を自 動的に出力(ターゲット)ファイルに挿入しますが、競合箇所は挿入しません。リビジョンのマージ を正常に終了するには、すべての競合を解決する必要があります。

Windows 版では、ベースファイルと複数のブランチファイルとの間でテキスト行が異なってい る場合に競合が起こります。どのブロックを採用するかは、Merant Merge Tool では判別できな いので、どのテキストブロックを出力ファイルに入れるかをユーザが選択して、競合を解決する 必要があります。

注 競合を解決するには、ベースファイルとブランチファイルの相違点を区別しておく必要があります。ベースファイルとブランチファイルとの間の追加行、削除行および変更行を区別する方法については、220 ページの『Windows 版での相違点の解釈』を参照してください。

ベースファイルとブランチファイルとの間の競合を解決するには

- Merant Merge Tool の [Frames (フレーム)] ウィンドウで、【Next Conflict (次の競合行)】
 (♥))をクリックして競合のある次のブロックに進みます。
- 2 出力(ターゲット)ファイルに表示するテキストの部分を右クリックすることによって、競合を 解決します。選択した競合行は色が変わり、不採用となったブロックのシェードが解決済みを示 すシェードに変わります。

競合ブロックを右クリックで選択する



14 line12	14 line12	14 line12
	15 Resolved add contlight	15 Selected add conflict
	16 Resolved add conflict	16 Selected add conflict
	17 Resolved add conflict	17 Selected add conflict
15 line13	18 line13	18 line13

- 3 競合がすべて解決するまで、手順1~2を繰り返します。
- **4** 出力(ターゲット)ファイルの内容をチェックします。適切な内容が出力ファイルにマージされているかどうかを確認します。
- 5 [File (ファイル)] [Save Target (ターゲットの保存)]を選択して出力(ターゲット) ファイルを保存します。

UNIX 版でのファイル間の競合の解決

デフォルトでは、Merant Merge Tool はすべての追加行および削除行を自動的に出力(ターゲット) ファイルに挿入しますが、変更行は挿入しません。リビジョンのマージを正常に終了するには、すべ ての競合(変更行)を解決する必要があります。

UNIX版では、ブランチファイルでテキスト行が修正された結果、この行の内容がブランチファイル とベースファイルとで異なることになり、競合が起こります。どのブロックを採用するかは、 Merant Merge Tool では判別できないので、どのテキストブロックを出力ファイルに入れるかを ユーザが選択して、競合を解決する必要があります。



注

- UNIX版では、「変更行」は「競合」とみなされるので、ユーザが解決する必要があります。
- 競合を解決するには、ベースファイルとブランチファイルの相違点を区別しておく必要があります。ベースファイルとブランチファイルとの間の追加行、削除行および変更行を区別する方法については、223ページの『UNIX版での相違点の解釈』を参照してください。

ベースファイルとブランチファイルとの間の競合を解決するには

- 1 [Merge Tool] ウィンドウで、競合する行をスクロールして表示します。
- 2 出力(ターゲット)ファイルに表示するテキストブロックを採用して、競合を解決します。採用した競合行は色が変わります。



- 3 競合がすべて解決するまで、手順1~2を繰り返します。
- **4** [File (ファイル)] [Save As (別名保存)] を選択し、【OK】をクリックして出力ファイルに 競合の結果を保存します。出力パスまたはファイル名を入力し直す必要はありません。

シナリオ:ブランチリビジョンを比較してトランクにマージする



小川さんは chessbord ファイルのバグ修正を終え、Chess アプリケーションのメイン開発トランク に変更をマージする準備を整えました。各 chessbord ファイルには新規リビジョンが存在すること がわかりました(リビジョン 1.7)。彼女がブランチリビジョンで作業をしている間に、別の開発者 がファイルを編集したようです。小川さんは、トランクとブランチのチップリビジョンを 1 つの ファイルにマージして、マージしたファイルを最新のリビジョン 1.8 としてトランクに戻すつもり です。

小川さんは Board サブプロジェクトを選択し、[Lock (ロック)] コマンドを選択しました。サブプロ ジェクトのロックにより、小川さんがブランチ開発での変更をマージしている間に、ほかの開発者によ る Board ファイルの変更を防ぎます。チェスボードの最初のファイル、board.jpr を選択し、[Show Merge (マージの表示)] コマンドを選びました。そして、以下のオプションを選択しました。

 〈Merge (マージ)〉ドロップダウンリストで、〈Revisions in a single versioned file (同じ バージョン管理ファイルのリビジョン)〉オプションを選択しました。これは、1 つのファイル、 board.jpr の異なるリビジョン(1.7 と 1.6.1.5)をマージすることを示します。 〈Base (ベース)〉グループボックスで、小川さんは【Browse (...)】をクリックして 2 つのリ ビジョンの共通のソースに相当するリビジョンを選択しました。ここでは、ベースリビジョン は、小川さんが開発を開始した、リビジョン 1.6 です。

Version Manager では、このリビジョンをマージプロセスの参照または比較ポイントとして使用します。たとえば、Version Manager は、トランクのチップリビジョンであるリビジョン 1.7 とリビジョン 1.6 を 1 行ずつ比較することによって、追加行、削除行、および変更行を識別します。その後、このプロセスをブランチのチップリビジョン、1.6.1.5 に対しても繰り返します。

- 〈Branch 1 (ブランチ 1)〉グループボックスで、【Browse (...)】をクリックしてブランチの チップリビジョン 1.6.1.5 を選択しました。このリビジョンは、小川さんが新しいファイルに マージする 1 番目のファイルとなります。
- 〈Branch 2 (ブランチ 2)〉グループボックスで、【Browse (...)】をクリックしてトランクの チップリビジョン、1.7 を選択しました。このリビジョンは、小川さんが新しいファイルにマー ジする 2 番目のファイルとなります。
- 〈Output File (出力ファイル)〉テキストボックスに、出力(ターゲット)ファイル名として board_merge.exe と入力しました。これは、小川さんが最後にリビジョン 1.8 としてチェッ クインするマージファイルとなります。小川さんは、実行ファイルのマージバージョンをテスト してから Version Manager にチェックインしたいので、元のファイルとは別の名前を付けまし た。チェックインできる段階になったら、名前を board.jpr に変更して Version Manager に チェックインします。

Merant Merge Tool では、ベースファイルとブランチファイルは [Frames (フレーム)] ウィンド ウに表示されます。デフォルトでは、Merant Merge Tool は、競合するものを除くすべての追加、 削除および変更を自動的にベースファイルにマージし、マージした結果のバージョンを [Output File (出力ファイル)] ウィンドウに表示します。小川さんは、マージした変更を確認し、出力ファ イルに保存する前に競合を解決する必要があります。

トランクのチップリビジョンとブランチのチップリビジョンの相違点を区別するために、Version Manager はまず、リビジョン 1.6.1.5 をベースファイルと比較します。そして、追加、削除および 変更を、[Frames (フレーム)] ウィンドウのファイル 1 のセクションに色分けして表示します。 Version Manager は、このプロセスをリビジョン 1.7 に対しても行い、比較結果を [Frames (フ レーム)] ウィンドウのファイル 2 のセクションに表示します。競合しない情報は、自動的にター ゲットファイルに統合されます。両ファイルで同じ行が変更されている場合は、その行が競合として 別の色で表示されます。小川さんがマージ作業を続行するには、これらの競合をすべて解決する必要 があります。

競合を解決する前に、小川さんは、ターゲットファイルに自動的に統合された変更について確認する ことにしました。【Color Tips(色の確認)】を選択し、[Frames(フレーム)]ウィンドウに表示さ れる色の説明を表示しました。次に、[View(表示)] – [Show Only Differences(相違点のみを 表示)]を選択し、【Next Difference(次の相違行)】および【Previous Difference(前の相違行)】 を使用して変更を確認しました。

マージでは、変更を自動的にターゲットファイルに統合したため、変更ブロックはブランチファイル で採用された状態で表示されます。ここでは、小川さんは出力ファイルに表示された変更に異存はな かったので、何も編集しませんでした。もし自動的に統合された内容に異存がある場合は、ブランチ ファイルで変更されたブロックを選択し、出力ファイルから削除します。これにより、変更ブロック のブランチファイルでの選択が解除され、ターゲットファイルには表示されなくなります。代わり に、ベースファイルの元のラインが選択され、ターゲットファイルに表示されます。

小川さんは、次に、ファイル間の競合を解決して、適切なバージョンを出力ファイルに統合する必要 があります。そのために、[Frames (フレーム)] ウィンドウのファイルの一番上に移動し、【Next Difference (次の相違行)】をクリックしました。[Frames (フレーム)] ウィンドウがスクロール して最初の競合が表示されます。小川さんはこの競合行をダブルクリックしました。[Global Comparison (グローバル比較)] ウィンドウが表示されました。 小川さんは2つのバージョンのコード行を比較して、ターゲットファイルに統合する方のバージョンを右クリックしました。採用された競合行は色が変わり、選択されたことを示します。採用されなかった競合行はシェードパターンが変わり、ほかの競合行が採用されて解決したことを示します。小川さんはこのプロセスを残りの競合行についても繰り返しました。

すべての競合を解決した後、小川さんは、リビジョン 1.8 の候補であるターゲットファイルを保存 しました。そして、コードをテストして正常に実行できることを確認しました。ファイル名を board.jpr という元の名前に変更し、board.jpr のリビジョン 1.8 としてチェックインしました。 ファイルをチェックインした後、リビジョンから Chessboard Bug Fix というバージョンラベルを 削除しました。

小川さんは Board サブプロジェクトの各ファイルについてこのマージ作業を繰り返しました。最後のマージファイルをチェックインした後、プロジェクトのロックを解除し、彼女が変更したリビジョンをほかの開発者が使用できるようにしました。



リビジョンのプロモート

プロモーショングループについて	230
プロモーションのプロセス	231
リビジョンへのプロモーショングループの割り当て	233
リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート	234
プロモーショングループの変更	235
プロモーショングループの削除	236
シナリオ:一連のファイルをプロモートする	237
シナリオ:追加作業のため、リビジョンを Development にデモートする	238

プロモーショングループについて

- 始める前に プロモーショングループを使って作業をするには、プロジェクトデータベースにプロモーションモデ ルが設定されている必要があります。「プロモーションモデル」とは、開発サイクルの節目の階層で す。節目は、プロモーショングループで表されます。プロモーションモデルの設定方法については、 『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』の『プロモーションモデルの使用』を参 照してください。
- プロモーショング プロモーショングループは、プロモーションモデル階層内の節目です。プロジェクトデータベースに ループとは プロモーションモデルが作成されている場合は、リビジョンが最下位レベルのプロモーショングルー プに割り当てられます。開発が進んで一定の節目に達すると、権限のあるユーザはリビジョンをプロ モーションモデル階層内でプロモートできます。開発は、リビジョンがプロモーションモデル階層の 最上位レベルのプロモーショングループに達した時点で終了となります。

この図は、プロモーションモデルの典型的な例です。

■ PRODUCTION ― 最上位レベルのプロモーショングループ ■ QA ■ DEV ― 最下位レベルのプロモーショングループ

プロモーショング プロモーショングループは、リビジョンが開発プロセスのさまざまな段階を経ていく過程を追跡する ループを使用する ために使用されます。ロックされたリビジョンは必ず最下位レベルのプロモーショングループに割り 理由 当てられ、ソフトウェアの変更が規制されます。また、プロモーショングループを使用すると、プロ モーションモデルをさまざまなセキュリティオプションと統合することによって、ソースコードへの アクセスを制御できます。

> ソフトウェアを段階的に開発する正式な手順が決まっており、プロジェクトチームの各メンバーがそ れぞれ明確な別々の役割を持っている場合は、プロモーショングループを使用すると便利です。

- 論理的および物理的 リビジョンをプロモーショングループに割り当てる場合は、その関連性は物理的なものというより、 な関連付け 論理的なものであると考えてください。メインフレームの環境とは異なり、Version Manager では、 開発の個々段階のファイルを物理的に独立した場所に保存する必要はありません。
 - プロモート権限 通常、プロジェクトリーダーと管理者のみがリビジョンをプロモートする権限を持っています。リビジョンをプロモートするには、管理者によって割り当てられたプロモート権限が必要です。

プロモーショングループに割り当てられたリビジョンのチェックア ウト

プロモーショングループについて覚えておかなくてはならない重要な規則は、最下位レベルのプロ モーショングループのリビジョンのみがチェックアウトできるということです。リビジョンがどのプ ロモーションレベルに達していようと、リビジョンをチェックアウトしてロックする場合は、リビ ジョンを最下位レベルのプロモーショングループに割り当てる必要があります。

ワークスペース設定を使用して、デフォルトプロモーショングループを定義することができます。ア クティブなワークスペースでデフォルトプロモーショングループが定義されていない場合は、以下の いずれかが行われます。

 プロモーションモデルに複数のプロモーショングループが定義されている場合は、最下位のプロ モーショングループから1つを選択する画面が表示されます。 プロモーションモデルで定義されたプロモーショングループが1つの場合は、その最下位のプロモーショングループが選択されます。



プロモーションモデルに関する詳細な規則については、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』の『プロモーショングループの使用』の章を参照してください。

プロモーションのプロセス

以下は、プロモーションのプロセスの例です。

1 プロジェクトデータベースのプロモーションモデルが管理者によって作成されます。

■ PRODUCTION — 最上位レベルのプロモーショングループ ■ QA ■ DEV — 最下位レベルのプロモーショングループ

2 管理者は、プロジェクト全体に DEV プロモーショングループを割り当てます。以下は、プロジェクト内のファイルのリビジョン 1.0 です。

🚛 🛍 1.0 —— 🖬 DEV

3 開発者がアーカイブからリビジョンをチェックアウトしてチェックインするたびに、複数のリビジョンが作成されます。DEV プロモーショングループは、つねにチップリビジョンに移行します。

□1.3 ---- □ DEV
 □1.2
 □1.1
 □1.0

4 ファイルがテストできる段階にくると、プロジェクトリーダーまたは管理者は、リビジョンを次のプロモーショングループである QA にプロモートします。

ெ∰ 1.3 ── QA ☐ 1.2 ☐ 1.1 ☐ 1.0

5 開発者たちは引き続きこれらのファイルを使って作業をするため、チップリビジョンがチェック アウトされ、ロックされます。最下位レベルのプロモーショングループのリビジョンのみが チェックアウト可能であるため、リビジョン 1.3 は現在 QA と DEV の両方に割り当てられてい ます。 ■① 1.3 — ■ QA ■ DEV
① 1.2
① 1.1
① 1.0

6 開発者は変更を完了するとリビジョンをチェックインします。QA プロモーショングループはリビジョン 1.3 にとどまりますが、DEV プロモーショングループは、チップリビジョンであるリビジョン 1.4 に移行します。



7 開発者たちが変更を次々とチェックインしていくたびに、DEV プロモーショングループはチッ プリビジョンに移行します。一方、QA プロモーショングループはリビジョン 1.3 にとどまった ままです。



8 ファイルは、再度テストされるときに、DEV プロモーショングループから QA プロモーション グループにプロモートされます。しかし、プロモーショングループは、同じバージョン管理ファ イルでは1つのリビジョンのみに割り当てられるため、QA プロモーショングループはリビジョ ン1.3 から削除され、リビジョン1.6 に割り当てられます。

□1.6 ---- □ QA
□1.5
□1.4
□1.3
□1.2
□1.1
□1.0

9 QA が完了し、製品用に使用することが決定したため、リビジョンは次のプロモーショングルー プである PRODUCTION にプロモートされます。

このリビジョンが製品用であることがわかるよう、管理者は PRODUCTION プロモーショング ループの割り当てられたリビジョンに固定のバージョンラベル(BUILD など)を割り当てます。 1.6 ── ■ PRODUCTION 《 BUILD
 1.5
 1.4
 1.3
 1.2
 1.1
 1.0

リビジョンへのプロモーショングループの割り当て

リビジョンにプロモーショングループを割り当てるには、リビジョン、1 つまたは複数のバージョン 管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、プロジェクトデータベースのいずれかを選択します。

プロモーショングループを割り当てるには

- **1** プロモートするアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] [Promotion Group (プロモーショングループ)] [Assign (割り当て)]
 b)当て)]を選択します。[Assign Promotion Group (プロモーショングループの割り当て)]
 ダイアログボックスが表示されます。

Assign	Pron	notion Group to File	e - helpmenu.gif	×
Gen	eral	Selected Files		
As To If f	sign revis	promotion group: ion: otion group exists:	QA [Default Revisi Prompt	on]
		ОК	Cancel	Help

- **3** 〈Assign promotion group(プロモーショングループ)〉リストボックスで、割り当てるプロ モーショングループを選択します。
- 4 デフォルトリビジョン以外のリビジョンにプロモーショングループを割り当てるには、〈To revision (割り当てるリビジョン)〉テキストボックスにリビジョン番号、バージョンラベル、 プロモーショングループのいずれかを入力するか、【Browse (...)】をクリックしてリビジョン を選択します。

プロジェクトまたはプロジェクトデータベースにデフォルトリビジョンを定義する方法は、162 ページの『デフォルトバージョンの定義』を参照してください。 5 (If promotion group exists (プロモーショングループが存在する場合))ドロップダウンリストで、割り当てようとしているプロモーショングループがすでにほかのリビジョンに割り当てられている場合は、Version Manager の処理を選択します。デフォルトは〈Prompt(確認する)〉です。プロモーショングループがすでにある場合の動作を尋ねるダイアログボックスが表示されます。

また、〈Reassign (再度割り当てる)〉を選択すると、プロモーショングループが再度割り当て られます。〈Don't reassign (再度割り当てない)〉を選択すると、選択したリビジョンにプロ モーショングループは再度割り当てられません。

- 6 (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクトにあるバージョン管理ファイルにもプロモーショングループを割り当てるには、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- **7** 【OK】をクリックします。

リビジョンの次のプロモーショングループへのプロモート

リビジョンを 1 つのプロモーショングループから次のプロモーショングループにプロモートするに は、〈Promote(プロモート)〉オプションを使用します。このコマンドは、プロモーションデータ ベースに割り当てられたプロモーションモデル階層に従って、実行されます。

リビジョンを次のプロモーショングループにプロモートするには、リビジョン、1つ以上のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、プロジェクトデータベースのいずれかを選択します。

リビジョンを次のプロモーショングループにプロモートするには

- **1** プロモートするアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] [Promotion Group (プロモーショングループ)] [Promote (プロモート)]を選択します。[Promote (プロモート)]ダイアログボックスが表示されます。

Promote File	e - helpm	enu.gif		×
General	Selecte	d Files 🗋		
Promot	e From:	OA OK to r	▼ move across br	anches
		ОК	Cancel	Help

3 〈Promote From(プロモートするグループ)〉リストボックスからプロモートするプロモーショ ングループを選択します。

- 4 プロモーショングループを異なるブランチに再度割り当てることを可能にするには、〈(異なるブランチへのプロモートを許可)〉チェックボックスを選択します。このオプションを選択しない場合は、そのプロモーショングループの次の階層にすでに別のブランチのリビジョンに割り当てられていると、プロモーションが失敗します。
- 5 (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクト内のリビジョン をプロモートする場合は、(Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含 む))チェックボックスを選択します。
- **6** 【OK】をクリックします。

プロモーショングループの変更

リビジョンに誤って不正なプロモーショングループを割り当ててしまった場合や、同じプロモーショ ンレベルの別のプロモーショングループに再度割り当てる必要が生じた場合は、プロモーショング ループを変更できます。リビジョンをプロモートする目的では、〈Change (変更)〉オプションを使 用しないでください。このオプションは、プロモーションデータベースに割り当てられたプロモー ションモデル階層に従って実行されるわけではありません。

プロモーショングループを変更するには、リビジョン、1つ以上のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、プロジェクトデータベースのいずれかを選択します。

プロモーショングループを変更するには

- 1 変更するプロモーショングループを含んだアイテムを選択します。
- 2 [Actions (アクション)] [Promotion Group (プロモーショングループ)] [Change (変更)]を選択します。[Change Promotion Group (プロモーショングループの変更)] ダイアログボックスが表示されます。

Help

- **3** 〈Change From (現在のグループ)〉リストボックスから変更元のプロモーショングループを選択します。
- **4** 〈To (新しいグループ)〉リストボックスから変更先のプロモーショングループを選択します。

- 5 (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクト内のリビジョン に割り当てられたプロモーショングループを変更する場合は、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- **6** 【OK】をクリックします。

プロモーショングループの削除

プロモーショングループが必要でなくなった場合は削除できます。ただし、プロモーショングループ はプロモーションモデルから削除されるわけではなく、リビジョンから削除されるだけです。

注 リビジョンからプロモーショングループを削除しても、プロモーションモデルがプロモーション データベースで有効であれば、リビジョンをチェックアウトするたびに、最下位レベルのプロモー ショングループが関連付けられます。

プロモーショングループを削除するには、リビジョン、1 つ以上のバージョン管理ファイル、プロジェクト、フォルダ、プロジェクトデータベースのいずれかを選択します。

リビジョンからプロモーショングループを削除するには

- 1 削除するプロモーショングループが割り当てられたアイテムを選択します。
- [Actions (アクション)] [Promotion Group (プロモーショングループ)] [Remove (削除)]を選択します。[Remove Promotion Group (プロモーショングループの削除)] ダイ アログボックスが表示されます。

Remove Pro	omotion Grou	p from Fi	le - helpmenu.	gif 🛛 🗙
General	Selected Fil	les		
Promoti	on Group:	Code		
			Cancel	Help

- **3** 〈Promotion Group(プロモーショングループ)〉リストボックスで、リビジョンから削除する プロモーショングループを選択します。
- 4 (プロジェクトまたはプロジェクトデータベースの場合のみ)サブプロジェクト内のリビジョン に割り当てられたプロモーショングループを削除する場合は、〈Include files in subprojects (サブプロジェクトのファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。
- **5** 【OK】をクリックします。

シナリオ:一連のファイルをプロモートする



品質管理(QA) チームが Bridge ファイルを検証する段階に入りました。検証を開始する前に、 ファイルを QA_Test にプロモートする必要があります。それには、以下の 2 つの理由があります。

- 1 ファイルの開発段階を正確に反映するため。
- 2 QAのエンジニアがファイルを確認できるようにするため。管理者が Development プロモーショングループと QA_Test プロモーショングループに権限を付けているため、QAのエンジニアは Development プロモーションレベルにあるファイルにアクセスできず、開発のエンジニアは QA_Test プロモーションレベルのファイルにアクセスできません。

QA プロジェクトリーダーの剣持さんは、フィルタをかけて、Field Test というバージョンラベルが 割り当てられたファイルだけを表示することにしました。彼はツールバーのファイルフィルタから 〈Version Label (バージョンラベル)〉オプションを選択し、Field Test バージョンラベルを選びま した。〈Select All (すべて選択)〉オプションを選択し、ファイル表示部の全バージョン管理ファイ ルを選びました。〈Promotion Group (プロモーショングループ)〉オプションから〈Promote (次 ヘプロモート)〉オプションを選択しました。〈Promote From (プロモートするグループ)〉リスト ボックスから「Development」を選択し、【OK】をクリックしました。Bridge ファイルは Development プロモーショングループから QA_Test プロモーショングループにプロモートされま した。

これで、品質管理(QA) チームのエンジニアたちは検証を開始できます。開発のエンジニアたちは、 QA_Test プロモーションレベルのファイルにはもうアクセスできません。しかし、一般のリリース バージョンで作業ができ、Development プロモーショングループに関連付けられたリビジョンを チェックアウトおよびチェックインできます。たとえば、開発者が Bridge アーカイブに新たに 2 つ のリビジョンをチェックインすると、以下のようになります。

- Rev 1.7 Development
- Rev 1.6
- Rev 1.5 QA_Test
- Rev 1.4
- Rev 1.3
- Rev 1.2
- Rev 1.1
- Rev 1.0

QA チームメンバーは、開発チームの変更を気にする必要はありません。なぜなら、QA チームメン バーがリビジョンをチェックアウトまたはチェックインする際は、QA_Test プロモーショングルー プを参照するからです。QA チームがフィールドテスト版に満足した時点で、リビジョンを、 QA_Test プロモーショングループにプロモートしたときと同じ方法で、Release プロモーショング ループにプロモートします。マネージャは、Field Test Bridge 2/25/99 という名前のバージョンラ ベルを、Release プロモーショングループに割り当てて、リリースファイルに関連付けました。この ラベルは、Bridge アプリケーションのフィールドテストバージョンをビルドするために使用された リビジョンを表します。

これでリリース担当マネージャは、Release プロモーショングループを基に、アプリケーションをビ ルドするコンフィグレーションスクリプトを実行できます。この時点から、チームは、新規リビジョ ンを作成してそれを Release プロモーショングループに関連付けても、固定のバージョンラベルを 使用して Field Test リリースを再ビルドできます。 以下に示すように、プロモーショングループはリビジョンと一時的に関連付けられますが、バージョ ンラベルはリビジョンと永久に(意図的に削除しないかぎり)関連付けられます。

- Rev 1.9 Release (プロモーショングループ)
- Rev 1.8
- Rev 1.7
- Rev 1.6
- Rev 1.5 Field Test Bridge 02/25/99 (バージョンラベル)
- Rev 1.4
- Rev 1.3
- Rev 1.2
- Rev 1.1
- Rev 1.0

シナリオ:追加作業のため、リビジョンを Development にデモー トする



Bridge プロジェクトの開発者の一人である小林さんは、現在は Field Test ソフトウェアの製品ビル ドに関連している 2 つのファイルに 2 つのマイナーエラーがあるのに気付きました。修正を行うに は、ファイルをもう一度 Development プロモーショングループに割り当て直す必要があります。 ファイルが Release プロモーショングループと関連付けられているかぎり、開発チームのメンバー はアクセスできません。

小林さんは 2 つのファイルを選択し、〈Promotion Group(プロモーショングループ)〉から 〈Assign (割り当て)〉オプションを選択しました。〈Assign promotion group(プロモーショング ループ割り当て)〉リストボックスから Development を選択して【OK】をクリックしました。こ れで、ファイルをチェックアウトして編集できます。

小林さんは変更を終えると、ファイルをチェックインし、Production プロモーショングループと関 連付けました。プロジェクトマネージャは Production プロモーショングループに基づいたアプリ ケーションを再ビルドできます。新規ビルドには修正した 2 つのバージョン管理ファイルが取り込 まれます。

第 19 章

レポートの使用

レポートについて	240
レポートオプションの設定	240
HTML レポート書式のカスタマイズ	242
ジャーナルレポートについて	243
ジャーナルレポートの生成	243
履歴レポートについて	247
履歴レポートの生成	248

レポートについて

レポートの種類 この章では、レポートオプションの設定方法、HTML レポート書式の変更方法、およびデスクトップ クライアントを使ったレポートの生成方法について説明します。Serena ChangeMan Version Manager では、以下のレポートを生成できます。

レポート	内容
ジャーナルレポート	アーカイブを編集するアクションについての情報
履歴レポート (以前のバージョンの 「アーカイブレポート」)	アーカイブについての情報 - アーカイブ名、作業ファイル名、 アーカイブコメント、リビジョン番号、リビジョン履歴、その他
セキュリティレポート	アクセスコントロールデータベースの内容についての情報。詳細に ついては、『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイ ド』を参照してください。

レポートの表示

レポートは HTML ブラウザまたはテキストエディタで表示できます。Windows プラットフォームで レポートを HTML 形式で表示する場合は、デフォルトのブラウザが使用されます。UNIX プラット フォームでレポートを HTML 形式で表示する場合は、使用するブラウザを指定する必要があります。

Version Manager では、フォントの色とサイズ、および背景色をカスタマイズできる HTML テンプ レートが用意されています。会社のロゴなどのグラフィックファイルをレポートに追加することもで きます。

レポートの制限 大きいレポート(500 ファイル以上)を生成する場合は、レポートをテキストエディタで表示して ください。このようなレポートを HTML ブラウザで表示すると、表示に数分かかることがあります。

レポートオプションの設定

レポートオプションは、Version Manager を実行しているプラットフォームによって異なります。

Windows 版でレポートオプションを設定するには

- **1** [View (表示)] [Options (オプション)] を選択します。
- Applications (アプリケーション)] タブをクリックします。〈Report Viewer (レポート表示 ツール)〉グループボックスで以下のどちらかを選択します。
 - テキストエディタ(メモ帳など)でレポートを表示するには、(Use text editor (テキスト エディタを使用))を選択します。

 デフォルトの HTML ブラウザでレポートを表示するには、〈Use default HTML browser (デフォルトの HTML ブラウザを使用)〉を選択します。

Options 🛛
General Dialog Behavior Applications
✓ Use default Windows associations)
Editor Location:
Default Double-Click Action:
Report Viewer
O Use text editor
Use default HTML browser
OK Cancel Help

UNIX 版でレポートオプションを設定するには

- [View (表示)] [Options (オプション)]を選択します。[Options (オプション)]ダイア ログボックスが開き、[General (全般)]タブが表示されます。
- 2 [Applications (アプリケーション)] タブをクリックします。〈Report Viewer (レポート表示 ツール)〉グループボックスで以下のどちらかを選択します。
 - テキストエディタ(vi など)でレポートを表示するには、(Use text editor (テキストエディタを使用))を選択します。
 - デフォルトの HTML ブラウザでレポートを表示するには、〈Use default HTML browser (デフォルトの HTML ブラウザを使用)〉を選択します。

〈Use default HTML browser (デフォルトの HTML ブラウザを使用)〉を選択した場合は、
 〈Browser Location (ブラウザの場所)〉テキストボックスでブラウザの場所を指定する必要があります。

- Options					
General	Dialog Behavior	Appli	cations		
Editor Lo	ocation:		xterm -e	v I	
Default I	Oouble-Click Action:		Ask	-	
Adobe®	Acrobat® Reader Loo	cation:	I		
Browser	Location:				
Report V	/iewer				
Use t	text editor				
OUse o	lefault HTML browser	r			
			OK	Cancel	Help

HTML レポート書式のカスタマイズ

ジャーナルレポートおよび履歴レポートを表示する HTML テンプレートはカスタマイズできます。 各レポートには、それぞれ 1 つずつテンプレートがあります (journal.template と history.template)。デフォルトでは、これらのファイルは Version Manager インストール時に以 下の場所に置かれます。

- Windowsの場合: drive:\Program Files\Serena\vm\common\pvcsprop\pvcs\vm
- UNIX の場合:/usr/serena/vm/common/pvcsprop/pvcs/vm

```
両プラットフォームとも、デフォルトのテンプレートは同じです。内容は以下のとおりです。
<HTML>
<HEAD>
<TITLE><subst data="REPORT TITLE PROPERTY"></subst></TITLE>
<META NAME=GENERATOR CONTENT="Version Manager 6.8">
</HEAD>
<BODY BGCOLOR="#FFFFFF" LINK="#0000EE" VLINK="#0000EE" ALINK="#9933EE"
    TEXT="#000000" LEFTMARGIN="8" TOPMARGIN="8" BACKGROUND="/vminet images/
    Bkgrd.gif">
<TABLE BORDER="0" CELLSPACING="0" CELLPADDING="0">
<TR VALIGN="top">
\langle TD \rangle
<B><FONT SIZE="+2"><subst data="REPORT TITLE PROPERTY"></subst></FONT></B>
</TD>
</TR>
<TR VALIGN="top">
\langle TD \rangle
<HR WIDTH="100%" SIZE="2" COLOR="Black" NOSHADE>
</TD>
</TR>
<TR VALIGN="top">
\langle TD \rangle
<PRE>
<subst data="REPORT FILE PROPERTY"></subst>
</PRE>
</TD>
</TR>
<TR VALIGN="top">
\langle TD \rangle
<HR WIDTH="100%" SIZE="2" COLOR="Black" NOSHADE>
</TD>
</TR>
</TABLE><!--Footnote-->
<P>
</BODY>
</HTML>
レポートのタイトルを表示するためのタグは、以下のとおりです。
<subst data="REPORT TITLE PROPERTY"></subst>
レポートを表示するためのタグは、以下のとおりです。
<subst data="REPORT FILE PROPERTY"></subst>
```

テンプレートファイルの書式タグはどれでも変更できます。たとえば、フォントの色やサイズ、背景 色を変更することによってレポートをカスタマイズできます。書式タグ、テキスト、ほかのページへ のリンク、グラフィックファイル(企業のロゴなど)などを追加することもできます。

ジャーナルレポートについて

- 始める前に ジャーナルレポートはジャーナルファイルの情報に基づいています。ジャーナルファイルには、 ユーザがアーカイブで実行したアクションが記録されています。プロジェクトデータベースは、 ジャーナルファイルを保持するよう設定されている必要があります。そうでない場合は、ジャーナ ルレポートを生成することはできません。ジャーナルファイルを保持する方法については、 『Serena ChangeMan Version Manager 管理者ガイド』の『Version Manager の設定』を参照 してください。
- ジャーナルレポート ジャーナルレポートには、バージョンラベルの割り当て、作業ファイルのチェックイン / チェックア とは ウト、プロモーショングループの割り当てなど、アーカイブに施された変更についての情報が表示さ れます。
- ジャーナルレポート ジャーナルレポートを生成すると、特定のアーカイブからリビジョンがチェックアウトされたとき を生成する理由 や、バージョンラベルが割り当てられたときなど、アーカイブに対する処理についての特定の情報が すばやく把握できます。
- ジャーナルレポート シ履歴レポート ジャーナルファイルにあるので、ジャーナルレポートを生成する前にアーカイブを開く必要がない ためです。ただし、作成日、リビジョン情報、アーカイブのアクセス制限など、アーカイブに関する 一般的な情報が必要な場合は、履歴レポートを生成します。詳細は、248 ページの『履歴レポート の生成』を参照してください。
- ジャーナルレポート ジャーナルレポートを生成する前に、オプションを選択して、レポートに表示する内容を限定できま オプション す。レポートに表示できる内容は以下のとおりです。
 - 特定の期間内に行われた変更
 - 特定のアーカイブに対して行われた変更
 - 特定のアクション(コマンド)によるアーカイブへの作業
 - 特定のユーザによって行われた変更
 - 指定したユーザによって現在ロックされているリビジョン

ジャーナルレポートの生成

プロジェクトデータベース、プロジェクト、複数のバージョン管理ファイル、および 1 つのバー ジョン管理ファイルのジャーナルレポートが生成できます。レポートを生成するために使用される ジャーナルファイルは、選択したアイテムに関連付けられたコンフィグレーションファイルで指定さ れています。これが指定されていない場合は、ジャーナルレポートは生成されません。

ジャーナルレポートを生成するには、「ジャーナルの表示」権限が必要です。「ジャーナルの表示」権限については、Version Manager 管理者にお問い合わせください。

ジャーナルレポートを生成するには

- **1** プロジェクトデータベース、プロジェクト、または1つ以上のバージョン管理ファイルを選択 します。
- 2 [Actions (アクション)] [Show Journal (ジャーナルの表示)]を選択します。[Show Journal (ジャーナルの表示)] ダイアログボックスが表示されます。

Show Journal for P	oject Datab	ase - ACME		×
General Select	ed Files			
Restrict Repor	t Bv			
User(s):				
Show of	nly locked rev	/isions		
Date Range:	From:			
	To:			
Restrict by Activ	on			
Check O	ut			
Check In				
Promote				
🗌 Delete R	evision			
Include files	in subprojec	ots		
		OK	Cancel	Help

3 変更を行ったユーザやロックされたリビジョンに関する情報をすべてレポートに含める場合は、 【OK】をクリックします。レポートに表示する内容を一定の内容のみに限定する場合は、以下の 設定を行います。

表示内容	実行する操作
特定のユーザによって行われた変更	〈User(s)(ユーザ)〉テキストボックスに指定する ユーザ ID を入力します。複数の ID はコンマで区切 ります。
現在ロックされているリビジョン	〈Show only locked revisions (ロックされたリビジョンのみを表示)〉チェックボックスを選択します。 〈User(s) (ユーザ)〉テキストボックスにユーザ ID を入力したうえで、このチェックボックスを選択した場合は、指定したユーザによって現在ロックされている リビジョンのみがレポートされます。

表示内容	実行する操作
一定の期間に加えられた変更	期間の最初の日を〈Date Range From (開始日)〉 フィールドに、最後の日を〈Date Range To (終了 日)〉フィールドに入力するか、これらのフィールドの 隣の【】アイコンをクリックして、日付を選択しま す。日付と時間を、オペレーティングシステムで使用 されている表示形式で入力する必要があります。 Windows では、「コントロールパネル」で「地域」を 選択して書式を設定します。 UNIX では、PVCS_DATE_FORMAT および PVCS_TIME_FORMAT 環境変数を設定してフォー マットを定義します。
	注 UNIX 版では、PVCS_DATE_FORMAT 環境変数 を yyyy/MM/dd に設定してください。ここで、d と y はそれぞれ、日と年を表す数字です。M は月を表 す英語の略号です。年は 4 桁で、月は大文字で指定 してください。この形式を使用すると、レポートの出 カ結果が最適となります。 コントロールパネルや環境変数でこれらの形式が設定 されていない場合は、mm/dd/yy hh:mm という形式 が使用されます。また、大文字の H は、24 時間制の 時刻を表します。
リビジョンがチェックアウトされた	〈Check Out(チェックアウト)〉チェックボックスを
アーカイブのみ	選択します。
リビジョンがチェックインされた	〈Check In(チェックイン)〉チェックボックスを選択
アーカイブのみ	します。
リビジョンがプロモートされたアー	〈Promote(プロモート)〉チェックボックスを選択し
カイブのみ	ます。
リビジョンが削除されたアーカイブ	〈Delete Revision(リビジョンの削除)〉チェック
のみ	ボックスを選択します。
サブプロジェクト内のすべてのバー ジョン管理ファイルを含む、プロ ジェクト全体に対するレポート	〈Include files in subprojects(サブプロジェクトの ファイルも含む)〉チェックボックスを選択します。

4 【OK】をクリックします。ジャーナルレポートが生成され、表示されます。

ジャーナルレポートの読み方

以下は、ジャーナルレポートの例です。

💥 Journal Report - Netscape
<u>Eile Edit View Go Communicator Help</u>
👔 🐳 🍕 🏦 💉 👫 🍻 📽 👔 Back Forward Reload Home Search Guide Print Security Stop
👔 🎯 Bookmarks 🙏 Location: C:\WINDOWS\TEMP\5mmag06.htm 🔹 🗖
Internet 🗂 Lookup 🗂 New&Cool
Journal Report
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridge.clw-arc, Chervl, 19990118, 142626, g
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridge.cpp-arc, Cheryl, 19990118, 142716, g
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridge.dsp-arc, Cheryl, 19990118, 142716, g
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridge.dsw-arc, Cheryl, 19990118, 142716, g
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridge.h-arc, Cheryl, 19990118, 142716, get
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridge.ncb-arc, Cheryl, 19990118, 142716, g
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridge.opt-arc, Cheryl, 19990118, 142716, g
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridge.rc-arc, Cheryl, 19990118, 142716, ge
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridgeDoc.cpp-arc, Cheryl, 19990118, 142716
C:\PROGR&~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridgeDoc.h-arc, Cheryl, 19990118, 142716,
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridgeView.cpp-arc, Cheryl, 19990118, 14271
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\bridgeView.h-arc, Cheryl, 19990118, 142716,
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\CntrItem.cpp-arc, Cheryl, 19990118, 142716,
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\CntrItem.h-arc, Cheryl, 19990118, 142716, g
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\MainFrm.cpp-arc, Cheryl, 19990118, 142718,
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\MainFrm.h-arc, Cheryl, 19990118, 142718, ge
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\MakeHelp.bat-arc, Cheryl, 19990118, 142718,
C:\PROGRA~1\PVCS\VM\SAMPLEDB\archives\bridge\ReadMe.txt-arc, Cheryl, 19990118, 142718, g
C.\DDCCDAw1\DVCS\VW\SAMDIFDR\archives\bridge\Desource b_arg_Cherg1_10000118_142718_g
🖬 Document: Done 📃 💥 🛀 🔊 💋

ジャーナルレポートの各行の書式は以下のとおりです。 archive, user id, date, time, action, cl option

ここで、

archive はアーカイブのパスとファイル名です。

user id はアーカイブに変更を加えたユーザのユーザ ID です。

date は変更日です。たとえば、1999 年 3 月 31 日の場合は、19990331 のように、十進数で区切られずに表現されます。

time は変更時間です。たとえば、午後4時55分20秒なら165520のように、十進数で区切られずに表現されます(24時間形式)。

cl_option は、実行されたアクションのコマンドラインオプションです。たとえば、put-r1.0 はリビ ジョン 1.0 がチェックインされたことを示します。

履歴レポートについて

- 始める前に Version Manager 管理者は、ユーザによる履歴レポートの生成を制限できます。履歴レポートを生成する権限を持っていない場合は、Version Manager 管理者にお問い合わせください。
- 履歴レポートとは 履歴レポートは、アーカイブやリビジョンについての情報を要約したレポートです。履歴レポートの 情報を利用すると、開発プロセスを監視したり、アーカイブ履歴を見たり、アーカイブ属性を確認す ることができます。



注 履歴レポートは、Version Manager の以前のリリースでは、アーカイブレポートと呼ばれていました。

- アーカイブ情報とリ 履歴レポートには、アーカイブ情報とリビジョン情報を表示することができます。アーカイブ情報に ビジョン情報 は、以下のものがあります。
 - アーカイブ作成者のユーザ ID
 - アーカイブの作成日
 - アーカイブ属性
 - ロックリビジョン保有者のユーザ ID
 - アーカイブと作業ファイルの名前

リビジョン情報には、以下のものがあります。

- リビジョンのコメント
- リビジョン履歴
- 履歴レポートオプ 履歴レポートを生成する前に、オプションを選択して、レポートに含める内容を限定することができ ション ます。レポートに表示可能な情報は以下のとおりです。
 - アーカイブに関する情報(リビジョンに関する情報は表示しない)。
 - リビジョンに関する情報(アーカイブに関する情報は表示しない)。
 - 現在ロックされているリビジョン。
 - 指定されたバージョンラベルに対応するリビジョン。
 - 指定されたプロモーショングループに関連付けられたリビジョン。
 - トランク上の最新のリビジョン。
 - チップリビジョンが指定されたリビジョン番号またはバージョンラベルと同一でないアーカイブ。これは、特定のバージョン以降に変更されたアーカイブをすべてリストアップする場合に便利です。

また、以下のいずれか2つを選択して、レポートのタイプをさらに制限することができます。

- 日付
- リビジョン作成者
- リビジョンをロックしたユーザ
- アーカイブの所有者

履歴レポートの生成

プロジェクトデータベース、プロジェクト、複数のバージョン管理ファイル、1 つのバージョン管理 ファイル、および特定のリビジョンの履歴レポートが生成できます。

Ð

注 5.3/6.0 プロジェクトの履歴レポートは生成できません。プロジェクトに含まれるアイテムのレポートは生成できますが、プロジェクト自体のレポートは生成できません。

履歴レポートを生成するには

- プロジェクトデータベース、プロジェクト、または1つ以上のバージョン管理ファイル、また は特定のリビジョンを選択します。
- [Actions (アクション)] [Show History (履歴の表示)]を選択します。[Show History (履歴の表示)]ダイアログボックスが表示されます。

Show History for Project - DEV	×
General Advanced Selected Files	
Report Type: Full	•
Revision: [All Revisions]	
Include files in subprojects	
OK Cancel	Help

3 〔General (全般)〕タブの〈Report Type (レポートタイプ)〉ドロップダウンリストで、レポートの種類を選択します。

レポートの種類	レポートに含まれる内容
すべての情報	全リビジョンまたは選択したリビジョンの包括的な情報 (ファイル、リビジョン、ロック、バージョンラベルなど)。 特定のリビジョンを選択するには、(Revision (リビジョ ン)〉テキストボックスにリビジョン番号、バージョンラベ ルまたはプロモーショングループを入力するか、【Browse ()】をクリックしてリビジョンを選択します。
ファイル情報のみ	アーカイブ情報のみ(作成日、所有者、ロック、バージョ ンラベルなど)。このレポートにはリビジョン履歴は含まれ ません。
リビジョン情報のみ	全リビジョンまたは選択したリビジョンのリビジョン情報 のみ。 特定のリビジョンを選択するには、〈Revision(リビジョ ン〉〉フィールドにリビジョン番号を(コンマで区切って) 入力します。

レポートの種類	レポートに含まれる内容
ロックされたリビジョンの 情報	選択したバージョン管理ファイル内のロックされたリビ ジョンのリスト。
バージョンラベルを含むリビ ジョンの情報	特定のバージョンラベルと一致するリビジョンのリスト。 バージョンラベルを選択するには、〈Label (バージョン ラベル)〉テキストボックスにバージョンラベルを入力す るか、【Browse ()】をクリックしてラベルを選択しま す。 数字で始まるバージョンラベルを指定する場合は、¥1.2 や ¥labc のように、先頭に円記号(¥)を付けて入力する必要 があります。
グループのリビジョン一覧	特定のプロモーショングループと一致するリビジョンのリ スト。 プロモーショングループを選択するには、〈Group(プロ モーショングループ〉〉テキストボックスにプロモーション グループを入力するか、【Browse()】をクリックしてプ ロモーショングループを選択します。
最新リビジョン一覧	最新リビジョンのリスト(複数のバージョン管理ファイル が選択されている場合)。
指定リビジョンではないチッ プの確認	特定のリビジョンを最新リビジョンと比較した情報。リビ ジョンを指定するには、〈Revision(リビジョン)〉テキス トボックスにリビジョン番号、バージョンラベルまたはプ ロモーショングループを入力するか、【Browse()】をク リックしてリビジョンを選択します。バージョンラベルで リビジョンを指定する場合は、数字で始まるバージョンラ ベルには、先頭に円記号(¥)を付ける必要があります (例:¥1.2label)。

4 履歴レポートに表示する情報をさらに限定するには、〔Advanced (詳細)〕タブで、作者、ユー ザロック、所有者、期間、またはそれらのうち 2 つを選択します。

Show History for Project - DEV 🔀	
General Advanced	Selected Files
Restrict Report By	
Author(s):	
Locker(s):	
Owner(s):	
Date Range: Fr	om:
То):
	OK Cancel Help

特定の作成者に基づいて履歴レポートを作成するには、〈Author(s)(作成者)〉フィールドに作成者名を入力するか、【Browse(...)】をクリックして作成者を選択します。複数の作成者を入力する場合は、作成者をコンマ(,)で区切ります。

- ユーザロックを基に履歴レポートを生成するには、〈Locker(s)(ロック)〉テキストボック スにユーザ名を入力するか、【Browse(...)】をクリックしてユーザを選択します。複数の ユーザを入力する場合は、ユーザ名をコンマ(,)で区切って入力します。
- 特定の所有者に基づいて履歴レポートを作成するには、〈Owner(s)(所有者)〉フィールド に所有者名を入力するか、【Browse(...)】をクリックして所有者を選択します。複数の所有 者を入力する場合は、所有者をコンマ(,)で区切ります。
- 期間の最初の日を〈From(開始日)〉フィールドに、最後の日を〈To(終了日)〉フィールドに入力するか、これらのフィールドの隣の【…】をクリックして、日付を選択します。日付と時間を、オペレーティングシステムで使用されている表示形式で入力する必要があります。Windows上では、[スタート] [コントロールパネル]を選択し、【地域】アイコンをダブルクリックすると、表示形式を確認できます。UNIX上では、表示形式がPVCS_DATE_FORMAT および PVCS_TIME_FORMAT 環境変数で設定されています。コントロールパネルや環境変数でこれらの形式が設定されていない場合は、mm/dd/yy hh:mm(月/日/年時:分)という形式が使用されます。



- **注** UNIX 上では、PVCS_DATE_FORMAT を MM/dd/yyyy(日を先にする場合は dd/ MM/yyyy)に設定することをお勧めします。ここで、d と y はそれぞれ、日と年を表す数 字です。M は月を表す英語の略号です。年は 4 桁で、月は大文字で指定してください。こ のフォーマットを使用すると、最適な結果が得られます。
- 【OK】をクリックします。

履歴レポートの読み方

以下は履歴レポートの例です。アーカイブ情報とリビジョン情報の両方を含んだ完全な履歴レポート です。点線の行より上の情報はアーカイブ情報で、下の情報はリビジョン情報です。



記号

5.3/6.0 バージョン管理ファイル、移動 61 5.3/6.0 フォルダ 移動 61 コピー 46 ドラッグアンドドロップによるコピー 47 メニューバーによるコピー 46 5.3/6.0 プロジェクト アーカイブディレクトリの選択 95 アーカイブのインポート 101 コピー 49 ドラッグアンドドロップによるコピー 53 メニューバーによるコピー 49 作業ファイルの格納先の選択 94 プロパティの表示 74 5.3/6.0 プロジェクトルート オープン 85 概要 84 クローズ 86 コピー 86 シナリオ 87 操作 83 プロパティの表示 74

D

Development Interface、概要 49、56

Ι

Issue 管理 プロバイダの切り替え 146 Issue の関連付け チェックアウト 146 チェックイン 170 ロック 178 Issue の関連付け、作業ファイルの追加 90 Issue、Serena TrackerLink による関連付け 150、 173、180

Ν

N 通りのマージ 214

S

SCC プロジェクト、移行 51 SCC プロジェクトの移行 51 Serena、問い合わせ先 9 Serena 製品 TrackerLink、Issue の関連付け 150、173、180 SourceBridge 146 TrackerLink への切り替え 146 SourceBridge、Issue の関連付け 150、173、180

Т

TeamTrack 146 TrackerLink SourceBridge への切り替え 146 TrackerLink、Issue の関連付け 150、173、180 TrackerLink および SourceBridge 間の切り替え 146

U

UNIX、オンラインマニュアルの表示 142

V

Version Manager Development Interfaces 49、56 Version Manager 概念 16 用語 15

あ

アーカイブ アーカイブディレクトリの選択 95 アーカイブのシナリオのインポート 103 インポート 98 5.3/6.0 プロジェクトへのインポート 101 プロジェクトへのインポート 99 削除 63 定義 16 バージョン管理ファイルからの復元 63 アーカイブの削除 63 アイテム アイテムの表示と非表示 34 移動 61

ドラッグアンドドロップによる移動 62 メニューバーによる移動 61 コピー 35 削除 62 選択 32 名前の変更 34 アイテムの選択 32 アクセスコントロールデータベース、定義 18 アクセスリスト、定義 18 アプリケーションログ、使用 131 アプリケーションログの使用 131 異機種環境 14 移動 アイテム 61 ドラッグアンドドロップによる移動 62 メニューバーによる移動 61 既存のバージョンラベルの移動 190 イベントトリガ、定義 18 インポート アーカイブ 98 5.3/6.0 プロジェクトへのインポート 101 プロジェクトへのインポート 99 アーカイブのシナリオ 103 オープン 5.3/6.0 プロジェクトルート 85 プロジェクトデータベース 79 オンラインヘルプ GUI 9 アクセス 9、23 コマンドラインインターフェイス 9 操作 23 ツールバーの使用方法 23 目次の使用 24 オンラインマニュアル UNIX でのオンラインマニュアルの表示 142

か

```
概要
  チェックアウト 146
  チェックイン 170
  バージョンラベル 186
  ブランチ 198
  プロジェクト 106
  プロモーショングループ 230
  マージについて 214
  リビジョン 162
  ルートワークスペース 114
  レポート 240
    ジャーナルレポート 243
    履歴 247
  ワークスペース 112
管理者、定義 17
規則、表記上 9
競合
  解決
    UNIX版 224
    Windows 版 224
```

シェードの変更 222 種類 222 区切り文字、フィールド 136 クローズ 5.3/6.0 プロジェクトルート 86 プロジェクトデータベース 80 クロスプラットフォーム開発 14 コピー 5.3/6.0 フォルダ 46 ドラッグアンドドロップによるコピー 47 メニューバーによるコピー 46 5.3/6.0 プロジェクト 49 ドラッグアンドドロップによるコピー 53 メニューバーによるコピー 49 5.3/6.0 プロジェクトルート 86 アイテム 35 コピー可能なアイテム一覧 35 バージョン管理ファイル 36 ドラッグアンドドロップによるコピー 37 メニューバーによるコピー 36 プロジェクト 37 ドラッグアンドドロップによるコピー 40 メニューバーによるコピー 38 プロジェクトデータベース 43 コンフィグレーションオプション、定義 18 コンフィグレーションファイル、定義19

さ

```
作業設定
  デフォルトバージョン 112
  ブランチバージョン 112
  ベースバージョン 112
作業ファイル
  作業ファイルの格納先の選択 94
  チェックイン 171
  追加 90
  定義 16
  バージョン 5.3/6.0 プロジェクトへの追加 94
  比較 209
  プロジェクトへの追加 90
作業ファイルの場所
  作業ファイルの場所の決定 117
    例 118、119
  作業ファイルの場所の変更 130
  設定 130
  保存 118
作業ファイルの場所の決定 117
削除
  アイテム 62
  サブプロジェクト 62
  バージョン管理ファイル 62
  バージョンラベル 192
  プロジェクト 62、109
  リビジョン 62
  ワークスペース 125
```
作成 サブプロジェクト 108 ブランチ 199 プロジェクト 106 ワークスペース 120 サブプロジェクト 移動 61 作業ファイルの場所の設定 130 削除 62 作成 108 サブプロジェクトへのアクションの実行 135 定義 16 名前の変更 35 プロパティの表示 74 指定、ユーザ設定 129 自動ブランチ 205 シナリオ 5.3/6.0 プロジェクトを新フォーマットでオープン 87 development へのリビジョンのデモート 238 アーカイブのインポート 103 一連のファイルをプロモートする 237 個人的なワークスペースの定義 128 バージョンラベルの使用方法 193 背景情報 27 ファイルのチェックアウト 152 ファイルのチェックイン 174 ファイルのロック 184 プロジェクトデータベース 81 プロジェクトの作成 109 プロジェクトファイルの取得 160 ユーザシナリオの使用方法 26 ユーザ設定シナリオの指定 143 リビジョンのブランチ作成 205 リビジョンをトランクにマージ 225 ワークスペースのカスタマイズ 126 ジャーナルレポート 概要 243 読み方 246 出力ファイル 214 取得 オプション 詳細 159 デフォルト 156 デフォルトのオーバーライド 158 シナリオ 160 取得とチェックアウト 156 選択されたファイルの表示 159 リビジョン 157 使用 バージョンラベル 185 レポート 239 ロック 177 ワークスペース 111 製品サポート 9 設定 アプリケーションログ 131 作業ファイルの場所 130 サブプロジェクトへのアクションの実行 135 チェックアウト 136 チェックイン 136

デフォルトエディタ 140 デフォルトダブルクリック 142 ユーザ設定シナリオ 143 ユーザ設定の指定 129 レポートオプション UNIX版 241 Windows 版 240 レポート表示ツール 142 ワークスペース 121 ワークスペース設定の変更 122 ワークスペースの継承 115 説明、変更、追加 / 変更 167 選択、複数のプロジェクトまたはフォルダ 32 相違点 解釈 211 表示 209 フィルタ処理 2 つのバージョンラベル 70 2 つのプロモーショングループ 71 バージョンラベルとプロモーシ ョングループ 73 相違点レポート、「ファイルの比較」を参照 209 操作 5.3/6.0 プロジェクトルート 83 プロジェクト 105 プロジェクトデータベース 77 リビジョン 161

た

ターゲットファイル、「出力ファイル」を参照 214 ダイアログボックス 結果を画面から消去 139 表示設定 138 多重ロック 183 タスク 管理者 19 基本 21 高度なタスク 高度なタスクの実行 195 ワークフロー 22 ユーザ 19 ワークフロー 21 チェックアウト Issue の関連付け 146 オプション 詳細 151 定義 136 デフォルト 147 デフォルトの変更 149 概要 146 シナリオ 152 選択されたファイルの確認 151 リビジョン 148 チェックイン オプション 詳細 173

定義 136 デフォルト 170 デフォルトの変更 172 概要 170 作業ファイル 171 シナリオ 174 選択されたファイルの確認 174 多重ロック 203 チップ以外のリビジョン 199 バージョンラベルの割り当て 173 ブランチ 199 追加 作業ファイル 5.3/6.0 プロジェクトへの追加 94 バージョンラベルの割り当て 93、97 プロジェクトへの作業ファイルの追加 90 追加、作業ファイル 90 定義 ダイアログボックスの表示設定 138 チェックイン / チェックアウトオプション 136 データファイルロケーション、「プロジェクトデータ ベースのオープン」を参照 79 デフォルト 取得オプション 156 チェックアウトオプション 147 チェックインオプション 170 バージョンラベルのデフォルトオプション 188 デフォルトエディタ、設定 140 デフォルトバージョン 112 定義 17、162 バージョンラベルの使用 192 デフォルトプロモーショングループ 概要 150 作業設定 112 デフォルトリビジョン 定義 162 バージョンラベルの使用 192 ドキュメント UNIX でのドキュメントのオンライン表示 142

な

名前の変更 アイテム 34 バージョンラベル 189 プロジェクト 108 ワークスペース 124 ネストプロジェクト、「サブプロジェクト 」を参照 108

は

バージョン管理ファイル 移動 61 コピー 36 ドラッグアンドドロップによるコピー 37 メニューバーによるコピー 36

作業ファイルの場所の設定 130 削除 62 定義 16 比較 209 フィルタ 64 復元 63 プロパティの表示 74 バージョン管理ファイルの復元 63 バージョンラベル オプション デフォルト 186 デフォルトの変更 188 概要 186 既存のバージョンラベルの移動 190 固定ラベルと浮動ラベル 186 再割り当て 190 削除 192 シナリオ 193 使用 185 定義 17 デフォルトリビジョンの設定 192 名前の変更 189 バージョンラベルのプロパティの変更 191 フィルタ処理 67、70、71、73 複数のバージョンラベル 186 不正な文字 186 プロパティの表示 74 割り当て 187 作業ファイルの追加時 93、97 チェックイン中 173 バージョンラベルの再割り当て 190 バージョンラベルの割り当て 187 比較ファイル、「ブランチファイル」を参照 214 表記上の規則 9 表示 再帰的なファイル 65 ファイル間の相違点 209 リビジョン 164 レポート 240 HTML ブラウザの使用 142 テキストエディタの使用 142 ファイル 出力 214 ブランチ 214 ベース 214 ベースファイルの選択 215 ファイルの再帰的なフィルタ 65 ファイルの比較 概要 209 相違点の解釈 211 相違点の表示 209 例 212 フィルタ 再帰 65 相違点による 2 つのバージョンラベルの使用 70 2 つのプロモーショングループの使用 71 バージョンラベルとプロモーショングループ の使用 73

タイプ 64 バージョン管理ファイルのフィルタ 64 バージョンラベル 70、71、73 バージョンラベルによるフィルタ 67 表示 すべてのファイル 74 ファイルフィルタの使用 64 プロモーショングループによる 69 ロック設定者による 65 ワイルドカードファイル名による 66 フォルダ コピー 46 ドラッグアンドドロップによるコピー 47 メニューバーによるコピー 46 複数のプロジェクトおよびフォルダ アクセスコントロールデータベースの権限 33 実行可能なアクション 33 複数のプロジェクトおよびフォルダの選択 アクセスコントロールデータベースの権限 33 複数のプロジェクトまたはフォルダ 作業ファイルの場所 34 プロモーショングループ 33 複数のプロジェクトまたはフォルダの選択 作業ファイルの場所 34 実行可能なアクション 33 プロモーショングループ 33 複数フォルダ、選択 32 複数プロジェクト、選択 32 ブランチ 概要 198 作成 199 自動ブランチの設定 205 シナリオ 205 多重ロックのチェックイン 203 定義 18 バージョン 112 番号付け 198 ファイル 214 ブランチの強制 201 ブランチ番号付け 198 ブランチ、並行開発 198 ブランチを常に作成 201 プレースホルダ UNIX 版での色の変更 223 Windows 版での色の変更 221 プロジェクト 5.3/6.0 のコピー 概要 49 ドラッグアンドドロップによるコピー 53 メニューバーによるコピー 49 アーカイブのインポート 99 5.3/6.0 へのインポート 101 移動 61 概要 106 コピー 37 ドラッグアンドドロップによるコピー 40 メニューバーによるコピー 38 作業ファイルの追加 5.3/6.0 プロジェクトへの追加 94

プロジェクトへの作業ファイルの追加 90 作業ファイルの場所の設定 130 削除 62、109 作成 106 サブプロジェクト 108 サブプロジェクトへのアクションの実行 135 シナリオ 109 操作 105 定義 16 名前の変更 35、108 ネストプロジェクト 108 プロパティの表示 74 プロジェクトデータベース オープン 79 概要 78 クローズ 80 コピー 43 作業ファイルの場所の設定 130 シナリオ 81 新規プロジェクトデータベースについて 78 操作 77 定義 16 名前の変更 35 プロパティの表示 74 ログイン 80 プロジェクトルート 5.3/6.0 のクローズ 86 5.3/6.0 のコピー 86 5.3/6.0 プロジェクトルートについて 84 5.3/6.0 プロジェクトルートのオープン 85 シナリオ 87 プロパティ バージョンラベルのプロパティの変更 191 表示 74 プロモーショングループ 解除 236 概要 230 権限 230 作業ファイルの場所の変更 235 シナリオ 237、238 次のグループへのプロモート 234 定義 17 フィルタ処理 69 プロパティの表示 74 プロモーショングループのリビジョンへの割り当て 233 プロモーションプロセス 231 プロモーションモデルのセットアップ 230 リビジョンのチェックアウト 230 プロモーションモデル 概要 230 セットアップ 230 定義 17 分離文字 フィールド 136 並行開発 198 ベース バージョン 112 ファイル 214

ユーザガイド 255

ベースライン 定義 18 プロジェクト ドラッグアンドドロップによるコピー 41 メニューバーによるコピー 39 プロジェクトデータベース 44 変更の説明、追加 / 変更 167

ま

マージ N 通り 214 概要 214 競合 シェードの変更 222 種類 222 競合の解決 UNIX 版 224 Windows 版 224 結果の解釈 UNIX 版 223 Windows 版 220 種類 214 ファイルのマージ Windows 版 216 プレースホルダ UNIX 版 223 UNIX 版での色の変更 223 Windows 版 221 Windows 版での色の変更 221 ベースファイルの選択 215 マージプロセス 215 用語と定義 214 マニュアル、UNIX でのオンラインマニ ュアルの表示 142 元ファイル、「ベースファイル」を参照 214

や

ユーザ、定義 17 ユーザ設定、指定 129 ユーザロック フィルタの基準 65 用語 プロジェクト 15 プロジェクトコンフィグレーション 15

6

ラベル 固定 186 浮動 186 リビジョン 概要 162 削除 62

取得 157 操作 161 チェックアウト 148 プロモーショングループに割り当てられたリ ビジョンのチェックアウト 230 定義 16 デフォルトリビジョンの定義 162 比較 209 表示 164 ブランチ 197 プロパティの表示 74 プロモーショングループへのリビジョ ンの割り当て 233 プロモート 234 編集 165 ロック 178 ロック解除 181 リビジョンの編集 165 リビジョンのロック解除 181 履歴レポート 概要 247 読み方 250 ルートワークスペース 114 レポート HTML、カスタマイズ 242 アーカイブレポート、「履歴レポート」参照 247 大きいレポートの表示 142 オプションの設定 UNIX 版 241 Windows 版 240 概要 240 ジャーナルレポート 概要 243 生成 243 読み方 246 種類 240 使用 239 制限事項 240 表示 240 履歴 概要 247 種類 248 生成 248 読み方 250 履歴レポート情報の限定 249 レポートの生成 ジャーナルレポート 243 履歴 248 ロック シナリオ 184 使用 177 多重ロックのチェックイン 203 フィルタの基準 65 複数のバージョンラベル 183 リビジョンのロック 178

わ

ワークスペース 階層 114 概要 112 作業ファイルの場所の決定 117 削除 125 作成 120 シナリオ 126、128 使用 111 設定 121 作業ファイルの場所 123 デフォルトバージョン 123 デフォルトプロモーショングループ 124 ブランチバージョン 123 ベースバージョン 123 設定の継承 115 設定の変更 122 定義 17 名前の変更 124 パブリック 113 プライベート 113 ルートワークスペースについて 114 例 115、116 ワークスペース設定、デフォルトプロモーショング ループ 112 ワークフロー、基本的 20 ワイルドカードファイル名 フィルタ処理 66